

平成 27 年度
都筑区区民意識調査

報 告 書

平成 27 年 12 月

都筑区役所

はじめに

都筑区は、平成6年11月6日に港北区と緑区の再編成により誕生し、平成26年に区制20周年を迎えました。誕生当時約11万人であった人口は、絶えず増加が続き、現在は約21万人を擁するまでになりました。

横浜環状北線・北西線など都市基盤の整備も進められており、市内で15歳未満の人口割合が最も高く、平均年齢が最も若い、発展・変化を続けるまちです。

都筑区役所では今年度、運営方針の基本目標に、「未来につなぐ 笑顔のつづき」を掲げています。地域の絆を更に深め、住み慣れた環境で誰もが安心して暮らせるふるさとづくりに向けて、皆様と協働して都筑の未来を創造する取組を進めています。

このたび、区民の皆さまの生活意識と生活行動を明らかにし、区政の運営や政策立案の基礎資料とするため、本調査を実施しました。

調査項目は、居留意向などの基礎データのほか、前回から継続して「震災対策」、「自治会町内会」、「地域での支え合い」、「子ども・子育て支援」、「文化活動」等について伺いました。また、地域的・社会的な重要課題である「健康づくり」、「高齢者支援」、「道路・交通」についても、新たに調査項目として加えました。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました多くの区民の皆さまに、厚く御礼申し上げます。また、この調査報告書を、都筑区と区民の皆さまの発展のために、幅広く活用していただければ幸いです。

平成27年12月

横浜市都筑区役所

目 次

I. 調査概要	1
(1) 調査目的	2
(2) 実施概要	2
(3) 回収結果	2
(4) 報告書の見方	2
(5) 今回調査の地区割	3
II. 調査結果	5
1. 回答者の属性	6
(1) 性別	6
(2) 年代	6
(3) 居住地	7
(4) 最寄り駅	8
(5) 家族形態	9
(6) 子ども・高齢者の同居家族	11
(7) 就労状況	13
2. 都筑区に対する居留意向	14
(1) 居住開始時期	14
(2) 住まいの形態	16
(3) 都筑区に来る前の居住地	18
(4) 居留意向	20
3. 通勤・通学の状況	22
(1) 職場・学校の所在地	22
(2) 通勤・通学の交通手段	25
(3) 通勤・通学にかかる時間	27
4. 「普段の買い物」や「たまにする買い物」など	30
(1) 買い物先	30
(2) 買い物をする場所	32
(3) 買い物ができたら便利な場所	33
(4) 買い物に行くときの交通手段	34
(5) 商店街や身近な商業施設に期待すること	35
(6) 都筑区内で生産された野菜（都筑野菜）について	36
5. 震災対策について	38
(1) 震災対策について	38
(2) 避難先の認知度	41
(3) 「横浜市防災情報Eメール」について	46
(4) 「火災を感知する機器（感知器）の設置」について	47

6. 自治会・町内会活動	48
(1) 自治会・町内会への加入状況	48
(2) 自治会町内会活動に期待する取り組み	52
7. 地域での日頃の支え合い	53
(1) 隣近所に住んでいる人を知っているか	53
(2) 日頃の近所づきあいの程度	57
8. 区内における社会貢献活動	62
(1) 過去1年間の社会貢献活動の経験	62
(2) 社会貢献活動への参画意向	66
(3) 重要度が高いと考える社会貢献活動	70
(4) 初めて社会貢献活動に参加したきっかけ	72
9. 子ども・子育て支援	73
(1) 子育て経験の有無	73
(2) 妊娠中の方に役に立つ情報	74
(3) 安心して子育てを行うために必要な施策	75
(4) 安心して子育てができる環境づくりのために取り組めそうなこと	76
(5) 虐待が疑われる児童に気がついた場合の対応	77
10. 健康づくり	80
(1) 健康づくりの取組で重要だと思うこと、実際に取り組んでいること	80
(2) 普段運動している場所	84
11. 高齢者支援	87
(1) 高齢者の生活で特に不安なこと	87
(2) 高齢者人口の増加に対する支援や取組	90
12. 文化活動	93
(1) 日頃行っている文化活動・鑑賞	93
(2) 将来行いたい文化活動・鑑賞	97
(3) 文化活動を行っている場所	101
(4) 文化活動の頻度	102
(5) 文化活動をするために必要な施設	103
13. 道路・交通	104
(1) バスの利用頻度	104
(2) バスを利用する目的	106
(3) バスをあまり利用しない理由	109
(4) バスを利用しやすくするための改善点	112
(5) 道路環境について特に必要だと思うもの	114
14. 区民利用施設	116
(1) 区民利用施設の認知度と利用状況	116
(2) 区民利用施設の利用頻度	120

15. 都筑区の生活環境に関する重要度・満足度	121
(1) 生活環境の重要度	121
(2) 生活環境の満足度	124
(2) 生活環境の満足・不満足割合	127
(3) 生活環境の変化度	130
(4) 生活環境のニーズ度	133
Ⅲ. 資料（調査票）	137

I. 調査概要

I. 調査概要

(1) 調査目的

区民の生活意識や生活行動を明らかにし、区政の運営や政策立案の基礎資料として活用するため、区民意識調査を実施した。

(2) 実施概要

■調査実施機関

平成 27 年 5 月 20 日（水）～6 月 15 日（月）

■調査対象

都筑区内に在住する満 20 歳以上の男女個人（外国人市民を含む無作為抽出）3,000 人

■調査方法

郵送調査（郵送で調査票を送り、郵送で回収する）

■調査内容

調査票別添（137 頁～153 頁）

(3) 回収結果

■配布件数 : 3,000 件

■総回収数 : 1,558 件

■有効回収数 : 1,558 件

■有効回収率 : 51.9%

(4) 報告書の見方

- ①回答比率（%）は、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならない場合がある。
- ②設問によっては、複数回答の結果、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。
- ③グラフに表記される「n=*」（*は数字）は、対象の母数を表す。
- ④グラフや表の中での選択肢の文章が長い場合は、簡略化して表現しているため、アンケート調査票の文章とは一致していない場合がある。

(5) 今回調査の地区割

今回調査の地区別集計にあたっては、表 1 に示す地区割（5 地区）に区分することとした。

表 1 の地区割（5 地区）に区分する際の考え方は、以下の通りである。

- ① 15 地区ある地区連合町内会エリアは、さまざまな地域活動の基盤になっており、住民の意識・行動の分析にあたり有効な地区区分となることから、そのエリアを基本とした。
- ② ただし、各地区連合町内会エリアは人口規模に大きなアンバランスがあることから、分析上、概ね人口 4 万人の同規模の 5 地区に、複数の地区連合町内会を統合する必要があり、都筑区に再編・分区される前の状況、地区住民の最寄り駅等の共通性などを踏まえて、区分することとした。
- ③ その結果、都筑区に再編・分区される前の旧港北区エリアを 3 地区、旧緑区エリアを 2 地区に区分した。

表 1

地区名	連合町内会名	構成町丁(団地)名
東部地区	東山田連合町内会	東山田一丁目、東山田二丁目、東山田三丁目、東山田四丁目、東山田町
	山田連合町内会	南山田一丁目、南山田二丁目、南山田三丁目、南山田町、北山田一丁目、北山田二丁目、北山田三丁目、北山田四丁目、北山田五丁目、北山田六丁目、北山田七丁目、すみれが丘
北部地区	中川連合町内会	大棚町、大棚西、中川一丁目、中川二丁目、中川三丁目、中川四丁目、中川五丁目、中川六丁目、中川七丁目、中川八丁目、牛久保一丁目、牛久保二丁目、牛久保三丁目、牛久保東一丁目、牛久保東二丁目、牛久保東三丁目、牛久保西一丁目、牛久保西二丁目、牛久保西三丁目、牛久保西四丁目、牛久保町、あゆみが丘
	連合未加入	中川中央一丁目、中川中央二丁目
中部地区	勝田茅ヶ崎地区連合町内会	茅ヶ崎東一丁目、茅ヶ崎東二丁目、茅ヶ崎東三丁目、茅ヶ崎東四丁目、茅ヶ崎東五丁目、茅ヶ崎南一丁目、茅ヶ崎南二丁目、茅ヶ崎南三丁目、茅ヶ崎南五丁目、茅ヶ崎中央、茅ヶ崎町、勝田南一丁目、勝田南二丁目、勝田町
	かちだ連合自治会	勝田団地
	新栄早淵連合町内会	新栄町、早淵一丁目、早淵二丁目、早淵三丁目
	茅ヶ崎南 MGCRS 連合自治会	茅ヶ崎南四丁目
	連合未加入	仲町台二丁目、仲町台四丁目、桜並木
南部地区	都田連合町内会	川向町、大熊町、折本町、東方町、平台、長坂、仲町台一丁目、仲町台三丁目、仲町台五丁目
	池辺町連合自治会	池辺町
	佐江戸加賀原地区連合自治会	佐江戸町、加賀原一丁目、加賀原二丁目
西部地区	川和地区連合町内会	川和町、川和台、二の丸
	ふれあいの丘連合自治会	高山、富士見が丘、見花山、葛が谷
	荏田南連合自治会	大丸、荏田南一丁目、荏田南二丁目、荏田南三丁目
	渋沢連合自治会	荏田東町、荏田東一丁目、荏田東二丁目、荏田東三丁目、荏田東四丁目
	柚木荏田南連合自治会	荏田南町、荏田南四丁目、荏田南五丁目

- (注)
- ・自治会・町内会の範囲は、必ずしも町界と一致していない。
 - ・自治会・町内会未加入の地域については、地理的な条件や地域特性を考慮し、近接する地区連合に組み入れることとした。
 - ・地区の名称は、各地区の位置関係を考慮してつけた名称であり、本調査の集計上用いるものである。一般に用いられる名称ではない。

図 1 地区割 1



Ⅱ. 調査結果

II. 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

回答者の性別構成は、「男性」44.0%、「女性」53.8%である。
 都筑区全体における性別構成は、「男性」50.1%、「女性」49.9%となっている。

図2 性別 (n=1,558)

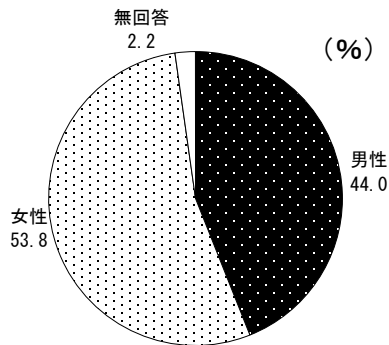
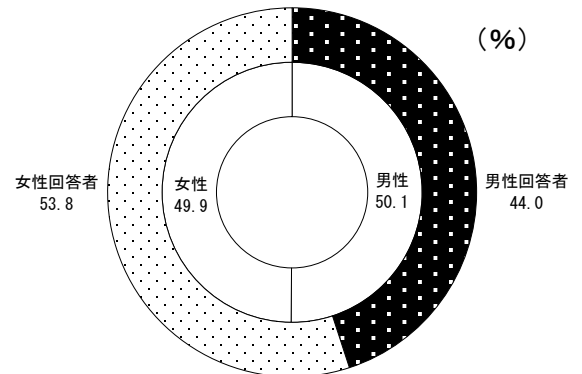


図3 <参考>性別 都筑区全体との比較
 (外側が今回回答者の割合)



内側 都筑区全体 (n=210,751) 平成 27 年 1 月 1 日現在
 外側 今回調査 (n=1,558)

(2) 年代

回答者の年代は「40 歳代」が最も高く 26.5%、次いで「50 歳代」が 18.4%、「60 歳代」が 15.9%となっている。

図4 年代 (n=1,558)

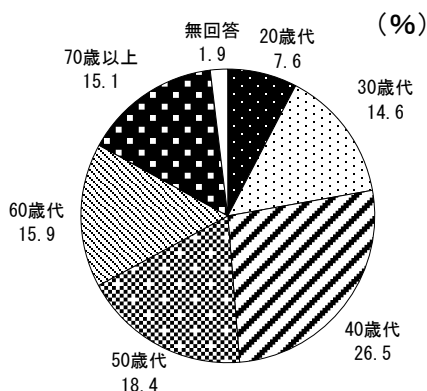


図5 <参考>回答者の年齢構成
 (5 歳階級別)

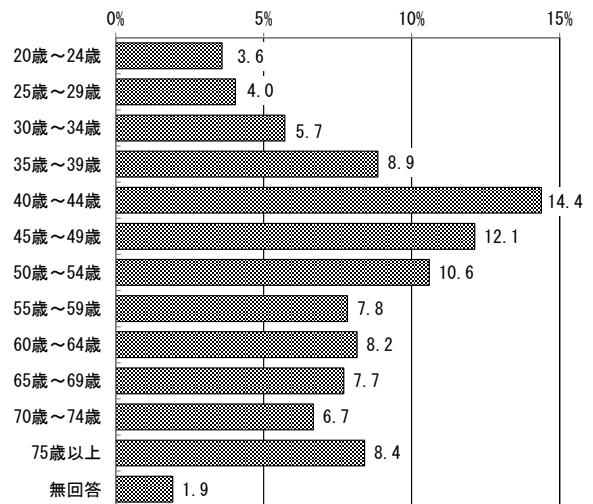
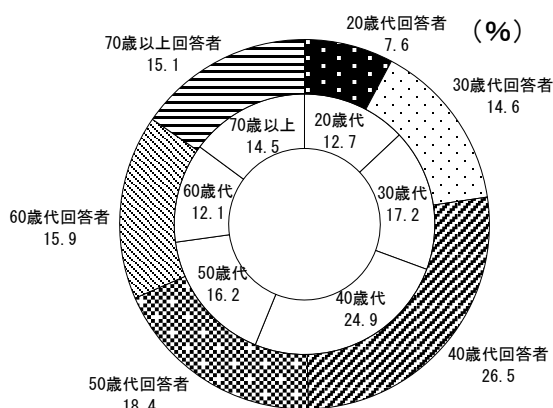


図6 <参考>年代 都筑区全体との比較

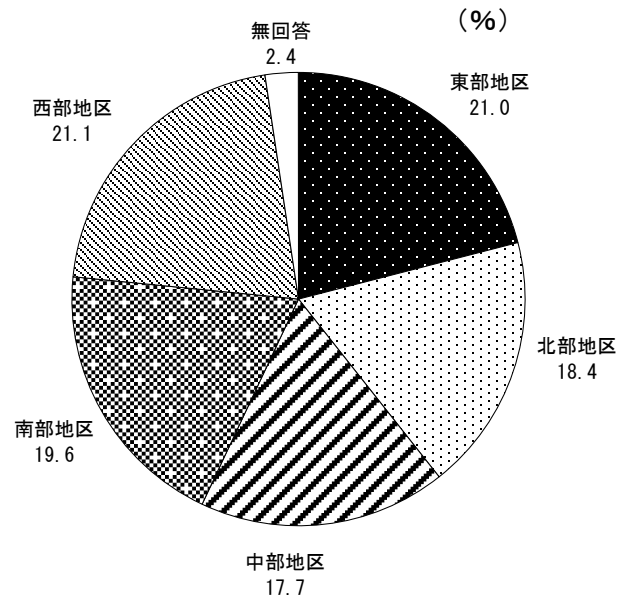


内側 都筑区全体※ (n=162,112) 平成 27 年 1 月 1 日現在
 外側 今回調査 (n=1,558)
 ※都筑区全体の n は都筑区全体人口から 10 歳代以下を引いた数としている。

(3) 居住地

回答者の居住地区は「西部地区」が最も高く 21.1%、次いで「東部地区」21.0%、「南部地区」19.6%、「北部地区」18.4%、「中部地区」17.7%となっている。

図 7 居住地 (n = 1,558)



(4) 最寄り駅

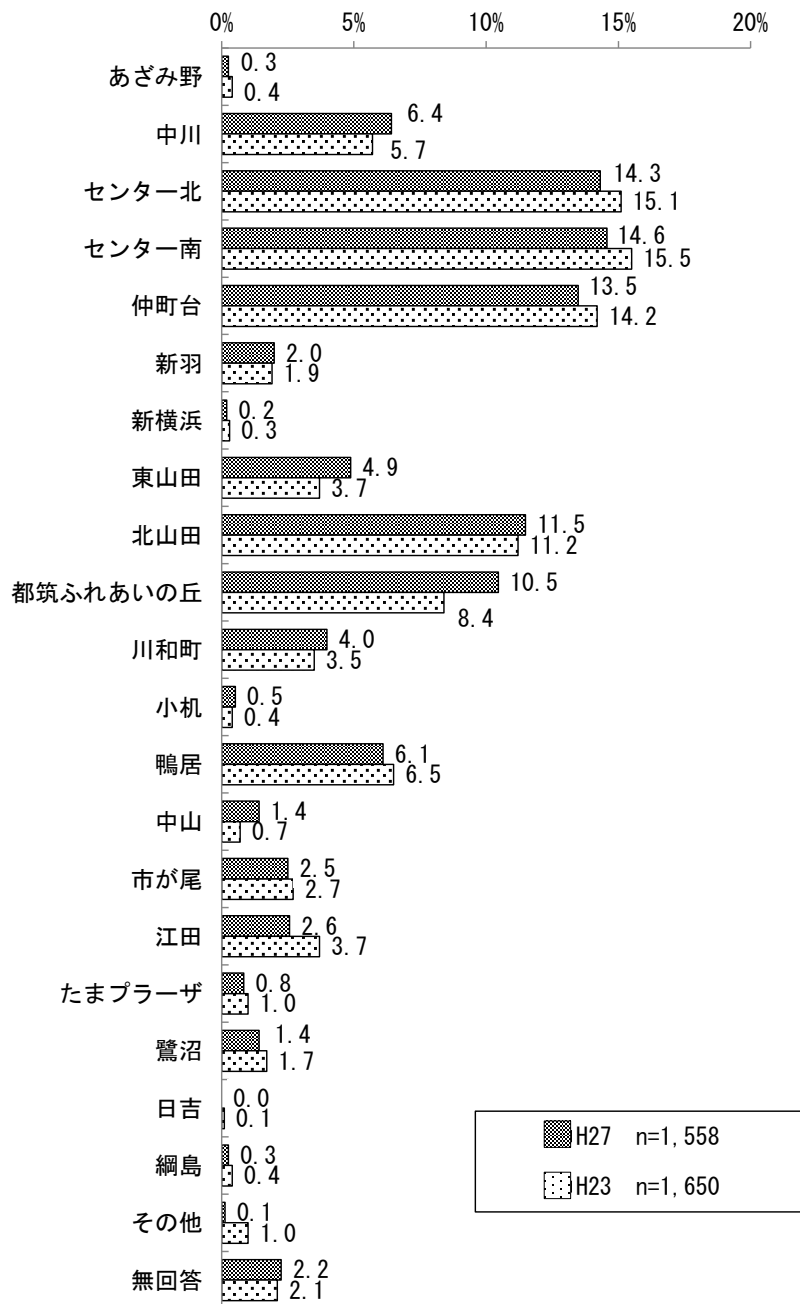
■全体の傾向

あなたの最寄り駅（もしくは最も利用する駅）はどこかという問に対しては、「センター南駅」が最も高く 14.6%、次いで「センター北駅」が 14.3%、「仲町台駅」13.5%となっている。

都筑区以外の駅では、「鴨居駅」6.1%、「江田駅」2.6%、「市が尾駅」2.5%などが利用されている。

前回調査（平成 23 年度）と比較すると、上位 5 位「センター南駅」、「センター北駅」、「仲町台駅」、「北山田駅」、「都筑ふれあいの丘駅」は変動がない。

図 8 最寄り駅（n=1,558）

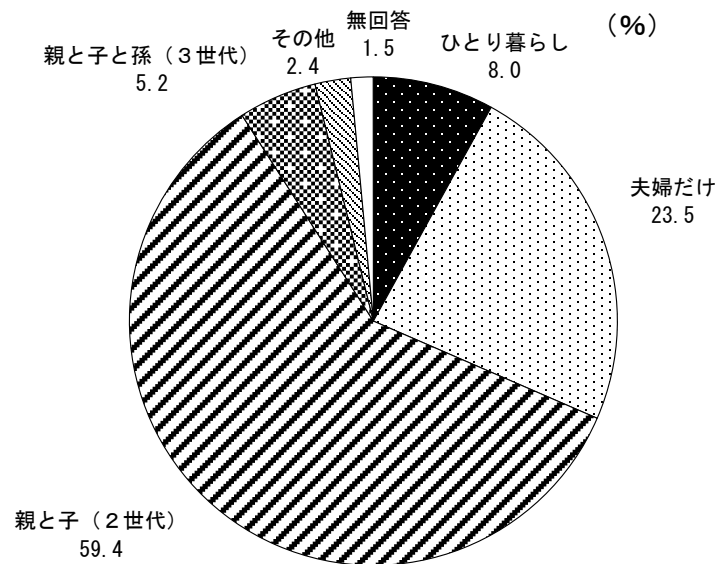


(5) 家族形態

■全体の傾向

回答者の家族形態は「親と子（2世代）」が 59.4%と最も高く、次いで「夫婦だけ」23.5%、「ひとり暮らし」8.0%、「親と子と孫（3世代）」5.2%となっている。

図9 家族形態（n=1,558）



■地区別に見る特徴

すべての地区において「親と子（2世代）」が最も高く、次いで「夫婦だけ」となっており、これらを合わせると8割前後となる。前回調査（平成 23 年度）と比較すると、すべての地区で「親と子と孫（3世代）」が減少しており、「ひとり暮らし」は「中部地区」で減少し、それ以外の地区では増加している。

図 10 家族形態（地区別）

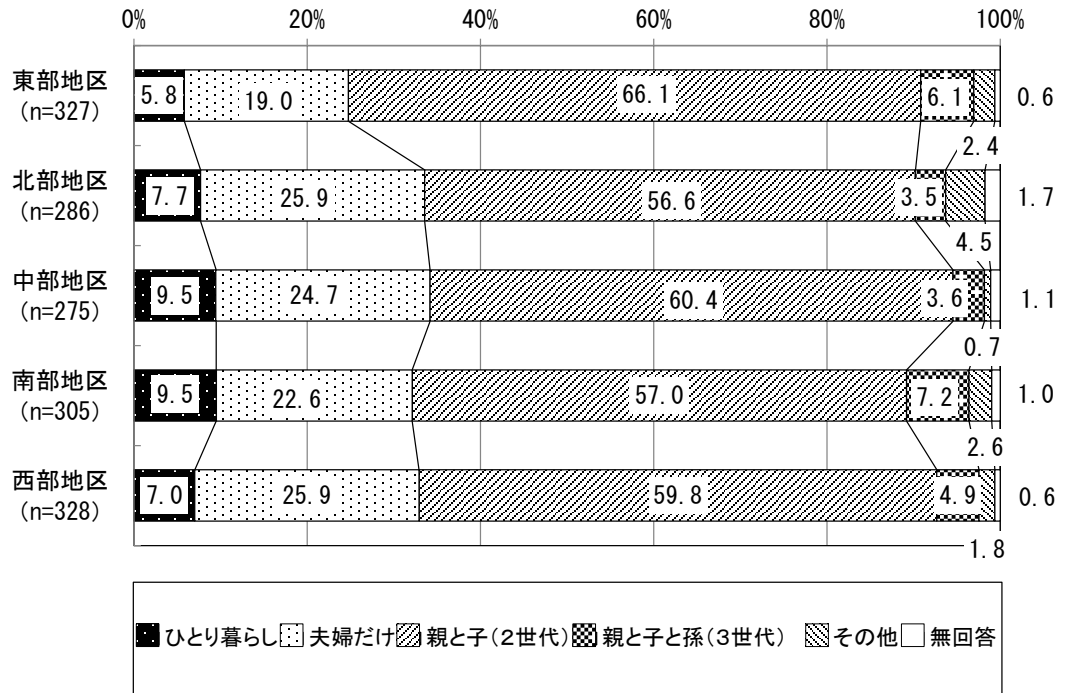
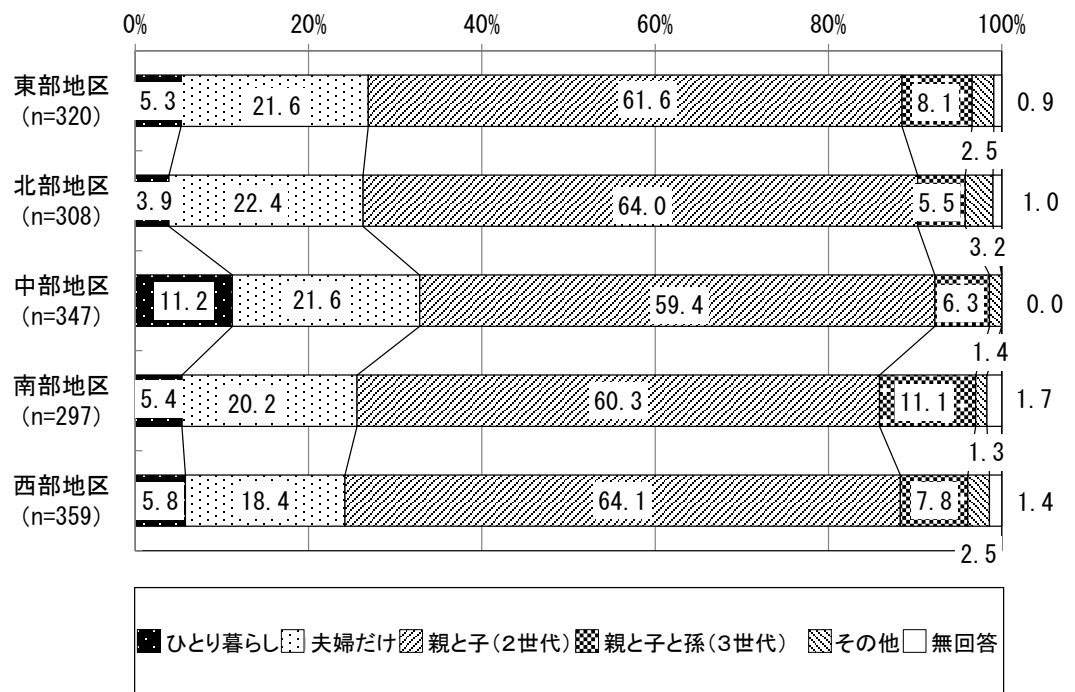


図 11 <参考> 家族形態（平成 23 年度都筑区区民意識調査）



(6) 子ども・高齢者の同居家族

■全体の傾向

家族に「子ども（未就学児）」がいるかどうかについては、「いる」の回答者が 17.9%、「小学生」は 18.7%、「高齢者（65 歳以上）」は 24.8%となっている。

図 12 子ども（未就学児）の同居家族（n=1,410）

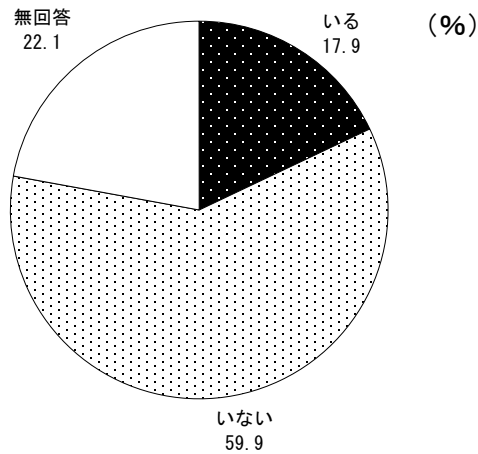


図 13 小学生の同居家族（n=1,410）

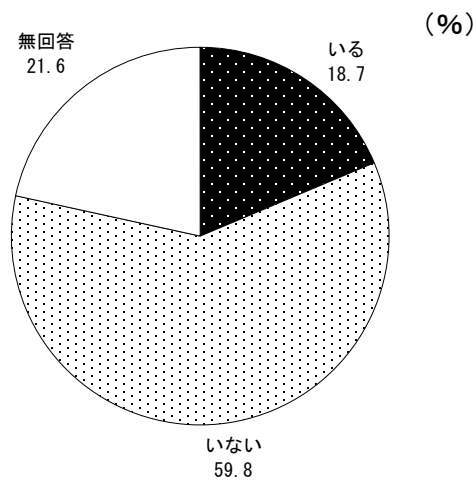
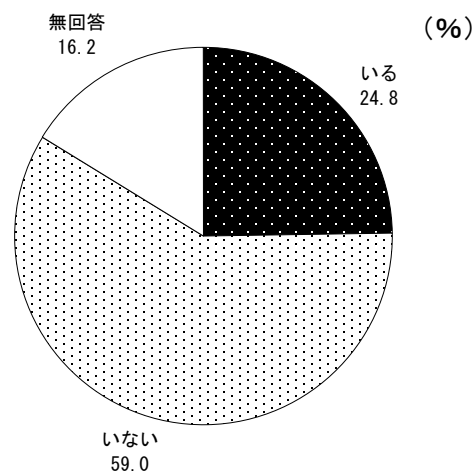


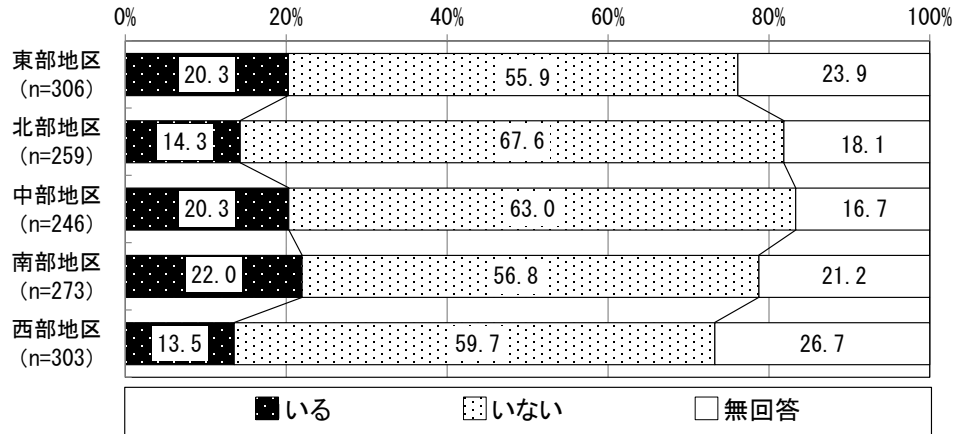
図 14 高齢者（65 歳以上）の同居家族（n=1,410）



■地区別に見る特徴

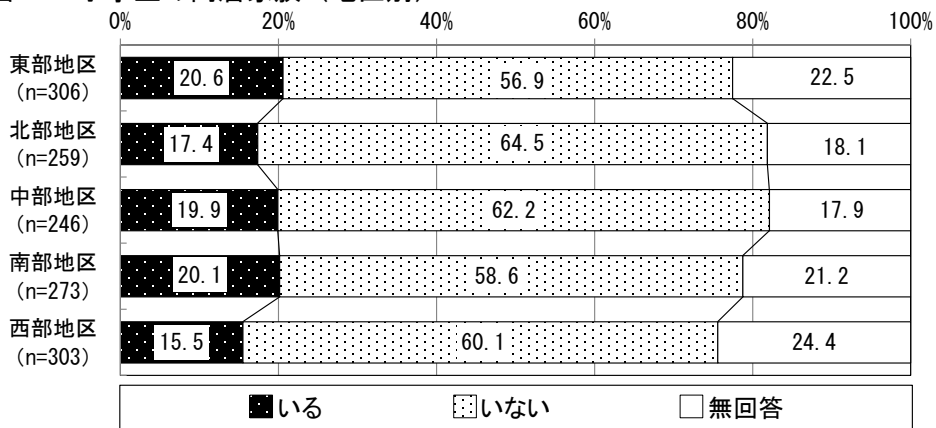
家族に「子ども（未就学児）」がいると答えた人が最も多い地区は、「南部地区」の 22.0%である。次いで「東部地区」と「中部地区」が 20.3%である。最も少ない地区は「西部地区」の 13.5%である。

図 15 子ども（未就学児）の同居家族（地区別）



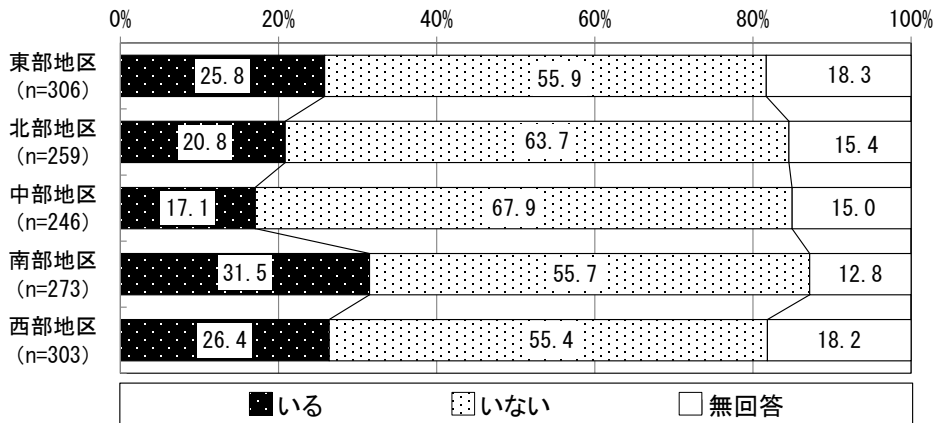
家族に「小学生」がいると答えた人が最も多い地区は、「東部地区」の 20.6%である。次いで「南部地区」が 20.1%である。最も少ない地区は「西部地区」の 15.5%である。

図 16 小学生の同居家族（地区別）



家族に「高齢者（65歳以上）」がいると答えた人が最も多い地区は、「南部地区」の 31.5%である。最も少ない地区は「中部地区」の 17.1%である。

図 17 高齢者（65歳以上）の同居家族（地区別）

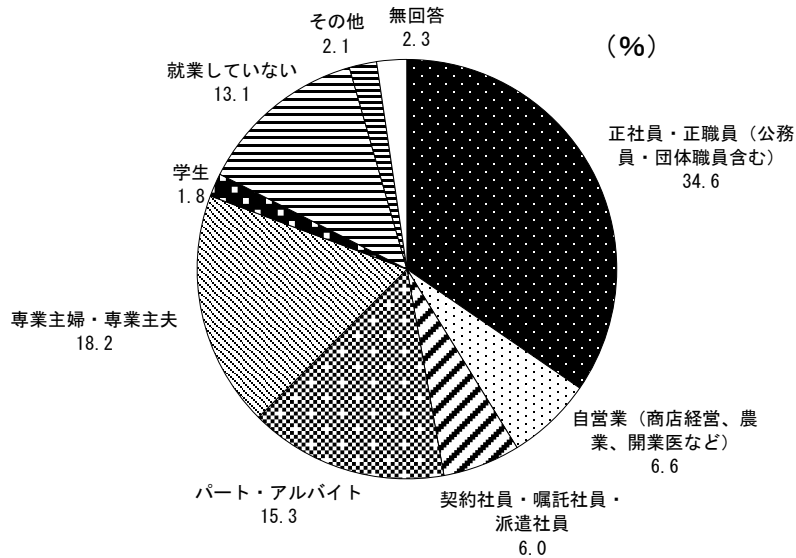


(7) 就労状況

■全体の傾向

回答者の就労状況は「正社員・正職員（公務員・団地職員含む）」が 34.6%と最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」18.2%、「パート・アルバイト」15.3%となっている。

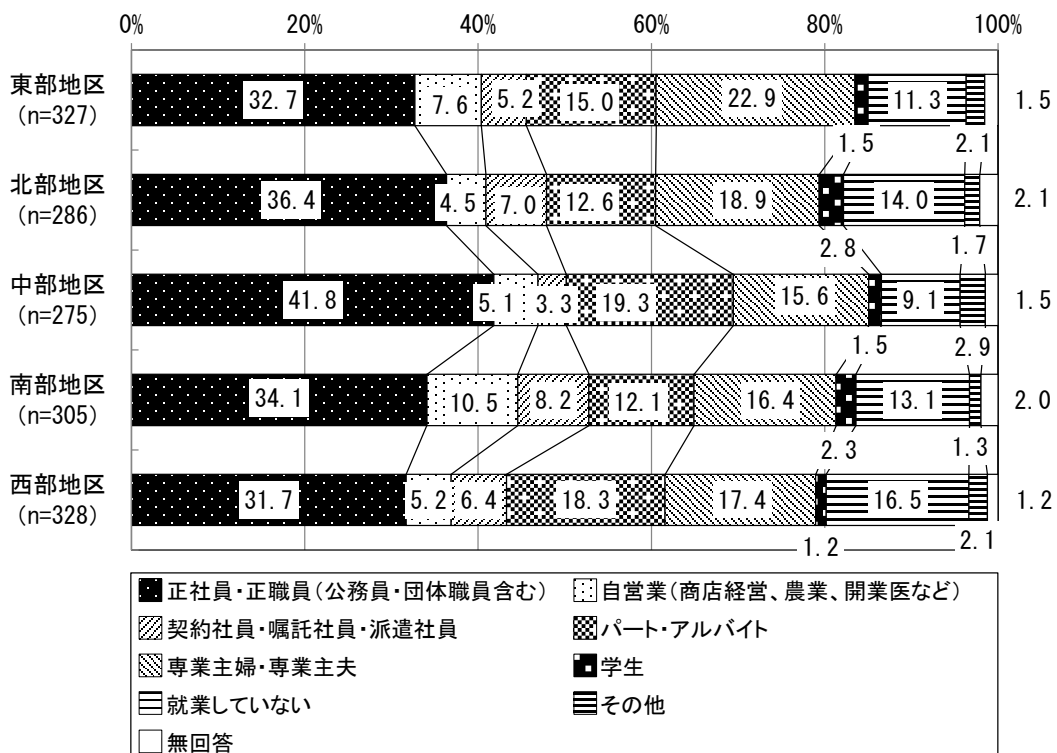
図 18 就労状況（n=1,558）



■地区別に見る特徴

地区別にみると、「正社員・正職員（公務員・団地職員含む）」は「中部地区」が 41.8%と最も高くなっている。その他の地区はすべて 30%台である。

図 19 就労状況（地区別）



2. 都筑区に対する居住意向

(1) 居住開始時期

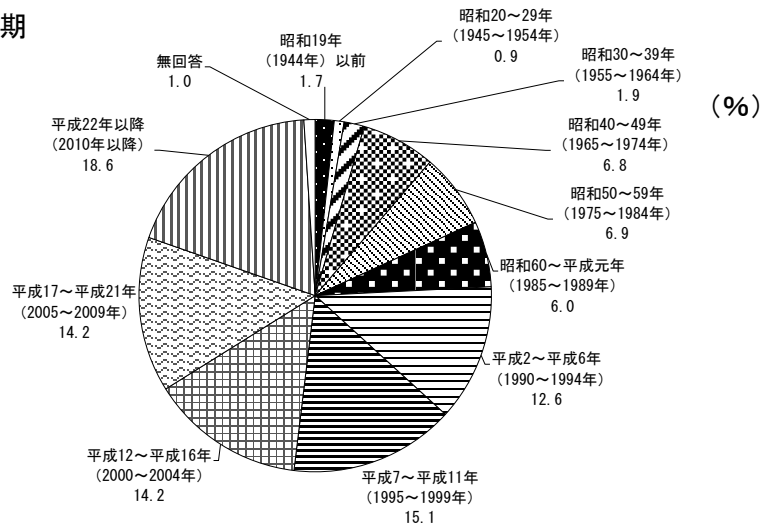
平成 7 年以降に住み始めた人は全体の 6 割超
 「平成 22 年以降」に都筑区に住み始めた人の割合が最も多い

■全体の傾向

都筑区に住み始めた時期は「平成 22 年以降（2010 年以降）」が 18.6%と最も高く、前回調査（平成 23 年度）と比較すると、「平成 22 年以降（2010 年以降）」が 7.8%から 18.6%と 2 倍以上増加しており、新規流入が続いている様子うかがえる。「平成 7～平成 11 年（1995～1999 年）」が 15.1%、「平成 12～平成 16 年（2000～2004 年）」、「平成 17～平成 21 年（2005～2009 年）」がそれぞれ 14.2%となっている。

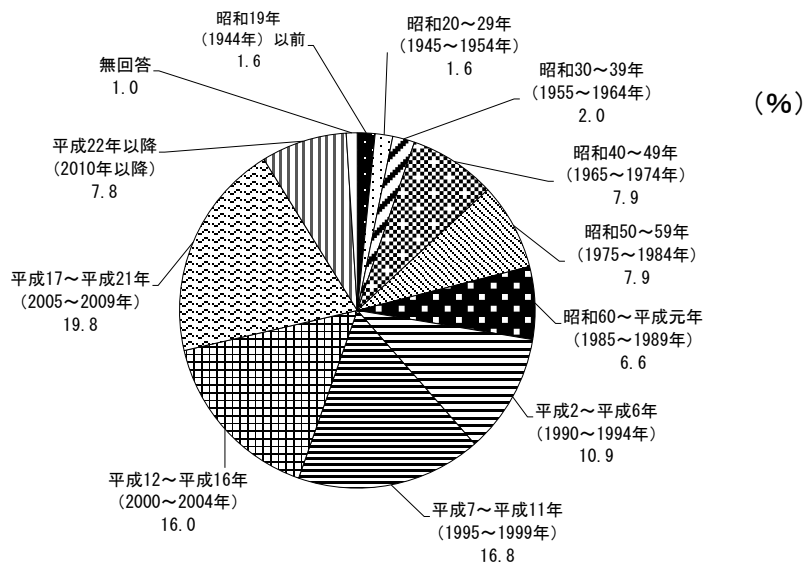
問 1 あなたは、都筑区にいつ頃からお住まいですか。（○はひとつ） n=1,558

図 20 居住開始時期



参考データ

図 21 居住開始時期（平成 23 年度都筑区区民意識調査）(n=1,650)



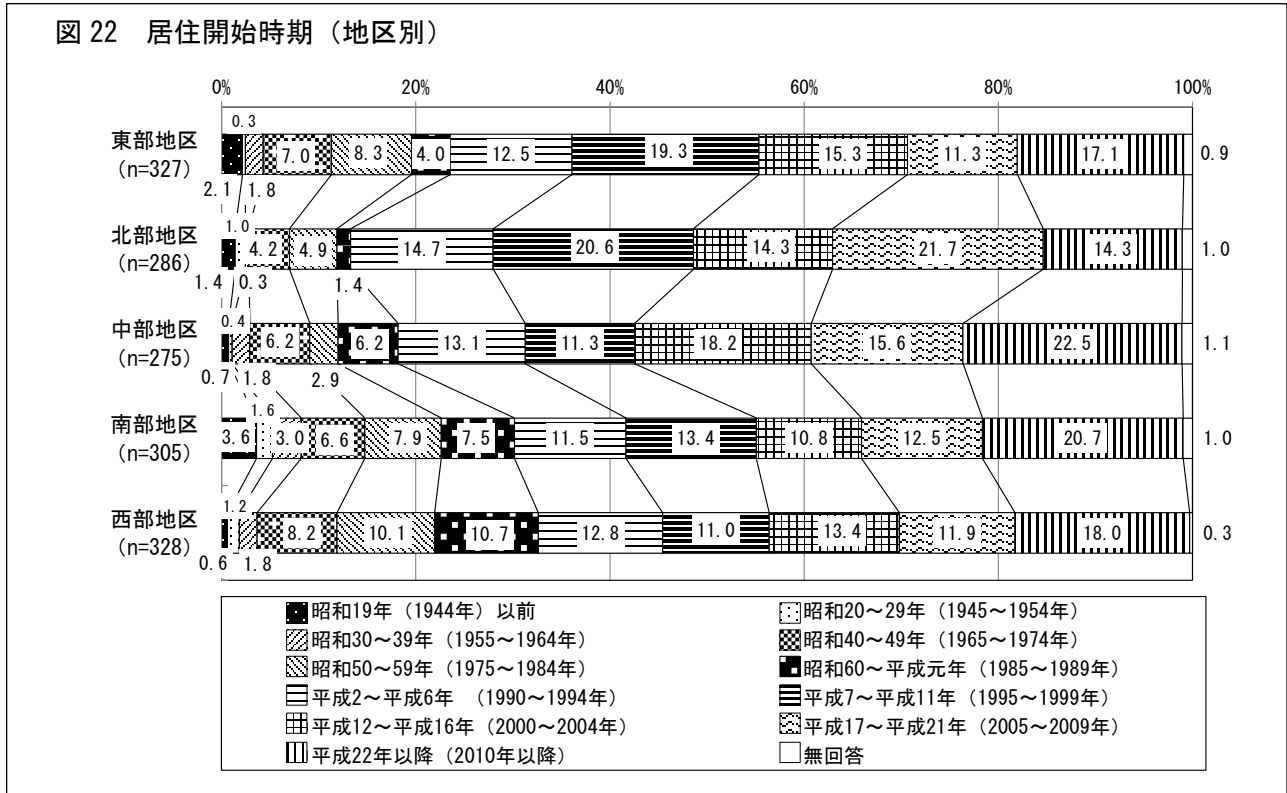
■地区別に見る特徴

地区別に見ると、平成 22 年（2010 年）以降に住み始めた人の割合が最も多い地区は「中部地区」の 22.5%で、次いで「南部地区」の 20.7%、「西部地区」の 18.0%である。

平成 17 年（2005 年）以降に住み始めた人の割合で見ると、最も多い地区は「中部地区」で 38.1%、次いで「北部地区」の 36.0%、「南部地区」の 33.2%となっている。

平成 7 年（1995 年）以降に住み始めた人の割合で見ると、最も多い地区は「北部地区」で 70.9%、次いで「中部地区」の 67.6%、「東部地区」の 63.0%、「南部地区」の 57.4%、「西部地区」の 54.3%となっている。

図 22 居住開始時期（地区別）



(2) 住まいの形態

「持ち家（分譲マンション、共同住宅）」と「借家（賃貸マンション、アパート、共同住宅）」を合わせた集合住宅の割合は5割後半

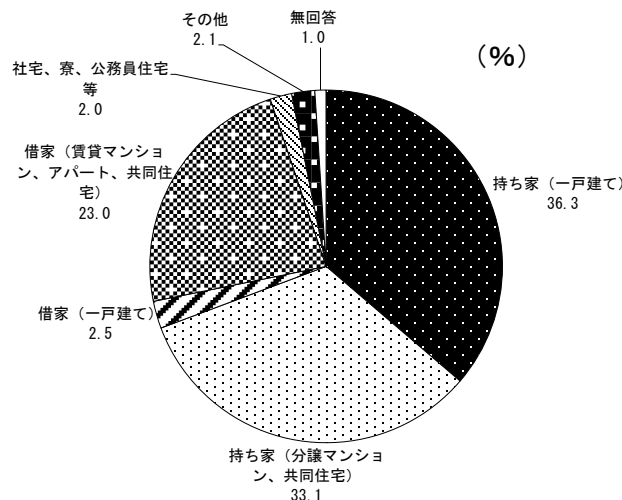
■全体の傾向

住まいの形態は「持ち家（一戸建て）」が 36.3%と最も高く、次いで「持ち家（分譲マンション、共同住宅）」33.1%、「借家（賃貸マンション、アパート、共同住宅）」23.0%となっている。『持ち家』と『借家』を合わせた集合住宅の割合は 56.1%である。

「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（分譲マンション、共同住宅）」を合わせた『持ち家』の比率は 69.4%となっている。

問2 あなたのお住まいは、この中のどれにあたりますか。（○はひとつ） n=1,558

図 23 住まいの形態



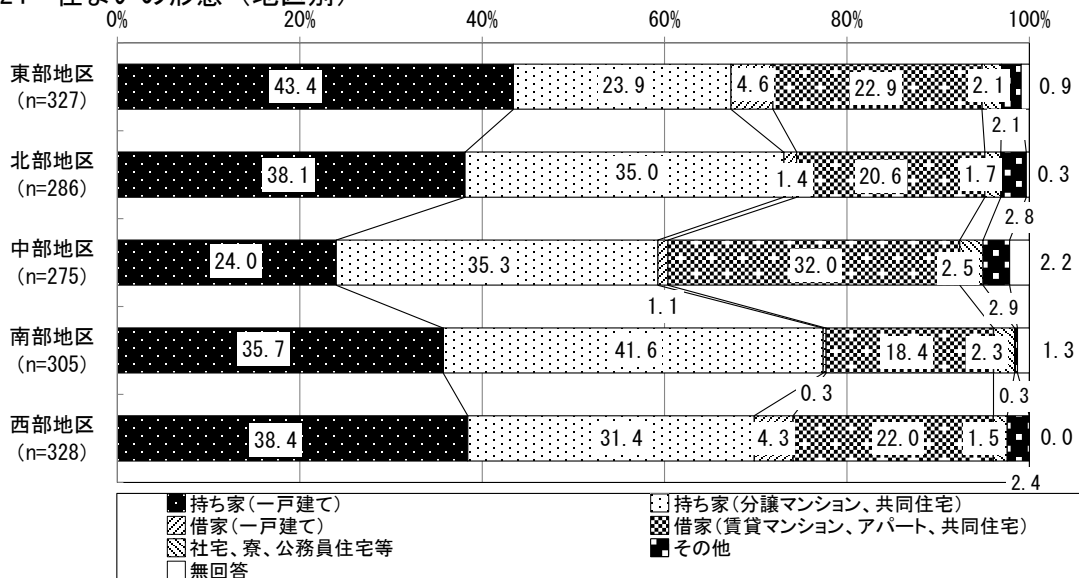
■地区別に見る特徴

地区別にみると、「持ち家（一戸建て）」の比率が高い地区は、「東部地区」の 43.4%、「西部地区」の 38.4%、「北部地区」の 38.1%となっている。「持ち家（分譲マンション、共同住宅）」の比率が高い地区は「南部地区」の 41.6%、「中部地区」の 35.3%である。

2タイプを合わせた『持ち家』の比率が最も高いのは「南部地区」で 77.3%、最も低いのは「中部地区」で 59.3%となっている。

「借家（賃貸マンション、アパート、共同住宅）」の比率が高い地区は「中部地区」が 32.0%と最も高くなっている。

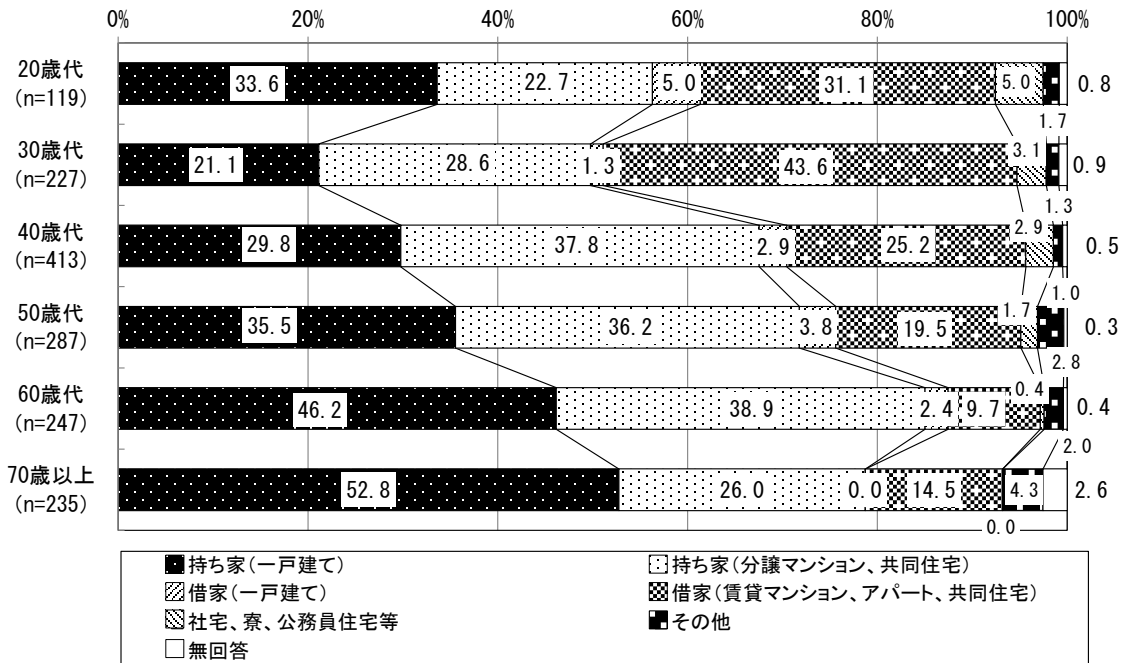
図 24 住まいの形態（地区別）



■回答者属性別に見る特徴

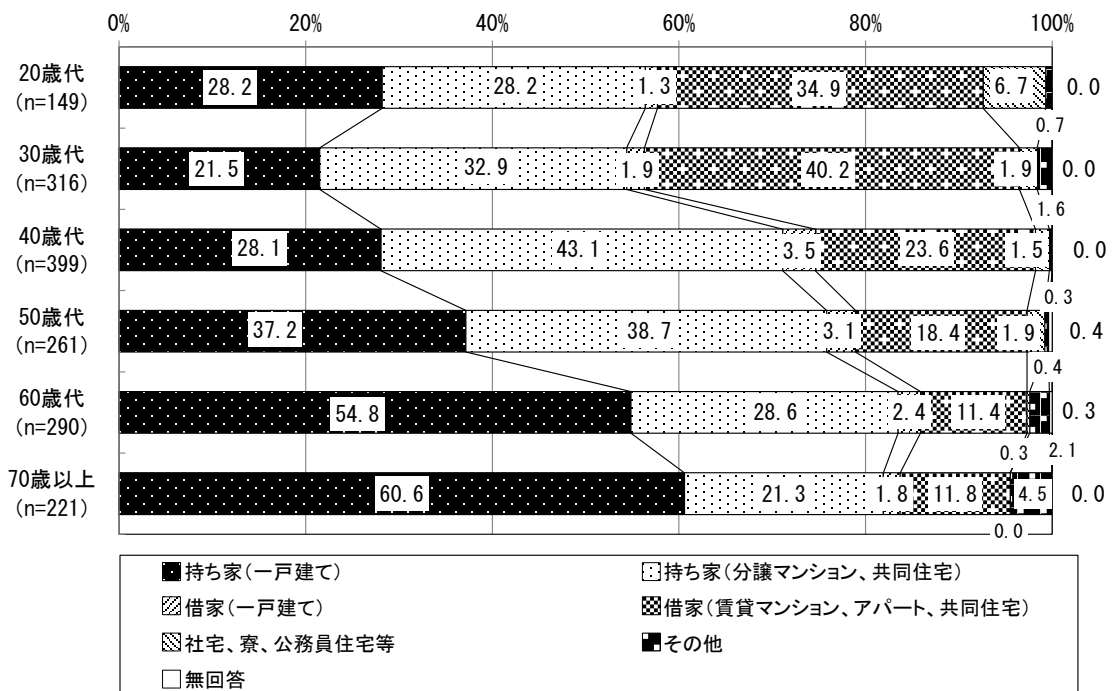
年代別にみる住まいの形態の特徴としては、「20 歳代」では「持ち家（一戸建て）」、「借家（賃貸マンション、アパート、共同住宅）」がそれぞれ 3 割超となっている。「30 歳代」では「借家（賃貸マンション、アパート、共同住宅）」が最も高く 4 割超となっている。「40 歳代」、「50 歳代」では「持ち家（分譲マンション、共同住宅）」が最も高く 4 割弱である。「60 歳代」、「70 歳以上」は「持ち家（一戸建て）」が 5 割前後で最も高い。

図 25 住まいの形態（年代別）



参考データ

図 26 住まいの形態（年代別・平成 23 年度都筑区 区民意識調査）



(3) 都筑区に来る前の居住地

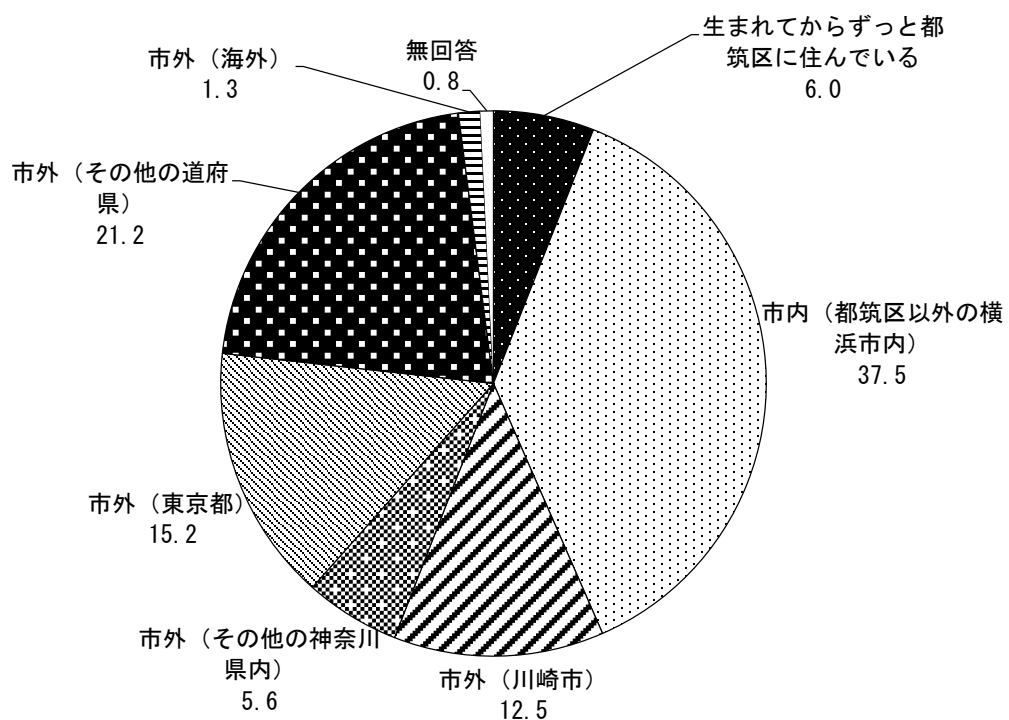
「市内（都筑区以外の横浜市）」が最も多く、4 割弱
市外（その他の道府県）からの流入は増加傾向

■全体の傾向

都筑区に来る前の居住地は「市内（都筑区以外の横浜市内）」が 37.5%と最も高く、次いで「市外（その他の道府県）」21.2%、「市外（東京都）」15.2%となっている。

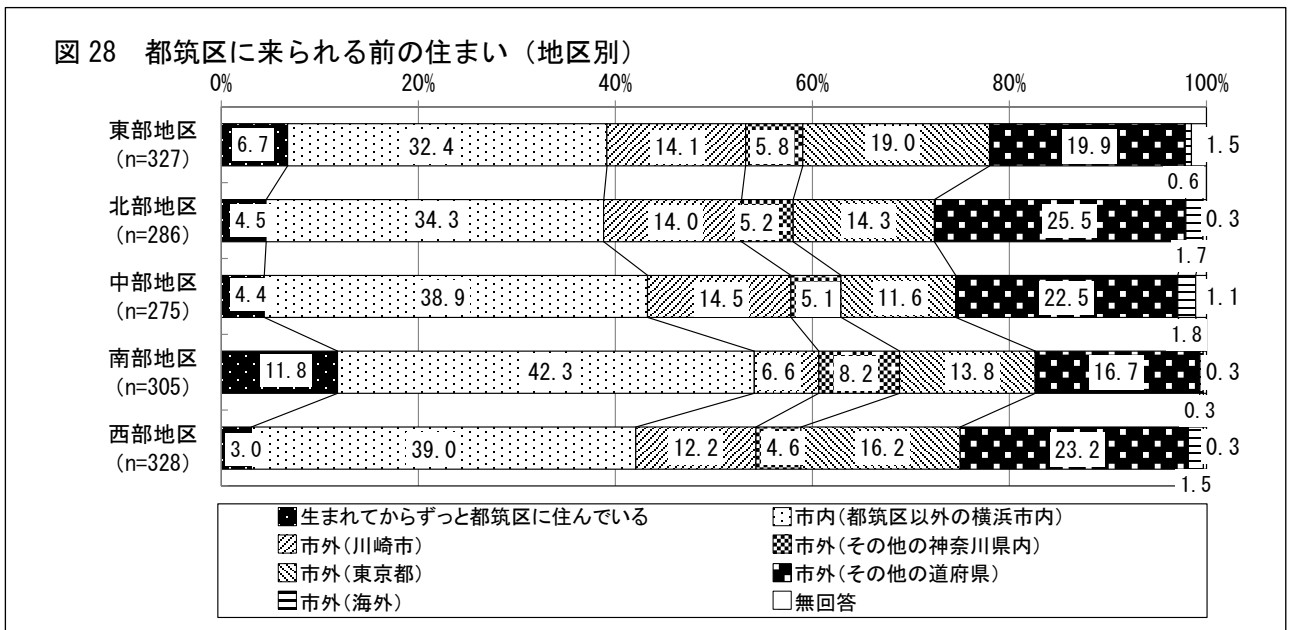
問3 あなたが都筑区に来られる前にお住まいになっていたところはどこですか。
(〇はひとつ) n=1,558

図 27 都筑区に来られる前の住まい



■地区別に見る特徴

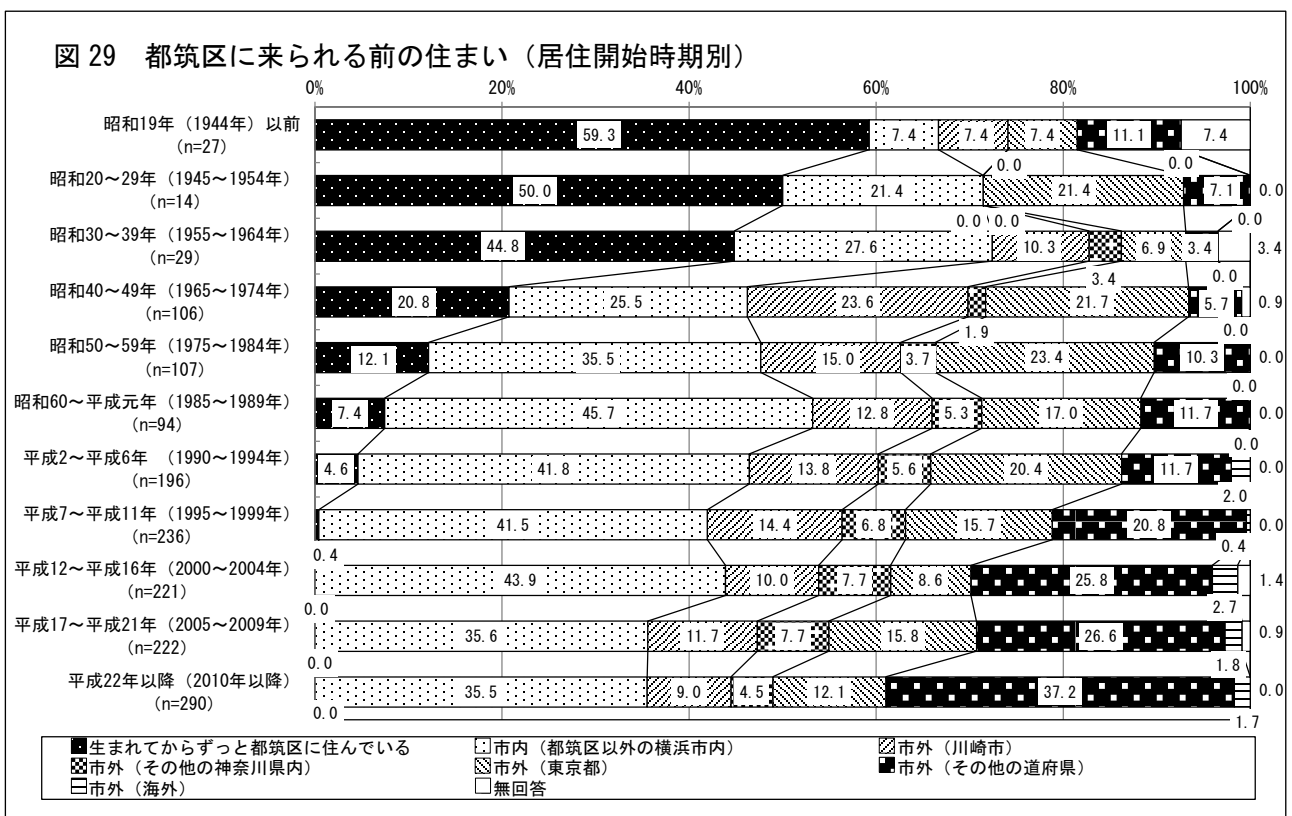
地区別に見ると、すべての地区で「市内（都筑区以外の横浜市内）」からの流入が最も高くなっている。「生まれてからずっと都筑区に住んでいる」という回答が最も多いのは「南部地区」で 11.8% である。



■回答者属性別に見る特徴

居住開始時期別にみると、「昭和 60～平成元年（1985～1989 年）」で「市内（都筑区以外の横浜市内）」からの流入が 45.7% と最も高くなっている。

それ以降も「市内（都筑区以外の横浜市内）」からの流入が 4 割前後となっているが、「平成 12～16 年」以降、減少している。一方で、「市外（その他の道府県）」からの流入は増加傾向にある。また、「平成 22 年以降（2010 年以降）」では「市内（都筑区以外の横浜市内）」が 35.5% に対して、「市外（その他の道府県）」が 37.2% と両者の順が逆転している。



(4) 居留意向

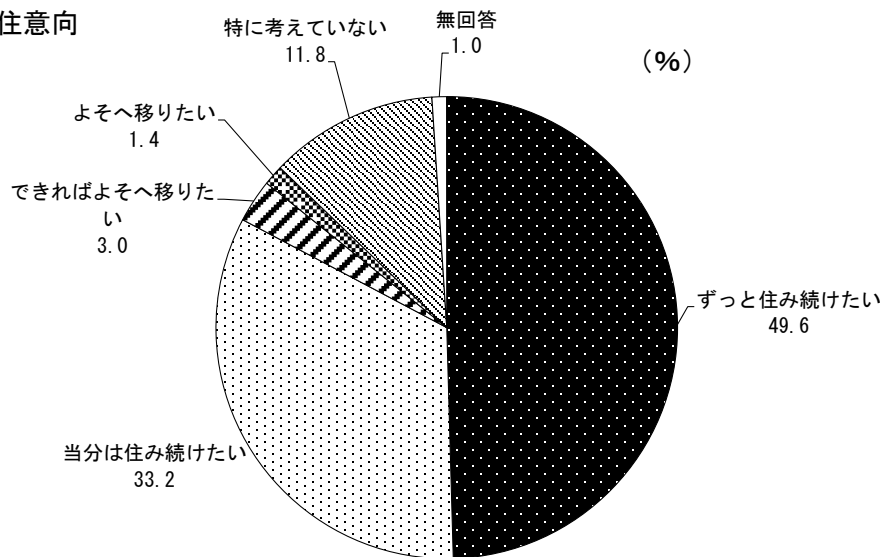
『住み続けたい』と回答している人の割合が8割超
 年齢が上がるほど「ずっと住み続けたい」の割合が高まる傾向

■全体の傾向

都筑区に住み続けたいかどうかについては「ずっと住み続けたい」が 49.6%と最も高く、次いで「当分は住み続けたい」が 33.2%となっており、「住み続けたい」回答者は 82.8%となっている。

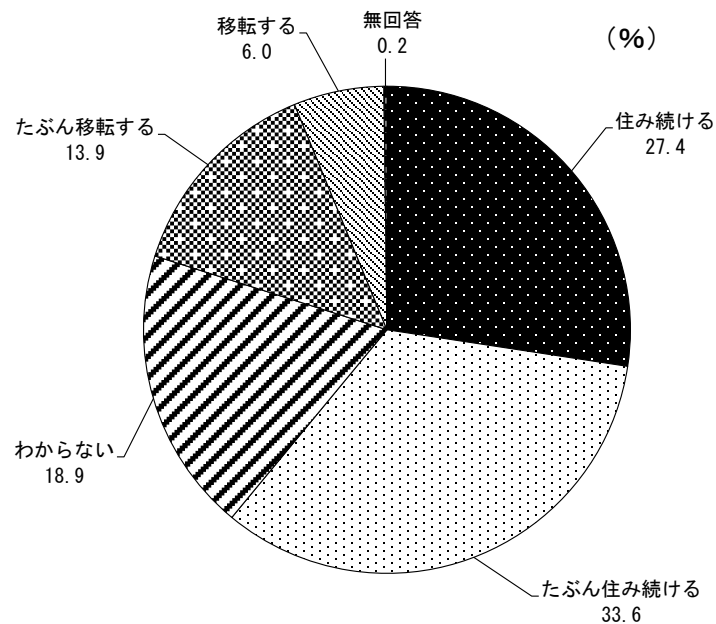
問4 あなたは、これからも都筑区に住みたいと思いますか。(〇はひとつ) n=1,558

図30 居留意向



参考データ

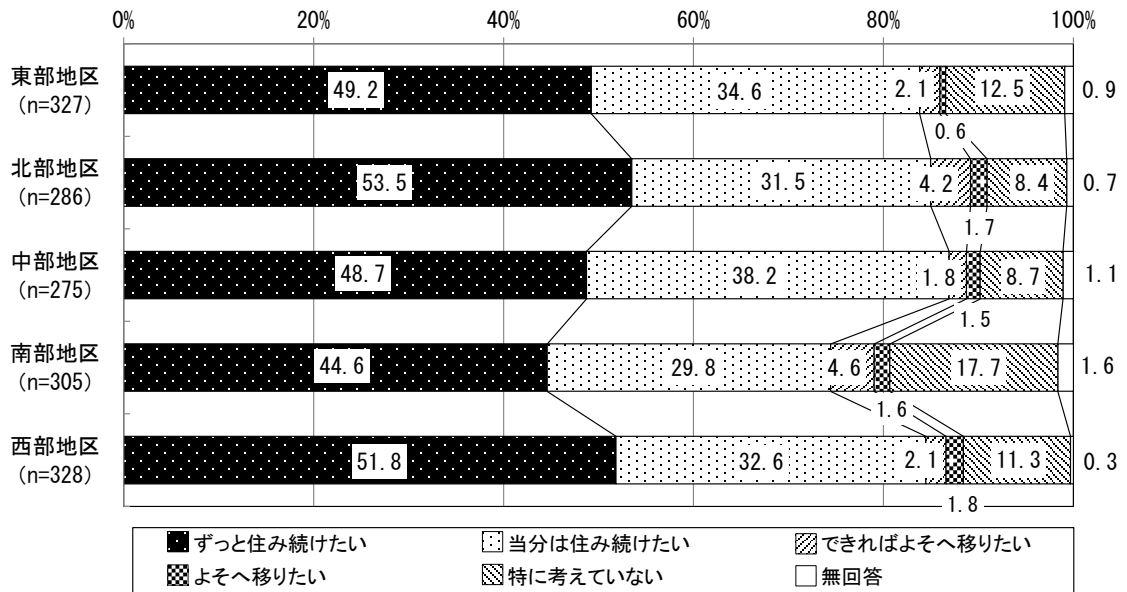
図31 居留意向 (平成 27 年度横浜市市民意識調査) (n=2,146)



■地区別に見る特徴

地区別に見ると、すべての地区で「ずっと住み続けたい」という回答が4割強～5割強となっている。「北部地区」は「ずっと住み続けたい」居住意向が53.5%で他地区より高い。「当分は住み続けたい」と合わせた比率は「南部地区」を除き8割以上となっている。

図 32 居住意向（地区別）

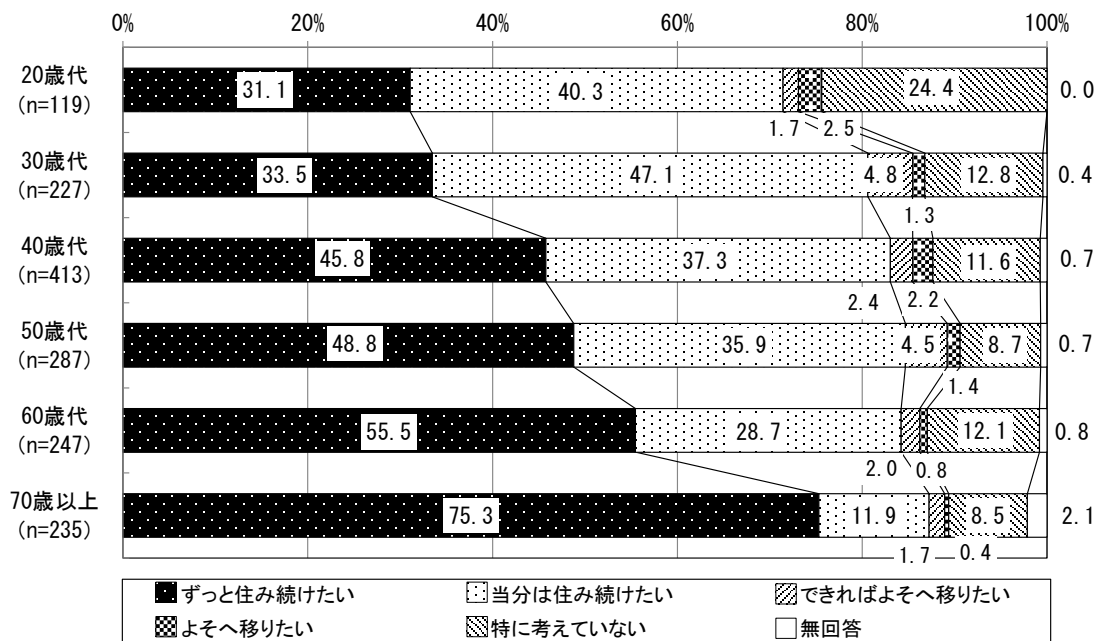


■回答者属性別に見る特徴

年代別に見ると、「ずっと住み続けたい」は年代が上がるごとに高い数値を示している。

「20歳代」は「できればよそへ移りたい」が24.4%と他の年代より割合が高い。「20歳代」を除き「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」とを合わせた居住意向の比率は8割以上となっている。

図 33 居住意向（年代別）



3. 通勤・通学の状況

(1) 職場・学校の所在地

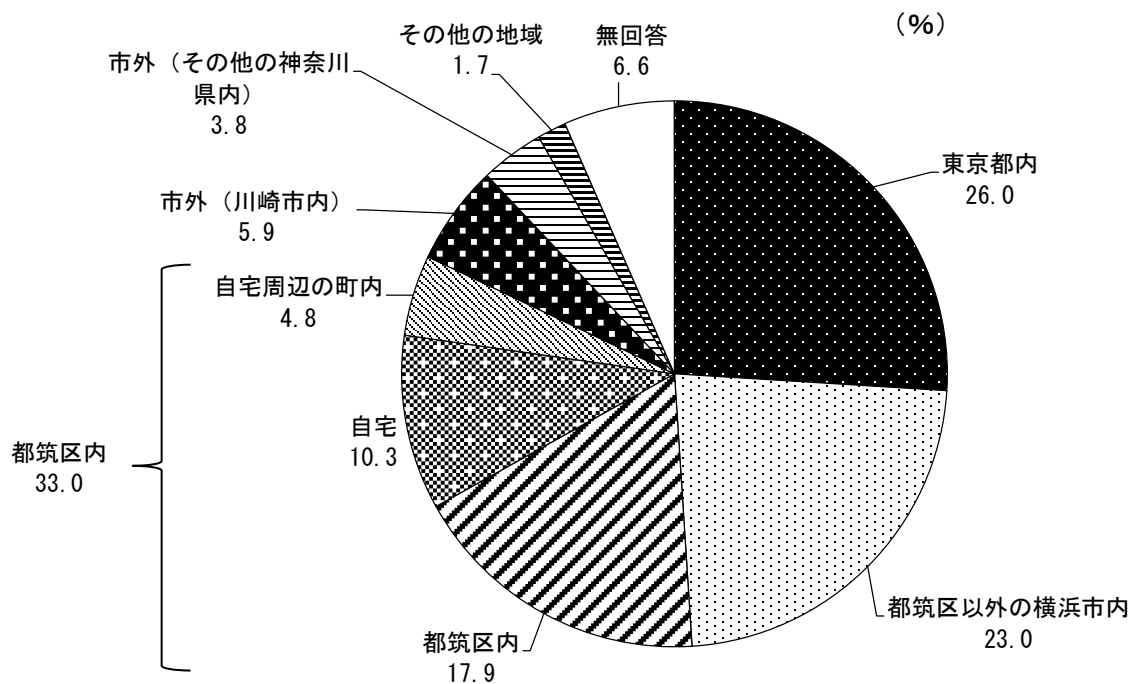
東京都内へ通勤・通学が、全体の約 1 / 4
 「自宅」「自宅周辺の町内」を含めた『都筑区内』への通勤・通学は 3 割超

■全体の傾向

職場・学校の所在地は「東京都内」が 26.0%と最も高く、次いで「都筑区以外の横浜市内」23.0%であるが、「都筑区内」、「自宅」、「自宅周辺の町内」を合わせると 33.0%となり、「東京都内」を上回っている。

問5 あなたの職場または学校はどこですか。(〇はひとつ) n=1,170

図 34 職場・学校の所在地

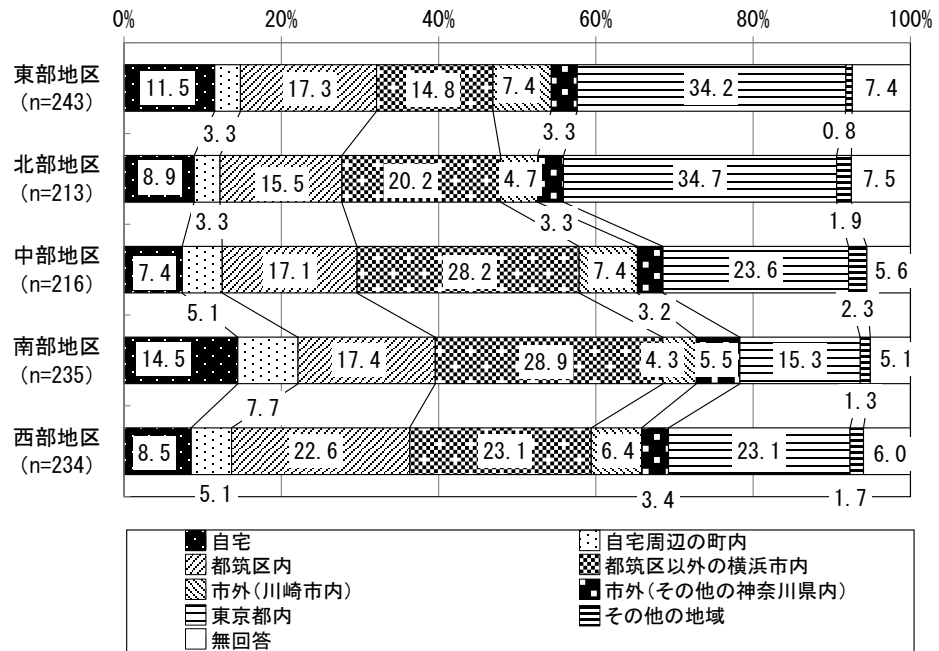


(注)「就業・就学はしていない」回答者 388 人を除く

■地区別に見る特徴

地区別に見ると、「南部地区」は「自宅」「自宅周辺の町内」「都筑区内」を合わせた区内での通勤・通学率が 39.6%と最も高く、逆に「東京都内」が 15.3%と最も低くなっている。「東京都内」が最も高い地区は「北部地区」で 34.7%である。

図 35 職場・学校の所在地（地区別）

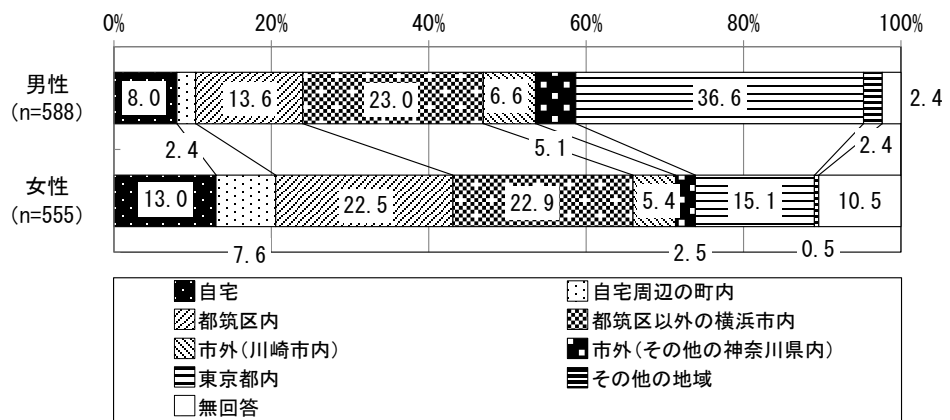


(注)「就業・就学はしていない」回答者 388 人を除く

■回答者属性別に見る特徴

性別で見ると、「女性」は「自宅」「自宅周辺の町内」「都筑区内」を合わせた区内での通勤・通学率が 43.1%となっており、「男性」は 24.0%となっている。「東京都内」は、「男性」は 36.6%で「女性」は 15.1%である。

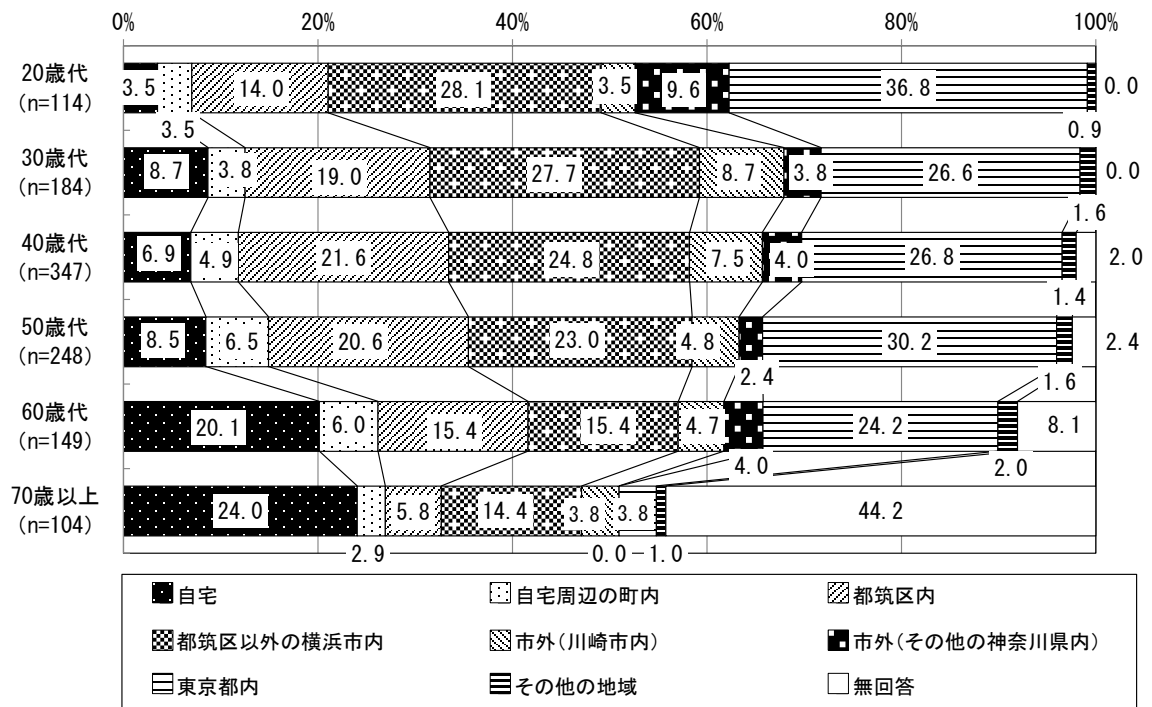
図 36 職場・学校の所在地（性別）



(注)「就業・就学はしていない」回答者 388 人を除く

年代別にみると、「20 歳代」で「東京都内」が 36.8%と最も高くなっている。

図 37 職場・学校の所在地（年代別）



(注)「就業・就学はしていない」回答者 388 人を除く

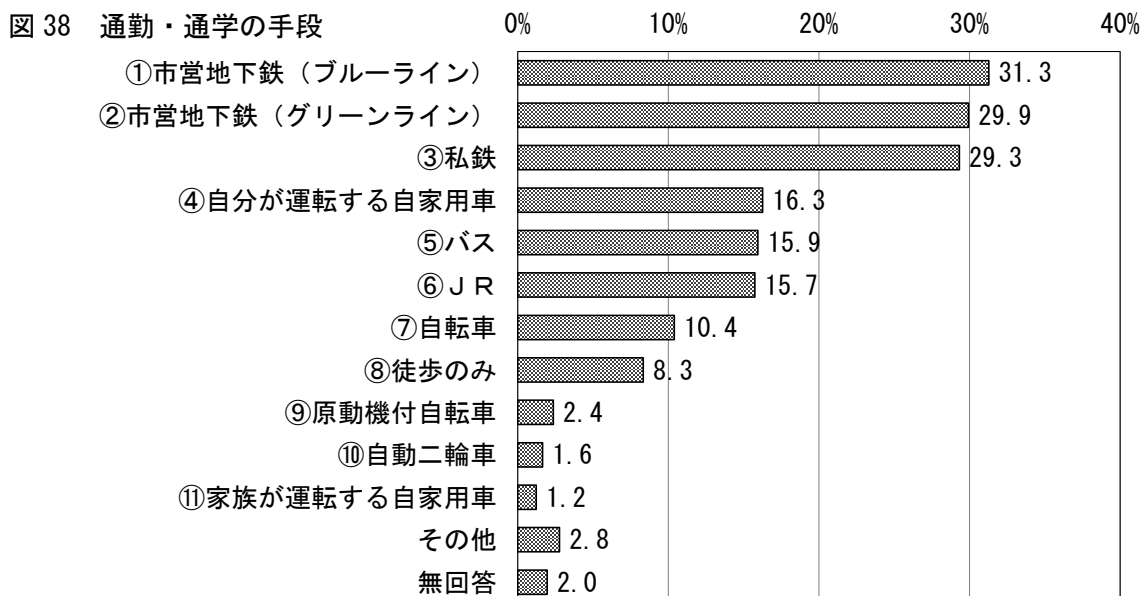
(2) 通勤・通学の交通手段

通勤・通学の交通手段として利用が多いのは、
「市営地下鉄（ブルーライン）」「市営地下鉄（グリーンライン）」「私鉄」

■全体の傾向

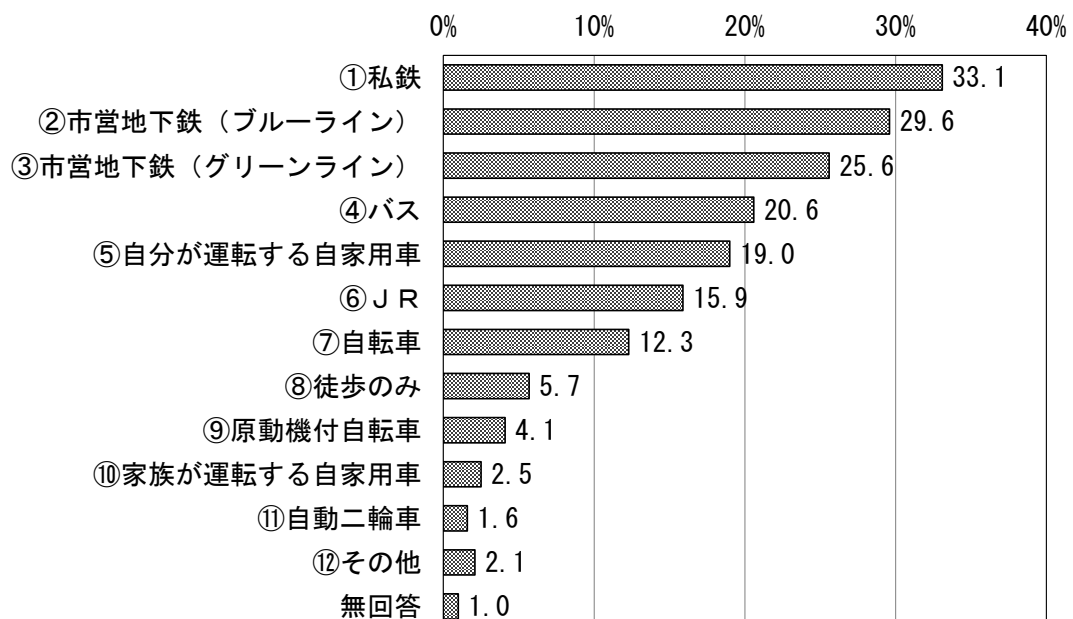
通勤・通学の手段は「市営地下鉄（ブルーライン）」が 31.3%と最も高く、次いで「市営地下鉄（グリーンライン）」29.9%、「私鉄」29.3%とそれぞれ3割前後の人が利用している。次いで、「自分が運転する自家用車」16.3%、「バス」15.9%となっている。

問5-1 問5で、2～8 を選択した方にお聞きします。通勤・通学の交通手段は何ですか。
(〇はいくつでも) n=972



参考データ

図 39 通勤・通学の手段（平成 23 年度都筑区 区民意識調査）（n=1,029）



■地区別に見る特徴

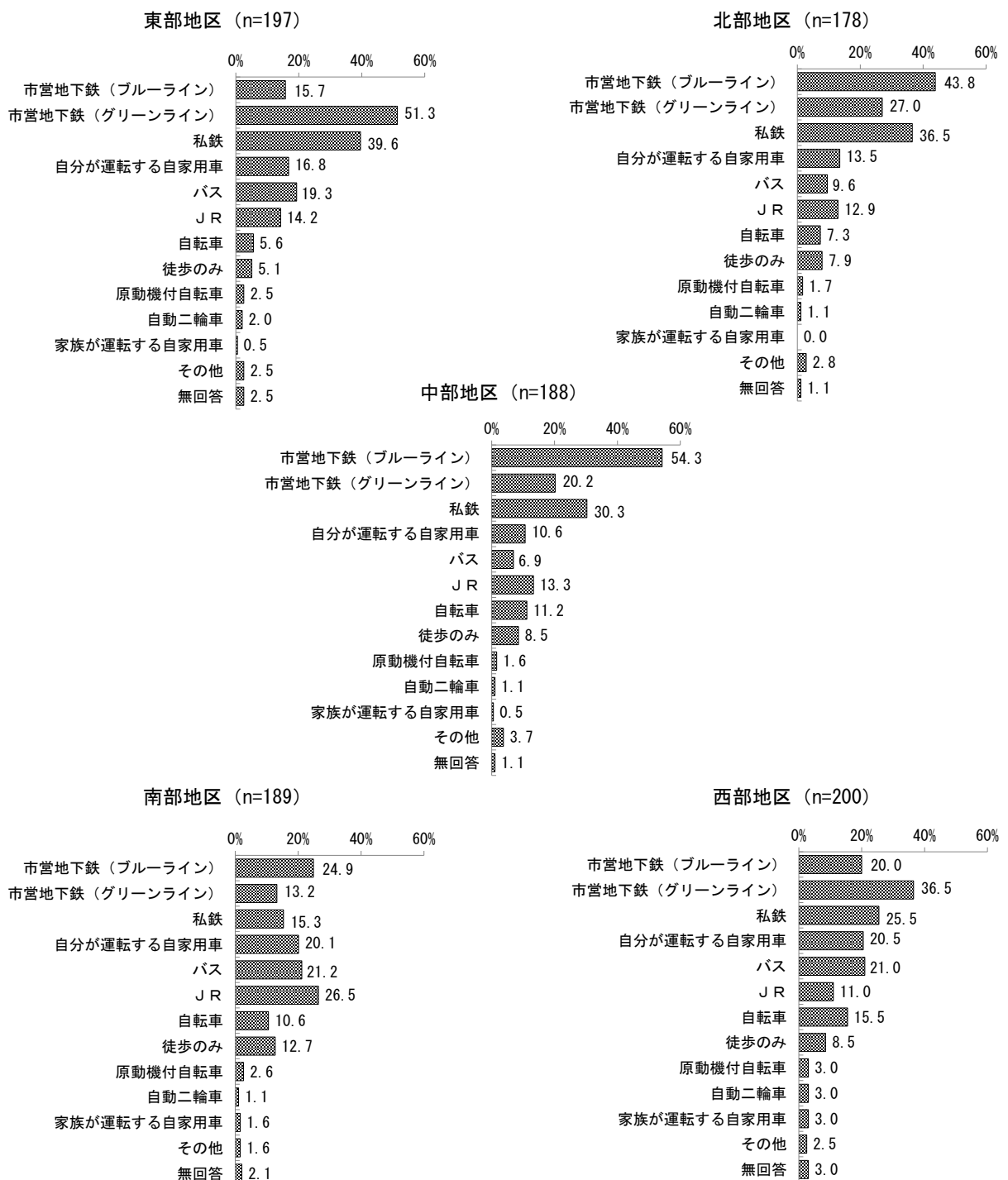
最もよく使われる交通手段を地区別でみると、「東部地区」では「市営地下鉄（グリーンライン）」、「北部地区」では「市営地下鉄（ブルーライン）」、「中部地区」では「市営地下鉄（ブルーライン）」、「南部地区」では「JR」、「西部地区」では「市営地下鉄（グリーンライン）」が最も高くなっている。

いずれの地区でも「私鉄」は高い順位だが、区内には私鉄が通っていないことから、市営地下鉄やバス等を利用し、東急田園都市線や東急東横線等の私鉄に乗り継いで通勤・通学をしていると考えられる。

また、「南部地区」と「西部地区」ではそれぞれ2割超で「バス」、「自分で運転する自家用車」を利用している。

図 40 通勤・通学の手段（地区別）

※丸数字は全体集計での順位（割合の高い順）を示している。



(3) 通勤・通学にかかる時間

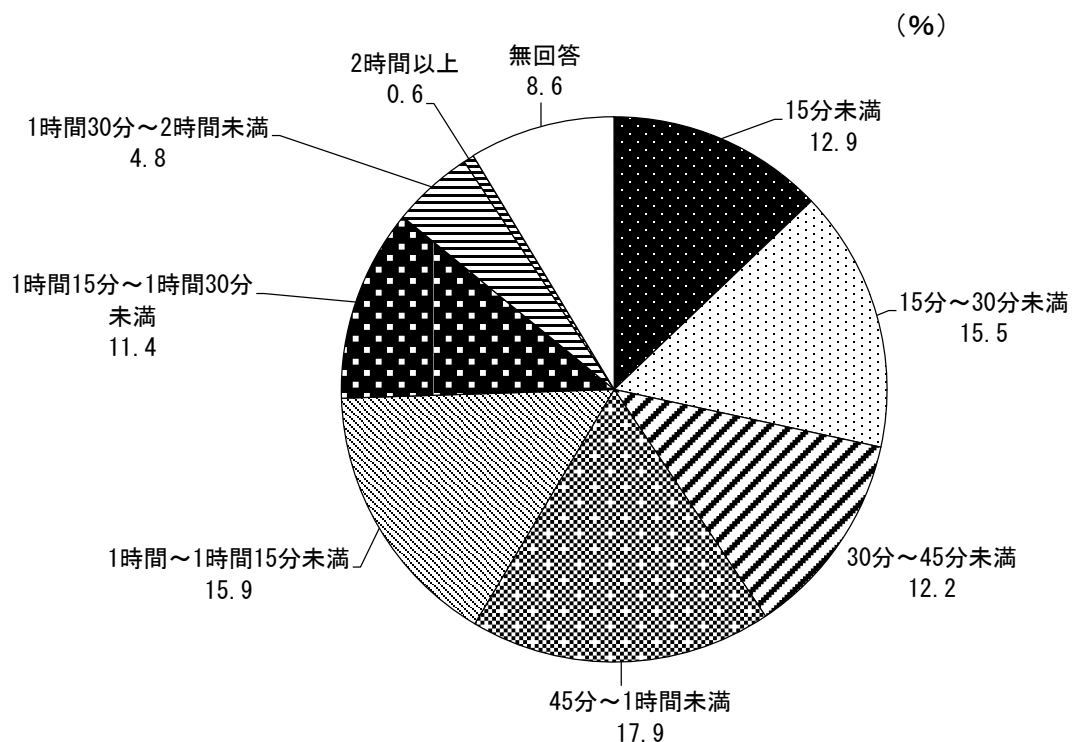
通勤・通学に1時間以上かかる人の割合は3割超
20歳代の4割超は1時間以上

■全体の傾向

通勤・通学にかかる時間は「45分～1時間未満」が17.9%と最も高く、次いで「1時間～1時間15分未満」15.9%、「15分～30分未満」15.5%となっている。

問5-2 問5で、2～8を選択した方にお聞きします。家を出てから職場または学校までの通勤・通学にかかる時間はどのくらいですか。(〇はひとつ) n=972

図41 通勤・通学にかかる時間

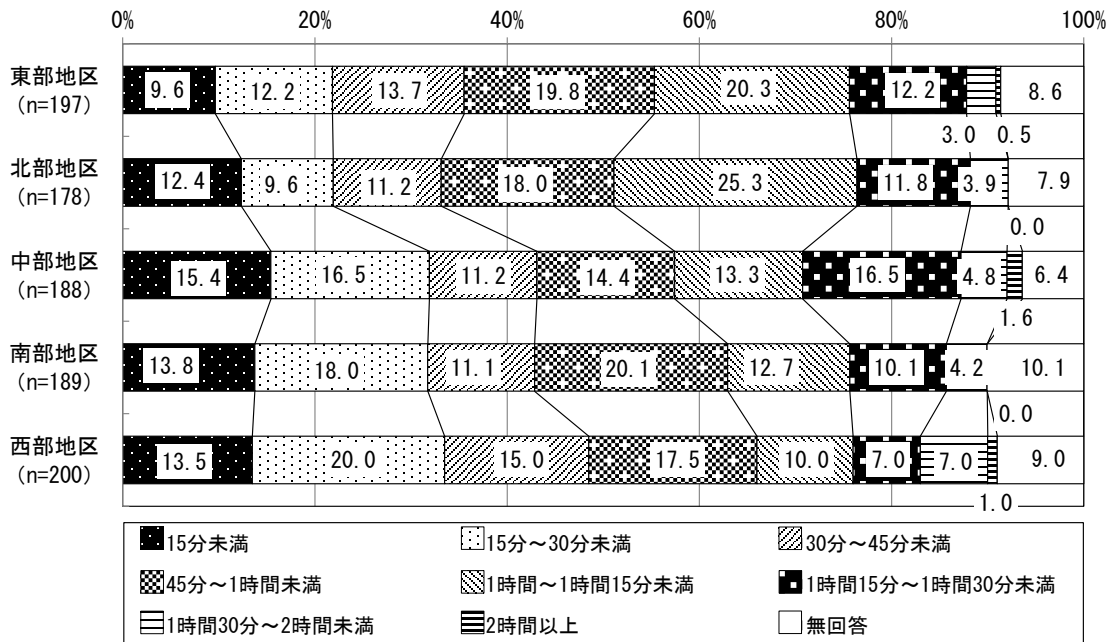


■地区別に見る特徴

通勤・通学に1時間以上かかる回答が最も多いのは「北部地区」で41.0%、次いで「中部地区」36.2%、「東部地区」36.0%となっている。

反対に通勤・通学が30分未満の回答が最も多いのは「西部地区」で33.5%、次いで「中部地区」31.9%、「南部地区」31.8%となっている。

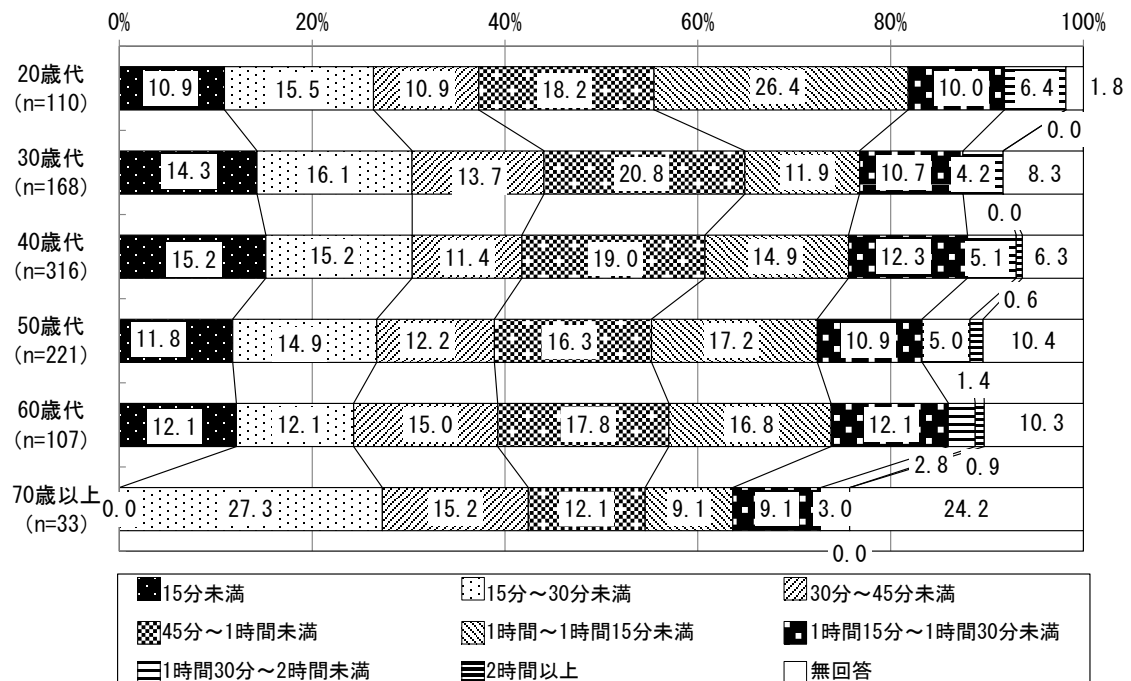
図 42 通勤・通学にかかる時間（地区別）



■回答者属性別に見る特徴

年代別にみると、通勤・通学に1時間以上かかると回答している人の割合が最も高いのが「20歳代」で42.8%、次いで「50歳代」34.5%、「40歳代」32.9%、「60歳代」32.6%となっている。

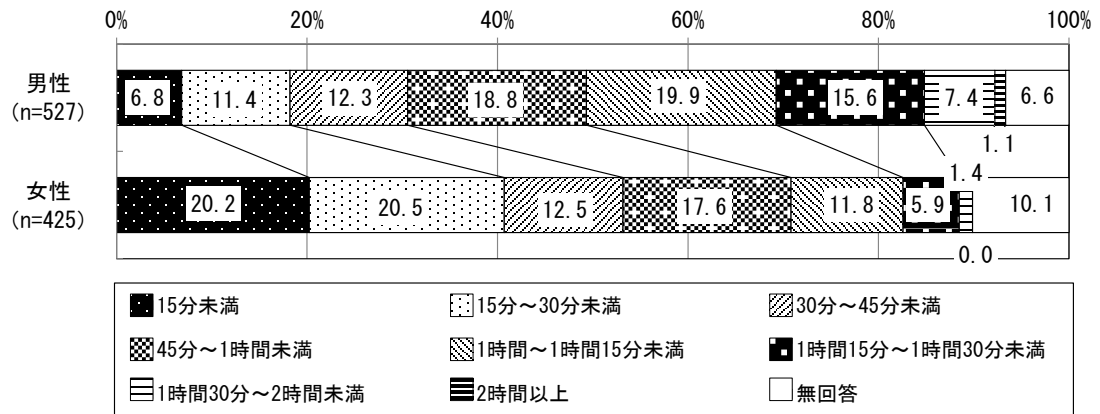
図 43 通勤・通学にかかる時間（年代別）



性別でみると、1 時間以上かかると回答している人が、「男性」では 44.0%、「女性」では 19.1%である。

「30 分未満」と回答している人は、「男性」18.2%、「女性」40.7%となっており、性別による差がある。

図 44 通勤・通学にかかる時間（性別）



4. 「普段の買い物」や「たまにする買い物」など

(1) 買い物先

普段の買い物の買い物先は「スーパーマーケット」、たまにする買い物の買い物先は「百貨店・大型ショッピングセンター」がそれぞれ6割超

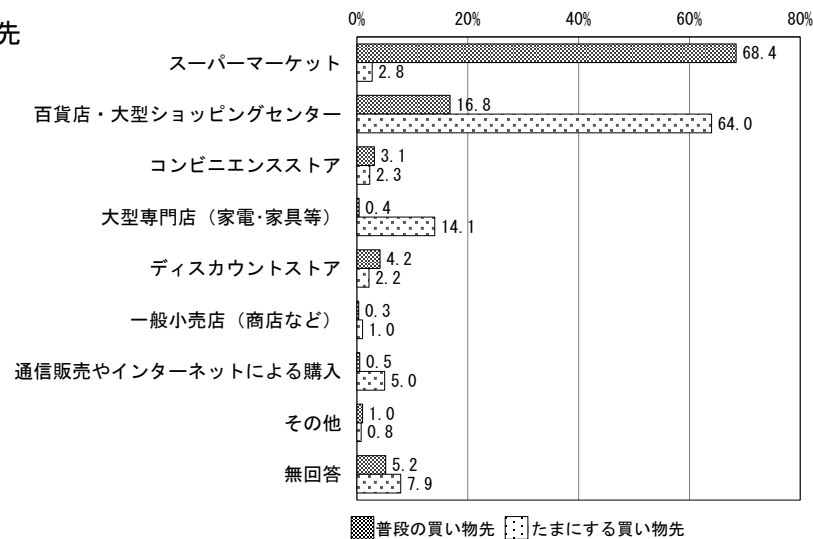
■全体の傾向

「普段の買い物」の買い物先は「スーパーマーケット」が 68.4%と最も高く、次いで「百貨店・大型ショッピングセンター」16.8%、「ディスカウントストア」4.2%となっている。

「たまにする買い物」の買い物先は「百貨店・大型ショッピングセンター」が 64.0%と最も高く、次いで「大型専門店（家電・家具等）」14.1%、「通信販売やインターネットによる購入」5.0%となっている。

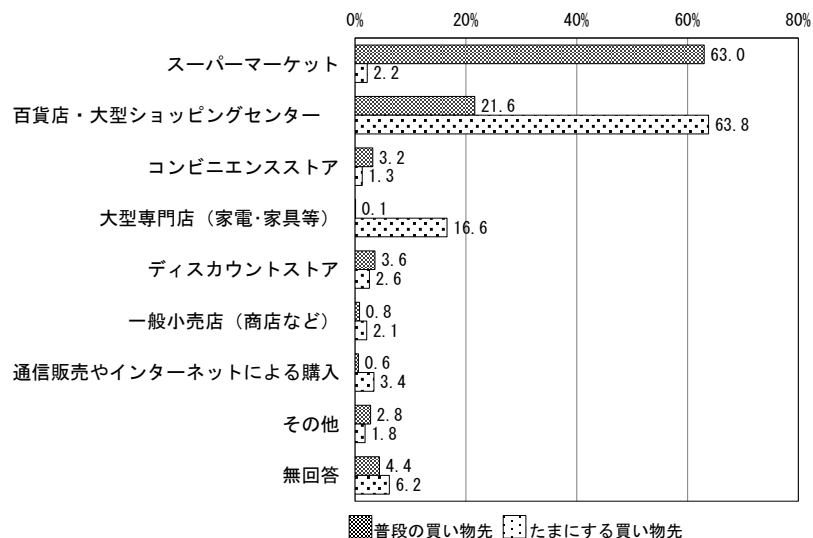
問6 あなたが「普段の買い物」や「たまにする買い物」の買い物先はどこですか。
(最もよく利用するものをひとつだけ記入) n=1,558

図 45 買い物先



参考データ

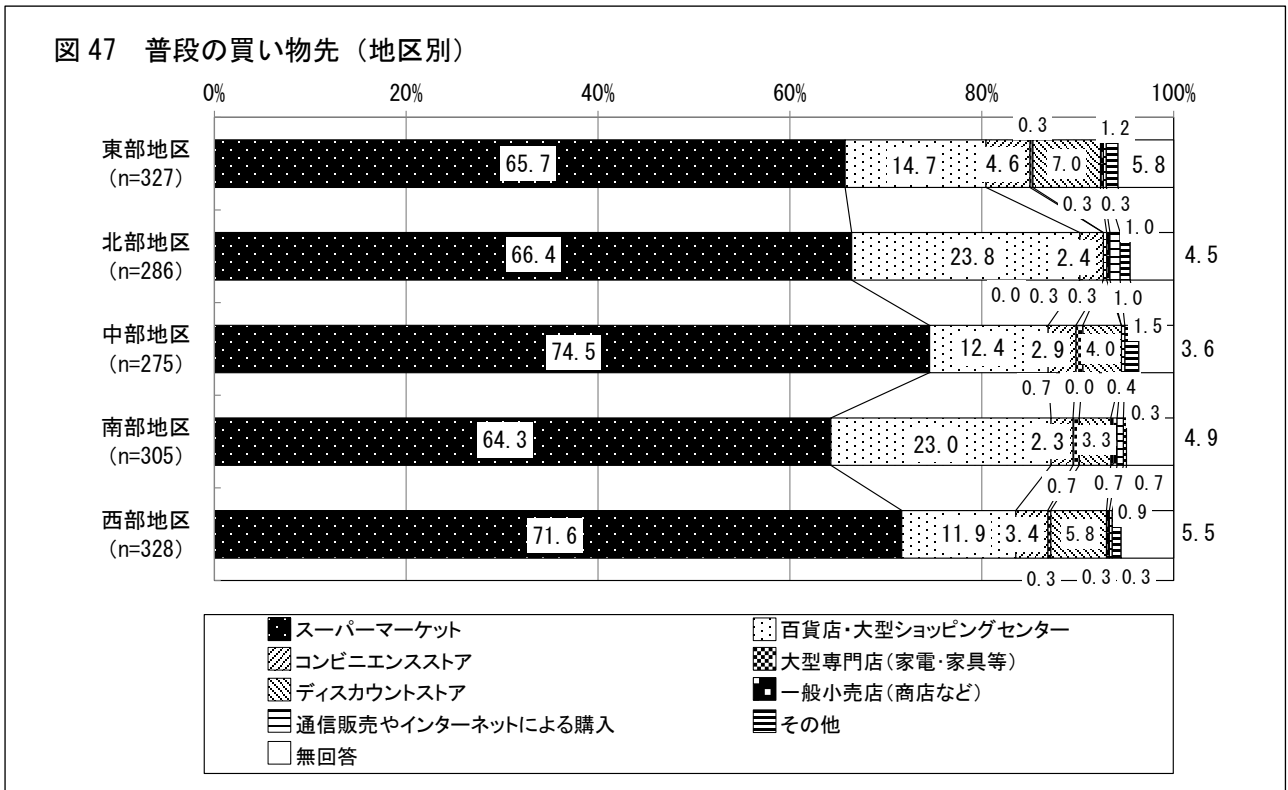
図 46 買い物先（平成 23 年度都筑区 区民意識調査）(n=1,650)



■地区別に見る特徴

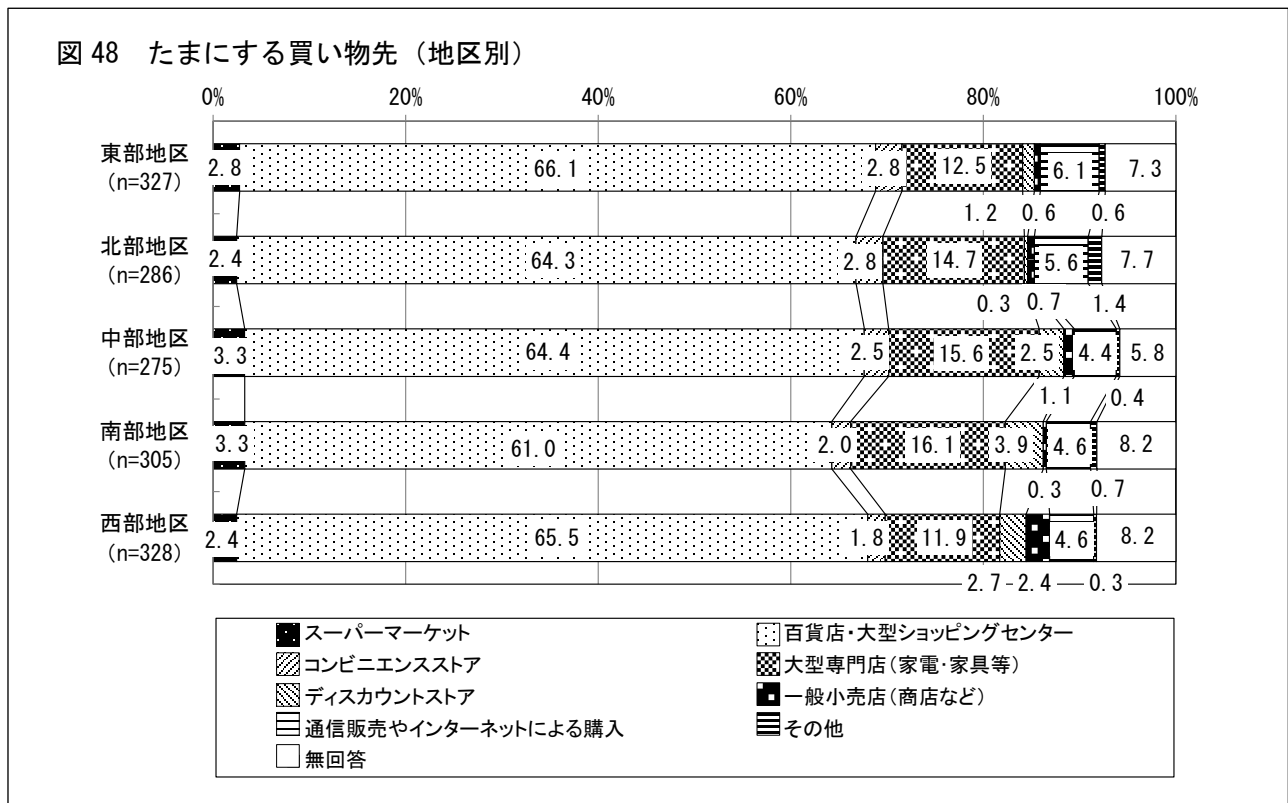
「普段の買い物」の買い物先は「スーパーマーケット」がすべての地区で7割前後で最も高くなっている。「北部地区」及び「南部地区」は他の地区より「百貨店・大型ショッピングセンター」が高くなっている。

図 47 普段の買い物先（地区別）



「たまにする買い物」の買い物先は「百貨店・大型ショッピングセンター」がすべての地区で6割を超えて最も高く、次いで「大型専門店（家電・家具等）」となっている。

図 48 たまにする買い物先（地区別）



(2) 買い物をする場所

「普段の買い物」は9割弱、「たまにする買い物」は6割弱が、「区内で買う」

■全体の傾向

買い物をする場所は「普段の買い物」では「センター南駅周辺」が 22.2%と最も高く、次いで「その他都筑区内の駅周辺」21.9%、「その他の自宅周辺」21.5%となっている。

「たまにする買い物」では「センター北駅周辺」が 27.2%と最も高く、次いで「センター南駅周辺」15.6%、「横浜駅周辺」12.0%となっている。

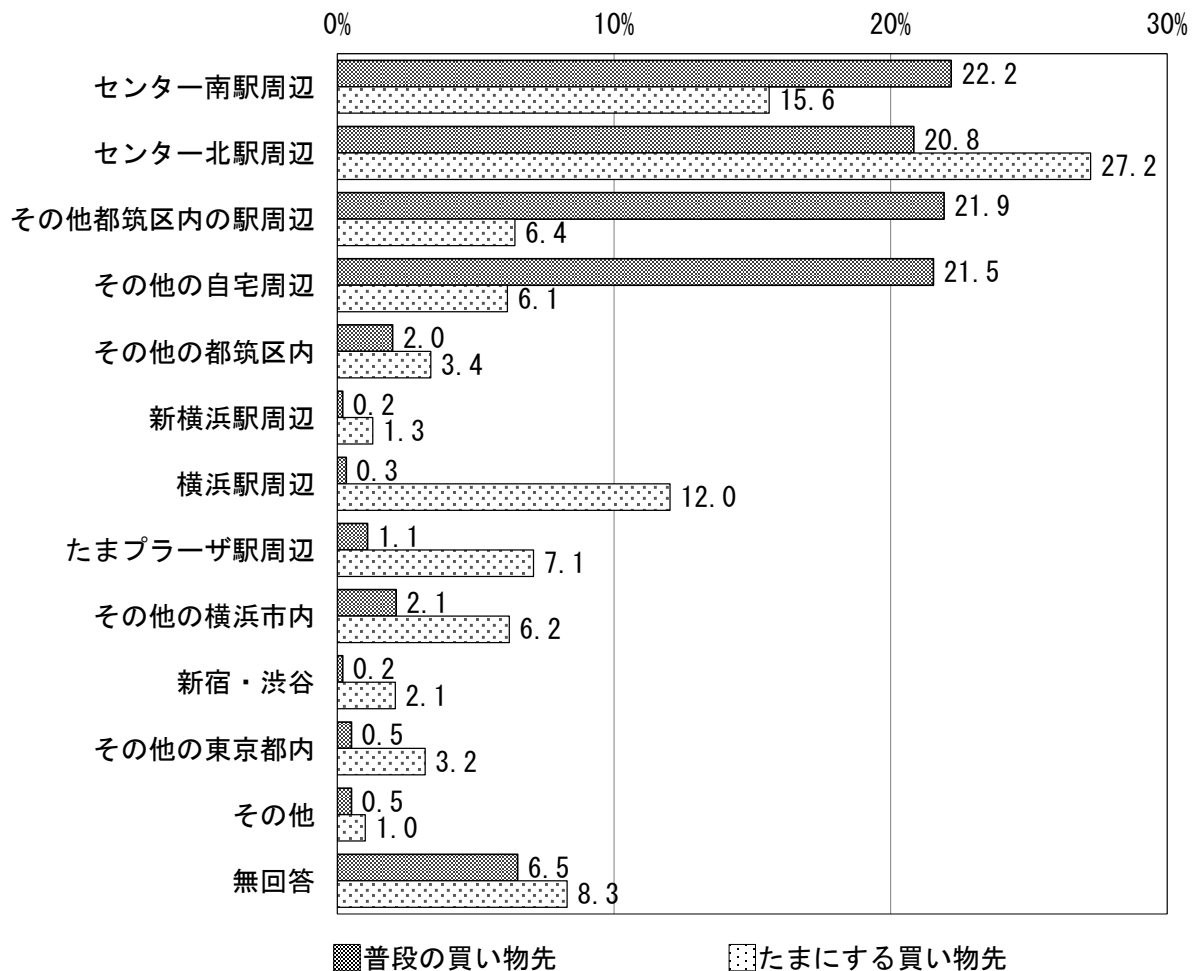
問6 あなたが「普段の買い物」や「たまにする買い物」の買い物をする場所はどこですか。

(最もよく利用するものをひとつだけ記入)

普段の買い物 n=1,550

たまにする買い物 n=1,480

図 49 買い物をする場所



(3) 買い物ができたら便利な場所

「普段の買い物」、「たまにする買い物」とも「その他の自宅周辺」が最も高い

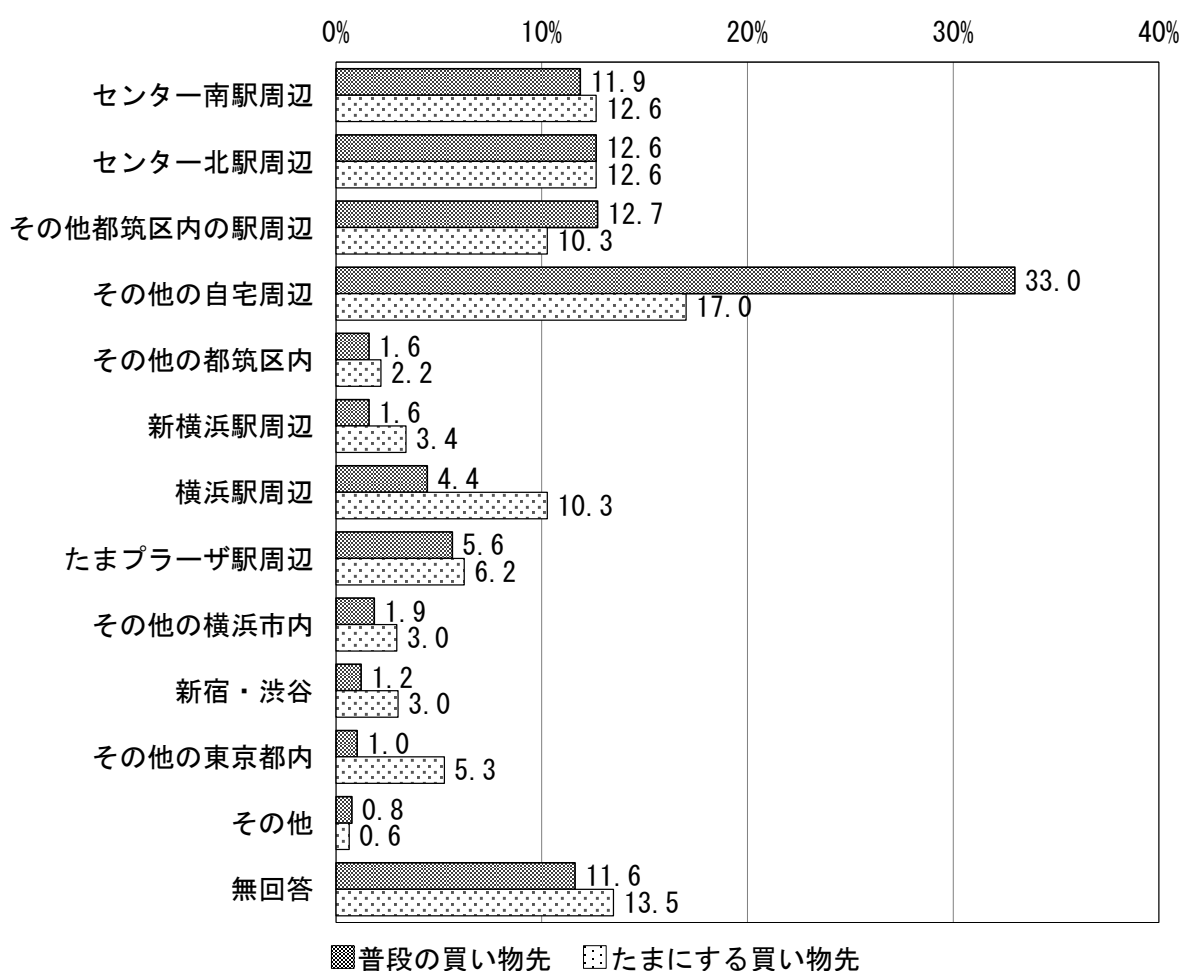
■全体の傾向

買い物ができたら便利な場所は、「普段の買い物」では「その他の自宅周辺」が 33.0%と最も高く、次いで「その他都筑区内の駅周辺」12.7%、「センター北駅周辺」12.6%となっている。
「たまにする買い物」では「その他の自宅周辺」が 17.0%と最も高く、次いで「センター南駅周辺」、「センター北駅周辺」がそれぞれ 12.6%となっている。

問6 あなたが「普段の買い物」や「たまにする買い物」の買い物ができたら便利だと思う場所はどこですか。

(最もよく利用するものをひとつだけ記入) n=1,558

図 50 買い物ができたら便利な場所



(4) 買い物に行くときの交通手段

「普段の買い物」、「たまにする買い物」とも「自家用車」が最も高い

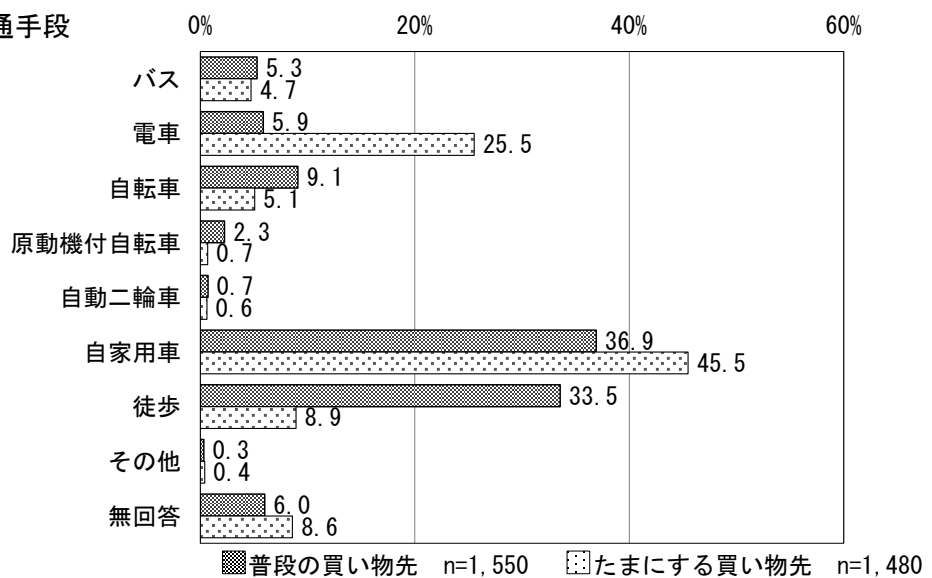
■全体の傾向

「普段の買い物」に行くときの交通手段では「自家用車」が 36.9%と最も高く、次いで「徒歩」33.5%、「自転車」9.1%となっている。
 「たまにする買い物」に行くときの交通手段では「自家用車」が 45.5%と最も高く、次いで「電車」25.5%、「徒歩」8.9%となっている。

問6 あなたが「普段の買い物」や「たまにする買い物」の買い物で利用する交通手段は何ですか。(最もよく利用するものをひとつだけ記入)

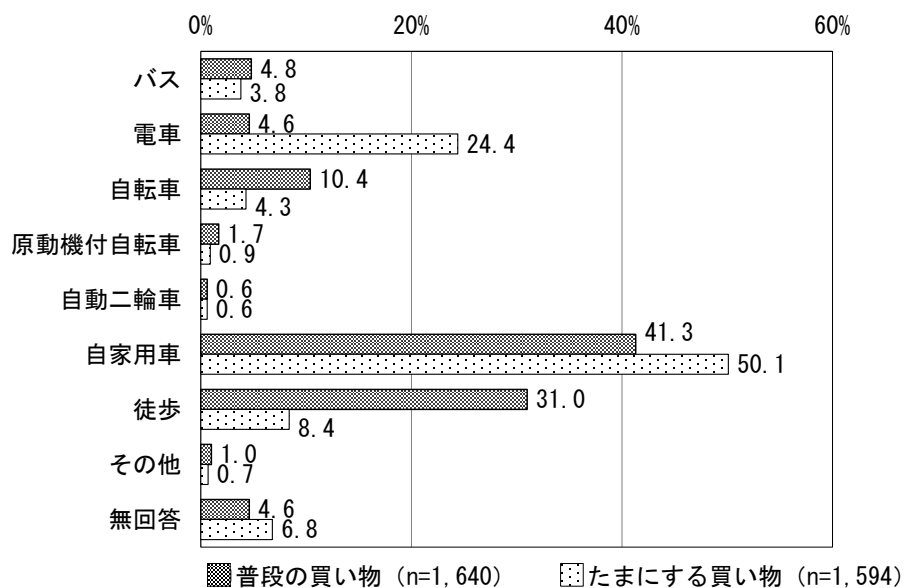
普段の買い物 n=1,550 / たまにする買い物 n=1,480

図 51 利用する交通手段



参考データ

図 52 利用する交通手段 (平成 23 年度都筑区 区民意識調査)



(5) 商店街や身近な商業施設に期待すること

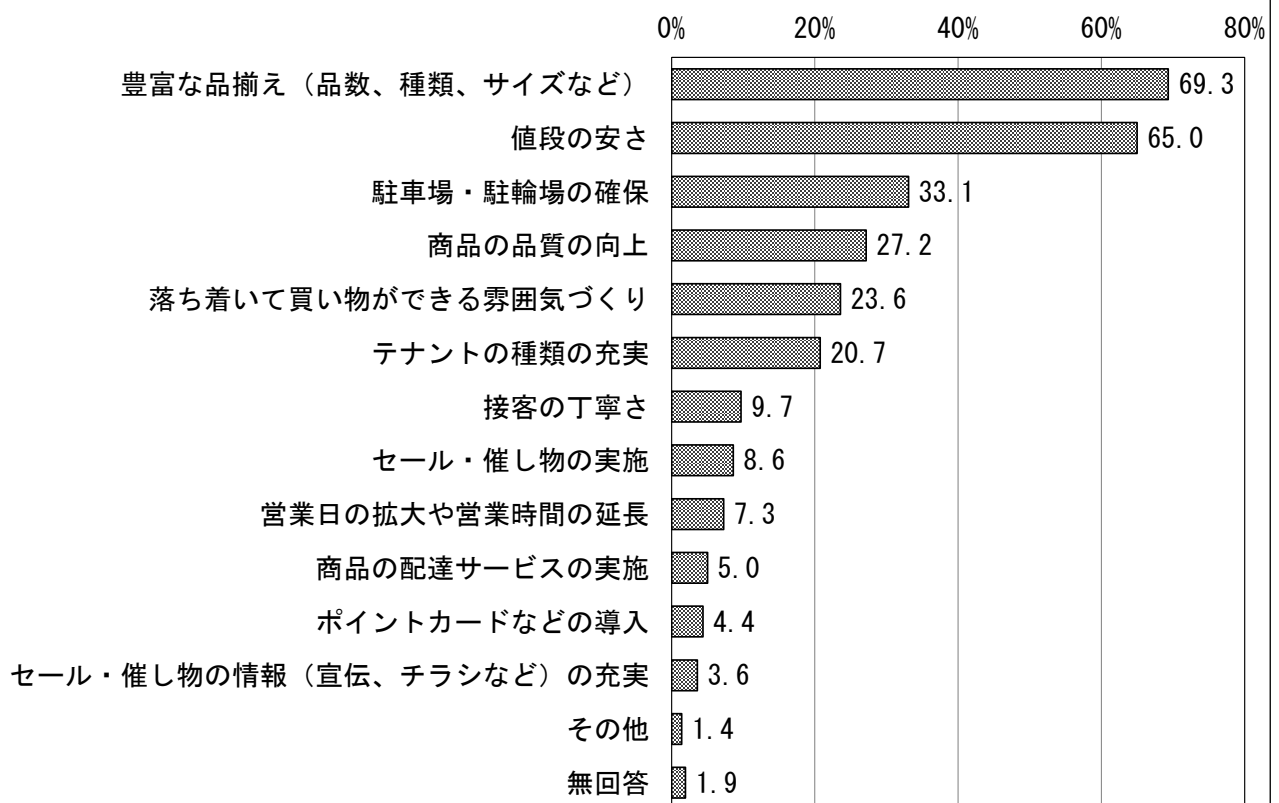
「豊富な品揃え（品数、種類、サイズなど）」と「値段の安さ」が6割超

■全体の傾向

商店街や身近な商業施設に期待することは、「豊富な品揃え（品数、種類、サイズなど）」が69.3%と最も高く、次いで「値段の安さ」65.0%、「駐車場・駐輪場の確保」33.1%となっている。

問7 あなたが商店街や身近な商業施設に期待することはどのようなことですか。
(○は3つまで) n=1,558

図 53 商店街や身近な商業施設に期待すること



(6) 都筑区内で生産された野菜（都筑野菜）について

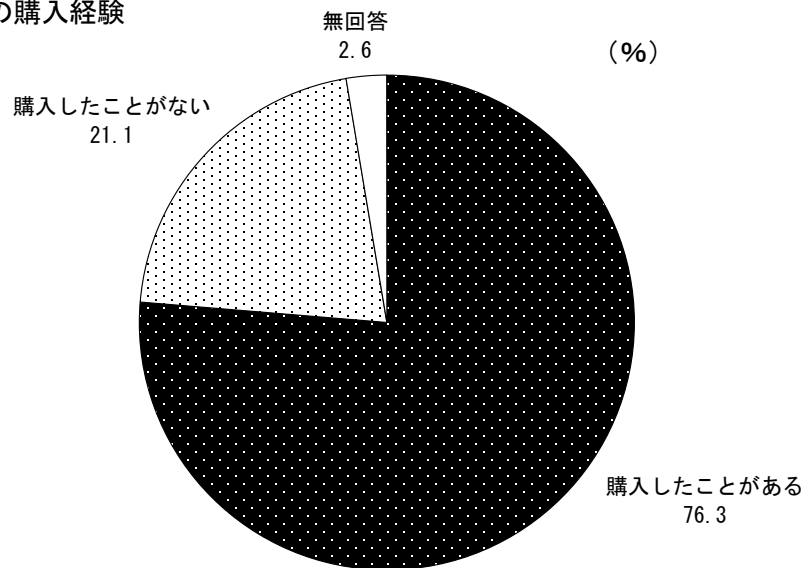
「購入したことがある」、「新鮮でおいしければ購入したい」が、7割超

■全体の傾向

都筑区内で生産された野菜（都筑野菜）の購入経験については、「購入したことがある」が76.3%となっており、購入したい場合として、「新鮮でおいしければ」75.5%、「身近に購入しやすい場所があれば」69.3%となっている。

問8 あなたは、都筑区内で生産された野菜（都筑野菜）を購入したことがありますか。
 (○はひとつ) n=1,558

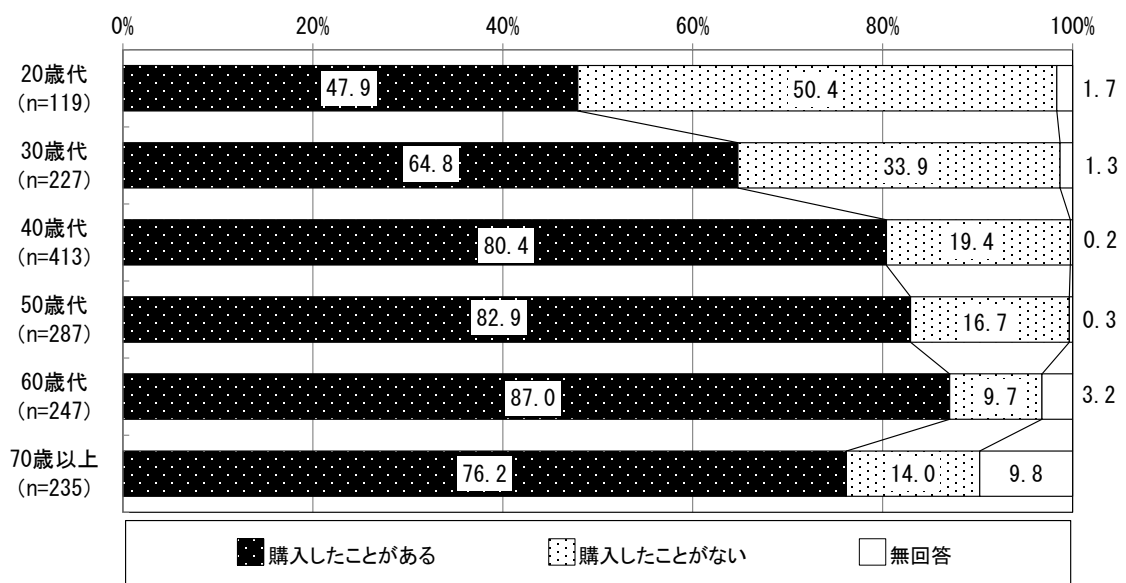
図 54 都筑野菜の購入経験



■回答者属性別に見る特徴

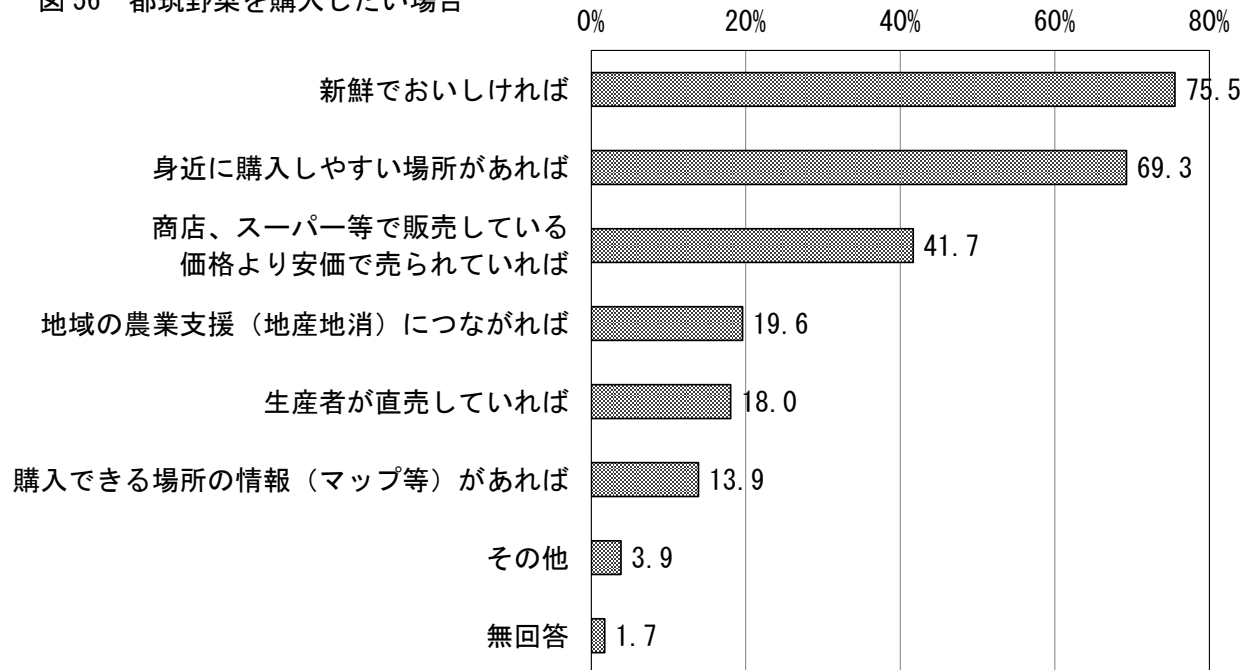
年代別で見ると、「40歳代」「50歳代」「60歳代」では8割以上が購入したことがあり、「70歳以上」でも7割以上が購入したことがある。

図 55 都筑野菜の購入経験（年代別）



問 9 あなたは、どのような場合であれば、都筑区内で生産された野菜（都筑野菜）を購入したい
 と思いますか。（〇はいくつでも） n=1,558

図 56 都筑野菜を購入したい場合



5. 震災対策について

(1) 震災対策について

「以前から備えていた対策」と「震災後に始めたり強化した対策」は共に「携帯ラジオ、懐中電灯などの準備」が第1位、「今後予定する対策」は「現金など貴重品の持ち出し」が第1位

■全体の傾向

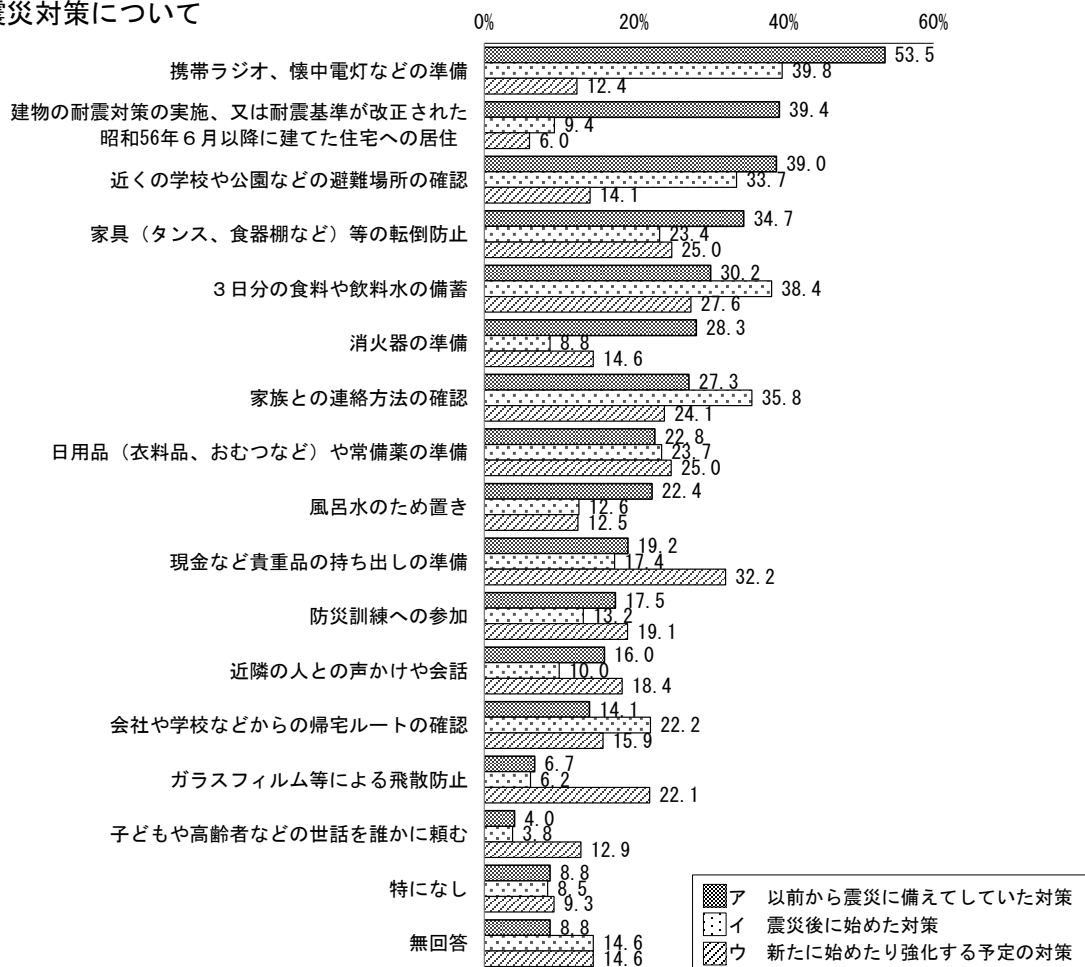
以前から震災に備えていた対策については「携帯ラジオ、懐中電灯などの準備」が 53.5%と最も高く、次いで「建物の耐震対策の実施、又は耐震基準が改正された昭和 56 年 6 月以降に建てた住宅への居住」39.4%となっている。

震災後に始めたり強化した対策は「携帯ラジオ、懐中電灯などの準備」が 39.8%と最も高く、次いで「3日分の食料や飲料水の備蓄」38.4%となっている。

今後予定する対策は「現金など貴重品の持ち出しの準備」が 32.2%と最も高く、次いで「3日分の食料や飲料水の備蓄」27.6%となっている。

- 問 10 (ア) あなたやあなたの家族は、東日本大震災（平成 23 年 3 月 11 日）以前から震災があった場合に備えて、どのような対策をしていましたか。（〇はいくつでも）
 (イ) 東日本大震災後に、新たに始めたり強化した対策はありますか。（〇はいくつでも）
 (ウ) 今後、対策を新たに始めたり強化する予定はありますか。（〇はいくつでも）
 n=1,558

図 57 震災対策について



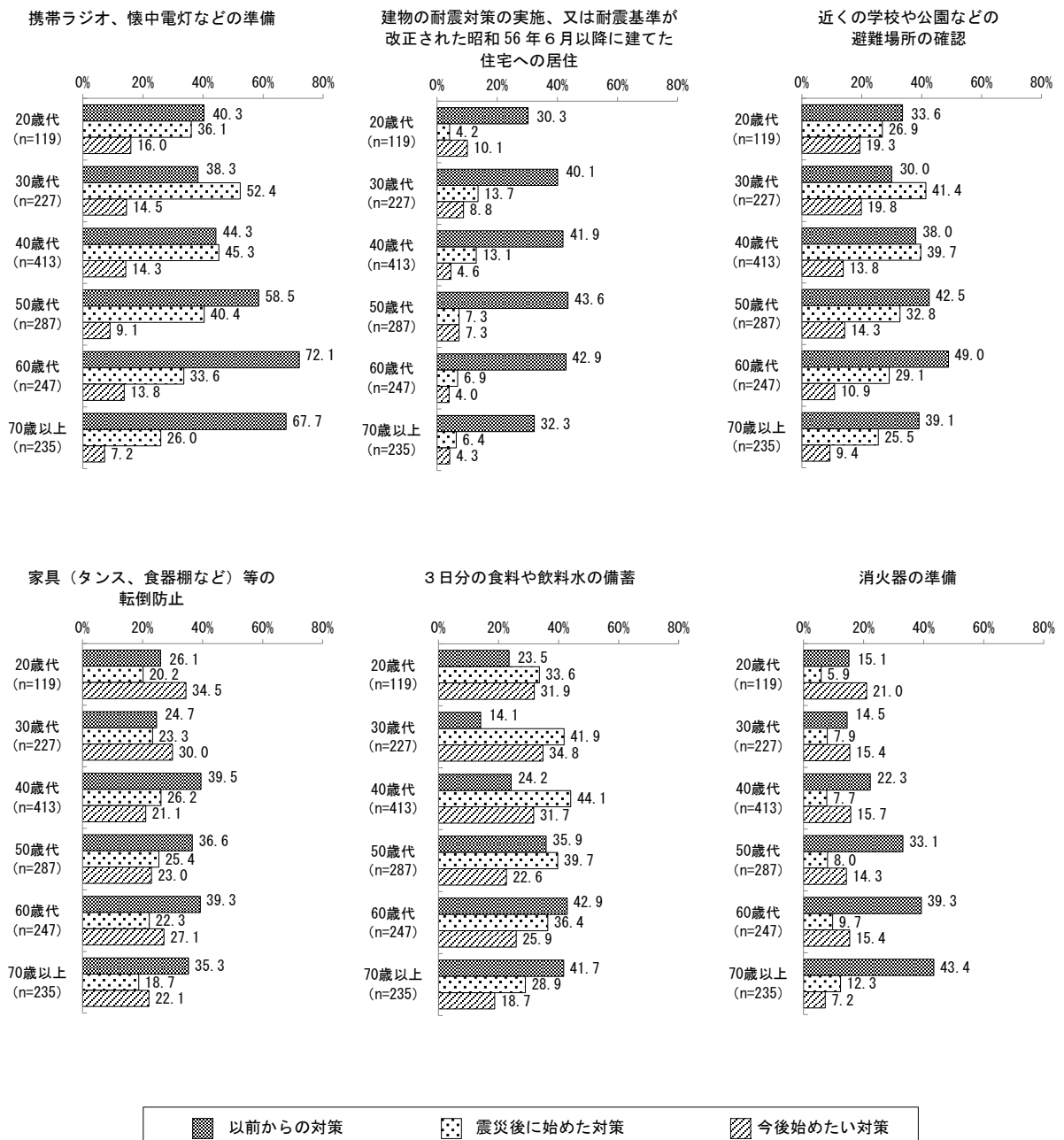
■回答者属性別に見る特徴

年代別にみると、以前から震災に備えていた対策については、「携帯ラジオ、懐中電灯などの準備」は、おおむね年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向となっている。

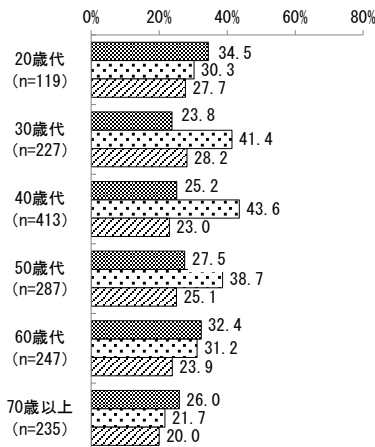
震災後に始めた対策について、「会社や学校などからの帰宅ルートの確認」では、「20 歳代」が最も高く、年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向となっている。

新たに始めたり強化する予定の対策については、「現金など貴重品の持ち出しの準備」は、「20 歳代」が最も高く、年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向となっている。

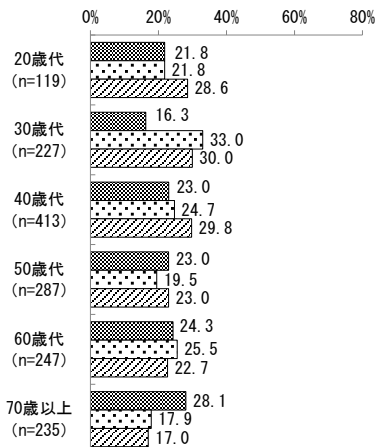
図 58 震災対策について（年代別）



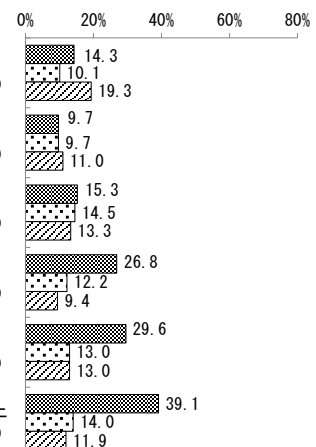
家族との連絡方法の確認



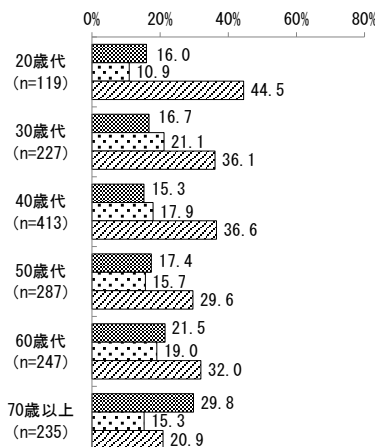
日用品（衣料品、おむつなど）や常備薬の準備



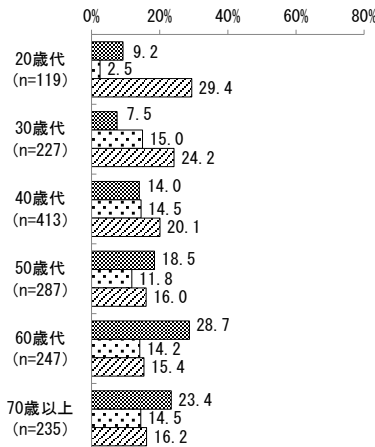
風呂水のため置き



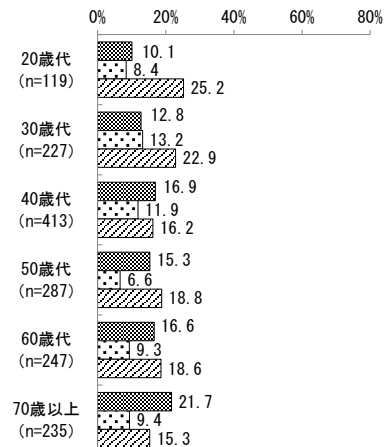
現金など貴重品の持ち出しの準備



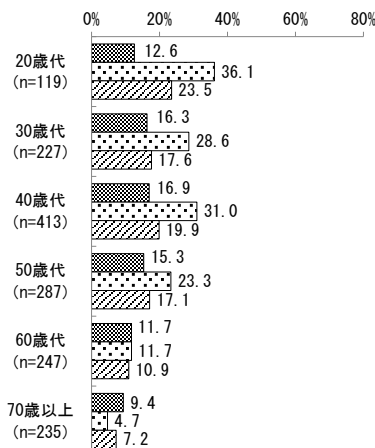
防災訓練への参加



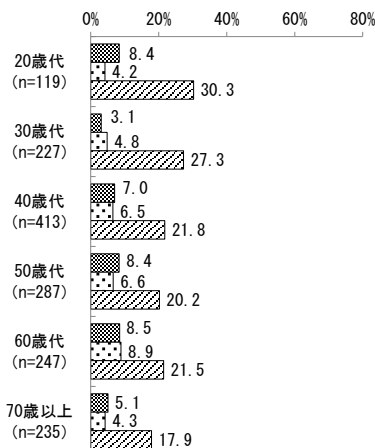
近隣の人との声かけや会話



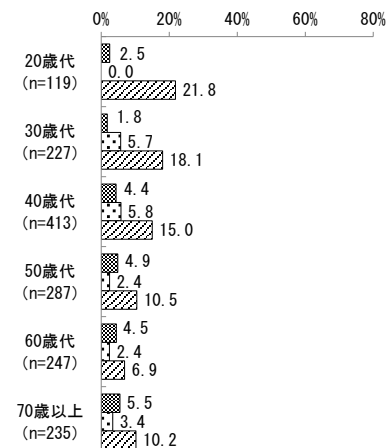
会社や学校などからの帰宅ルートの確認



ガラスフィルム等による飛散防止



子どもや高齢者などの世話を誰かに頼む



■ 以前からの対策 □ 震災後に始めた対策 ▨ 今後始めたい対策

(2) 避難先の認知度

地域防災拠点の認知度は「知っているし、場所もわかる」が6割超

■全体の傾向

「地域防災拠点」の認知度は「知っているし、場所もわかる」が 63.2%、「知らない」が 24.3%となっている。

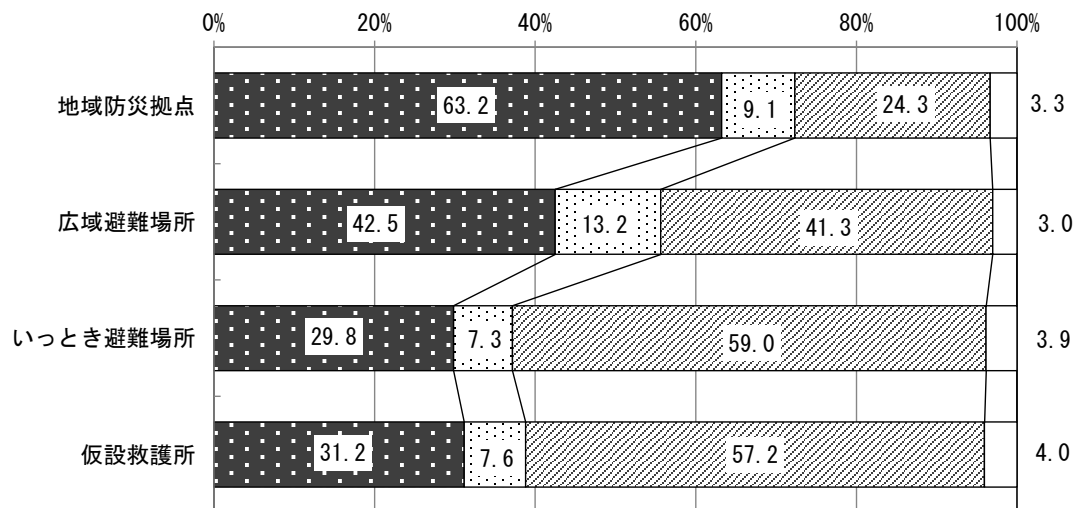
「広域避難場所」は「知っているし、場所もわかる」が 42.5%、「知らない」が 41.3%となっている。

「いっとき避難場所」は「知っているし、場所もわかる」が 29.8%、「知らない」が 59.0%となっている。

「仮設救護所」は「知っているし、場所もわかる」が 31.2%、「知らない」が 57.2%となっている。

問 11 あなたは、次の場所について知っていますか。(○はそれぞれひとつ) n=1,558

図 59 避難先の認知度



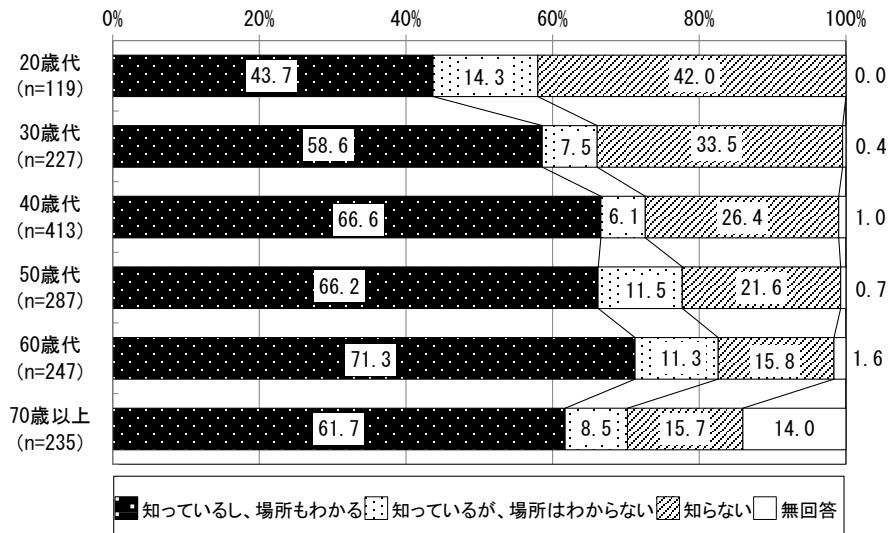
- 知っているし、場所もわかる
- ▨ 知っているが、場所はわからない
- ▩ 知らない
- 無回答

- 1) 地域防災拠点：震災時に家屋の倒壊などにより自宅で生活できない方が一定期間避難生活を送る場所です。区内の市立小・中学校 27 か所が指定されています。
- 2) 広域避難場所：地震により火災が多数発生した場合に、その熱や煙から一時的に避難するための場所です。区内で 7 か所が指定されています。
- 3) いっとき避難場所：広域避難場所や地域防災拠点に避難する前の中継点で、一時的に避難して様子を見るとともに、隣近所の安否確認をする場所です。自治会・町内会などが選定しています。
- 4) 仮設救護所：震災時に負傷者の応急医療活動を行う場所です。区役所（センター南）及び休日急患診療所（センター北）の 2 か所で開設します。

■回答者属性別に見る特徴

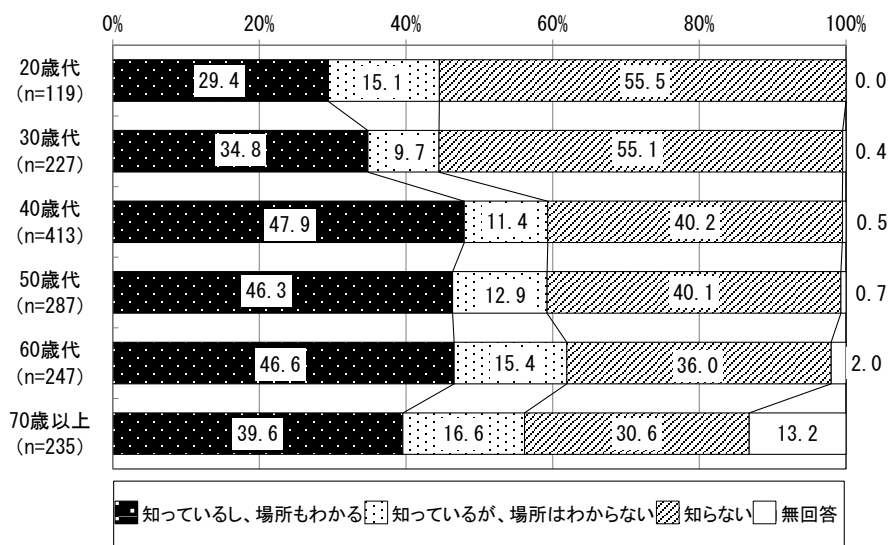
年代別にみると、「地域防災拠点」については、「知っているし、場所もわかる」は「60 歳代」が 71.3%で最も高い。「20 歳代」が最も低く 43.7%だが、他の年代では半数以上が認知している。

図 60 避難先の認知度 < 1) 地域防災拠点 > (年代別)



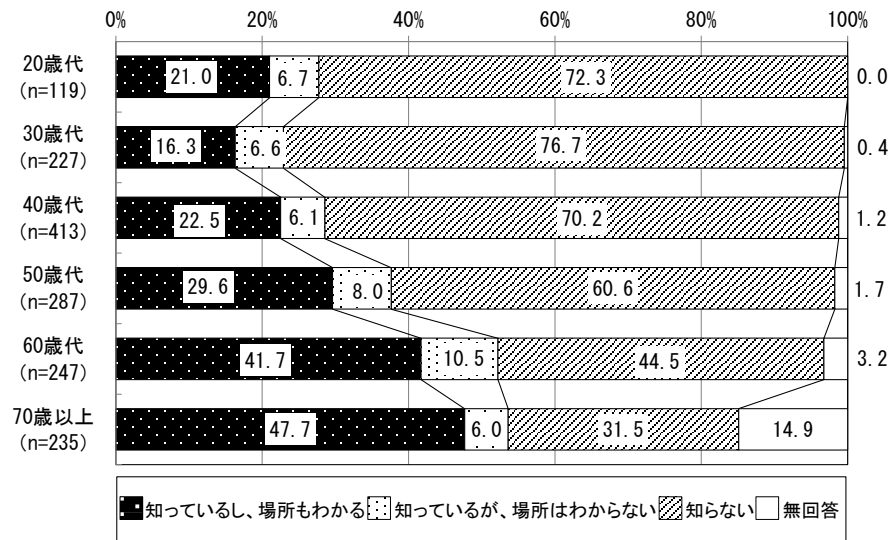
「広域避難場所」については「知っているし、場所もわかる」は「40 歳代」が 47.9%で最も高く、「50 歳代」、「60 歳代」もほぼ同比率であるが、「20 歳代」が 29.4%で最も低くなっている。

図 61 避難先の認知度 < 2) 広域避難場所 > (年代別)



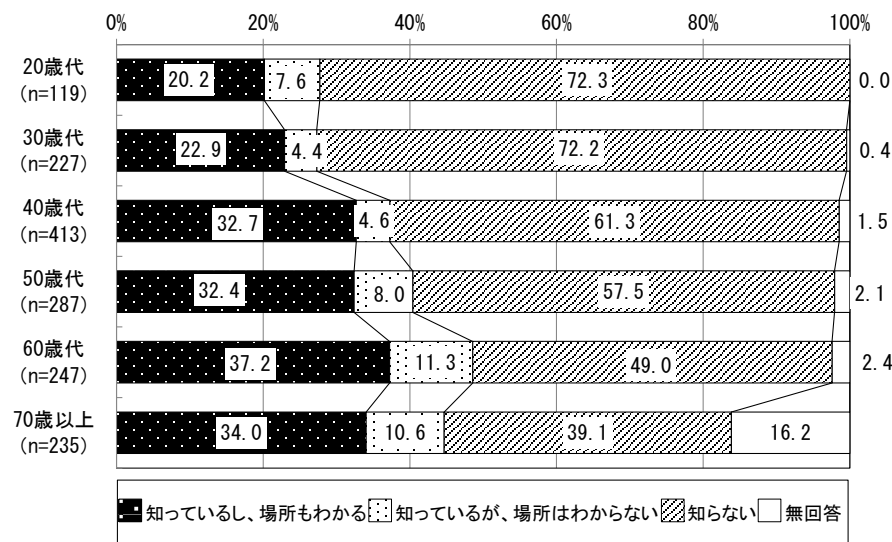
「いっとき避難場所」については「知っているし、場所もわかる」は「70歳以上」が47.7%で最も高く、年代が若くなるに従って、比率が下がる傾向にある。

図 62 避難先の認知度 <3> いっとき避難場所> (年代別)



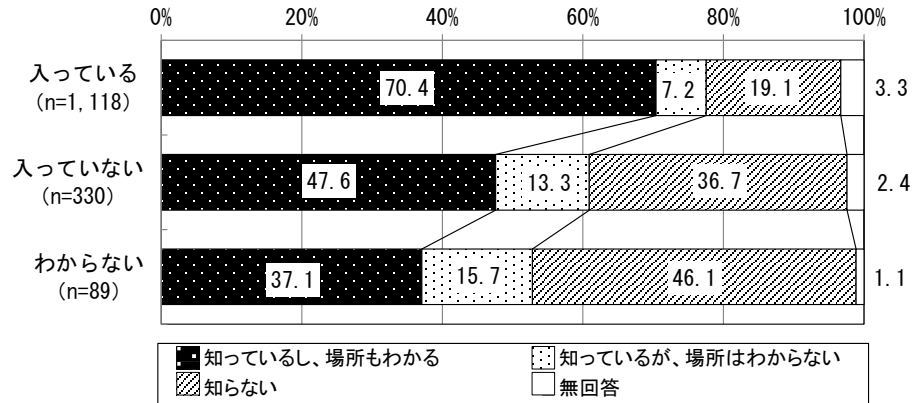
「仮設救護所」については「知っているし、場所もわかる」は「60歳代」が37.2%で最も高い。「20歳代」が20.2%で最も低くなっている。

図 63 避難先の認知度 <4> 仮設救護所> (年代別)



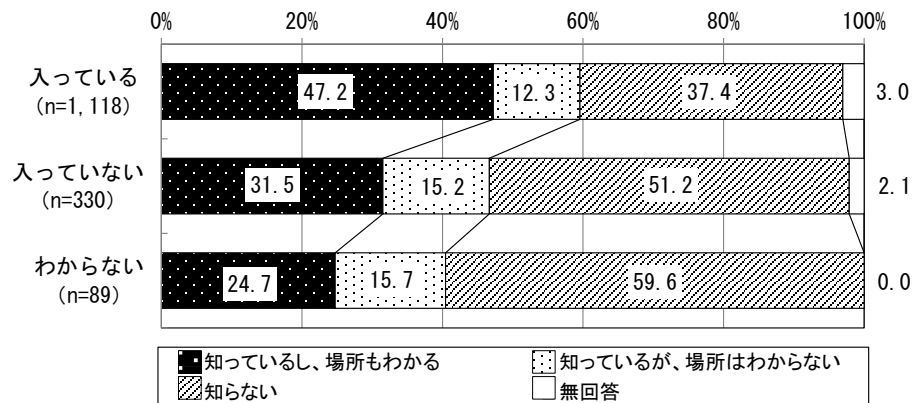
自治会・町内会加入の有無別にみると、「地域防災拠点」については、「知っているし、場所もわかる」は加入者で70.4%、未加入者で47.6%、加入有無不明者で37.1%となっている。

図 64 避難先の認知度 < 1) 地域防災拠点 > (自治会・町内会加入有無別)



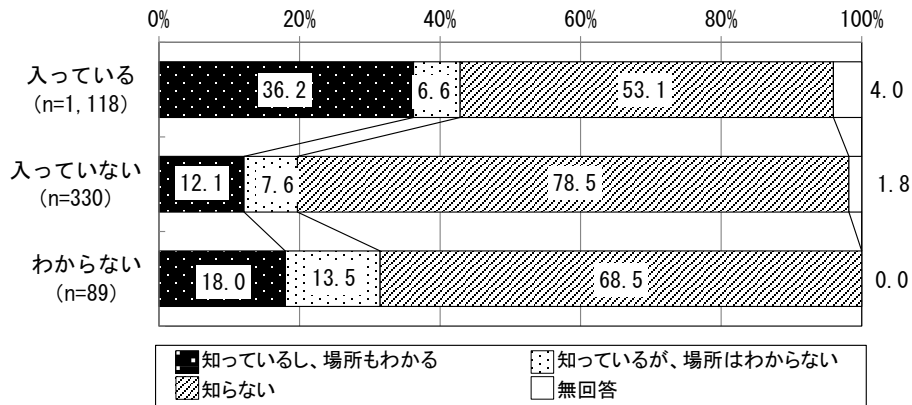
「広域避難場所」については「知っているし、場所もわかる」は加入者で47.2%、未加入者で31.5%、加入有無不明者で24.7%となっている。未加入者と加入有無不明者では「知らない」方の割合が高くなっている。

図 65 避難先の認知度 < 2) 広域避難場所 > (自治会・町内会加入有無別)



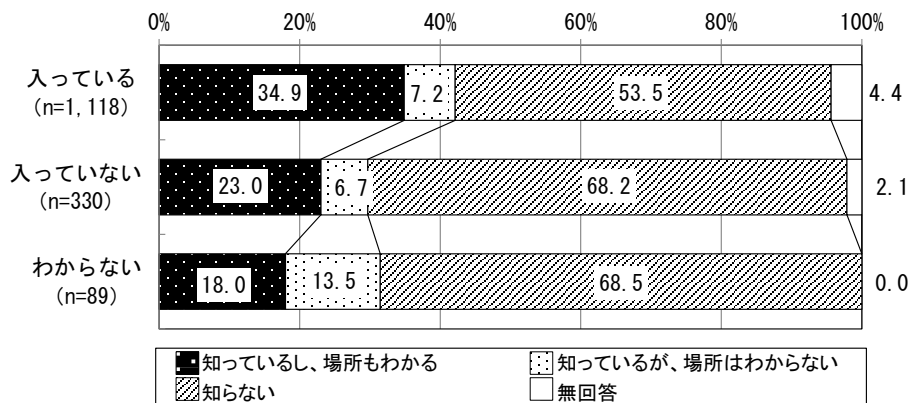
「いっとき避難場所」については「知っているし、場所もわかる」は加入者で 36.2%、未加入者で 12.1%、加入有無不明者で 18.0%となっている。いずれも「知らない」方の割合が高くなっている。

図 66 避難先の認知度 <3> いっとき避難場所> (自治会・町内会加入有無別)



「仮設救護所」については「知っているし、場所もわかる」は加入者で 34.9%、未加入者で 23.0%、加入有無不明者で 18.0%となっている。いずれも「知らない」方の割合が高くなっている。

図 67 避難先の認知度 <4> 仮設救護所> (自治会・町内会加入有無別)



(3) 「横浜市防災情報 E メール」について

「知らない」は全体の7割超、登録していない理由は「登録方法がわからないから」が4割

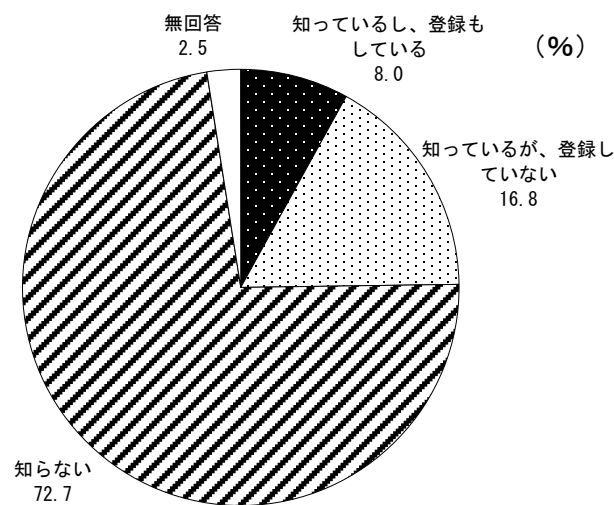
■全体の傾向

「横浜市防災情報 E メール」については、「知らない」が72.7%となっている。

「知っているが、登録していない」16.8%の回答者で、その理由として「登録方法がわからないから」39.5%、「テレビ・インターネット等で情報収集するから」29.9%となっている。

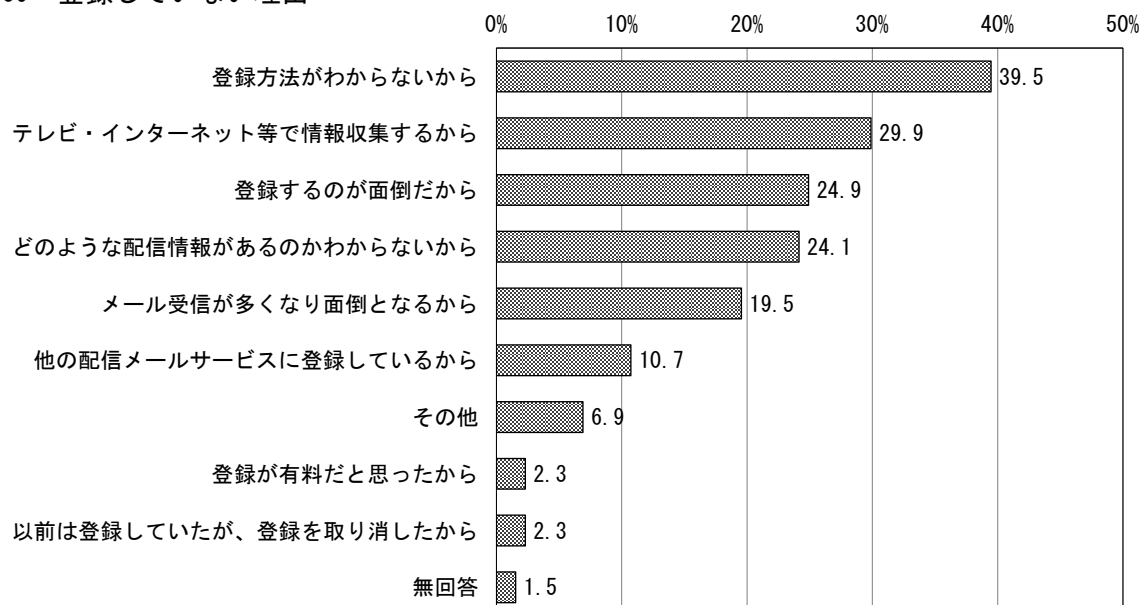
問 12 あなたは、「横浜市防災情報 E メール」を知っていますか。(〇はひとつ) n=1,558

図 68 横浜市防災情報 E メールについて



問 12-1 問 12 で「2 知っているが、登録していない」を選択した方にお聞きします。それはなぜですか。(〇はいくつでも) n=261

図 69 登録していない理由



(4) 「火災を感知する機器（感知器）の設置」について

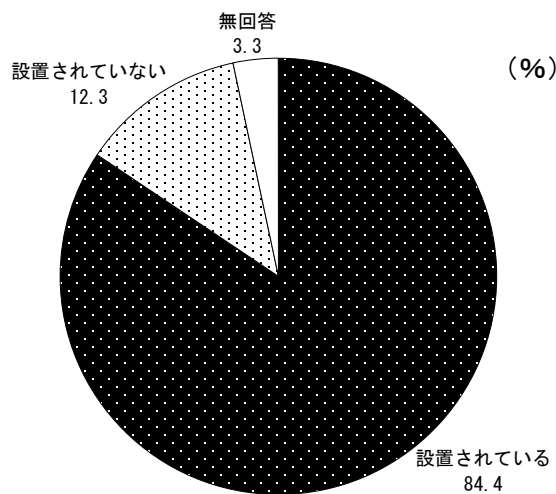
「設置されている」は全体の 8 割超、「持ち家（分譲マンション、共同住宅）」では 95%

■全体の傾向

自分の住まいに火災を感知する機器（感知器）が設置されているかどうかについては「設置されている」が 84.4%、「設置されていない」が 12.3%となっている。

問 13 あなたのお住まいには、住宅用火災警報器などの火災を感知する機器（感知器）が設置されていますか。（アパートやマンションなどで、入居時からすでに自動火災報知設備の感知器が設置されている場合も「1」を選択してください）（〇はひとつ） n=1,558

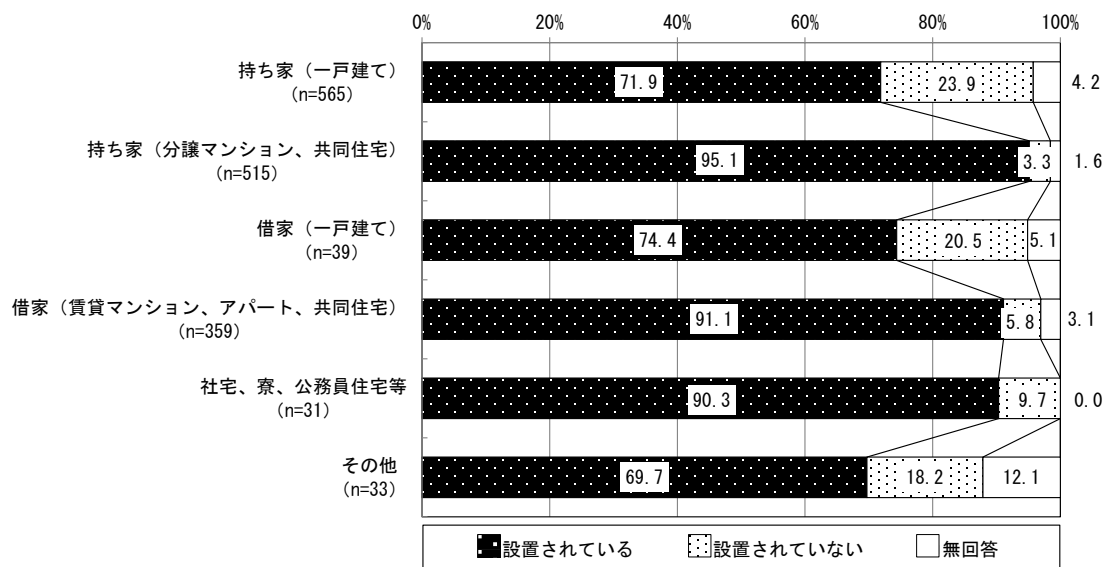
図 70 火災を感知する機器（感知器）の設置について



■回答者属性別にみる特徴

住まいの形態別でみると、「持ち家（分譲マンション、共同住宅）」が 95.1%、「借家（賃貸マンション、アパート、共同住宅）」91.1%、「社宅、寮、公務員住宅等」90.3%となっている。「一戸建て」と「共同住宅」では「共同住宅」の方が設置されている割合が高い。

図 71 火災を感知する機器（感知器）の設置について（住まいの形態別）



6. 自治会・町内会活動

(1) 自治会・町内会への加入状況

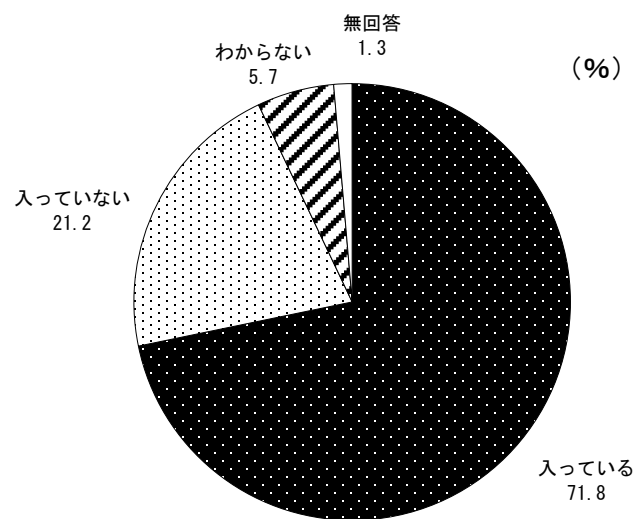
自治会・町内会への加入状況は7割強
年代や居住年数が上がるほど加入率が高まる傾向

■全体の傾向

自治会・町内会への加入については、「入っている」が71.8%、「入っていない」が21.2%となっている。

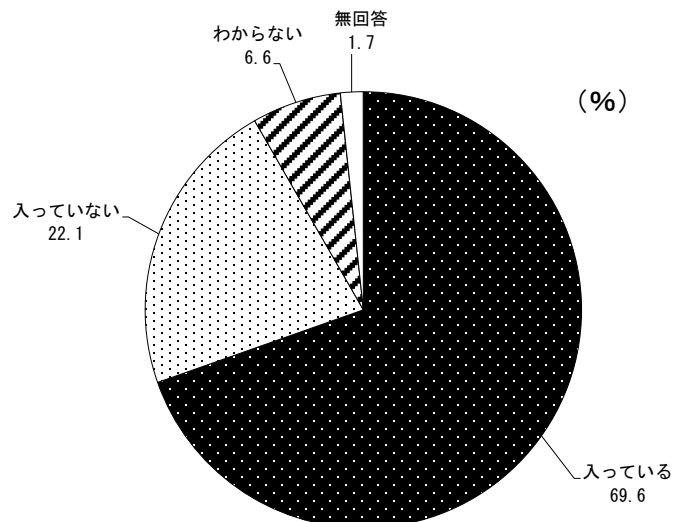
問 14 あなたは、自治会町内会に入っていますか。(○はひとつ) n=1,558

図 72 自治会・町内会への加入状況



参考データ

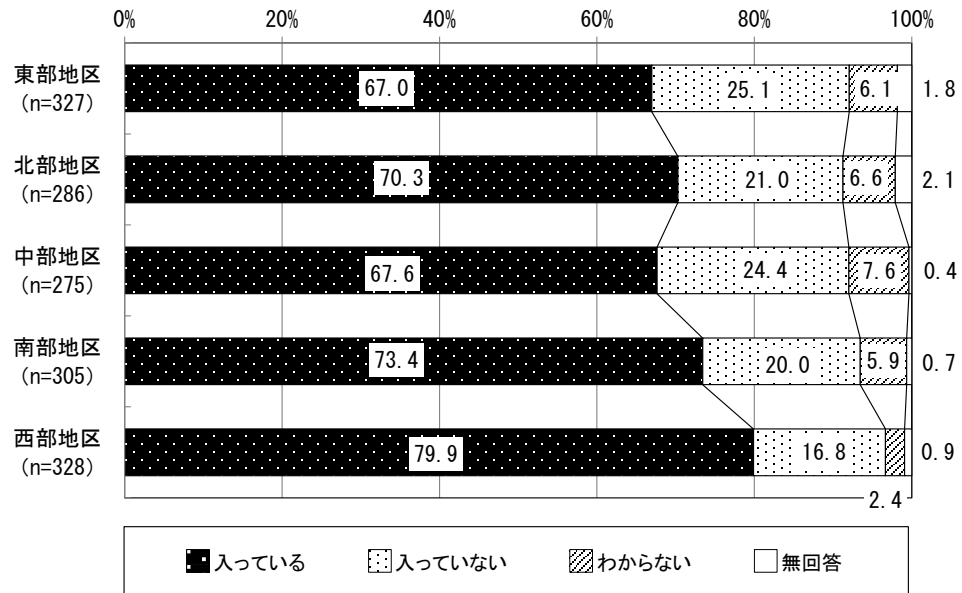
図 73 自治会・町内会への加入状況 (平成 23 年度都筑区区民意識調査) (n=1,650)



■地区別にみる特徴

地区別でみると、「入っている」が「西部地区」で79.9%と最も高く、次いで「南部地区」73.4%、「北部地区」70.3%となっている。「中部地区」は67.6%、「東部地区」は67.0%で、すべての地区で6割以上となっている。

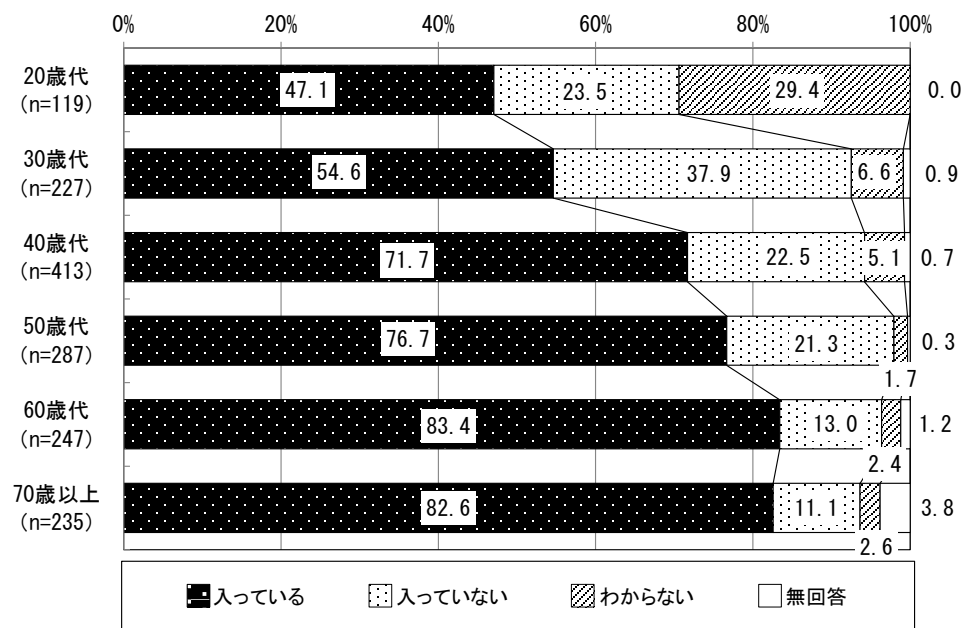
図 74 自治会・町内会への加入状況（地区別）



■回答者属性別にみる特徴

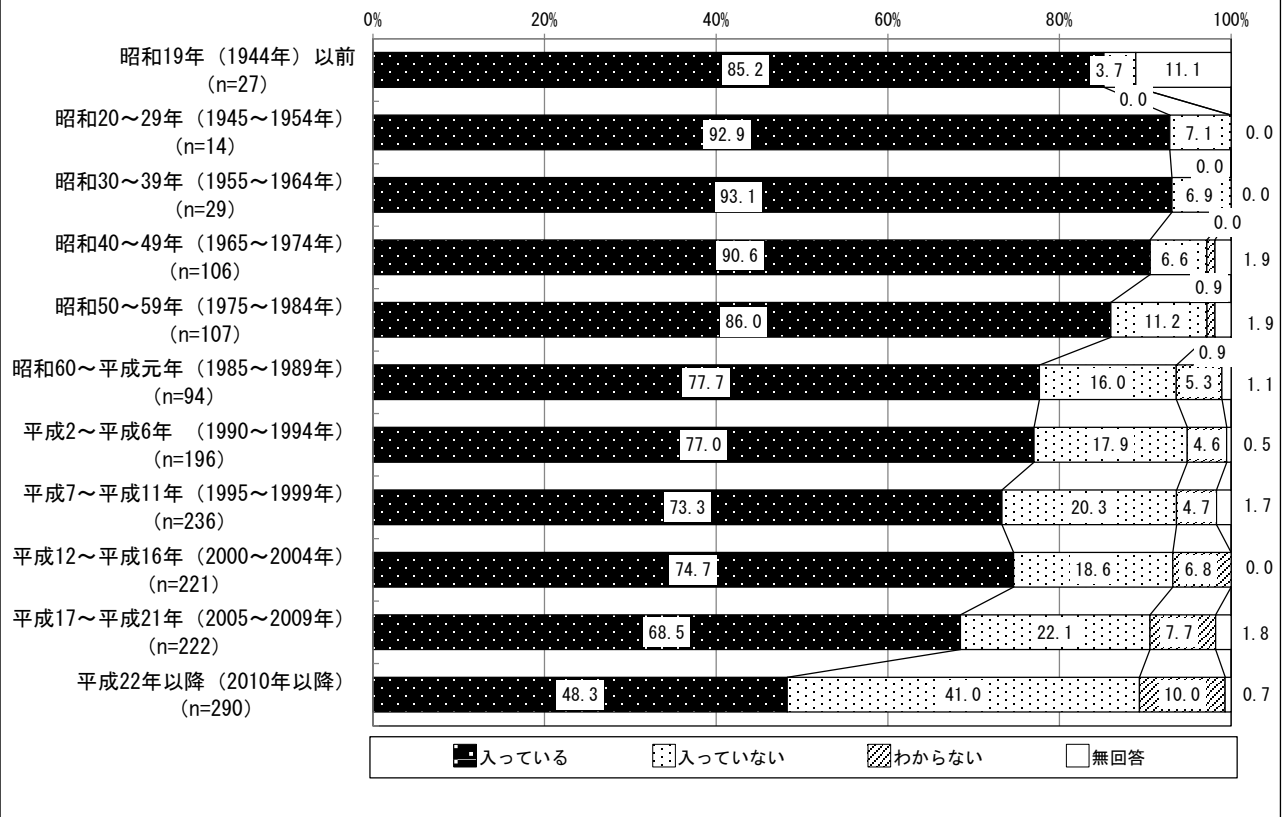
年代別でみると、おおむね年代が上がるにつれて加入率が高くなっている。最も低い「20歳代」では47.1%だが、「60歳代」、「70歳代」では8割以上となっている。

図 75 自治会・町内会への加入状況（年代別）



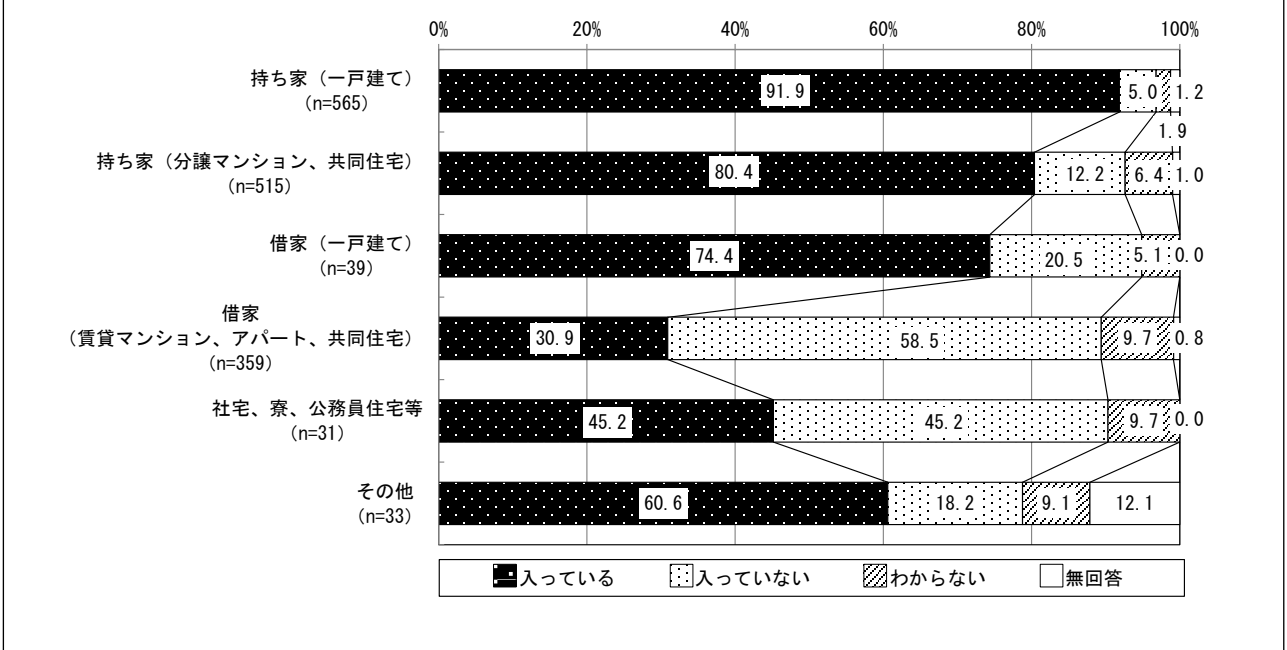
居住開始時期別でみると、住み始めた時期が近年になるほど加入率は減少している。
 昭和 30～39 年（1955～1964 年）が 93.1%で最も高く、それ以降は減少して「平成 22 年以降（2010 年以降）」は 48.3%となっている。

図 76 自治会・町内会への加入状況（居住開始時期別）



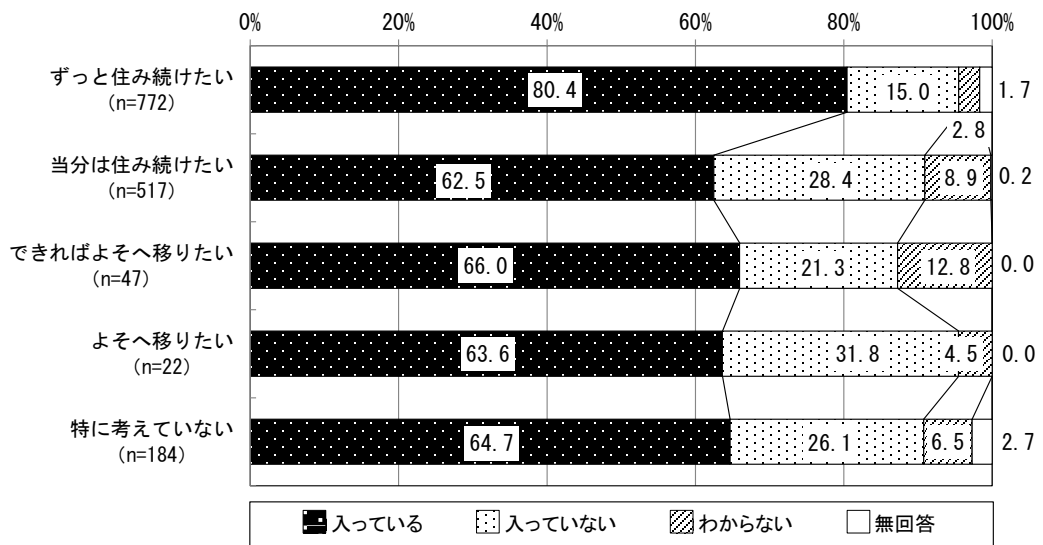
住まいの形態別でみると、「持ち家（一戸建て）」が最も高く、91.9%となっており、「借家（賃貸マンション、アパート、共同住宅）」は 30.9%と最も低い。

図 77 自治会・町内会への加入状況（住まいの形態別）



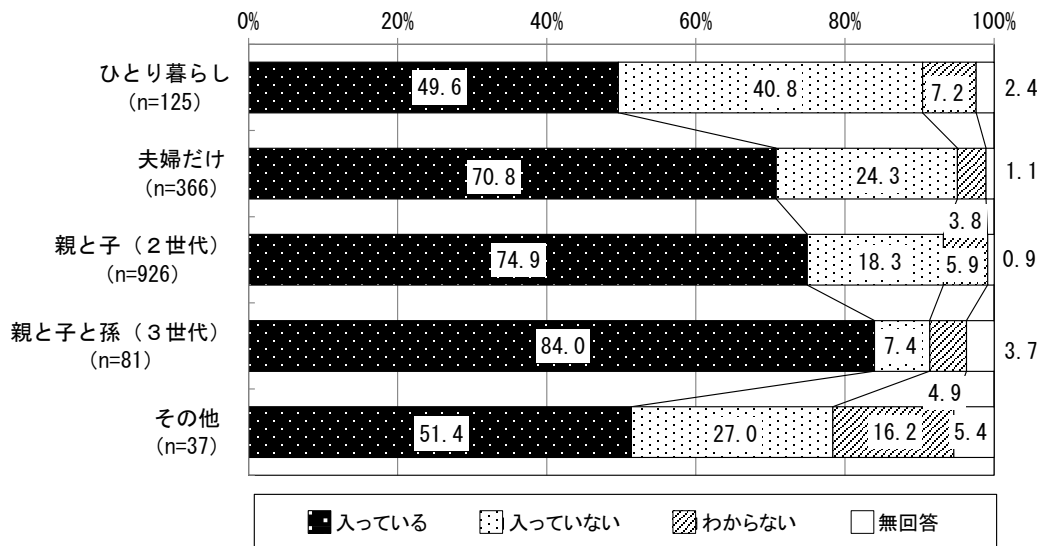
居住意向別でみると、「ずっと住み続けたい」層の加入率が最も高く 80.4%となっているが、それ以外でも6割以上が加入している。

図 78 自治会・町内会への加入状況（居住意向別）



家族形態別でみると、「親と子と孫（3世代）」が84.0%と最も高くなっている。最も低いのは「ひとり暮らし」49.6%である。

図 79 自治会・町内会への加入状況（家族形態別）



(2) 自治会町内会活動に期待する取り組み

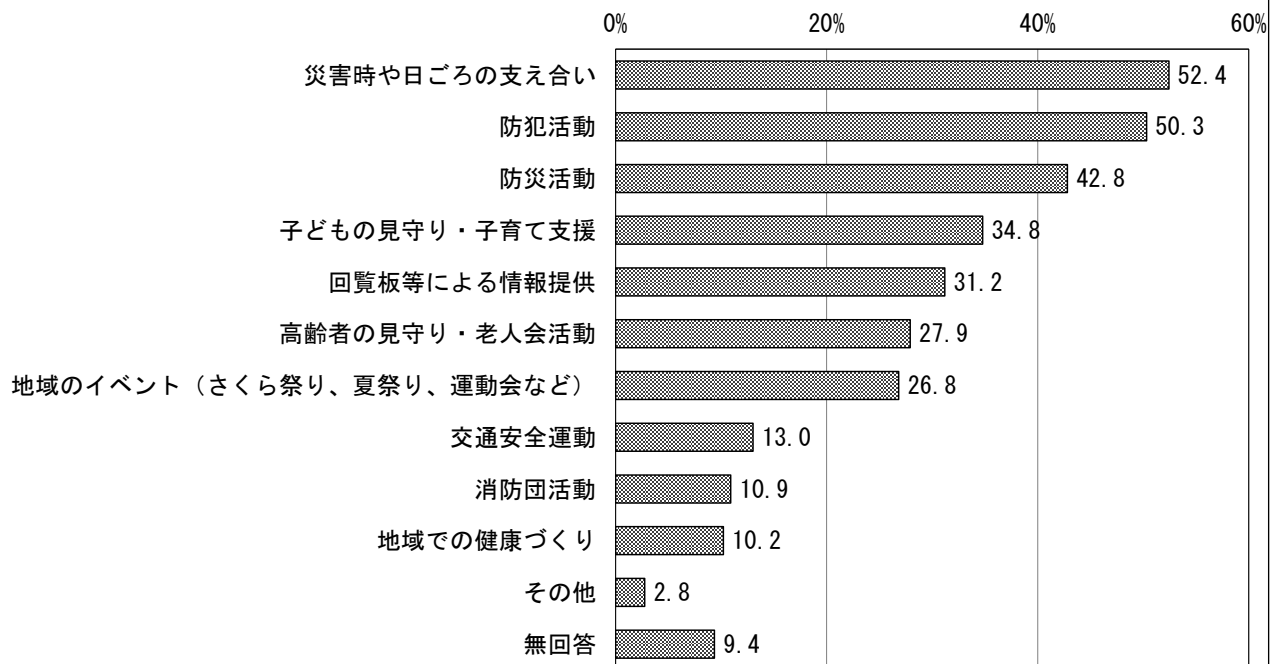
上位は「災害や日ごろの支え合い」「防犯活動」で5割超

■全体の傾向

自治会町内会に期待する取組は「災害時や日ごろの支え合い」が 52.4%で最も高く、次いで「防犯活動」50.3%、「防災活動」42.8%となっている。

問 15 あなたが自治会町内会活動に期待することはどのような取組ですか。(〇はいくつでも)
n=1,558

図 80 自治会町内会活動に期待する取組



7. 地域での日頃の支え合い

(1) 隣近所に住んでいる人を知っているか

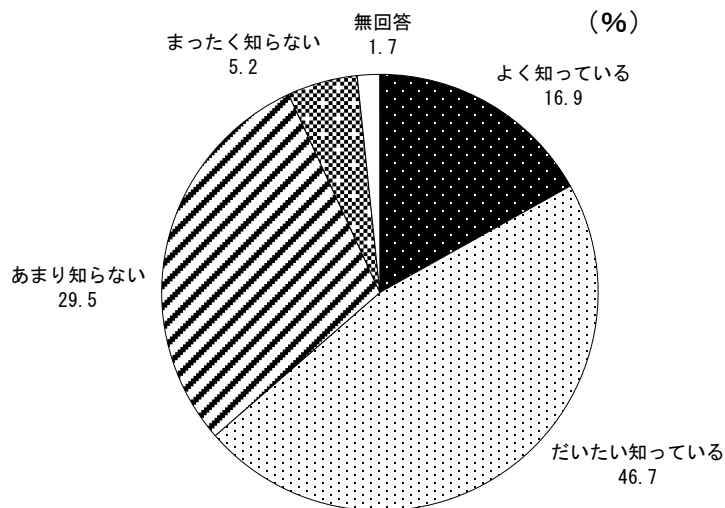
『知っている』が6割超
小学生、高齢者（65歳以上）が同居家族にいとその割合が高くなる

■全体の傾向

隣近所に住んでいる人を知っているかどうかについては、「だいたい知っている」が 46.7%と最も高く、「よく知っている」16.9%と合わせると 63.6%が「知っている」と回答している。「あまり知らない」は 29.5%で、「まったく知らない」5.2%と合わせると 34.7%は「知らない」と回答している。

問 16 あなたは、隣近所に住んでいる人を知っていますか。(〇はひとつ) n=1,558

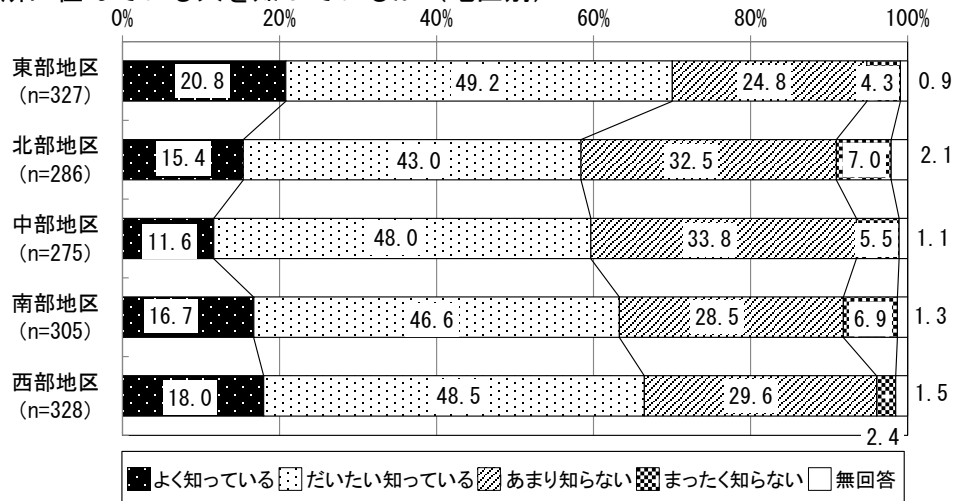
図 81 隣近所に住んでいる人を知っているか



■地区別にみる特徴

地区別でみると、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた『知っている』は、「東部地区」が 70.0%、次いで「西部地区」が 66.5%となっている。「北部地区」は 58.4%、「中部地区」は 59.6%で6割を下回っている。

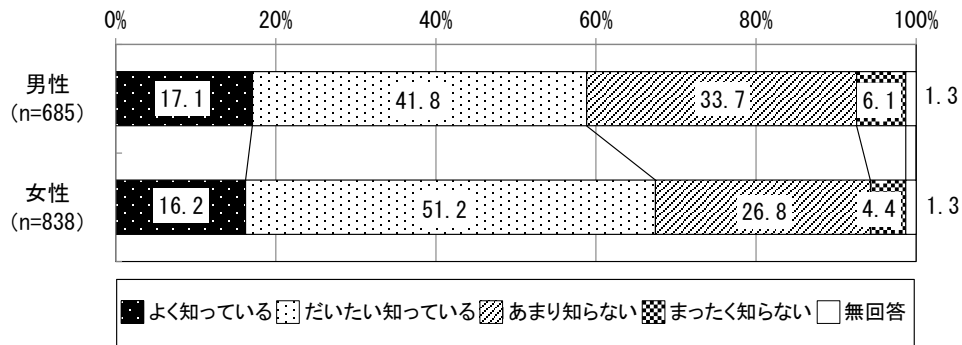
図 82 隣近所に住んでいる人を知っているか（地区別）



■回答者属性別にみる特徴

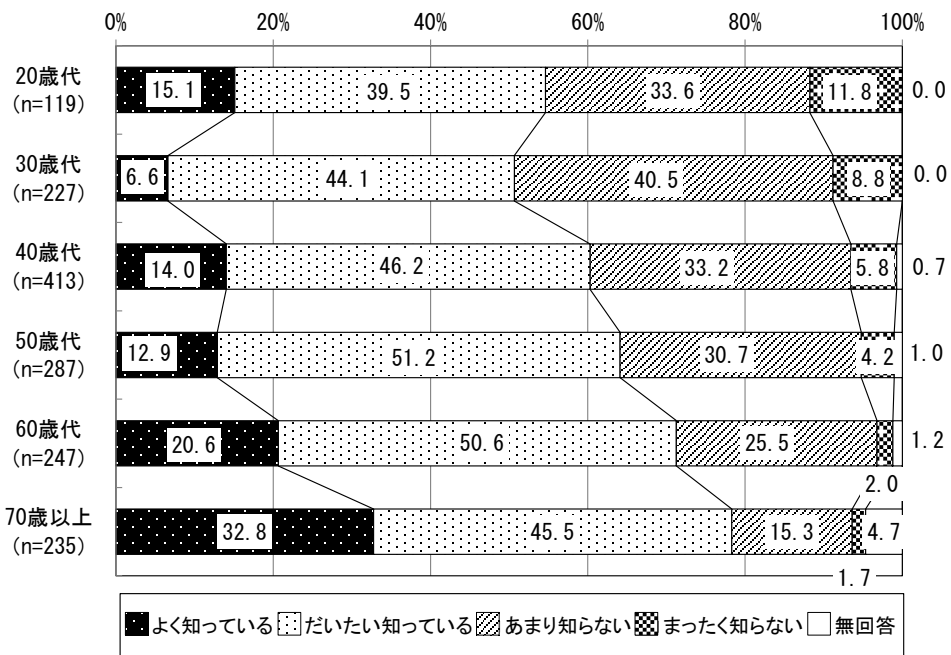
性別でみると、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた『知っている』は、「女性」は 67.4%、「男性」は 58.9%となっている。

図 83 隣近所に住んでいる人を知っているか（性別）



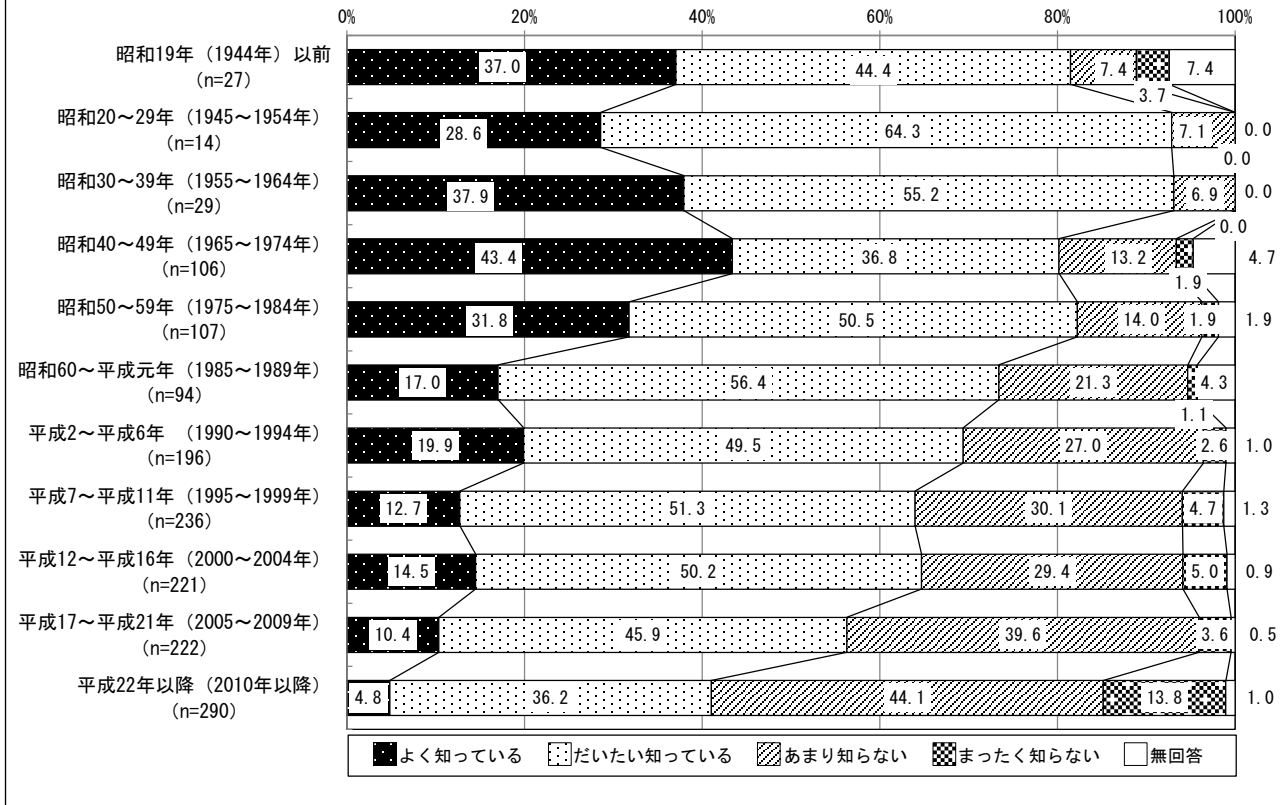
年代別でみると、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた『知っている』は、おおむね年代が上がるごとに高くなっている。「30 歳代」が 50.7%と最も低く、「70 歳以上」は 78.3%と最も高くなっている。

図 84 隣近所に住んでいる人を知っているか（年代別）



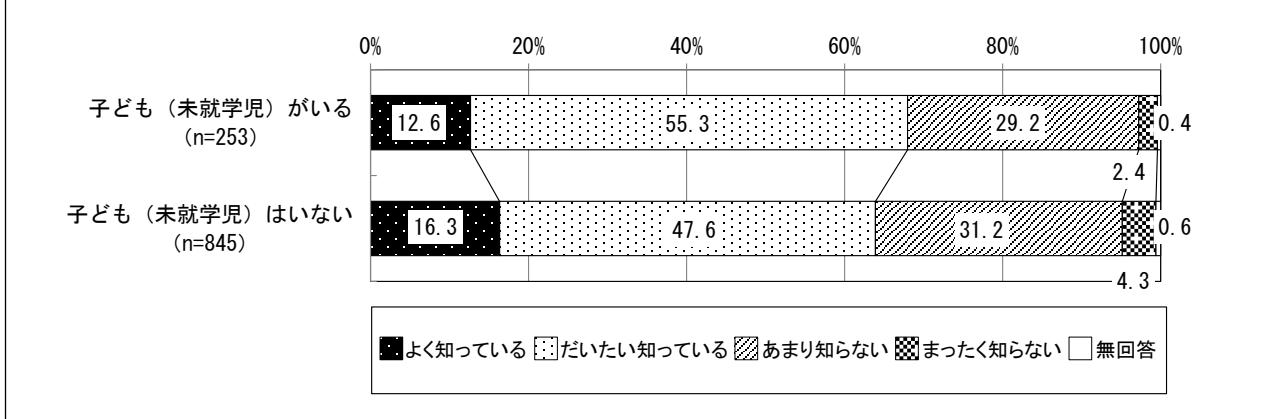
居住開始時期別でみると、おおむね居住開始時期が住み始めた時期が近年になるほど、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた『知っている』は、低くなる傾向がある。一番高い「昭和 30～39 年」の 93.1% に対し「平成 22 年以降（2010 年以降）」は 41.0% で最も低い。

図 85 隣近所に住んでいる人を知っているか（居住開始時期別）

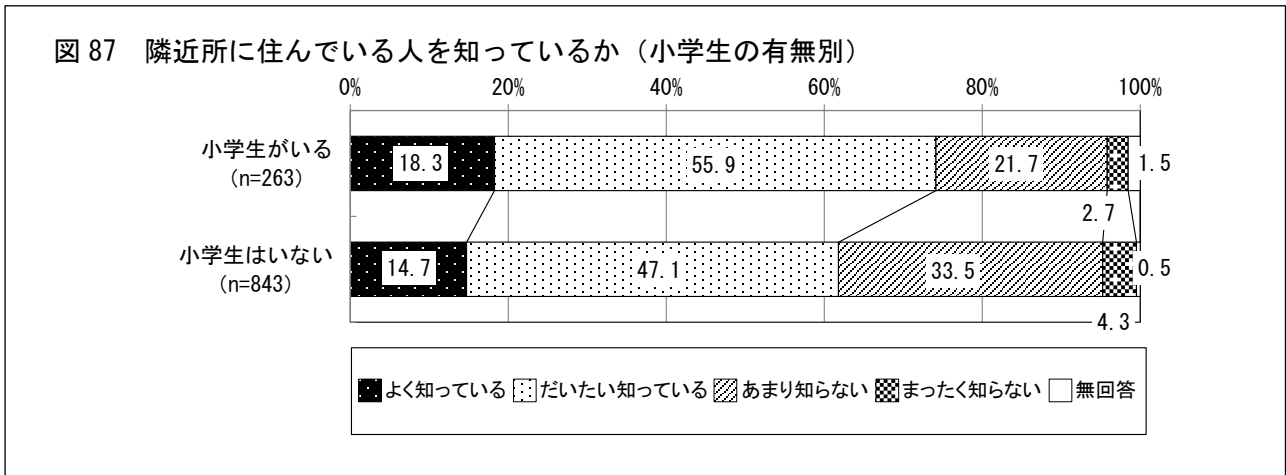


未就学児の同居有無別でみると、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた『知っている』は、「未就学児がいる」が「未就学児はいない」より高くなっている。

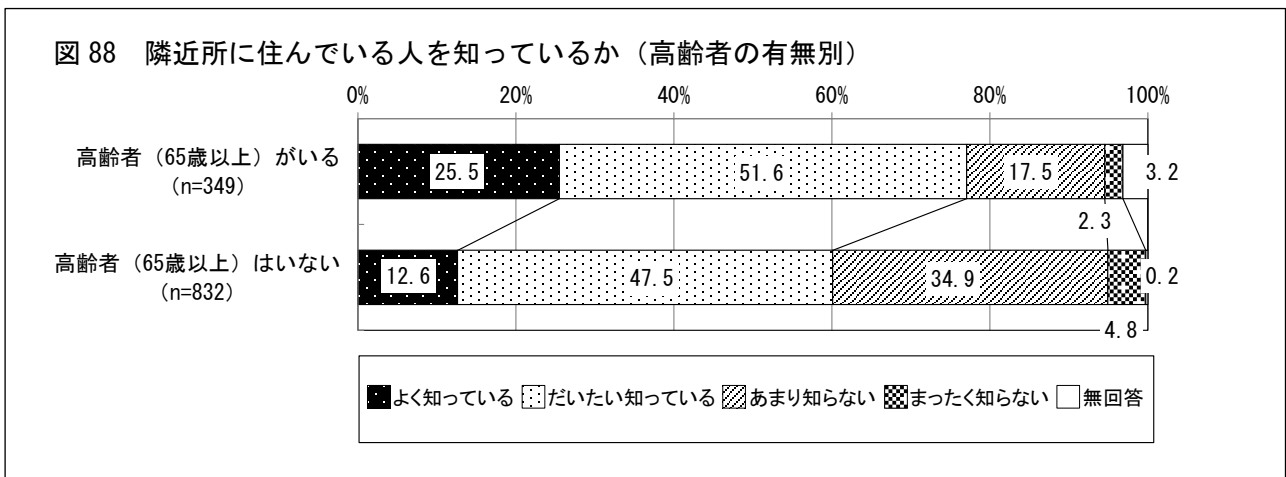
図 86 隣近所に住んでいる人を知っているか（未就学児の有無別）



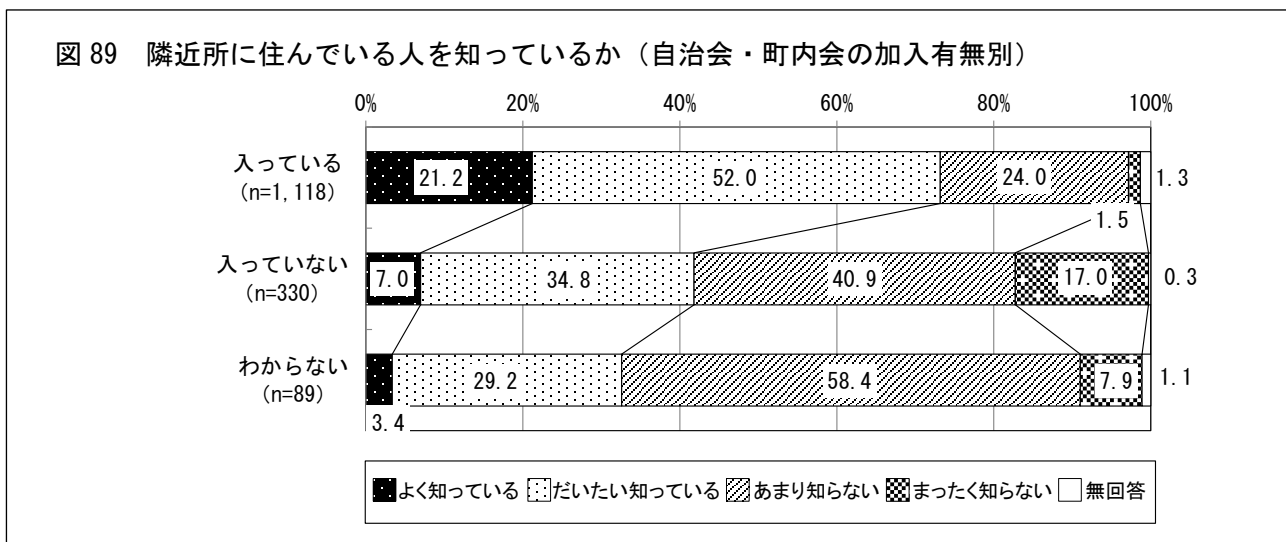
小学生の同居有無別でみると、「よく知っている」、「だいたい知っている」とも、「小学生がいる」人の方が「小学生はいない」人より高くなっている。



高齢者（65歳以上）の同居有無別でみると、「よく知っている」、「だいたい知っている」とも、「高齢者（65歳以上）がいる」人の方が「高齢者（65歳以上）はいない」人より高くなっている。



自治会・町内会の加入有無別でみると、「よく知っている」、「だいたい知っている」とも、「入っている」人が「入っていない」、「分からない」人より高くなっている。
また、「入っていない」人は「まったく知らない」が17.0%で「入っている」人よりも高くなっている。



(2) 日頃の近所づきあいの程度

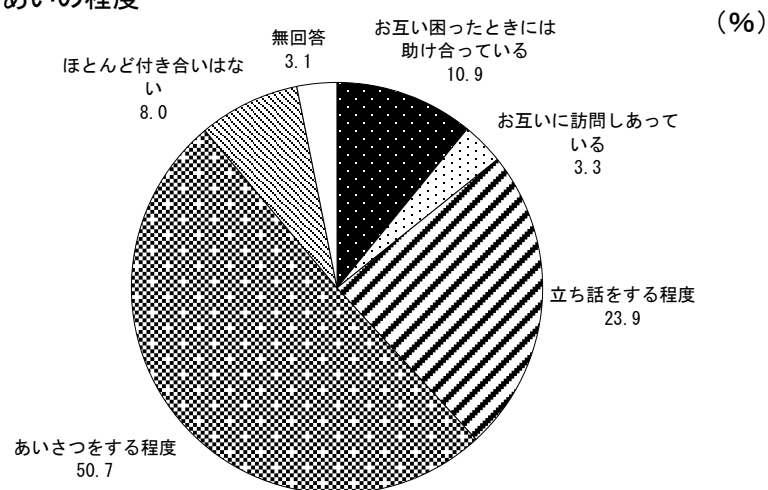
「お互い困ったときには助けあっている」は、約 1 割
小学生、高齢者（65 歳位以上）と同居している人、自治会・町内会に入っている人が高くなっている

■全体の傾向

近所づきあいの程度については、「あいさつをする程度」が 50.7%と最も高く、次いで「立ち話をする程度」23.9%、「お互い困ったときには助け合っている」10.9%となっている。
平成 23 年度調査と比較すると、「お互い困ったときには助けあっている」は減少している。

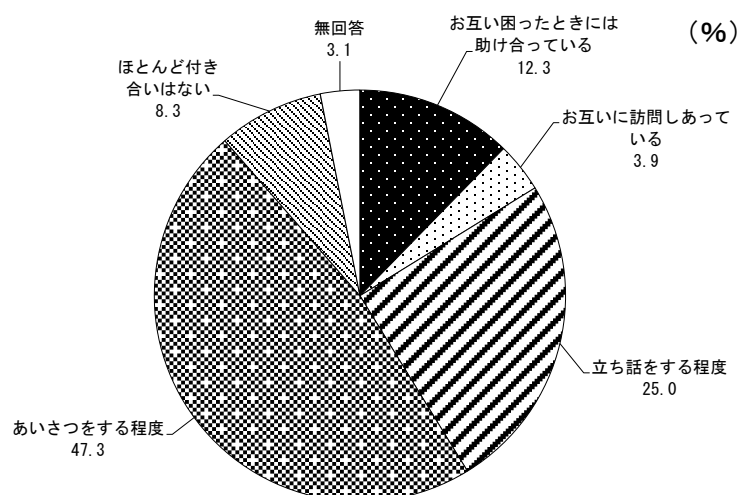
問 17 あなたは日頃、どの程度の近所づきあいをしていますか。(〇はひとつ) n=1,558

図 90 近所づきあいの程度



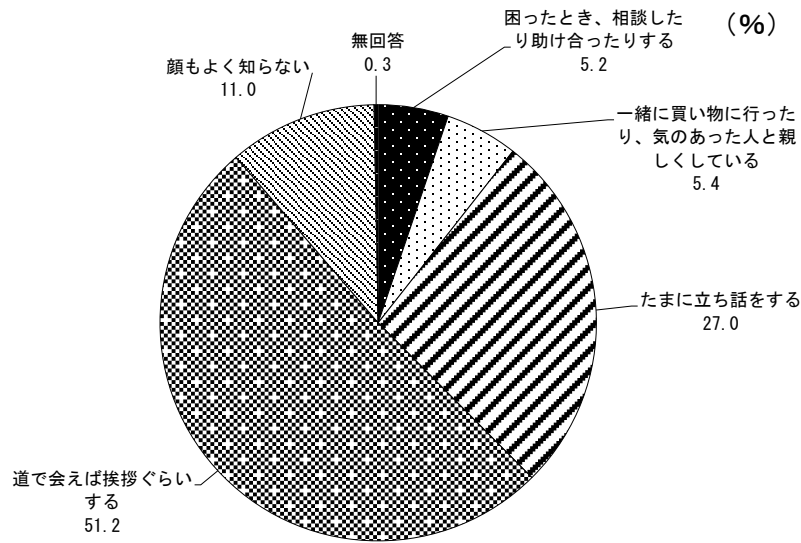
参考データ

図 91 近所づきあいの程度（年代別・平成 23 年度都筑区区民意識調査）(n=1,650)



参考データ

図 92 近所づきあいの程度（平成 27 年度横浜市市民意識調査）（n=2, 146）

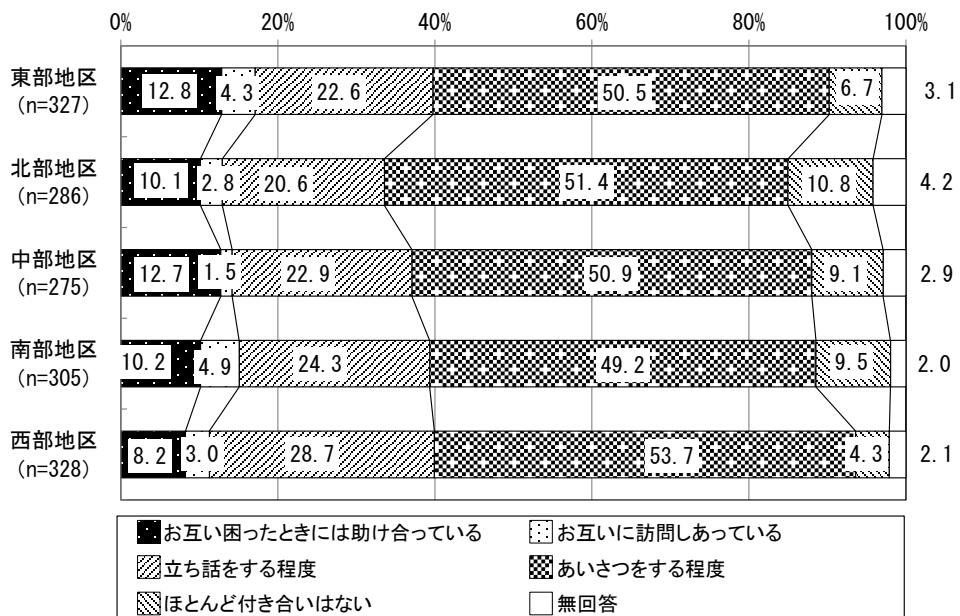


■地区別にみる特徴

地区別で見ると、「お互い困ったときには助け合っている」は「東部地区」が 12.8%、「中部地区」が 12.7%と高く、「西部地区」で 8.2%と最も低い。

「ほとんど付き合いはない」という回答は、「北部地区」で 10.8%と最も高く、「西部地区」で 4.3%と最も低い。

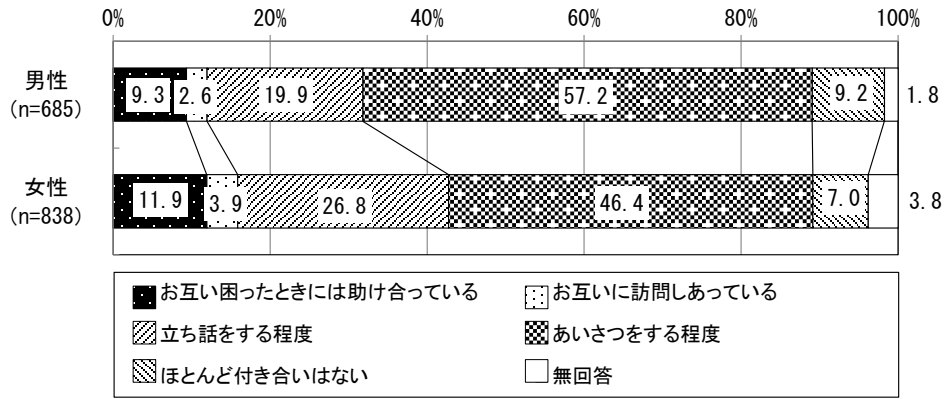
図 93 近所づきあいの程度（地区別）



■回答者属性別にみる特徴

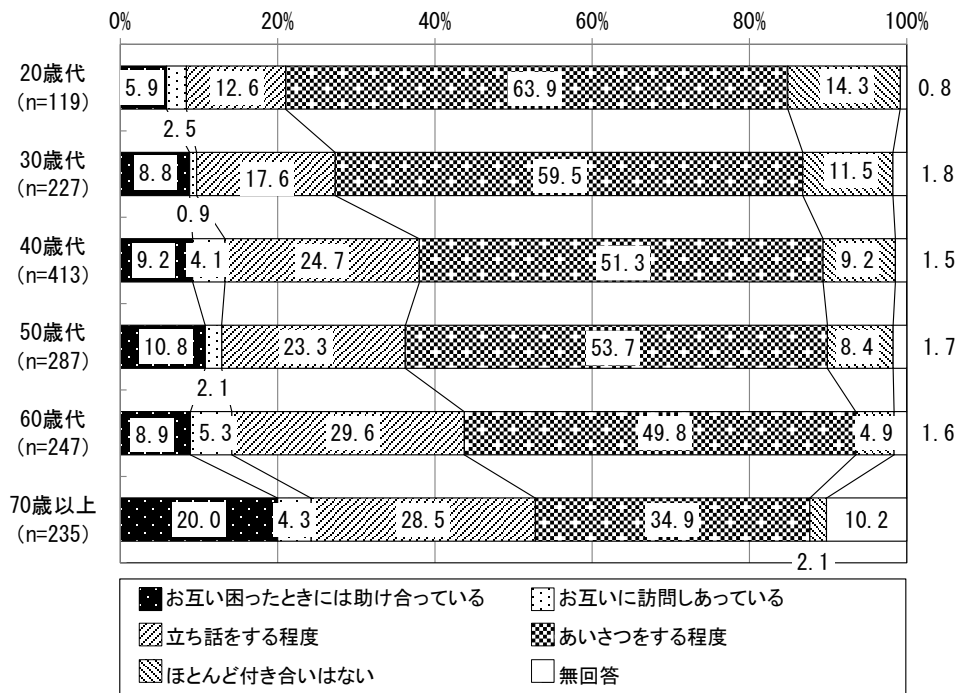
性別でみると、「お互い困ったときには助け合っている」、「お互いに訪問しあっている」、「立ち話をする程度」とも「女性」の割合の方が高くなっており、「あいさつをする程度」、「ほとんど付き合いはない」は「男性」の割合の方が高い。

図 94 近所づきあいの程度（性別）



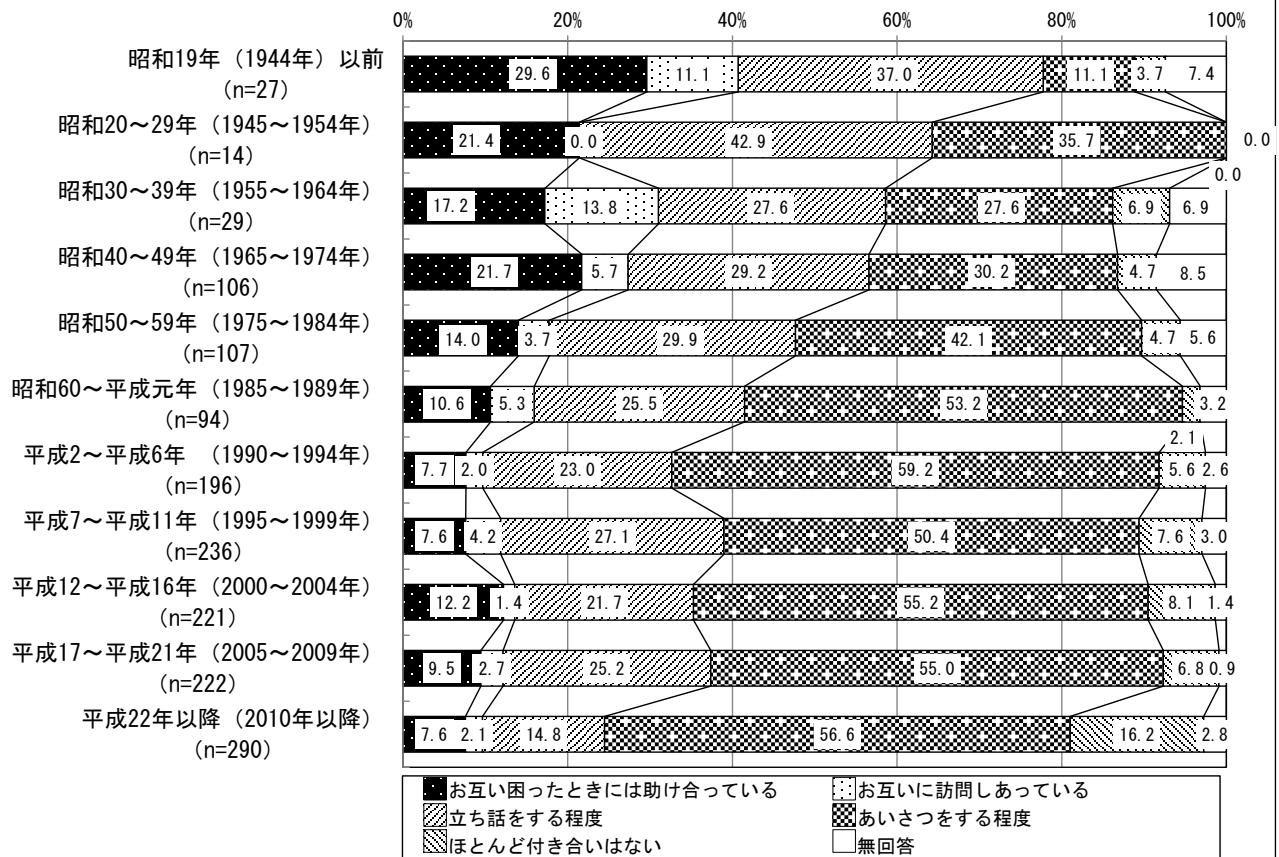
年代別でみると、「お互い困ったときには助け合っている」は「20 歳代」が最も低く 5.9%、「70 歳代」が最も高く 20.0%となっている。「立ち話をする程度」はおおむね年齢が上がるごとに高くなり、「あいさつをする程度」、「ほとんど付き合いはない」は低くなる傾向にある。

図 95 近所づきあいの程度（年代別）



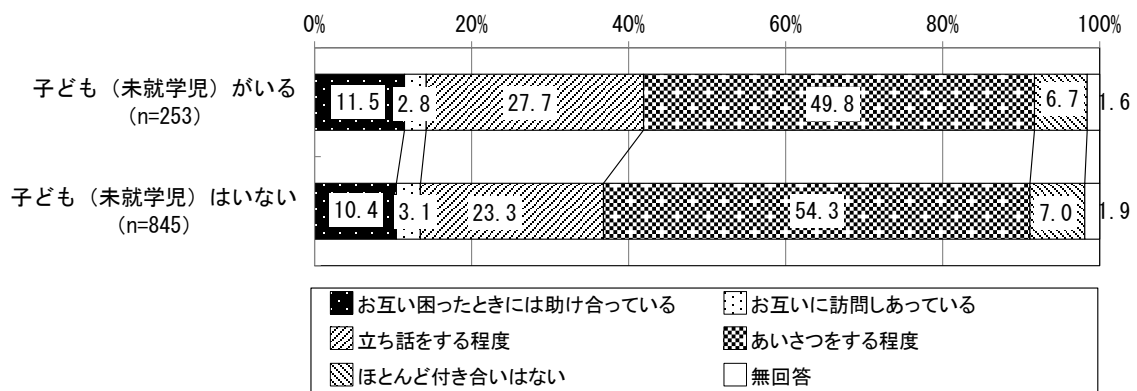
居住開始時期別でみると、居住開始時期が近年になるほど「お互い困ったときには助け合っている」、「立ち話をする程度」の割合は低くなる傾向にあり、「あいさつをする程度」、「ほとんど付き合いはない」の割合は高くなる傾向にある。

図 96 近所づきあいの程度（居住開始時期別）



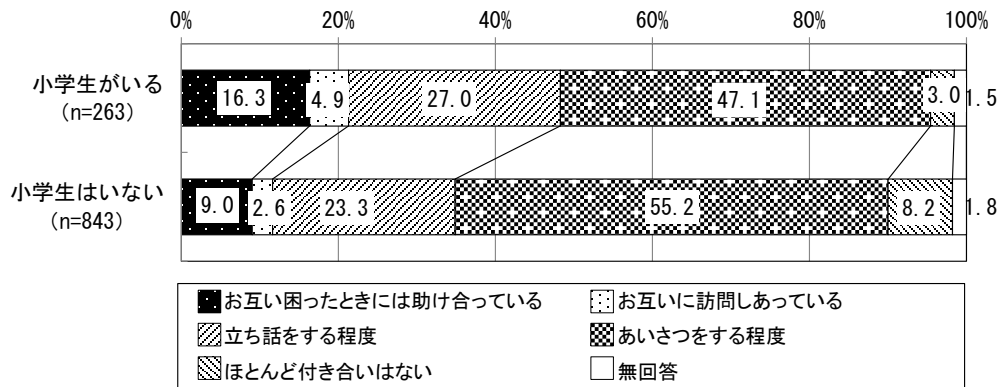
未就学児の同居有無別でみると、「あいさつをする程度」は「未就学児がいる」人の 49.8% に対して、「未就学児はいない」人は 54.3% となっている。

図 97 近所づきあいの程度（未就学児の有無別）



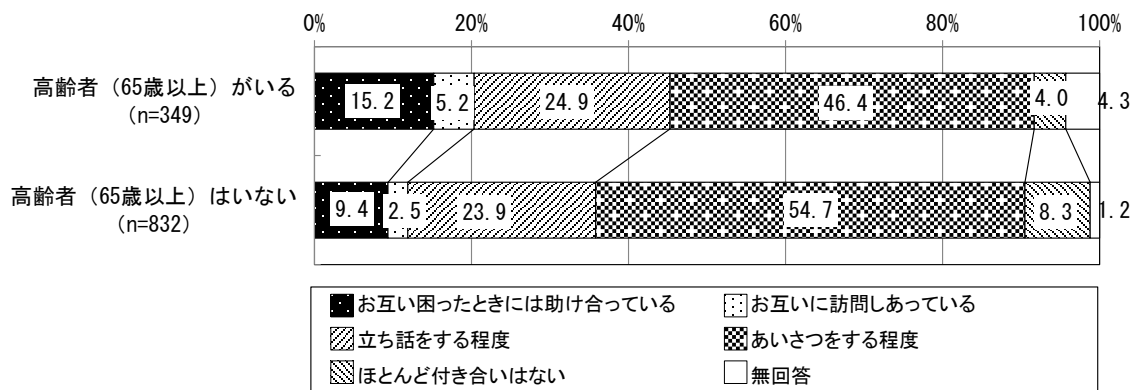
小学生の同居有無別でみると、「お互い困ったときには助け合っている」、「お互いに訪問しあっている」、「立ち話をする程度」の割合が「小学生がいる」方が高くなっており、「あいさつをする程度」、「ほとんど付き合いはない」の割合は「小学生はいない」方が高くなっている。

図 98 近所づきあいの程度（小学生の有無別）



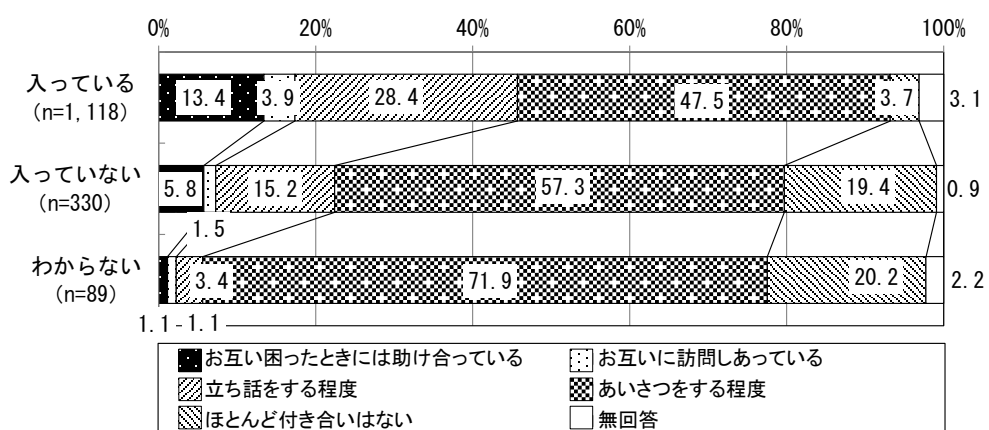
高齢者（65歳以上）の同居有無別でみると、「お互い困ったときには助け合っている」、「お互いに訪問しあっている」、「立ち話をする程度」の割合が「高齢者（65歳以上）がいる」方が高くなっており、「あいさつをする程度」、「ほとんど付き合いはない」の割合は「高齢者（65歳以上）はいない」方が高くなっている。

図 99 近所づきあいの程度（高齢者（65歳以上）の有無別）



自治会・町内会加入有無別でみると、「お互い困ったときには助け合っている」、「お互いに訪問しあっている」、「立ち話をする程度」の割合が「入っている」方が高くなっており、「あいさつをする程度」、「ほとんど付き合いはない」の割合は「入っていない」方が高くなっている。

図 100 近所づきあいの程度（自治会・町内会加入有無別）



8. 区内における社会貢献活動

(1) 過去 1 年間の社会貢献活動の経験

社会貢献活動の経験がある人は 3 割弱 (注)

家族に「小学生がいる」が「小学生がいない」より社会貢献活動の経験がある割合が高い

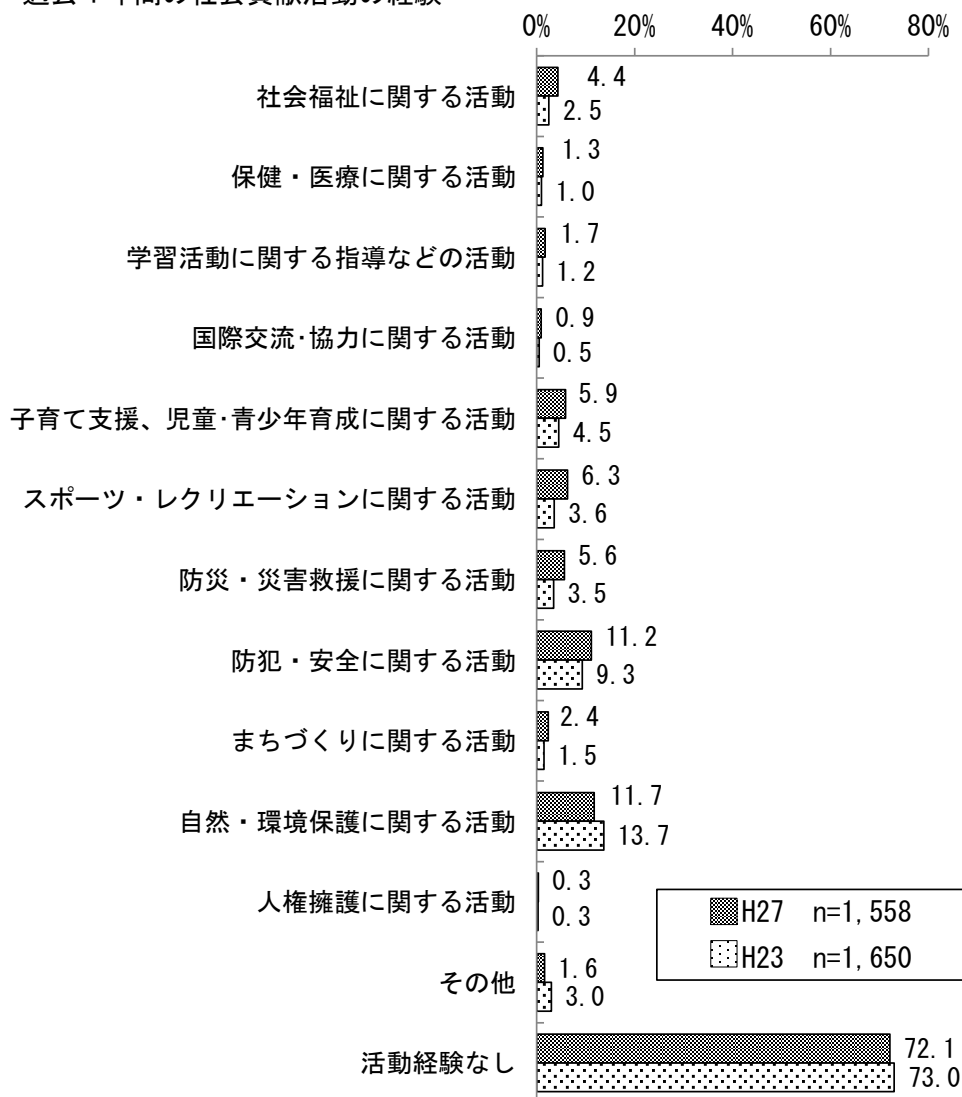
■全体の傾向

都筑区内において、過去 1 年間の社会貢献活動の経験については「活動経験あり」27.9%、「活動経験なし」72.1%となっている。

活動分野別にみると、「自然・環境保護に関する活動」が 11.7%と最も高く、次いで「防犯・安全に関する活動」11.2%、「スポーツ・レクリエーションに関する活動」6.3%となっている。

問 18 あなたは、以下の 1)～12)の社会貢献活動について、都筑区内において、過去 1 年間に、社会貢献活動（自治会町内会活動、ボランティア活動、NPO（特定非営利活動）法人活動など）を行ったことがありますか。（○はいくつでも） n=1,558

図 101 過去 1 年間の社会貢献活動の経験

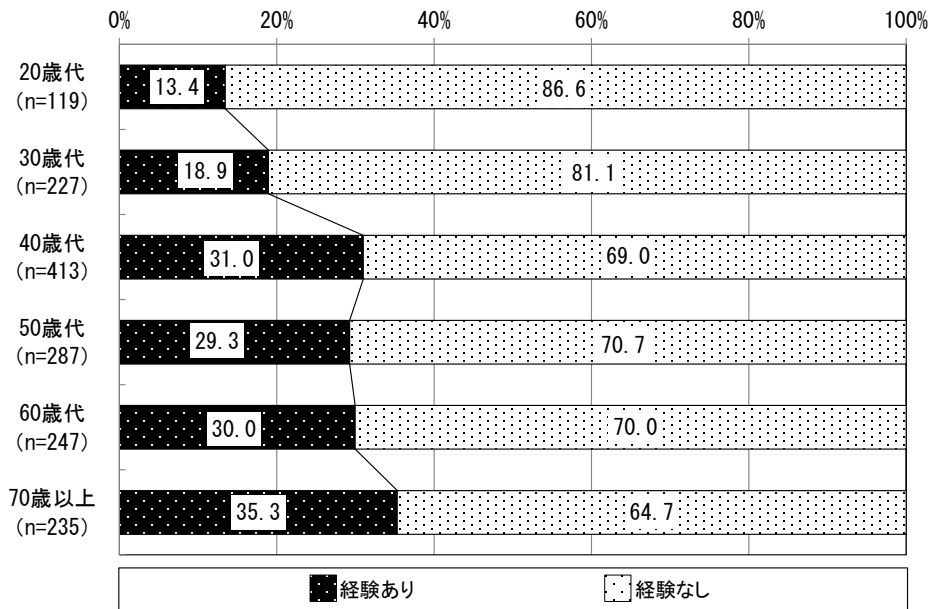


(注)「活動経験あり」の比率は、100%から「活動経験なし」の比率(72.1%)を引いて算出した。

■回答者属性別にみる特徴

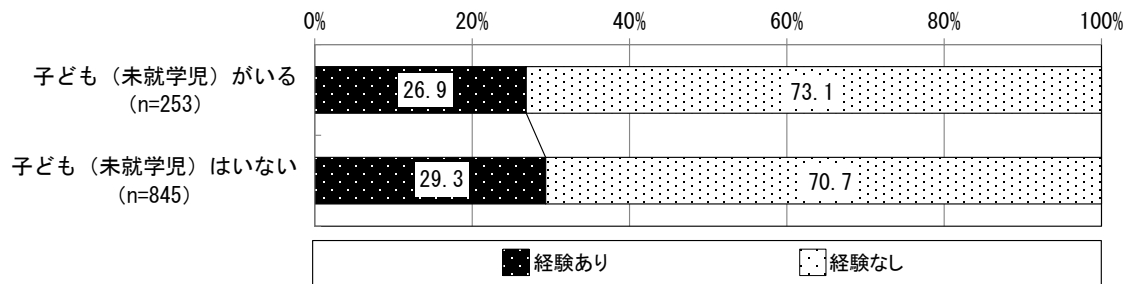
年代でみると、「経験あり」の回答が「20 歳代」が最も低く 13.4%、「40 歳代」以降は 3 割前後となっており、「70 歳代以上」が最も高く 35.3%となっている。

図 102 過去 1 年間の社会貢献活動の経験有無（年代別）



未就学児の同居有無別でみると、「経験あり」は「未就学児がいる」人は 26.9%、「未就学児はいない」人 29.3%となっている。

図 103 過去 1 年間の社会貢献活動の経験有無（未就学児の有無別）



小学生の同居有無別でみると、「小学生がいる」人は「経験あり」が 41.8%、「小学生はいない」人は「経験あり」は 24.9%で、「いる」人の方が 16.9 ポイント高い。

「小学生がいる」人では「防犯・安全に関する活動」が 23.2%で最も高く、「小学生はいない」人では「自然・環境保護に関する活動」が 12.0%で最も高くなっている。

図 104 過去 1 年間の社会貢献活動の経験有無（小学生の有無別）

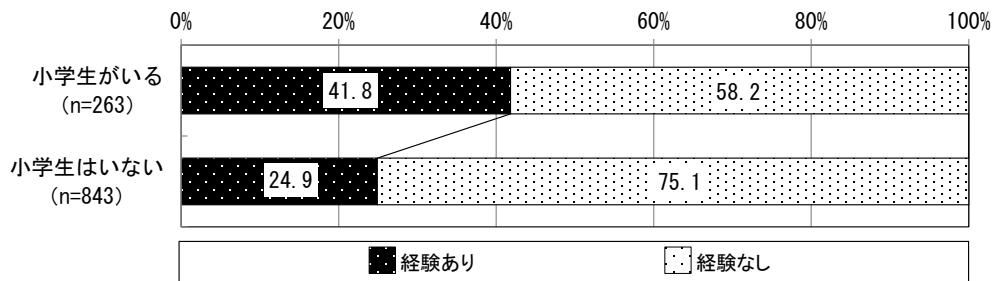
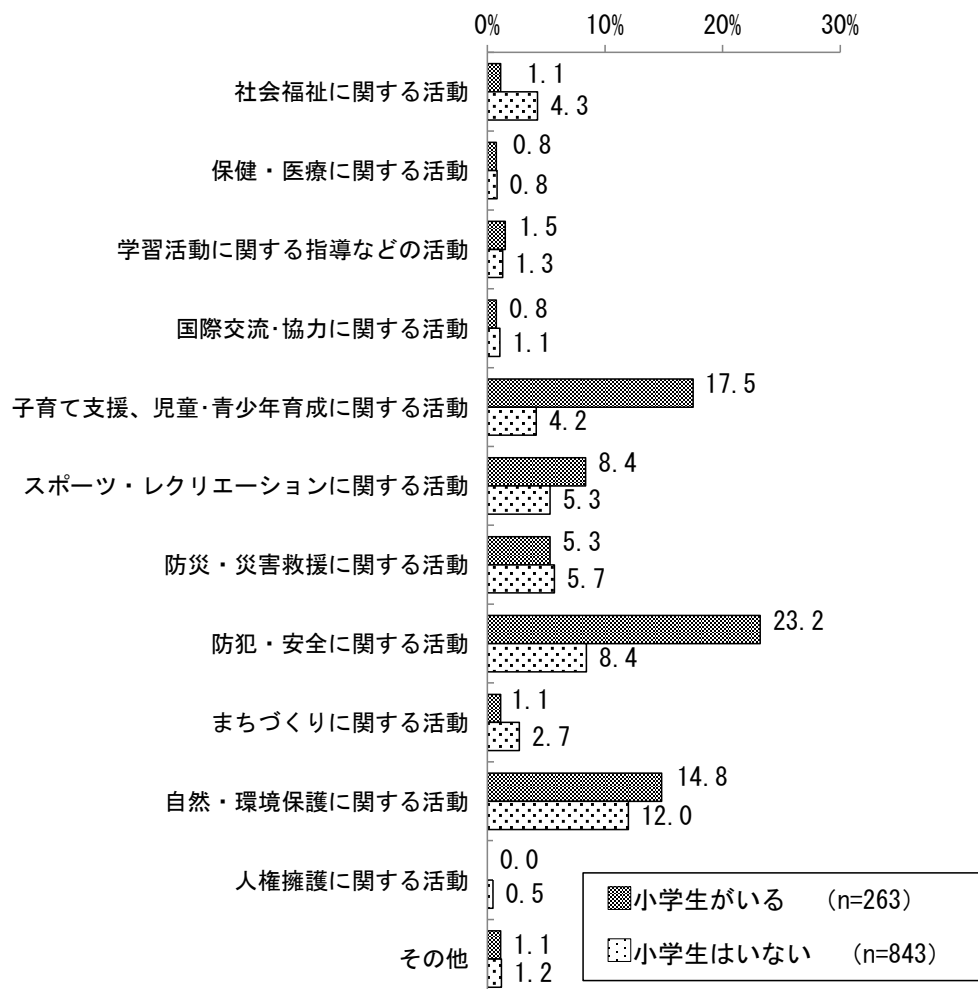
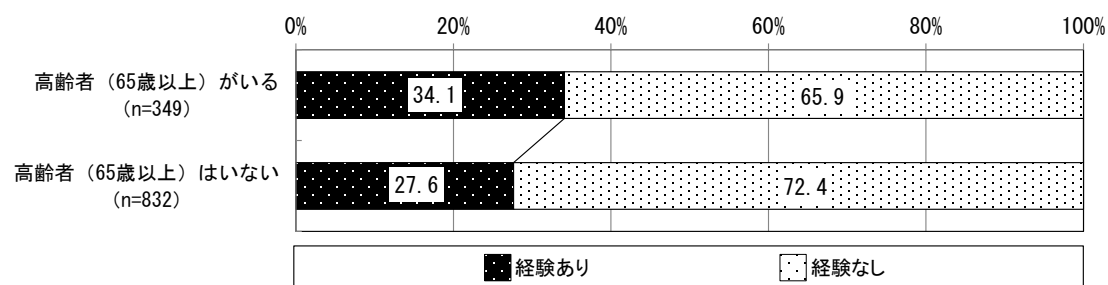


図 105 過去 1 年間の社会貢献活動の経験有無（小学生の有無別）



高齢者の同居有無別でみると、「経験あり」人の割合は「高齢者（65歳以上）がいる」人は34.1%、「高齢者（65歳以上）はいない」人は27.6%で、「いる」方が6.5ポイント高くなっている。

図 106 過去 1 年間の社会貢献活動の経験有無（高齢者の有無別）



(2) 社会貢献活動への参画意向

今後参画したい活動分野で最も高いのは「自然・環境保護に関する活動」
未就学児や小学生が同居していると「意向あり」の割合が高い

■全体の傾向

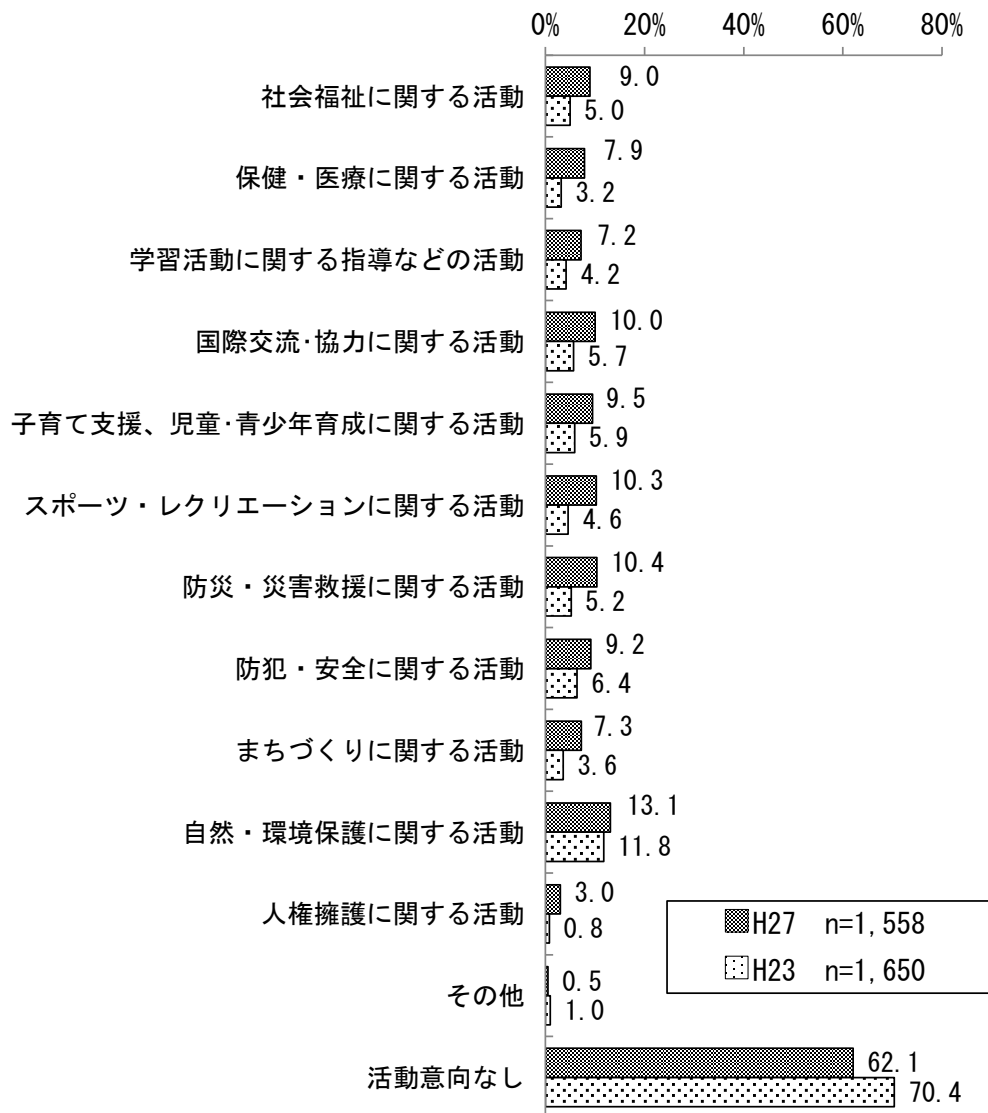
今後の社会貢献活動への参画意向については、37.9% (注) の人が「意向あり」と回答しており、「過去1年間に活動経験あり」と回答した人と比較すると10ポイント高くなっている。

活動分野別にみると、どの活動の比率も大きな差はないが、「自然・環境保護に関する活動」が13.1%と最も高く、次いで「防災・災害救援に関する活動」10.4%、「スポーツ・レクリエーションに関する活動」10.3%となっている。

前回調査（平成 23 年度）との比較でみると、「防災・災害救援に関する活動」、「スポーツ・レクリエーションに関する活動」の順位が上がっている。

問 18 あなたは、以下の1)~12)の社会貢献活動について、都筑区内において、今後新たに（もしくは継続して）参画したい活動がありますか。（〇はいくつでも） n=1,558

図 107 社会貢献活動への参画意向

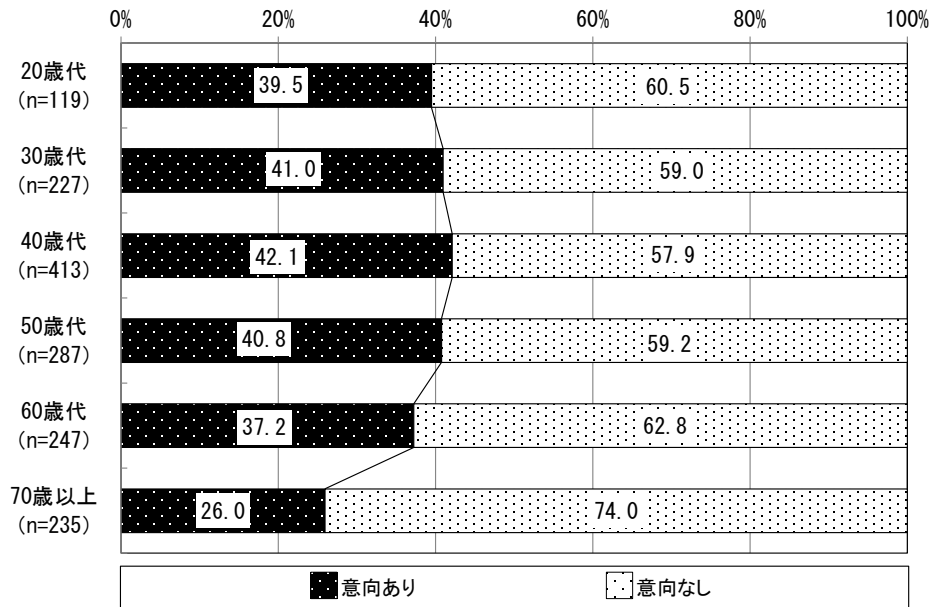


(注) 「意向あり」の比率は、100%から「活動意向なし」の比率 (62.1%) を引いて算出した。

■回答者属性別にみる特徴

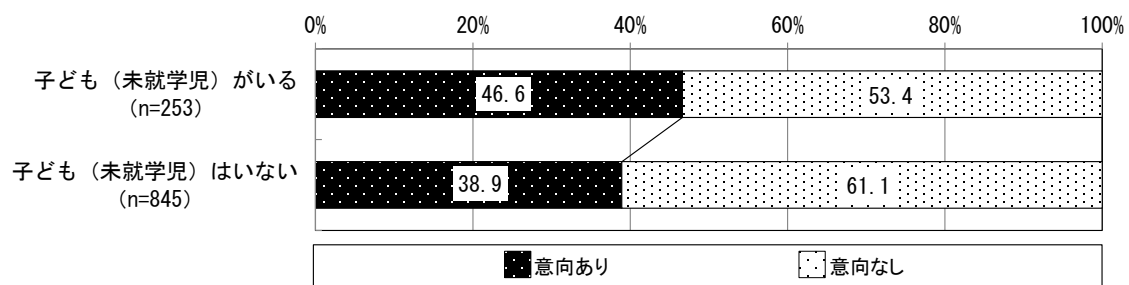
年代別でみると、「70歳以上」は「意向あり」が26.0%で最も低くなっており、他の年代では4割前後となっており、最も高いのは「40歳代」の42.1%。

図 108 社会貢献活動への参画意向（年代別）



未就学児の同居有無別でみると、「意向あり」は「未就学児がいる」人は46.6%、「未就学児はいない」人は38.9%となっており、「未就学児がいる」人の方が7.7ポイント高い。

図 109 社会貢献活動への参画意向（未就学児の有無別）



小学生の同居有無別でみると、「小学生がいる」人は「意向あり」が 44.9%、「小学生はいない」人は 38.8%で、「小学生がいる」人の方が「意向あり」が高くなっている。

「小学生がいる」人では「子育て支援、児童・青少年育成に関する活動」が 16.0%で最も高く、「小学生はいない」人では「自然・環境保護に関する活動」が 13.5%で最も高くなっている。

図 110 社会貢献活動への参画意向（小学生の有無別）

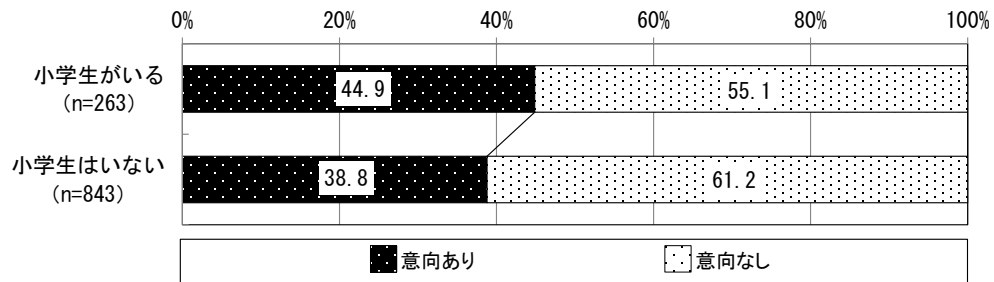
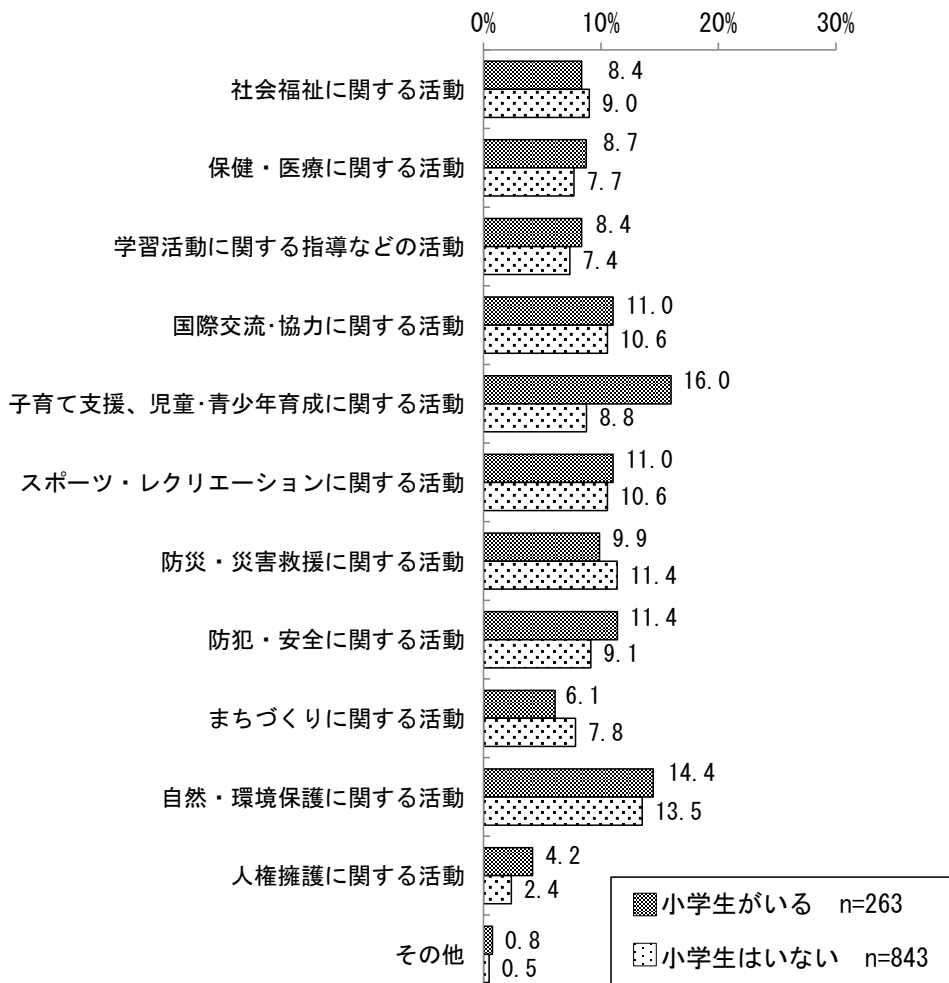
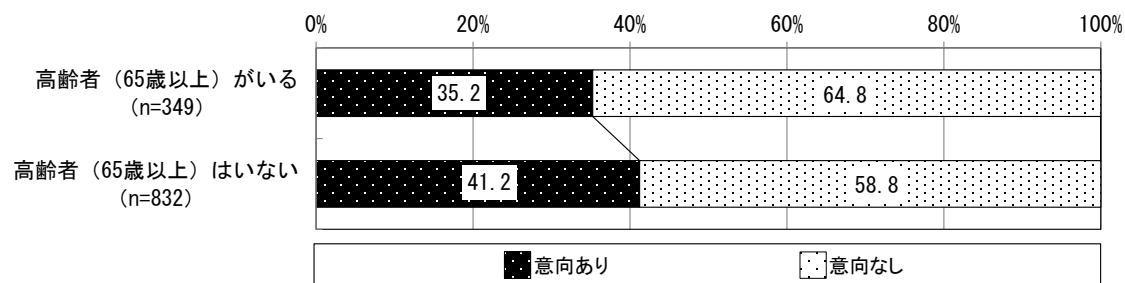


図 111 社会貢献活動への参画意向（小学生の有無別）



高齢者の同居有無別で見ると、「高齢者（65歳以上）がいる」人は「意向あり」が35.2%、「高齢者（65歳以上）はいない」人は「意向あり」は41.2%で、「いない」人の方が6.0ポイント高くなっている。

図 112 社会貢献活動への参画意向（高齢者の有無別）



(3) 重要度が高いと考える社会貢献活動

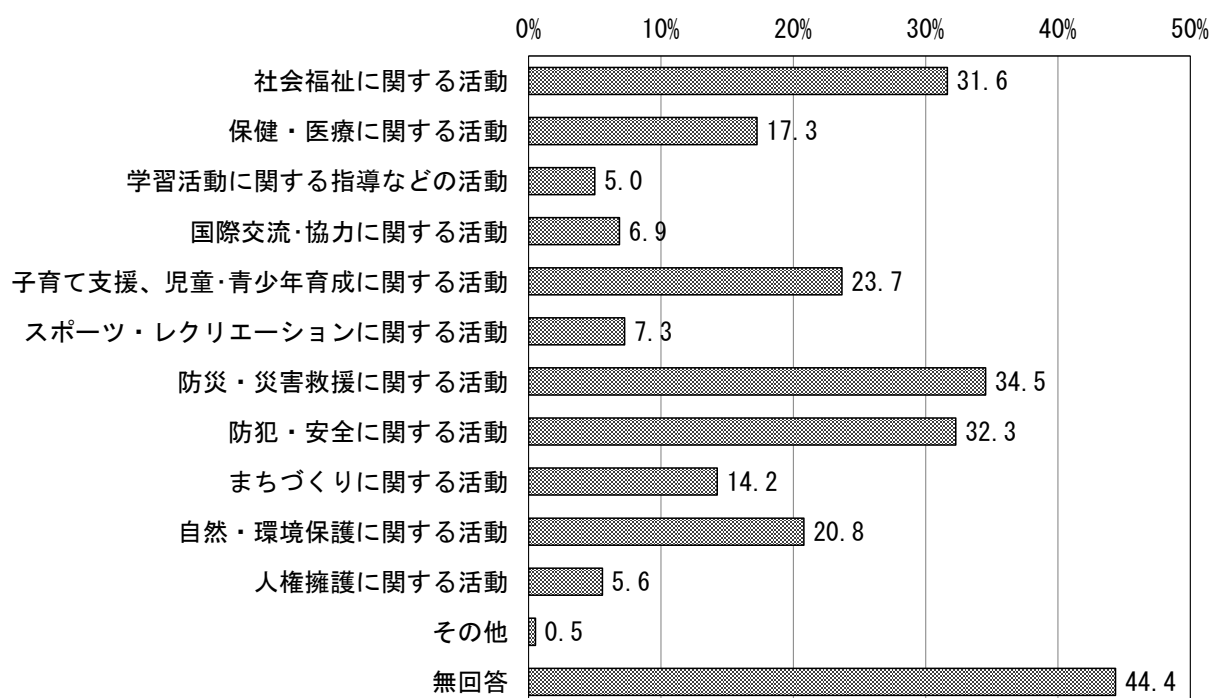
重要度が高い社会貢献活動は「防災・災害救援に関する活動」が最も高い

■全体の傾向

重要度が高いと考える社会貢献活動は「防災・災害救援に関する活動」が 34.5%と最も高く、次いで「防犯・安全に関する活動」32.3%、「社会福祉に関する活動」31.6%となっている。「学習活動に関する指導などの活動」が 5.0%で最も低くなっている。

問 18 あなたは、以下の 1)～12) の社会貢献活動について、今後、地域の中でより充実させていくべき、重要度が高いと考える活動がありますか。(〇はいくつでも) n=1,558

図 113 重要度が高いと考える社会貢献活動

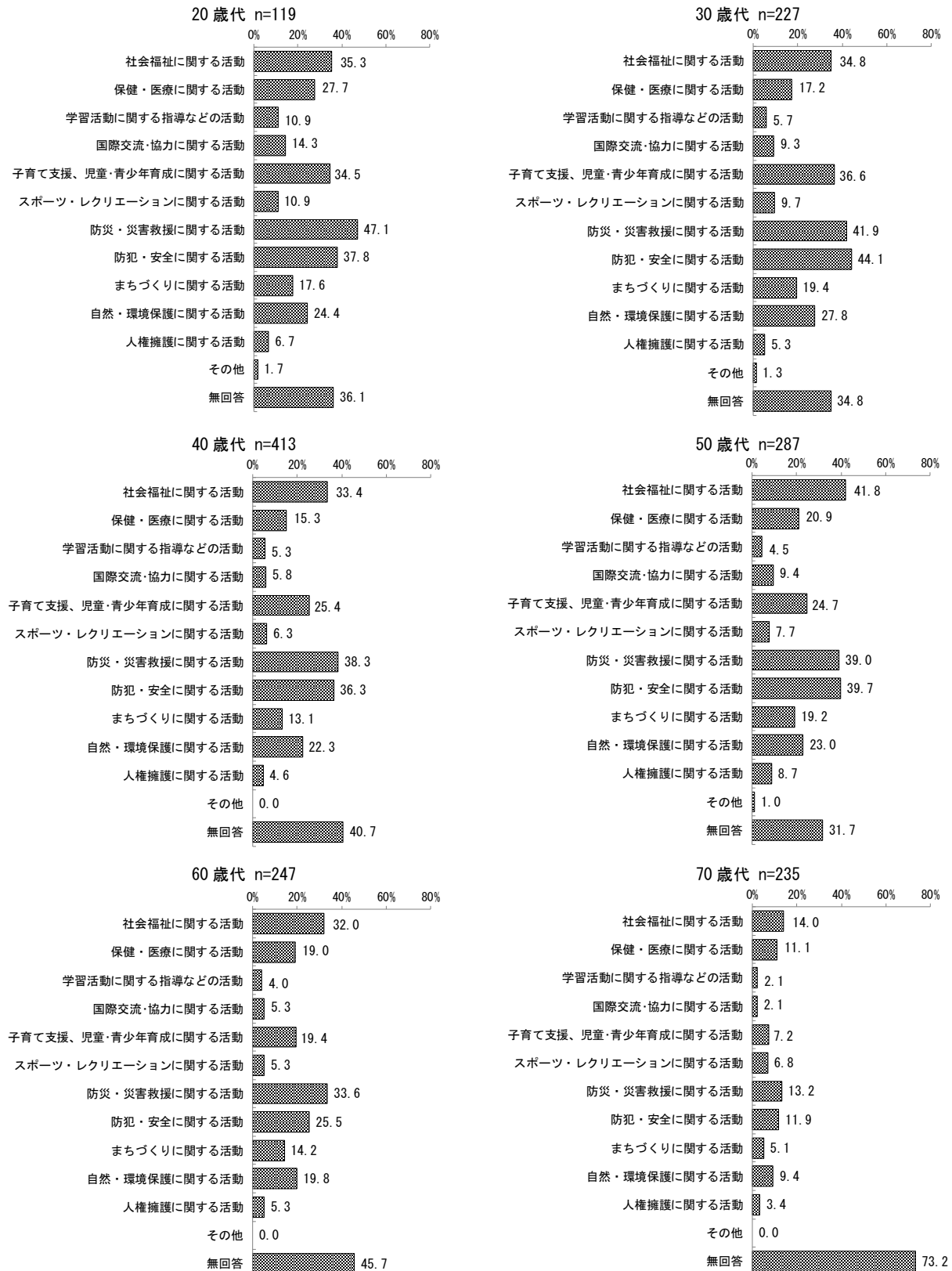


■回答者属性別に見る特徴

年代別にみると、どの年代も「防災・災害救援に関する活動」、「防犯・安全に関する活動」、「社会福祉に関する活動」の割合が高くなっている。

「防災・災害救援に関する活動」が最も高いのは「20 歳代」、「40 歳代」、「60 歳代」、「防犯・安全に関する活動」は「30 歳代」、「社会福祉に関する活動」は「50 歳代」、「70 歳代」になっている。

図 114 重要度が高いと考える社会貢献活動（年代別）



(4) 初めて社会貢献活動に参加したきっかけ

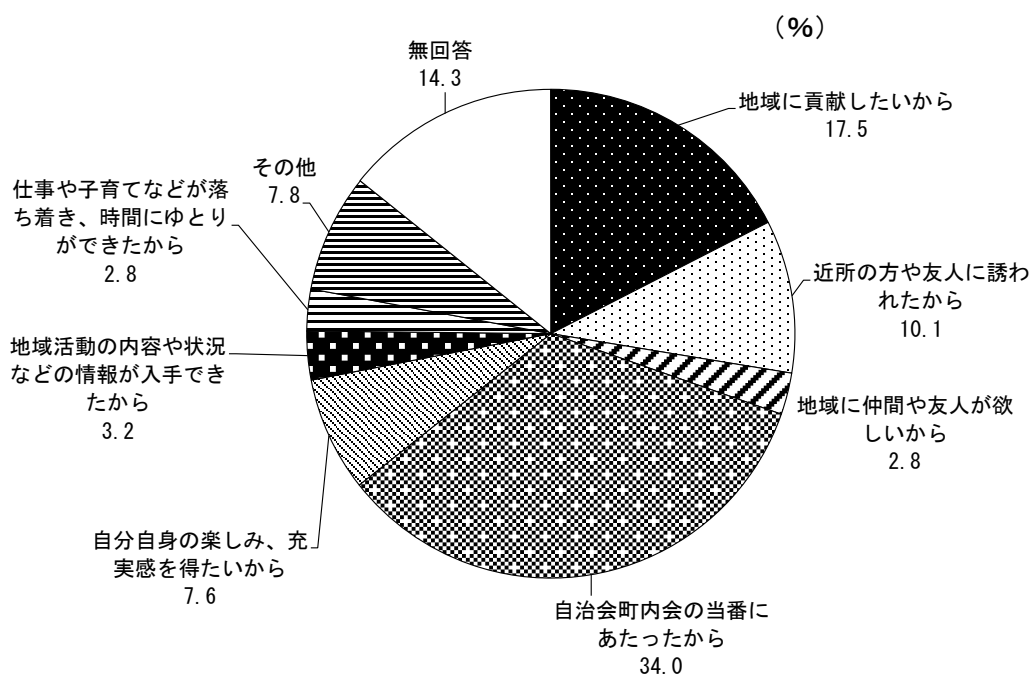
社会貢献活動に参加したきっかけは「自治会町内会の当番にあたったから」が最も高く 3 割超

■全体の傾向

初めて社会貢献活動に参加したきっかけは「自治会町内会の当番にあたったから」が 34.0%と最も高く、次いで「地域に貢献したいから」17.5%、「近所の方や友人に誘われたから」10.1%となっている。

問 18-1 問 18 (ア) で 1) から 12) にひとつでも○をつけた方にお聞きします。初めて社会貢献活動に参加したきっかけは、この中のどれにあたりますか。(○はひとつ) n=435

図 115 初めて社会貢献活動に参加したきっかけ



9. 子ども・子育て支援

(1) 子育て経験の有無

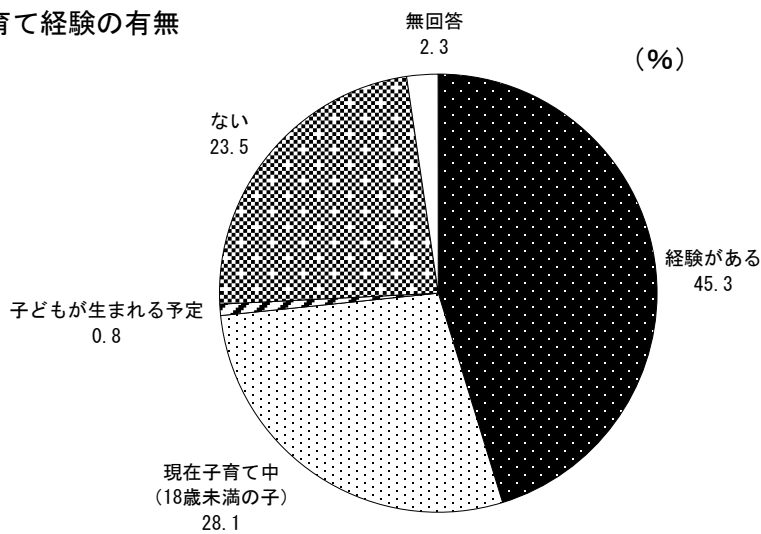
「経験がある」「現在子育て中（18歳未満の子）」と合わせて7割超

■全体の傾向

子育ての経験は「経験がある」が45.3%と最も高く、「現在子育て中（18歳未満の子）」28.1%と合わせると73.4%が子育て経験がある。

問 19 あなたは、子育ての経験がありますか。(〇はひとつ) n=1,558

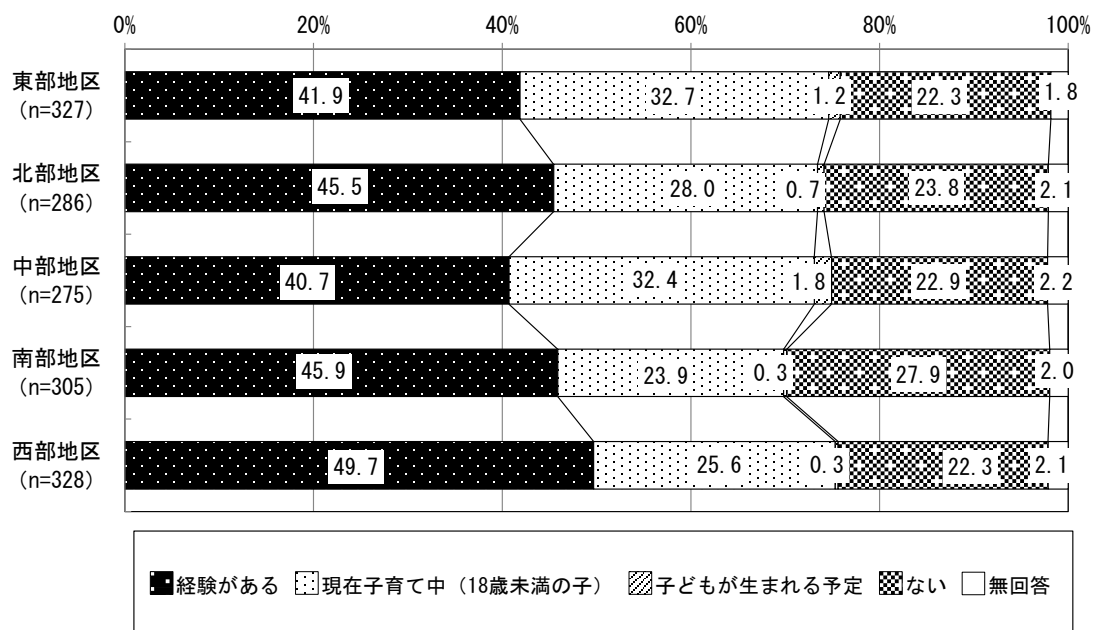
図 116 子育て経験の有無



■地区別に見る特徴

地区別にみると、「経験がある」は、「西部地区」が49.7%で最も高くなっている。「現在子育て中（18歳未満の子）」は「東部地区」と「中部地区」が3割を超え、「東部地区」が32.7%で最も高くなっている。

図 117 子育て経験の有無（地区別）



(2) 妊娠中の方に役に立つ情報

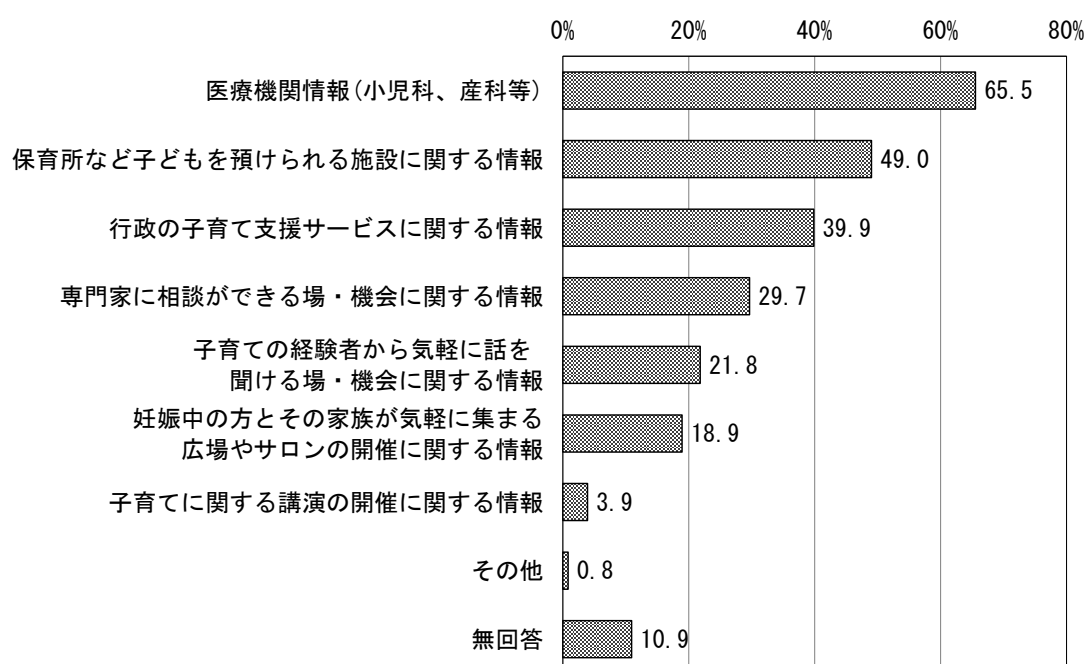
妊娠中の方にとって役立つ情報は「医療機関情報」が最も高く 7 割弱

■全体の傾向

妊娠中の人とその家族に役立つ情報は「医療機関情報(小児科、産科等)」が 65.5%と最も高く、次いで「保育所など子どもを預けられる施設に関する情報」49.0%、「行政の子育て支援サービスに関する情報」39.9%となっている。

問 20 あなたは、妊娠中の方とその家族にとって、どのような情報があると役に立つと思いますか。(〇は3つまで) n=1,558

図 118 妊娠中の方に役立つ情報



(3) 安心して子育てを行うために必要な施策

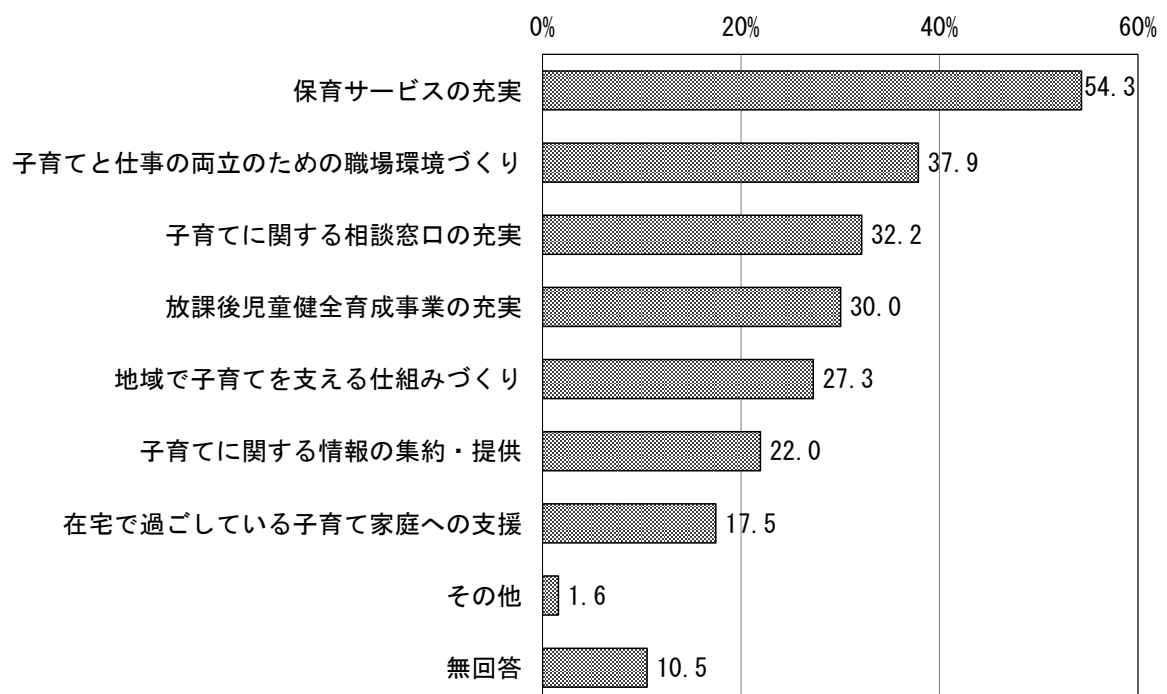
安心して子育てを行うために必要な施策は「保育サービスの充実」が最も高く 5 割超

■全体の傾向

安心して子育てを行うために必要な施策は、「保育サービスの充実」が 54.3%と最も高く、次いで「子育てと仕事の両立のための職場環境づくり」37.9%、「子育てに関する相談窓口の充実」32.2%となっている。

問 21 あなたは、安心して子育てを行うためには、どのような施策が必要だと思いますか。
(〇は3つまで) n=1,558

図 119 安心して子育てを行うために必要な施策



(4) 安心して子育てができる環境づくりのために取り組めそうなこと

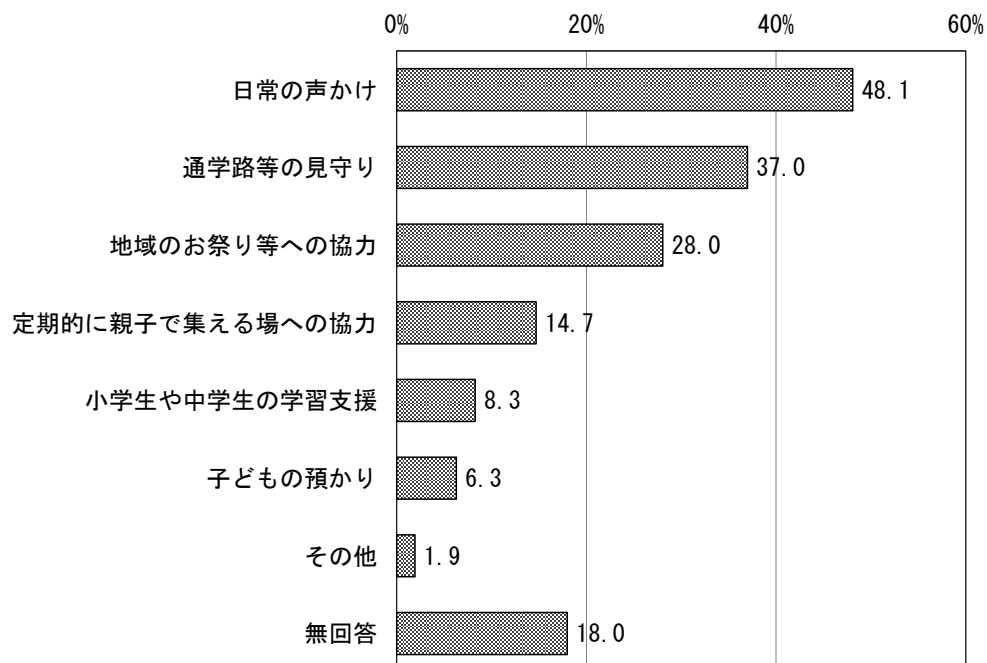
子育てのための環境づくりとして取り組めそうなことは「日常の声かけ」が最も高く 5 割弱

■全体の傾向

安心して子育てができる環境づくりのために取り組めそうなこととしては、「日常の声かけ」が 48.1 % と最も高く、次いで「通学路等の見守り」37.0%、「地域のお祭り等への協力」28.0%となっている。

問 22 安心して子育てができる環境づくりのために、あなた自身が行う取り組みは何ですか。(〇は3つまで) n=1,558

図 120 安心して子育てができる環境づくりのために取り組めそうなこと



(5) 虐待が疑われる児童に気がついた場合の対応

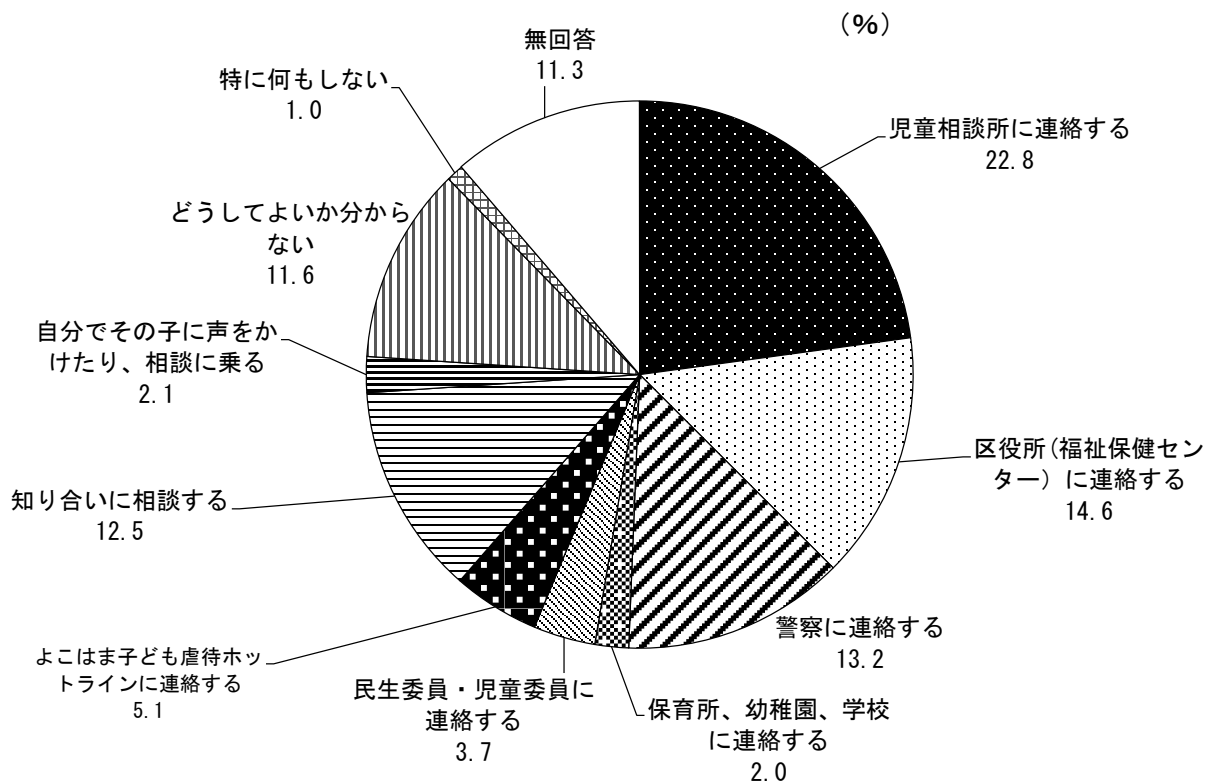
虐待の疑いに気づいた場合、「児童相談所に連絡する」が最も高く 2 割超

■全体の傾向

児童虐待が疑われる児童に気がついた場合の対応としては、「児童相談所に連絡する」が 22.8%と最も高く、次いで「区役所(福祉保健センター)に連絡する」14.6%、「警察に連絡する」13.2%となっている。

問 23 あなたは、児童虐待が疑われる児童に気がついた場合、どのような対応をとりますか。
(最もあてはまるものひとつに○) n=1,558

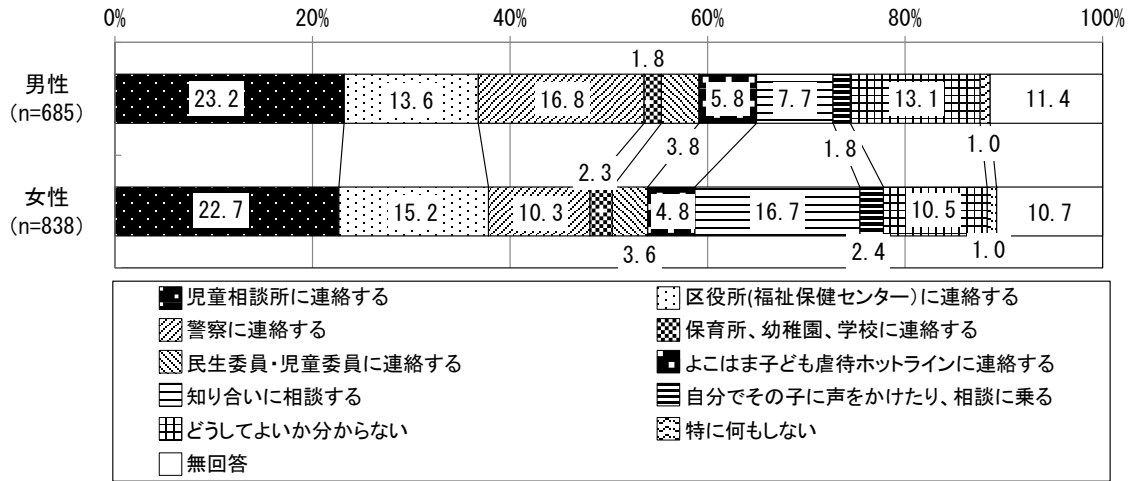
図 121 虐待が疑われる児童に気がついた場合の対応



■回答者属性別にみる特徴

性別でみると、全体的にほぼ同様の傾向であるが、「警察に連絡する」が「男性」が 16.8% に対して、「女性」は 10.3%、「知り合いに相談する」が「男性」が 7.7% に対して「女性」は 16.7% となっている。

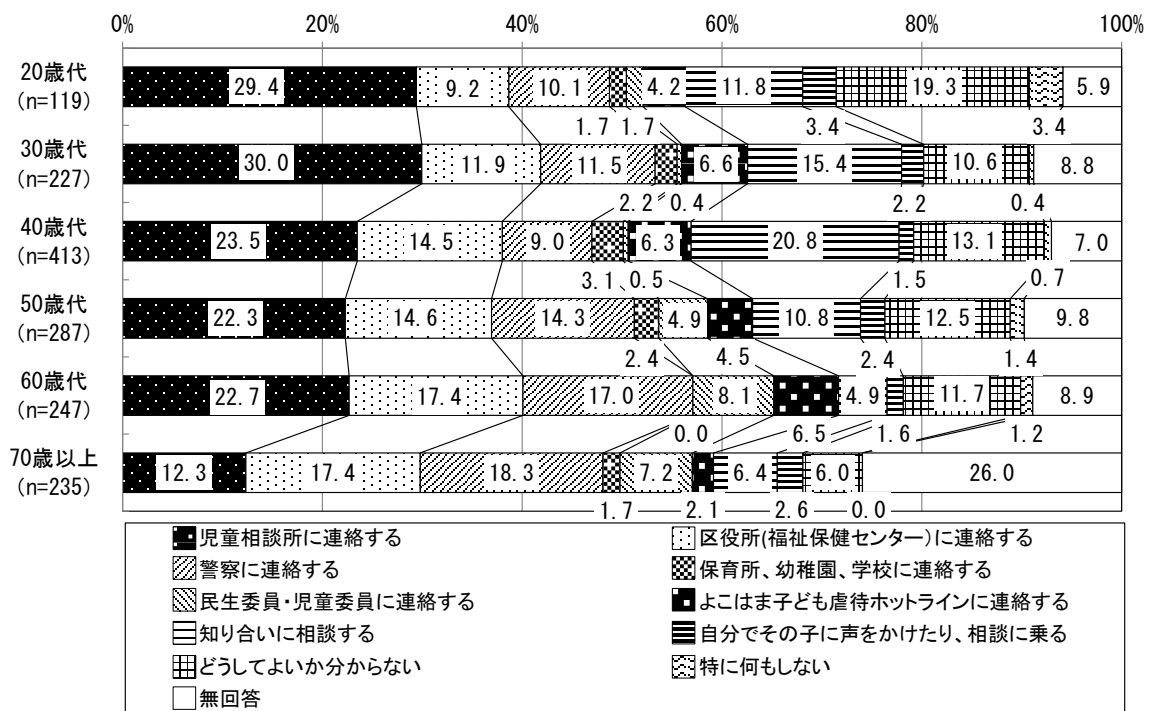
図 122 虐待が疑われる児童に気がついた場合の対応（性別）



年代別でみると、「20 歳代」から「60 歳代」までは「児童相談所に連絡する」が最も高くなっており、「70 歳以上」は「警察に連絡する」が最も高くなっている。

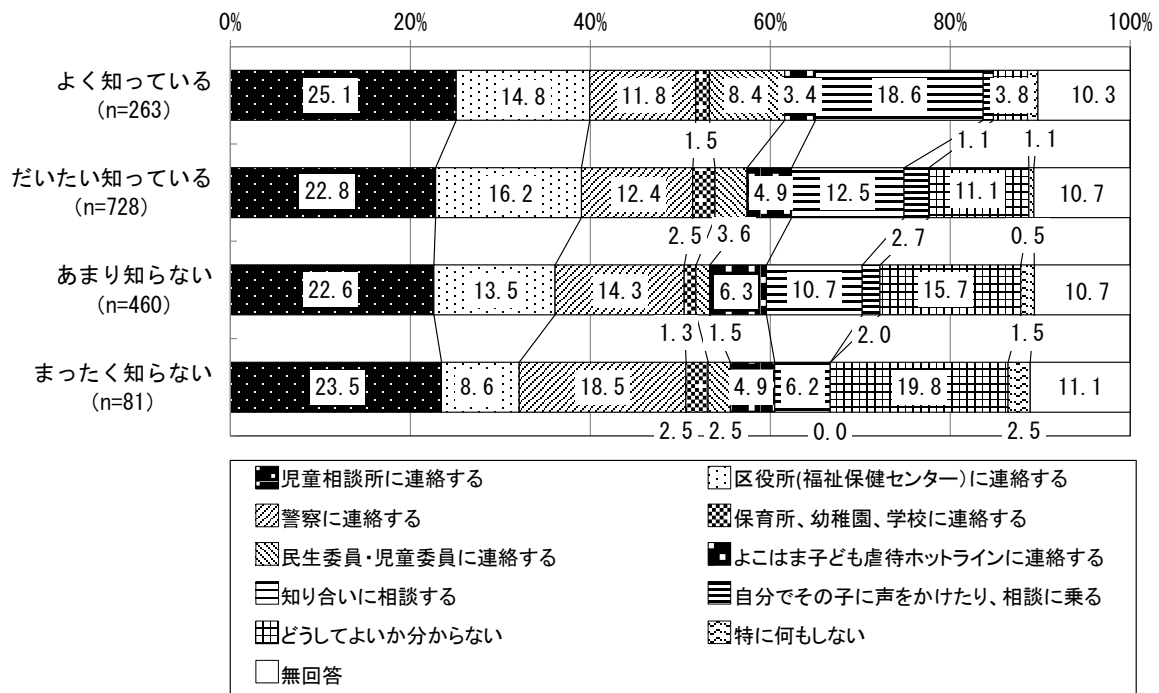
次いで高いのは「20 歳代」では「どうしてよいか分からない」、「30 歳代」、「40 歳代」は「知り合いに相談する」、「50 歳代」、「60 歳代」、「70 歳代」では「区役所(福祉保健センター)に連絡する」となっている。

図 123 虐待が疑われる児童に気がついた場合の対応（年代別）



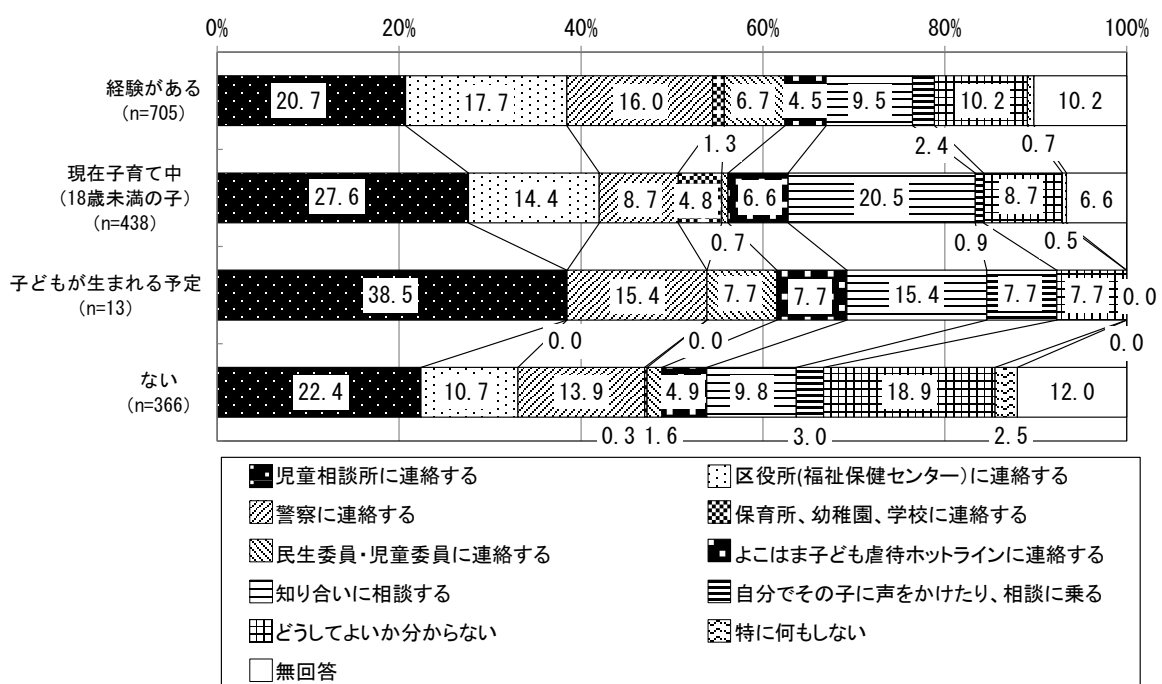
近所に住む人の認知別でみると、全体的に「児童相談所に連絡する」の割合が最も高くなっているが、近所の人を『知っている』ほど「知り合いに相談する」割合が高くなり、『知らない』ほど「どうしてよいか分からない」割合が高くなっている。

図 124 虐待が疑われる児童に気がついた場合の対応（近所に住む人の認知別）



子育て経験の有無別でみると、全体的に「児童相談所に連絡する」の割合が最も高くなっているが、「現在子育て中（18歳未満の子）」では「知り合いに相談する」、子育ての経験が「ない」では「どうしてよいか分からない」の割合も高くなっている。

図 125 虐待が疑われる児童に気がついた場合の対応（子育て経験の有無別）



10. 健康づくり

(1) 健康づくりの取り組みで重要だと思うこと、実際に取り組んでいること

重要だと思うこと、実際に取り組んでいることはともに「バランスよく食べる」が7割弱

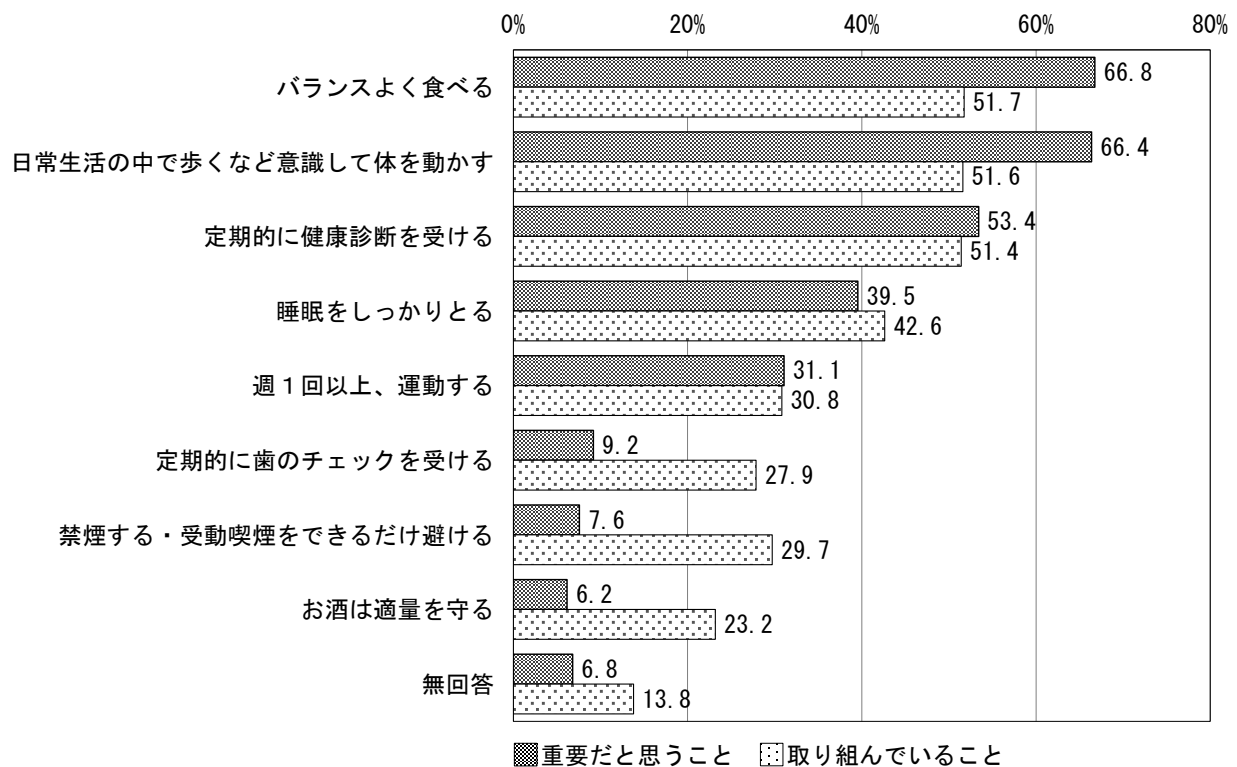
■全体の傾向

健康づくりの取り組みで重要だと思うことは「バランスよく食べる」が 66.8%と最も高く、次いで「日常生活の中で歩くなど意識して体を動かす」66.4%、「定期的に健康診断を受ける」53.4%となっている。

実際に取り組んでいることは「バランスよく食べる」が 51.7%と最も高く、次いで「日常生活の中で歩くなど意識して体を動かす」51.6%、「定期的に健康診断を受ける」51.4%となっている。

問 24 あなたが健康づくりの取組について重要だと思うことは何ですか。(○は3つまで)
また、ご自身が実際に取り組んでいることについても、下記の選択肢から当てはまるものすべてを選んで番号を記入してください。n=1,558

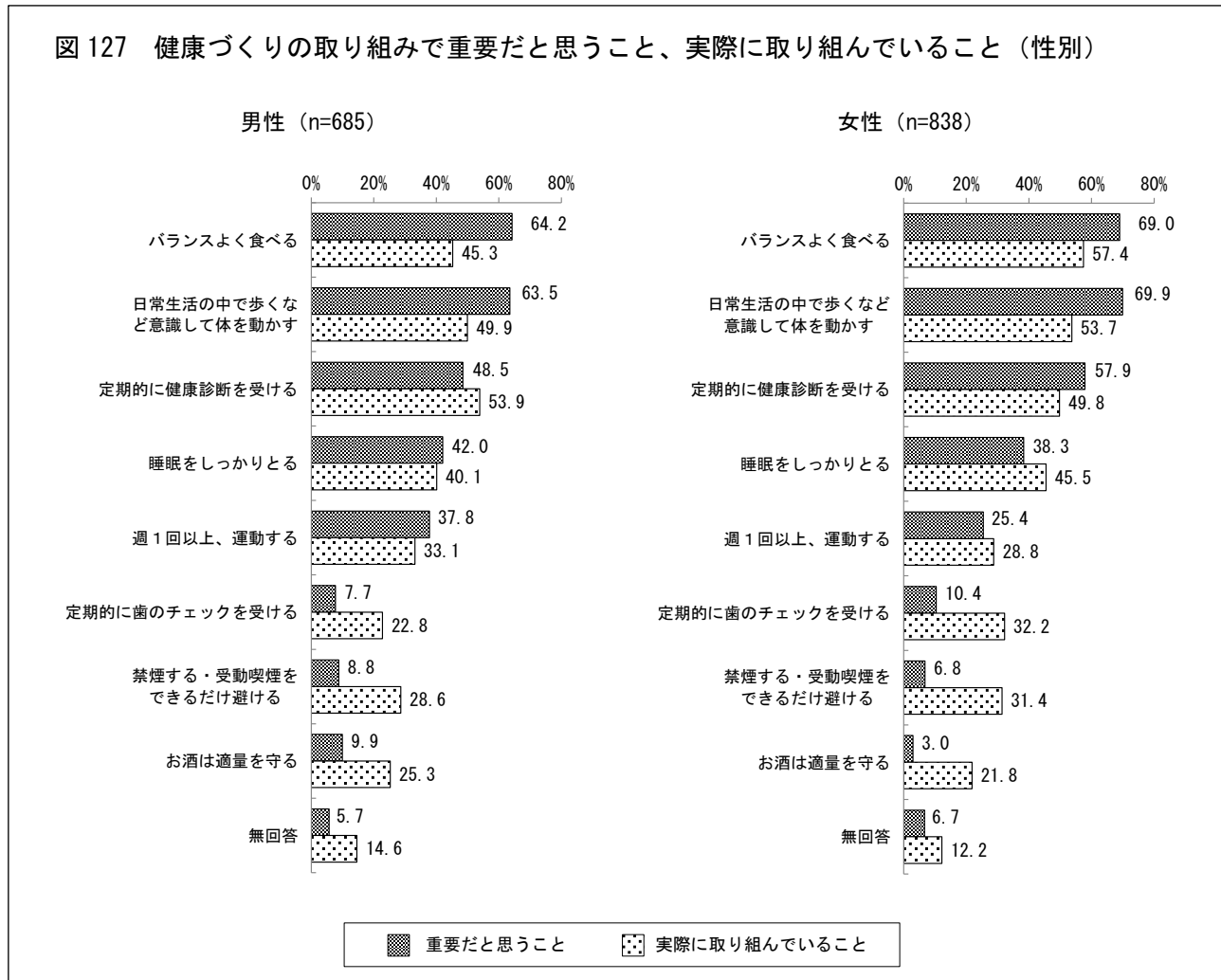
図 126 健康づくりの取り組みで重要だと思うこと、実際に取り組んでいること



■回答者属性別にみる特徴

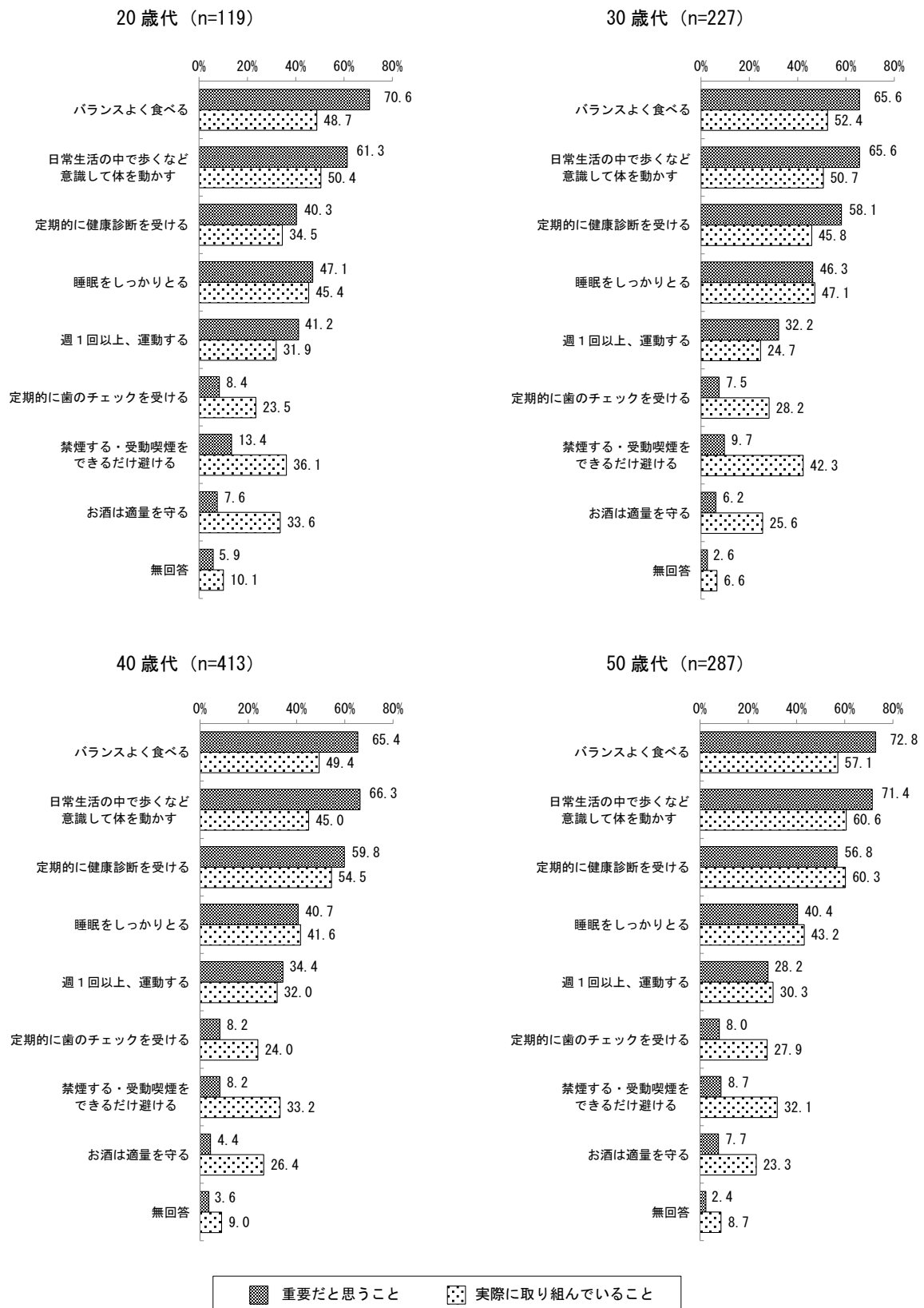
性別で見ると、全体的にはほぼ同様の傾向であるが、「男性」と「女性」で傾向に違いがあるのは、「男性」は、「定期的に健康診断を受ける」が「重要だと思う」割合より「実際に取り組んでいる」割合が高く、「女性」は、「実際に取り組んでいる」割合が低い。「男性」は、「睡眠をしっかりとる」、「週1回以上、運動する」が「重要だと思う」割合より「実際に取り組んでいる」割合が低く、「女性」は「実際に取り組んでいる」割合が高くなっている。

図 127 健康づくりの取り組みで重要だと思うこと、実際に取り組んでいること（性別）



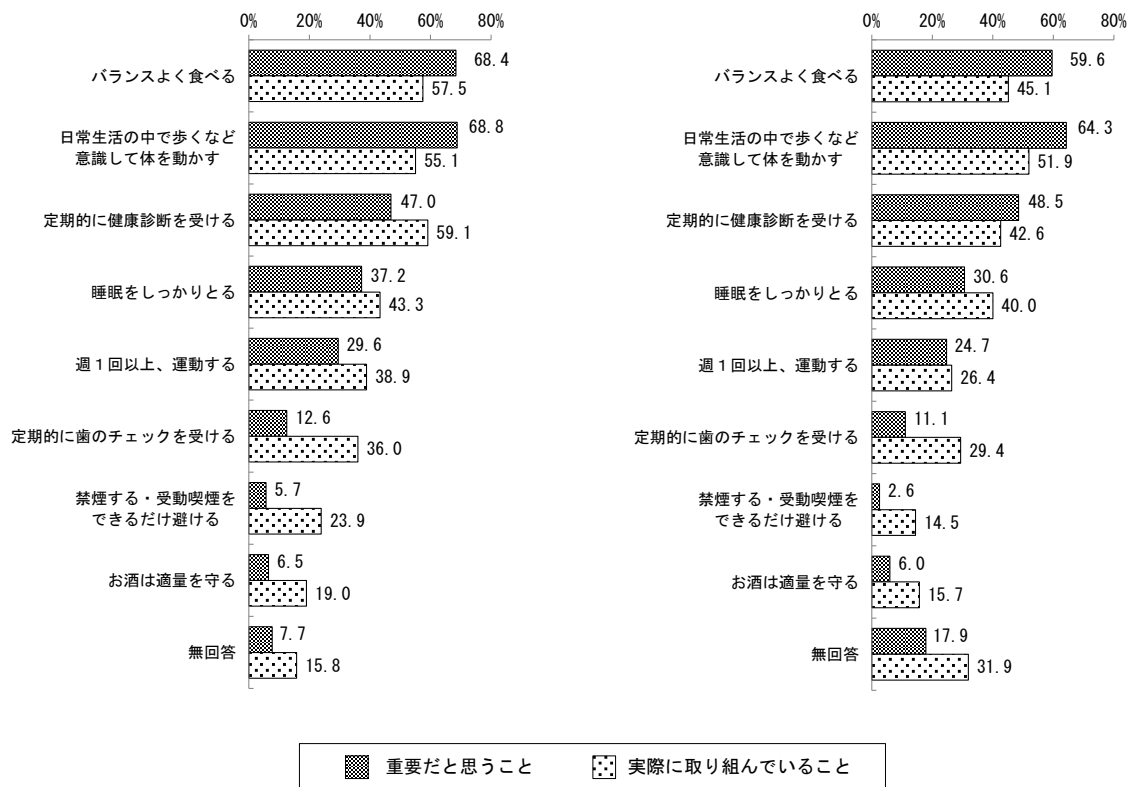
年代別でみると、全体的にはほぼ同様の傾向であるが、「50 歳代」、「60 歳代」は「定期的に健康診断を受ける」が「重要だと思う」割合よりも「実際に取り組んでいる」割合が高い。

図 128 健康づくりの取り組みで重要だと思うこと、実際に取り組んでいること（年代別）



60 歳代 (n=247)

70 歳以上 (n=235)



(2) 普段運動している場所

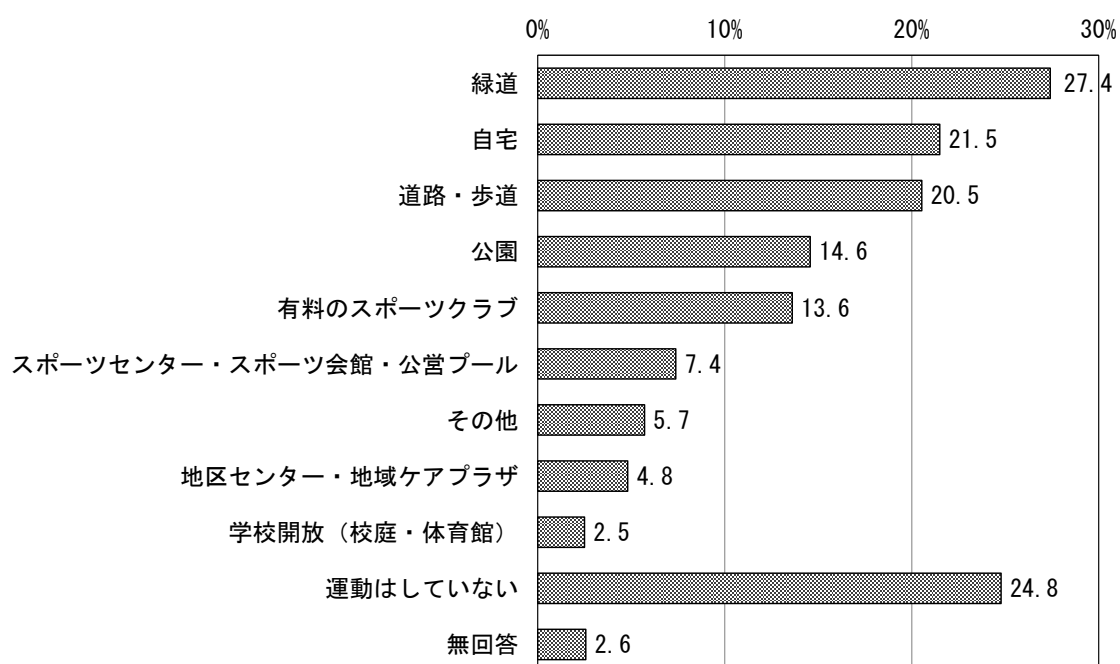
運動している場所は「緑道」が最も高く 3 割弱
「運動はしていない」は約 1 / 4

■全体の傾向

普段運動している場所は「緑道」が 27.4%と最も高く、次いで「自宅」21.5%、「道路・歩道」20.5%となっている。また、「運動はしていない」が 24.8%となっている。

問 25 あなたが普段運動している場所はどこですか。(〇はいくつでも。複数可) n=1,558

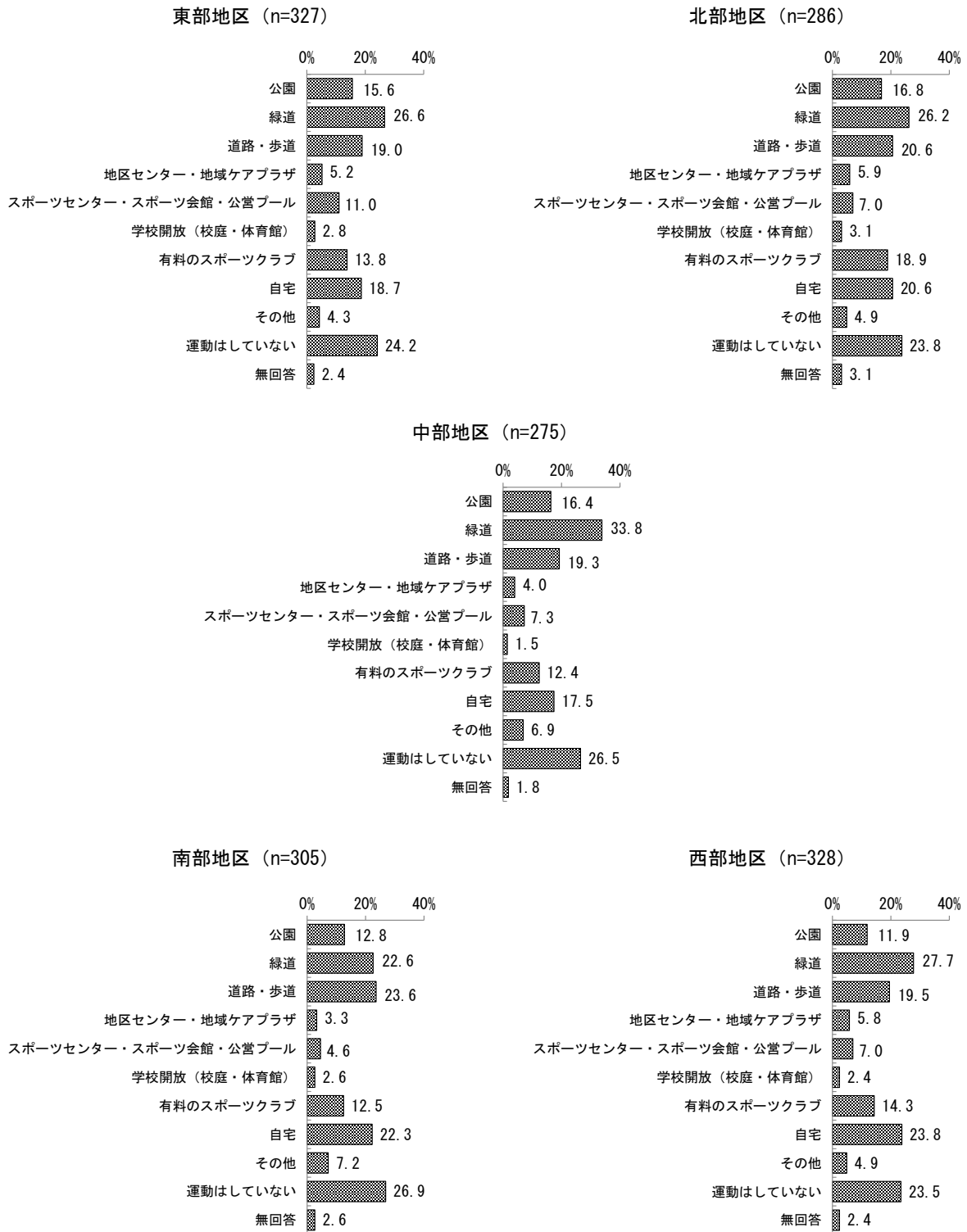
図 129 普段運動している場所



■地区別にみる特徴

地区別でみると、「緑道」が最も高いのは「中部地区」で 33.8%、最も低いのは「南部地区」で 22.6%。「南部地区」は「道路・歩道」が 23.6%で最も高い。

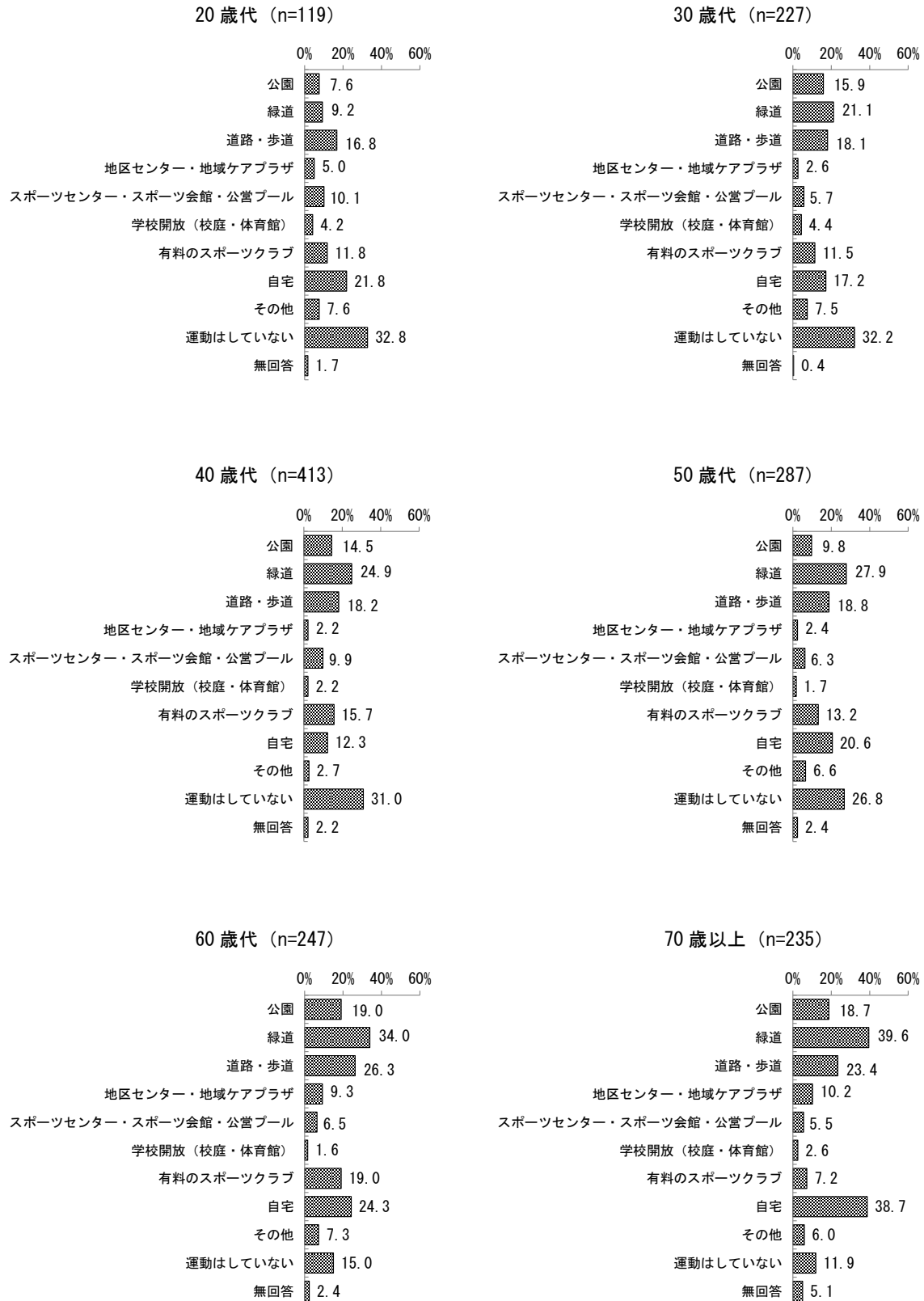
図 130 普段運動している場所（地区別）



■回答者属性別にみる特徴

年代別でみると、「20 歳代」は「自宅」が 21.8%で最も高く、それ以外の年代は「緑道」が最も高くなっている。

図 131 普段運動している場所（年代別）



11. 高齢者支援

(1) 高齢者の生活で特に不安なこと

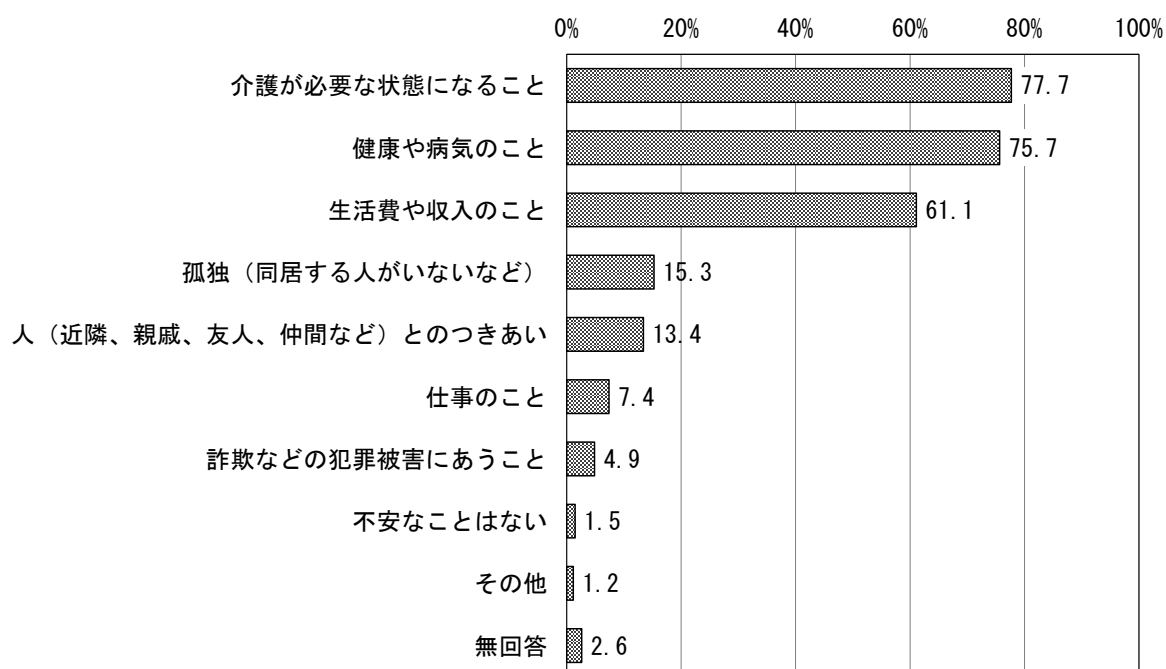
不安なことは「介護が必要な状態になること」「健康や病気のこと」「生活費や収入のこと」の割合が高い

■全体の傾向

高齢者の生活で特に不安なことは「介護が必要な状態になること」が 77.7%と最も高く、次いで「健康や病気のこと」75.7%、「生活費や収入のこと」61.1%となっている。

問 26 高齢者の生活で特に不安なことは何ですか。高齢者でない方は、将来を想定してお答えください。(〇は3つまで) n=1,558

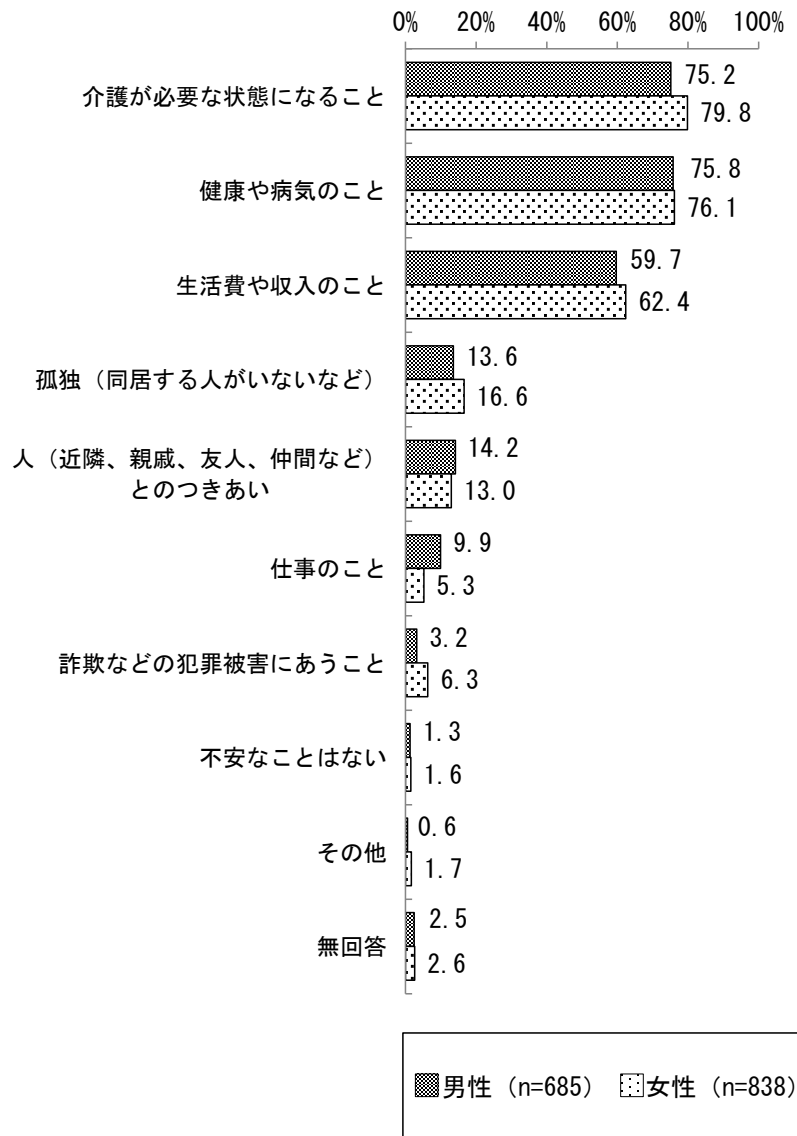
図 132 高齢者の生活で特に不安なこと



■回答者属性別にみる特徴

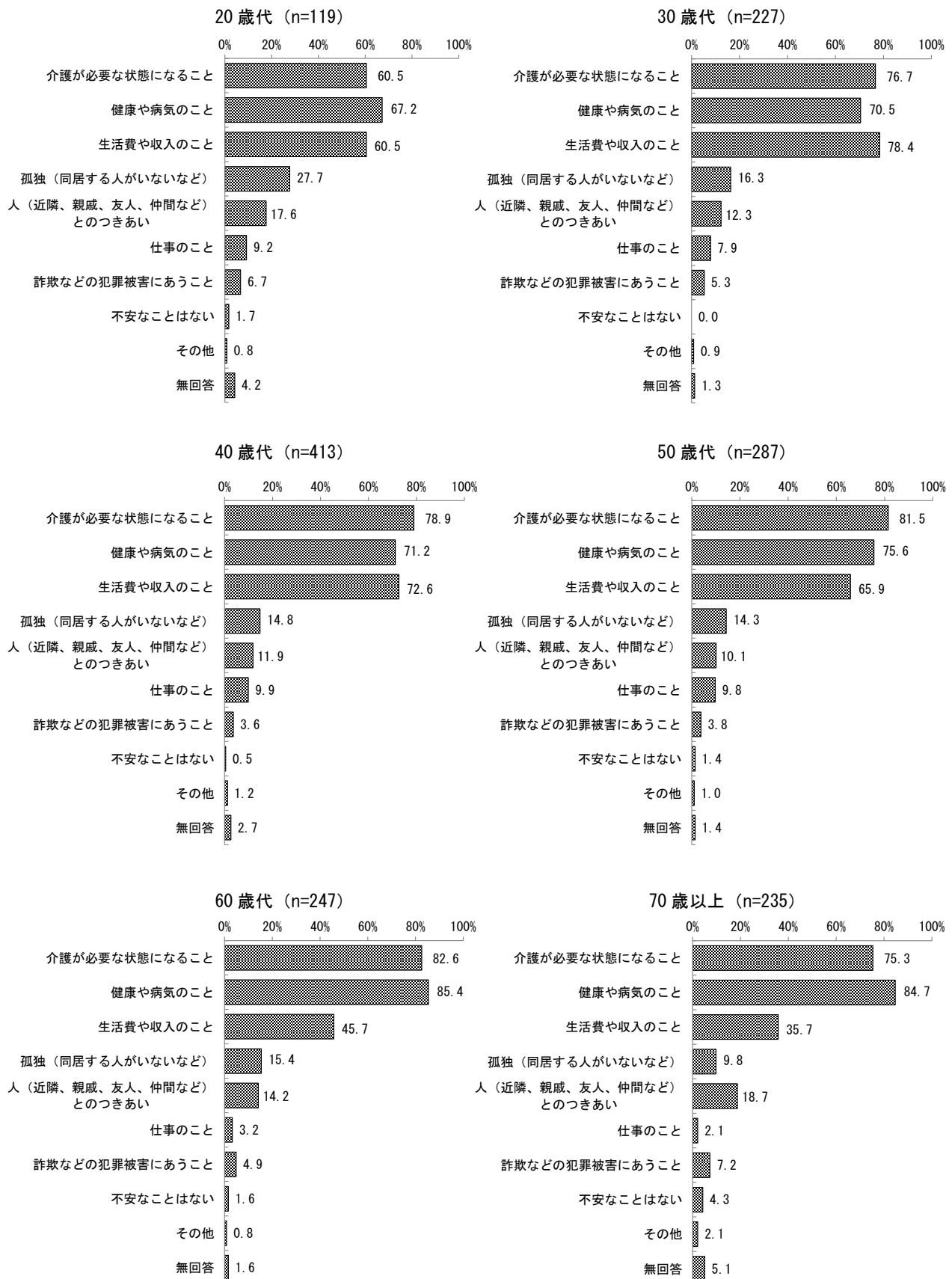
性別で見ると、「男性」は「健康や病気のこと」が最も高く、「女性」は「介護が必要な状態になること」が最も高くなっている。

図 133 高齢者の生活で特に不安なこと（性別）



年代別でみると、「20 歳代」、「60 歳代」、「70 歳以上」は「健康や病気のこと」が最も高く、「30 歳代」は「生活費や収入のこと」、「40 歳代」「50 歳代」は「介護が必要な状態になること」が最も高くなっている。

図 134 高齢者の生活で特に不安なこと（年代別）



(2) 高齢者人口の増加に対する支援や取組

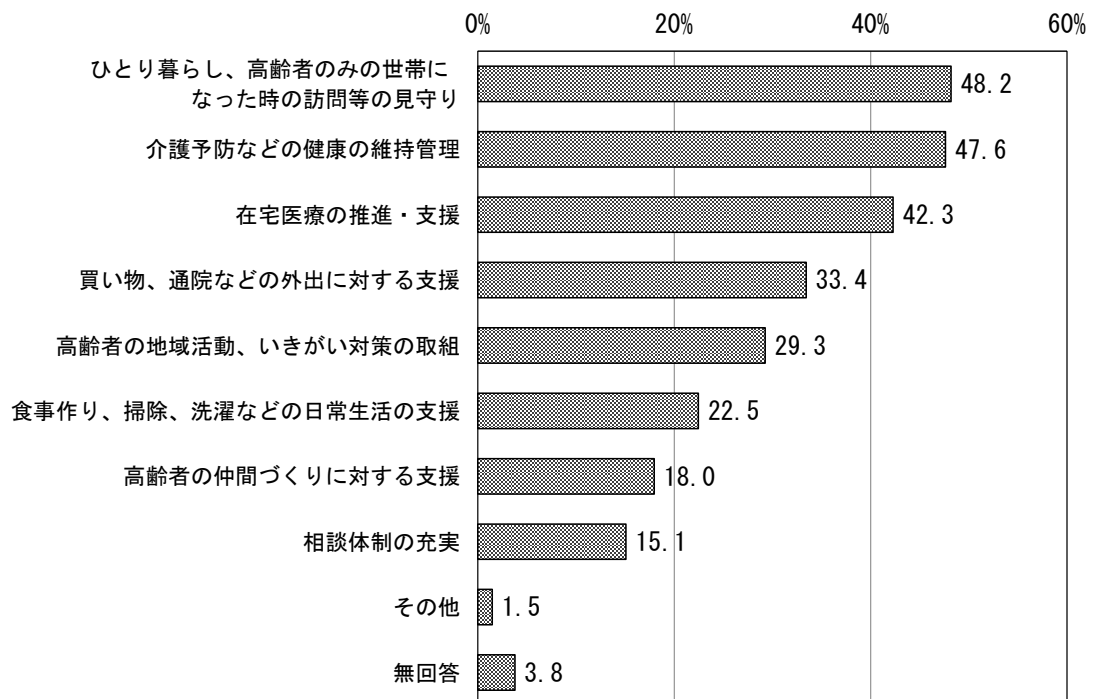
「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問等の見守り」が必要と考えている人が最も多い

■全体の傾向

高齢者人口が増加する中で必要な支援や取組については、「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問等の見守り」が 48.2%と最も高く、次いで「介護予防などの健康の維持管理」47.6%、「在宅医療の推進・支援」42.3%となっている。

問 27 あなたは、今後高齢者人口が増加する中でどのような支援や取組が必要だと考えますか。
(〇は3つまで) n=1,558

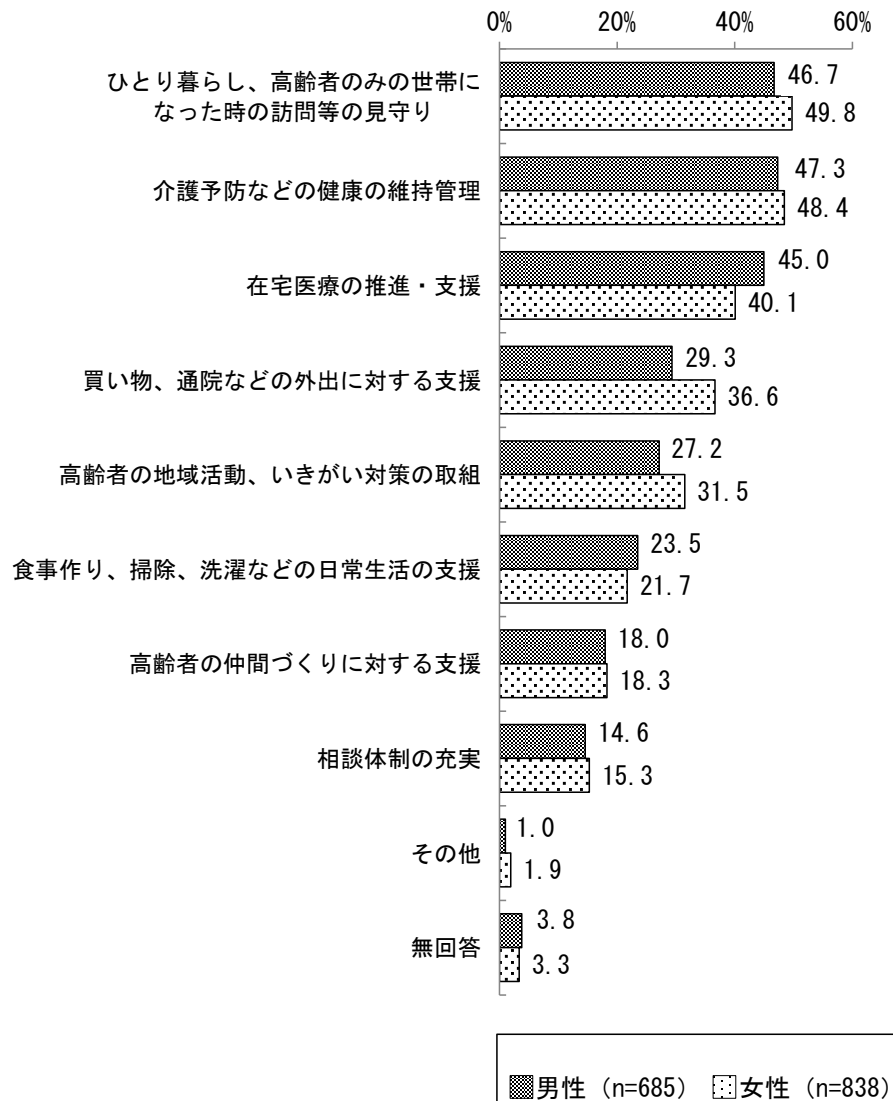
図 135 高齢者人口の増加に対する支援や取組



■回答者属性別にみる特徴

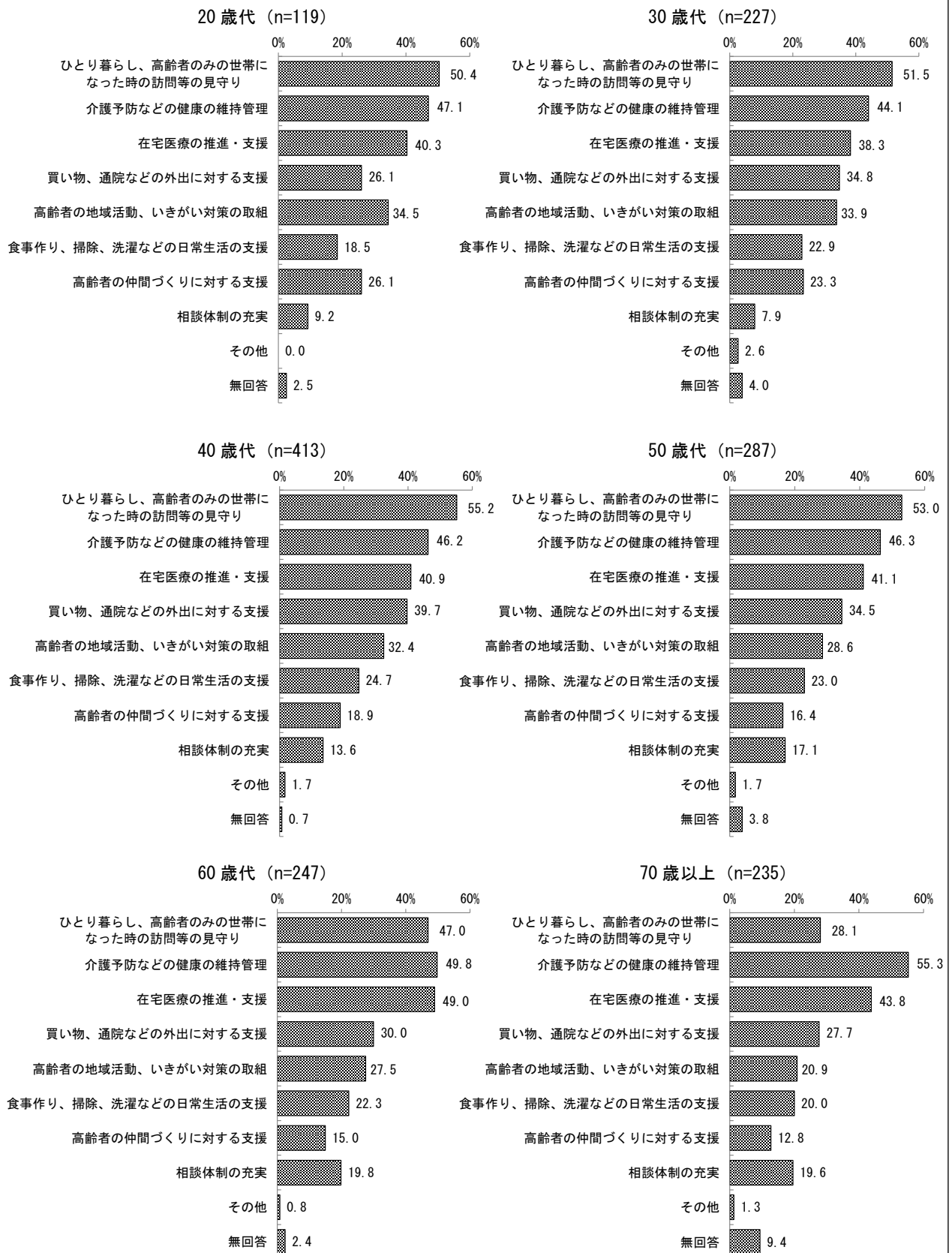
性別で見ると、「男性」の方が「女性」より「在宅医療の推進・支援」の割合がやや高く、「女性」は「男性」より「買い物、通院などの外出に対する支援」と「高齢者の地域活動、いきがい対策の取組」の割合が高くなっている。

図 136 高齢者人口の増加に対する支援や取組（性別）



年代別でみると、「20 歳代」から「50 歳代」までは「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問等の見守り」が 5 割超で最も高くなっているが、「60 歳代」「70 歳以上」は「介護予防などの健康の維持管理」が最も高い。特に「70 歳以上」は「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問等の見守り」が 3 割弱なのに対して、「介護予防などの健康の維持管理」が 5 割超になっている。

図 137 高齢者人口の増加に対する支援や取組（年代別）



12. 文化活動

(1) 日頃行っている文化活動・鑑賞

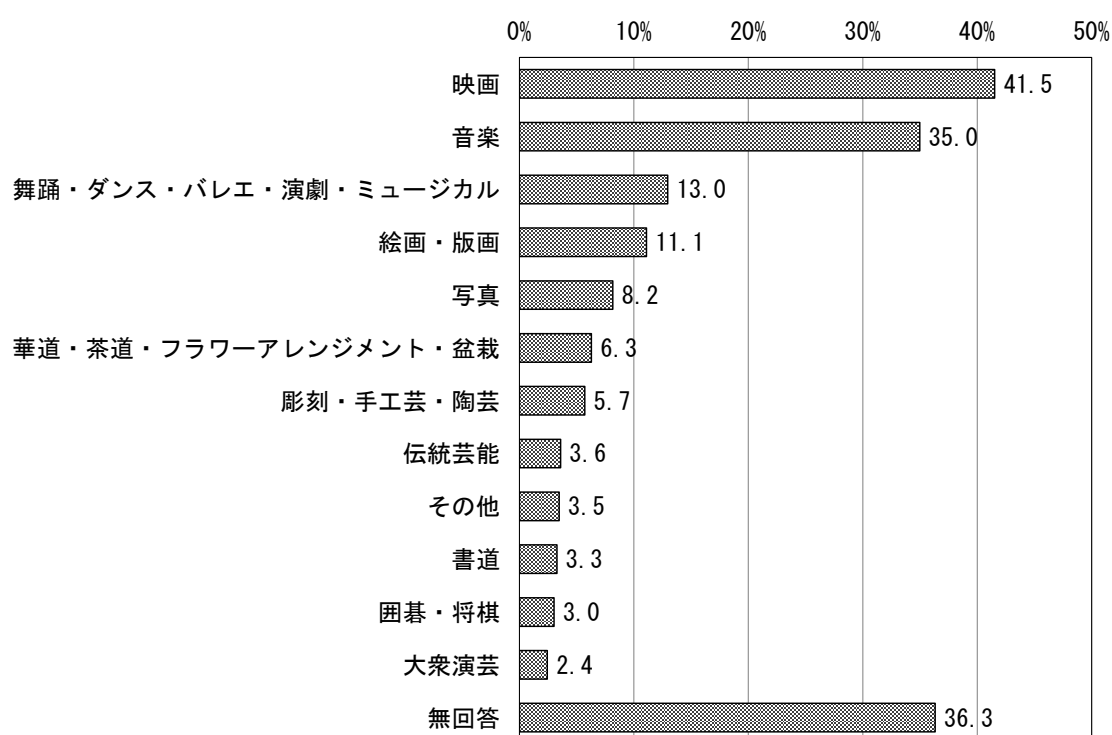
「映画」が最も高く、4割超、次いで「音楽」が、3割超

■全体の傾向

日頃行っている文化活動・鑑賞は、「映画」が 41.5%と最も高く、次いで「音楽」35.0%、「舞踊・ダンス・バレエ・演劇・ミュージカル」13.0%となっている。

問 28 あなたは、日頃、どのような文化活動・鑑賞を行っていますか。(〇はいくつでも)
n=1,558

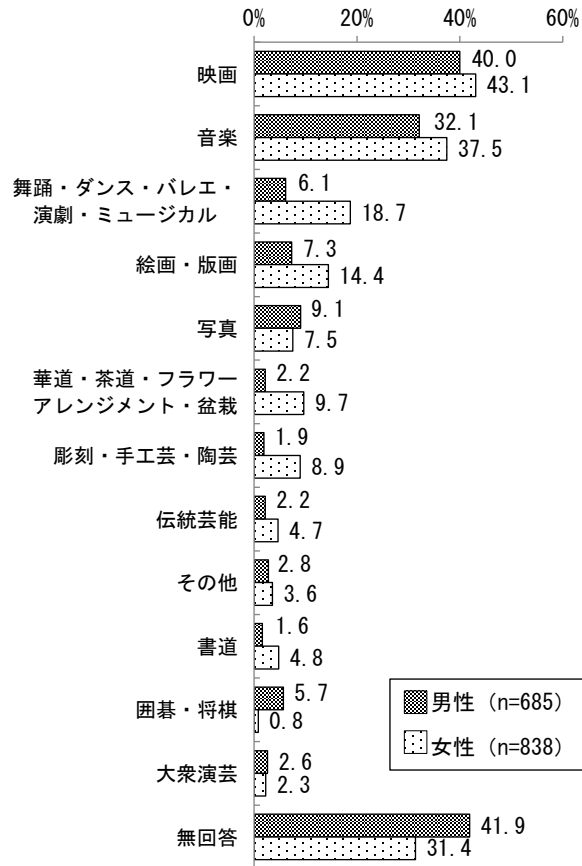
図 138 日頃行っている文化活動・鑑賞



■回答者属性別にみる特徴

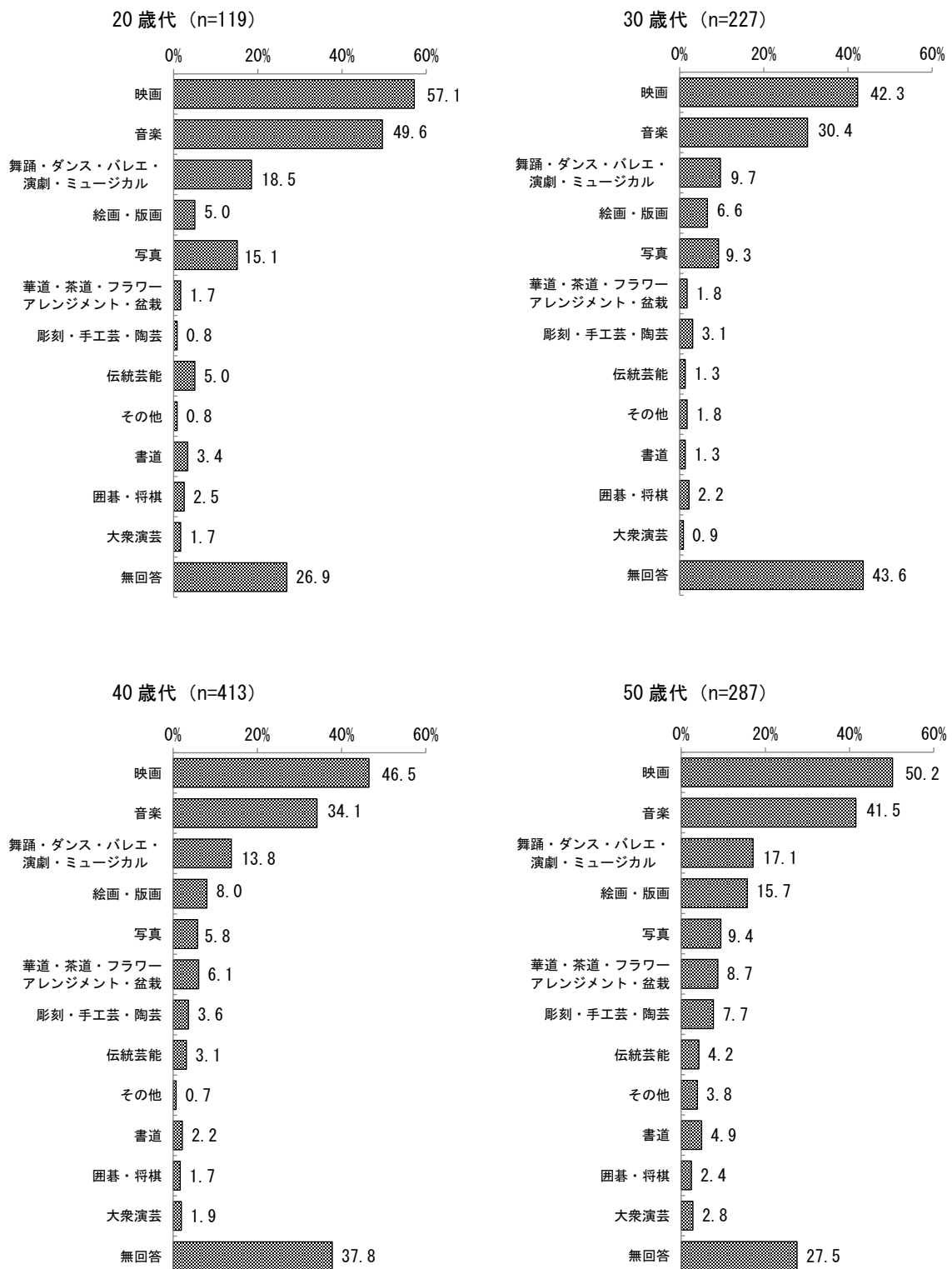
性別で見ると、「男性」は「写真」「囲碁・将棋」、「大衆演芸」が「女性」の割合より高くなっており、それ以外は「女性」の割合が高い。

図 139 日頃行っている文化活動・鑑賞（性別）

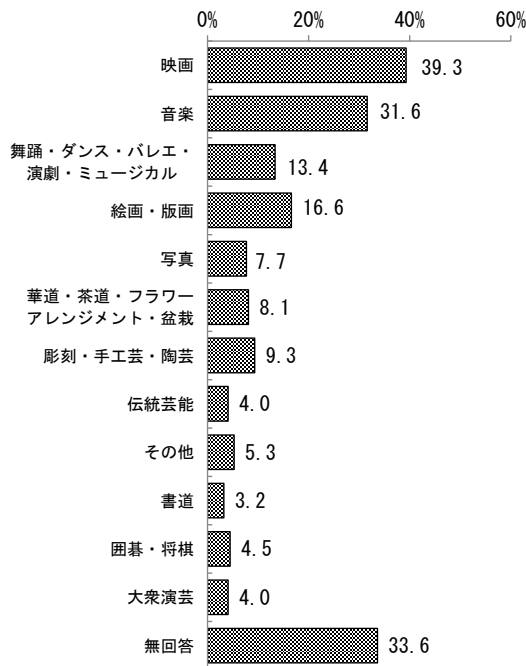


年代別でみると、全体的に「映画」「音楽」が高いが、「70 歳代」は「音楽」が最も高くなっており、それ以外は「映画」が最も高い。

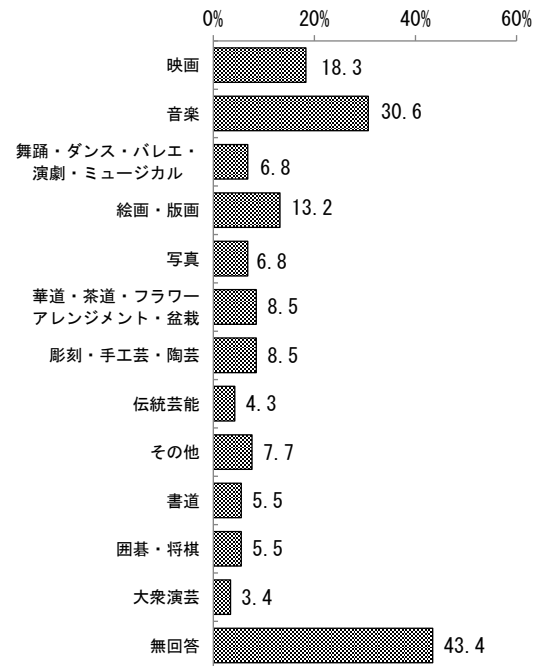
図 140 日頃行っている文化活動・鑑賞（年代別）



60 歳代 (n=247)



70 歳以上 (n=235)



(2) 将来行いたい文化活動・鑑賞

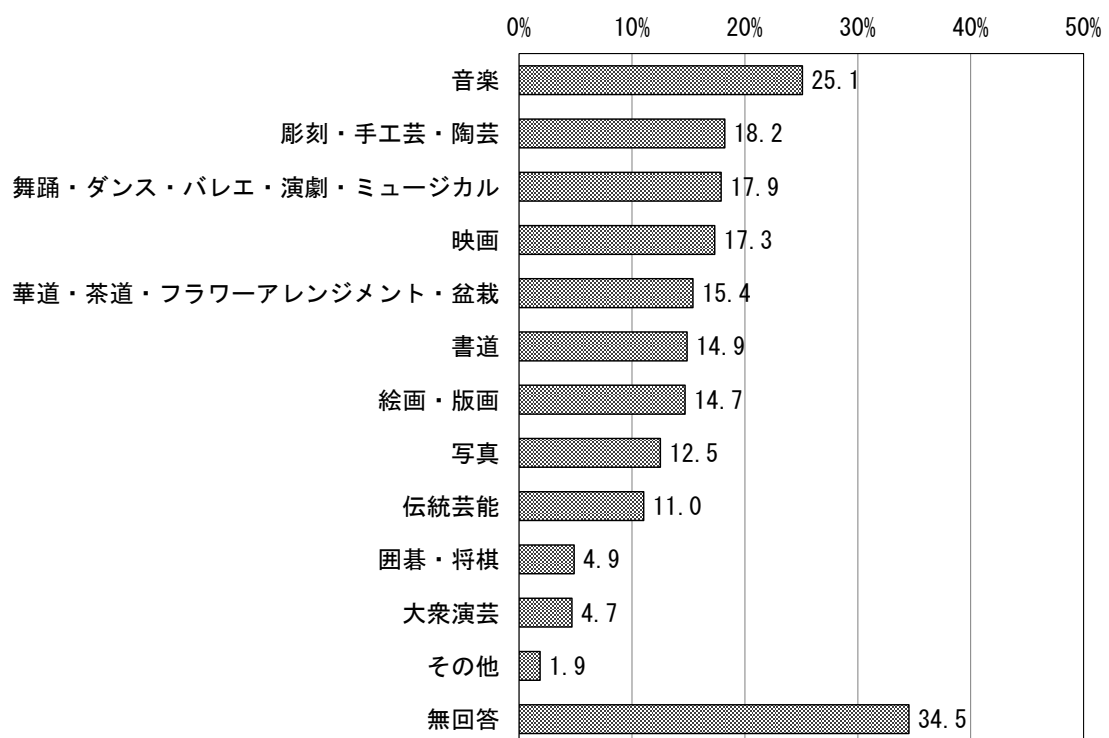
将来的に行ってみたい文化活動は「音楽」が最も高く約 1 / 4

■全体の傾向

将来的に行ってみたい文化活動・鑑賞は「音楽」が 25.1%と最も高く、次いで「彫刻・手工芸・陶芸」18.2%、「舞踊・ダンス・バレエ・演劇・ミュージカル」17.9%、「映画」17.3%となっている。

問 28 あなたは、将来的にどんな文化活動・鑑賞を行ってみたいですか。(〇はいくつでも)
n=1,558

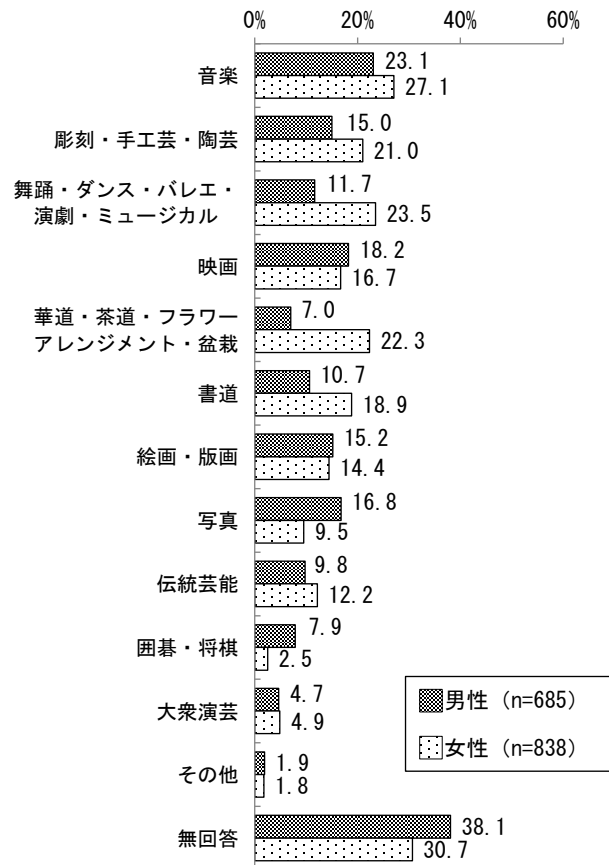
図 141 将来行いたい文化活動・鑑賞



■回答者属性別にみる特徴

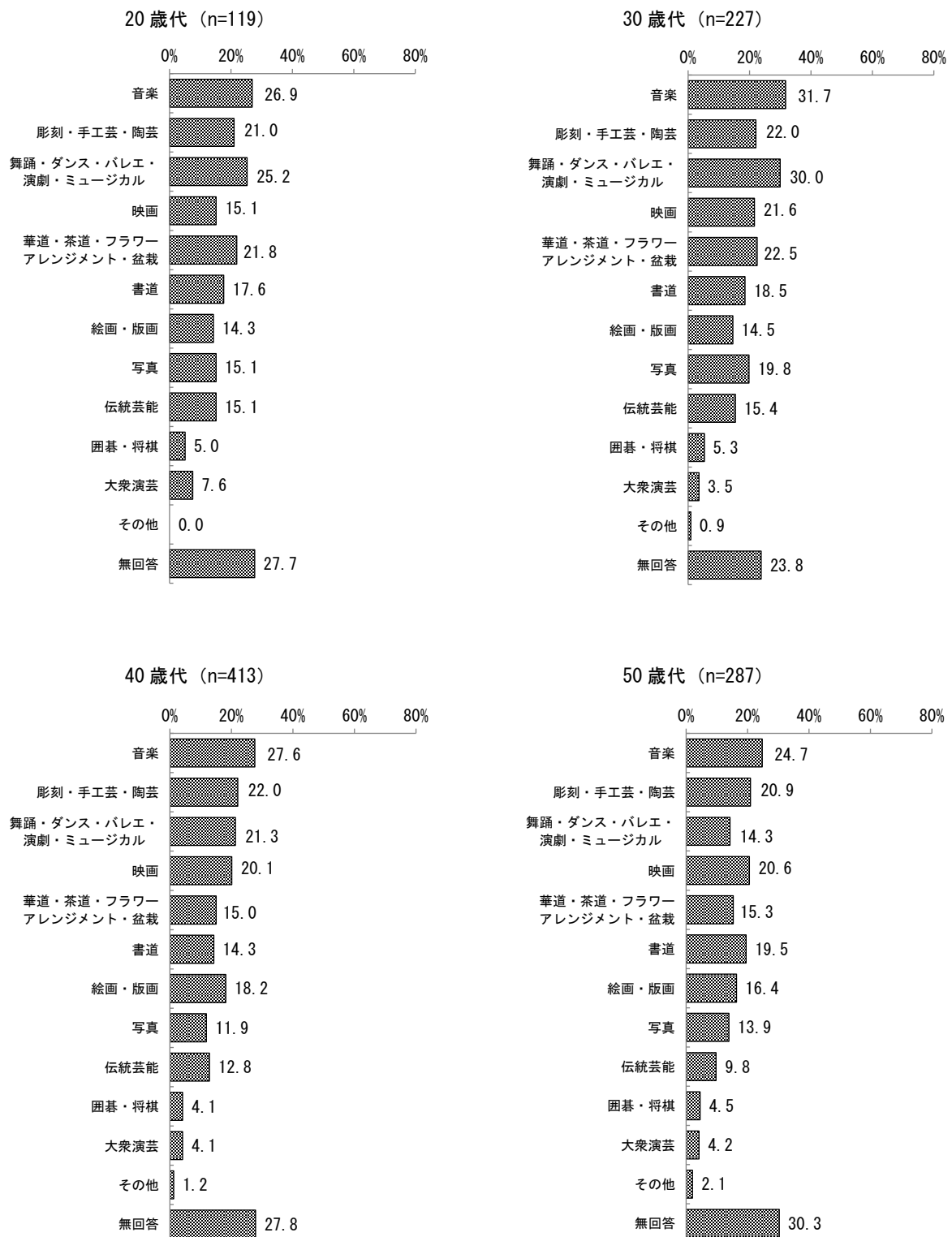
性別で見ると、「男性」「女性」とともに「音楽」が最も高くなっている。次いで「男性」は「映画」、「写真」であるが、「女性」は「舞踊・ダンス・バレエ・演劇・ミュージカル」、「華道・茶道・フラワーアレンジメント・盆栽」となっている。

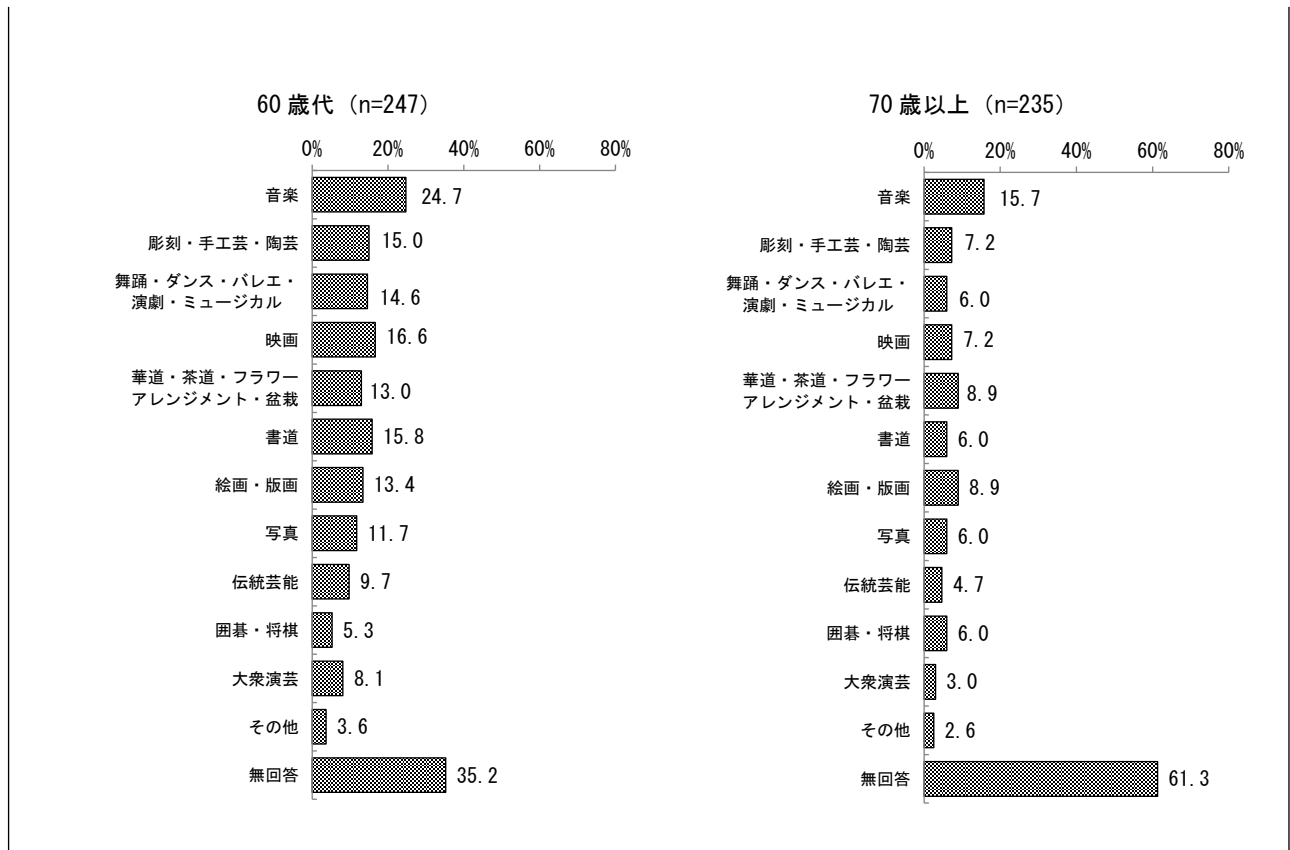
図 142 将来行いたい文化活動・鑑賞（性別）



年代別でみると、すべての年代で「音楽」が最も高くなっている。次いで「20 歳代」、「30 歳代」は「舞踊・ダンス・バレエ・演劇・ミュージカル」、「40 歳代」、「50 歳代」は「彫刻・手工芸・陶芸」、「60 歳代」は「映画」、「70 歳代」は「華道・茶道・フラワーアレンジメント・盆栽」、「絵画・版画」になっている。

図 143 将来行いたい文化活動・鑑賞（年代別）





(3) 文化活動を行っている場所

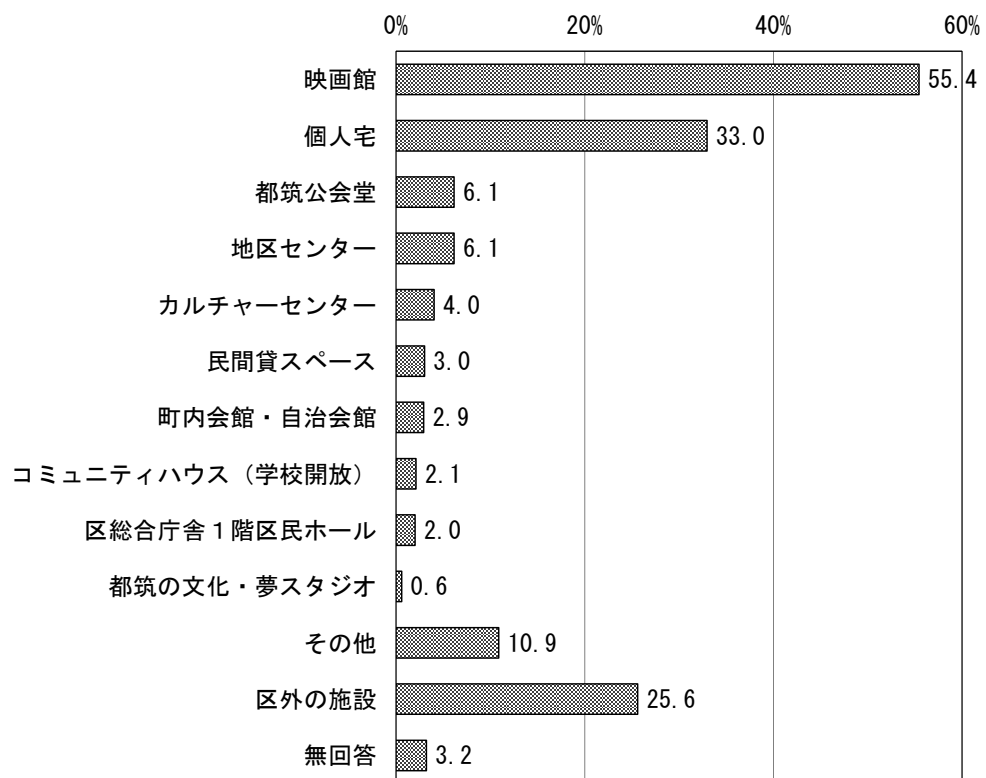
「映画館」が5割超で最も高く、次いで「個人宅」が3割超
「区外の施設」は約1/4

■全体の傾向

日頃行っている文化活動・鑑賞を行っている場所は、「映画館」が55.4%と最も高く、次いで「個人宅」33.0%、「都筑公会堂」、「地区センター」が同じ6.1%となっている。「区外の施設」は25.6%となっている。

問 28-1 問 28 でひとつでも「日頃行っている文化活動・鑑賞」の項目に○をつけた方のみにお聞きします。その活動・鑑賞はどこで行っていますか。(○はいくつでも) n=992

図 144 文化活動を行っている場所



(4) 文化活動の頻度

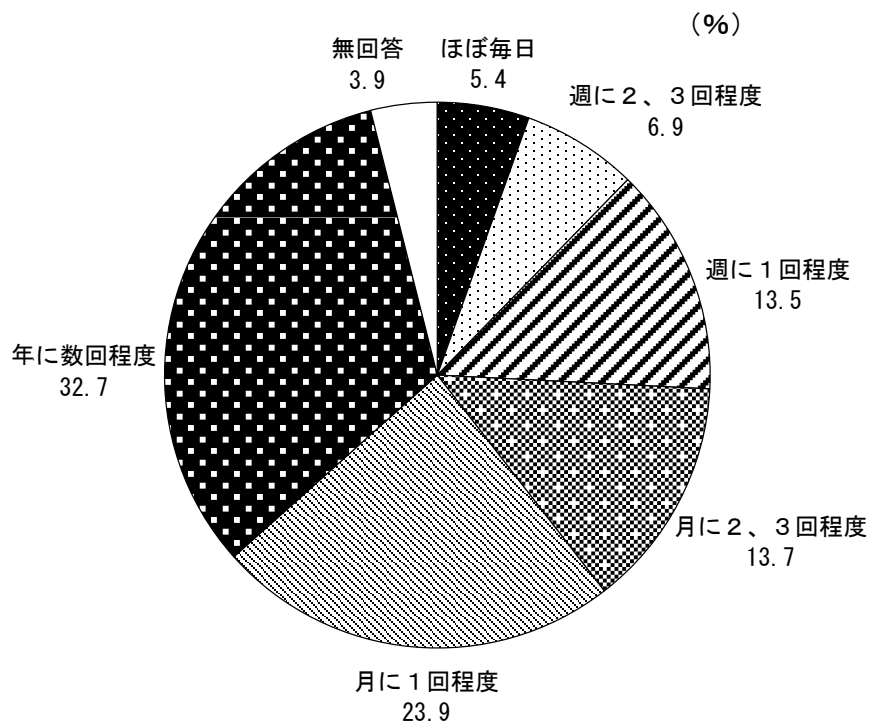
「年に数回程度」が3割超、「月に1回以上」は6割超

■全体の傾向

日頃行っている文化活動・鑑賞の頻度は、「年に数回程度」が32.7%と最も高く、次いで「月に1回程度」23.9%、「月に2、3回程度」13.7%となっている。「月に1回以上」は63.4%となっている。

問 28-2 問 28 でひとつでも「日頃行っている文化活動・鑑賞」の項目に○をつけた方のみにお聞きします。その活動・鑑賞はどのくらいの頻度で行っていますか。活動・鑑賞が複数ある方は、すべての活動を合わせた頻度についてお答えください。(○はひとつ)
n=992

図 145 文化活動の頻度



(5) 文化活動をするために必要な施設

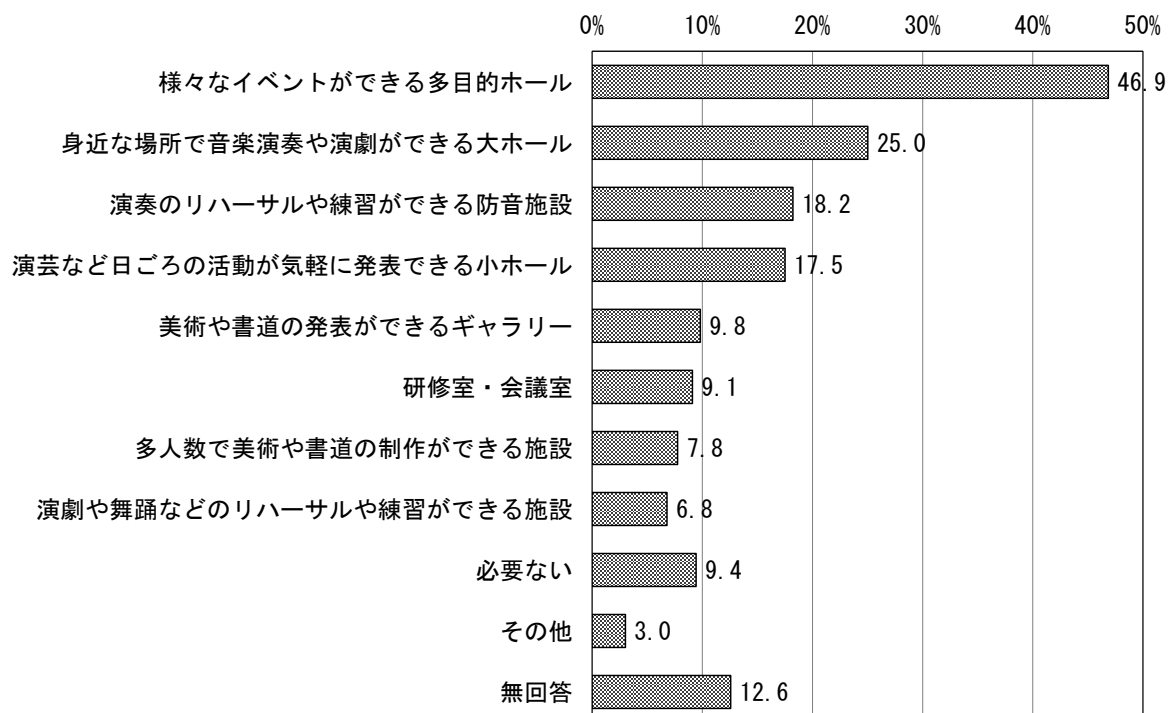
「様々なイベントができる多目的ホール」が5割弱

■全体の傾向

文化活動をするために必要な施設としては、「様々なイベントができる多目的ホール」が46.9%と最も高く、次いで「身近な場所で音楽演奏や演劇ができる大ホール」25.0%、「演奏のリハーサルや練習ができる防音施設」18.2%、「演芸など日ごろの活動が気軽に発表できる小ホール」は17.5%となっている。

問 29 文化活動をするにあたって、どのような施設が必要だと思いますか。(〇は3つまで)
n=1,558

図 146 文化活動をするために必要な施設



13. 道路・交通

(1) バスの利用頻度

「年に数回程度」が5割弱、「月に1回以上」も5割弱

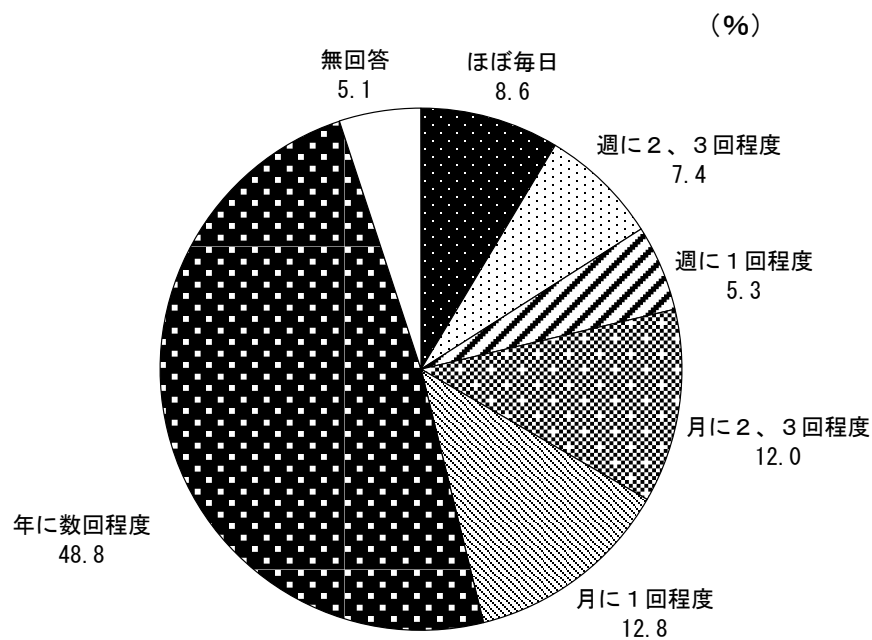
■全体の傾向

普段の外出でのバスの利用頻度は、「年に数回程度」が 48.8%と最も高く、次いで「月に1回程度」12.8%、「月に2、3回程度」12.0%となっている。

「月に1回以上」の割合は46.1%となっている。

問 30 あなたは、普段の外出で、バスをどのくらいの頻度で利用しますか？（○はひとつ）
n=1,558

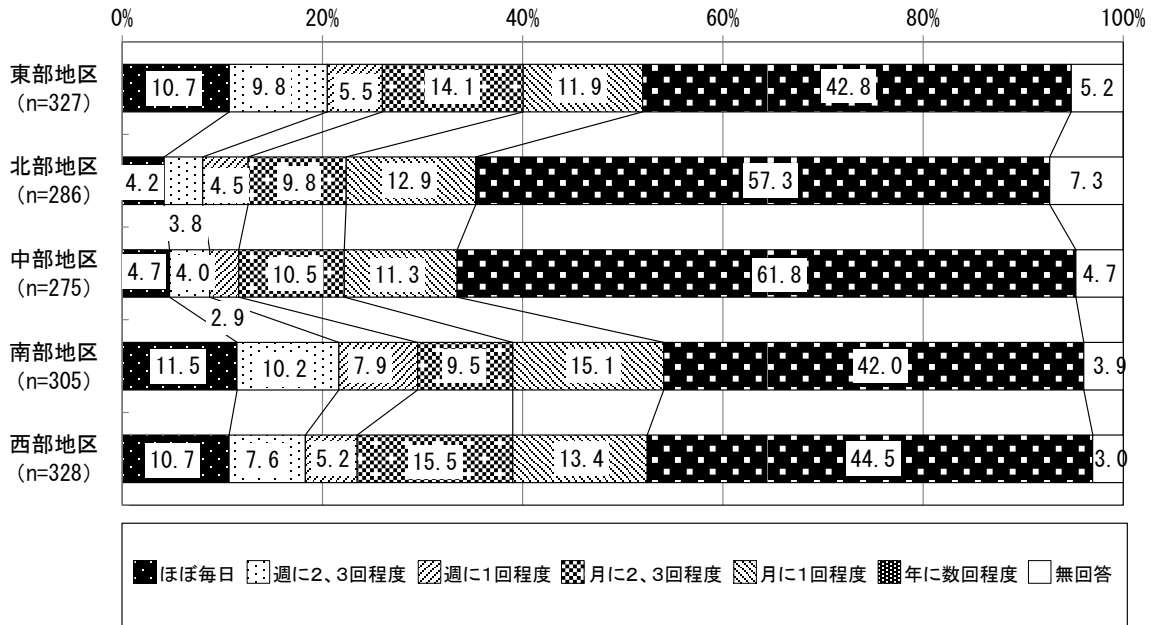
図 147 バスの利用頻度



■地区別にみる特徴

地区別でみると、すべての地区で「年に数回程度」が最も高くなっている。「東部地区」、「南部地区」、「西部地区」では「年に数回程度」は4割超で「ほぼ毎日」は1割前後なのに対し、「北部地区」、「中部地区」は「年に数回程度」が6割前後になっている。

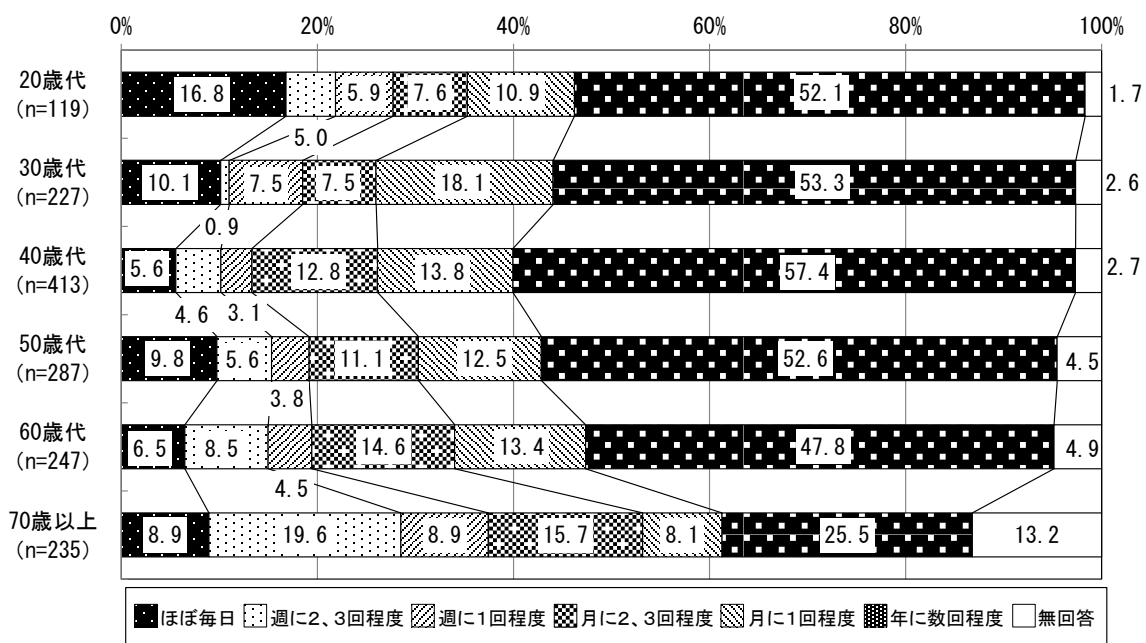
図 148 バスの利用頻度（地区別）



■回答者属性別にみる特徴

年代別でみると、「ほぼ毎日」が最も高いのは「20歳代」で16.8%、「週に2、3回程度」が最も高いのは「70歳以上」で19.6%になっている。「20歳代」から「60歳代」は「年に数回程度」が5割前後だが、「70歳以上」は25.5%となっている。

図 149 バスの利用頻度（年代別）



(2) バスを利用する目的

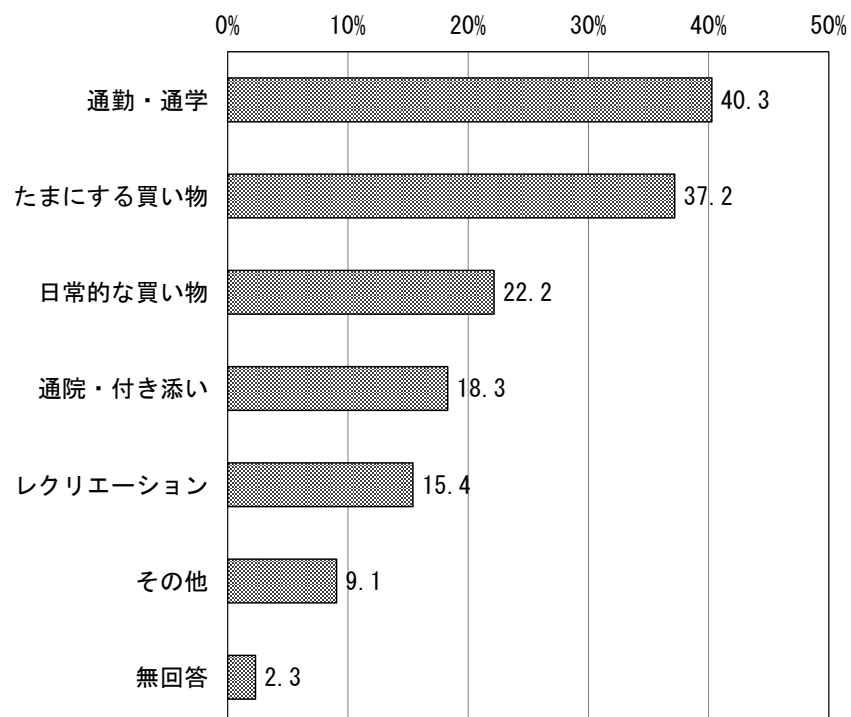
「通勤・通学」が4割超
「20～50 歳代」は「通勤・通学」が最も高く、「60 歳代」は「たまにする買い物」、「70 歳代」は「日常的な買い物」が最も高い

■全体の傾向

バスを利用する目的は「通勤・通学」が 40.3%と最も高く、次いで「たまにする買い物」37.2%、「日常的な買い物」22.2%となっている。

問 30-1 問 30 で 1～4 を選択した方におうかがいします。
バスを利用する目的は何ですか。(〇はいくつでも) n=519

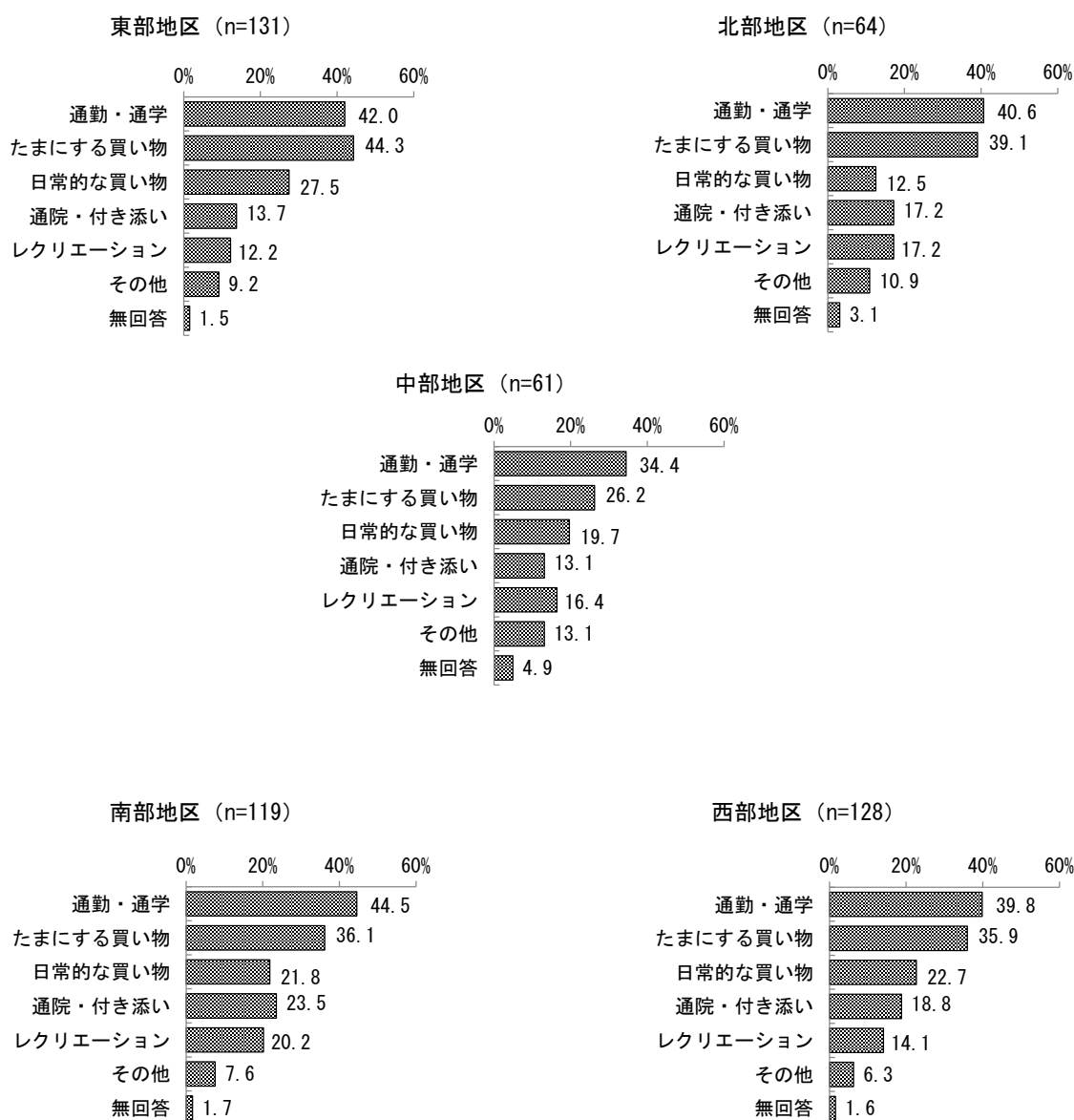
図 150 バスを利用する目的



■地区別にみる特徴

地区別でみると、すべての地区でほぼ同様の傾向となっている。「東部地区」は「たまにする買い物」が 44.3%で最も高く、それ以外の地区では「通勤・通学」が 3～4 割で最も高くなっている。

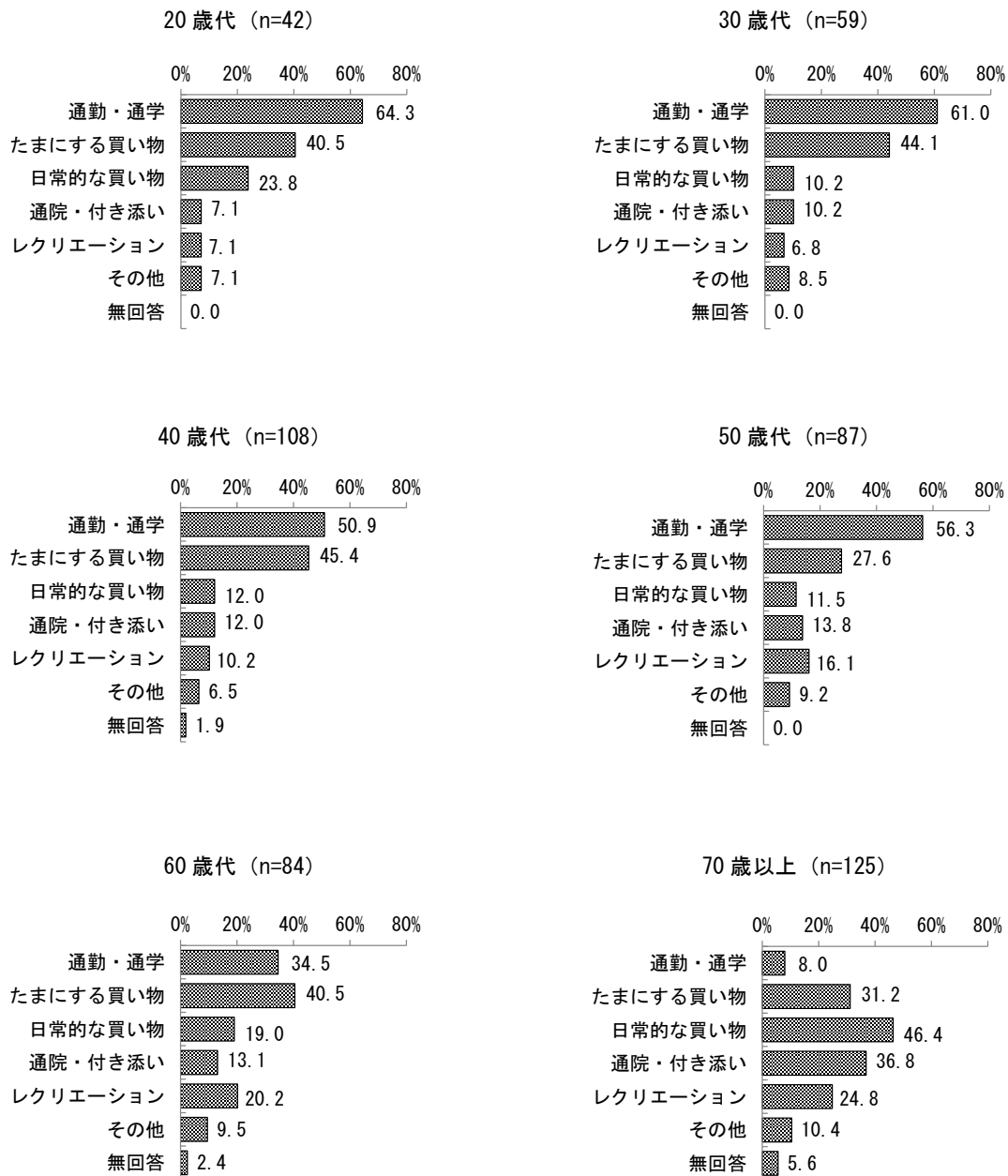
図 151 バスを利用する目的（地区別）



■回答者属性別にみる特徴

年代別で見ると、「20 歳代」から「50 歳代」は「通勤・通学」が最も高く、「60 歳代」は「たまにする買い物」、「70 歳代」は「日常的な買い物」が最も高くなっている。

図 152 バスを利用する目的（年代別）



(3) バスをあまり利用しない理由

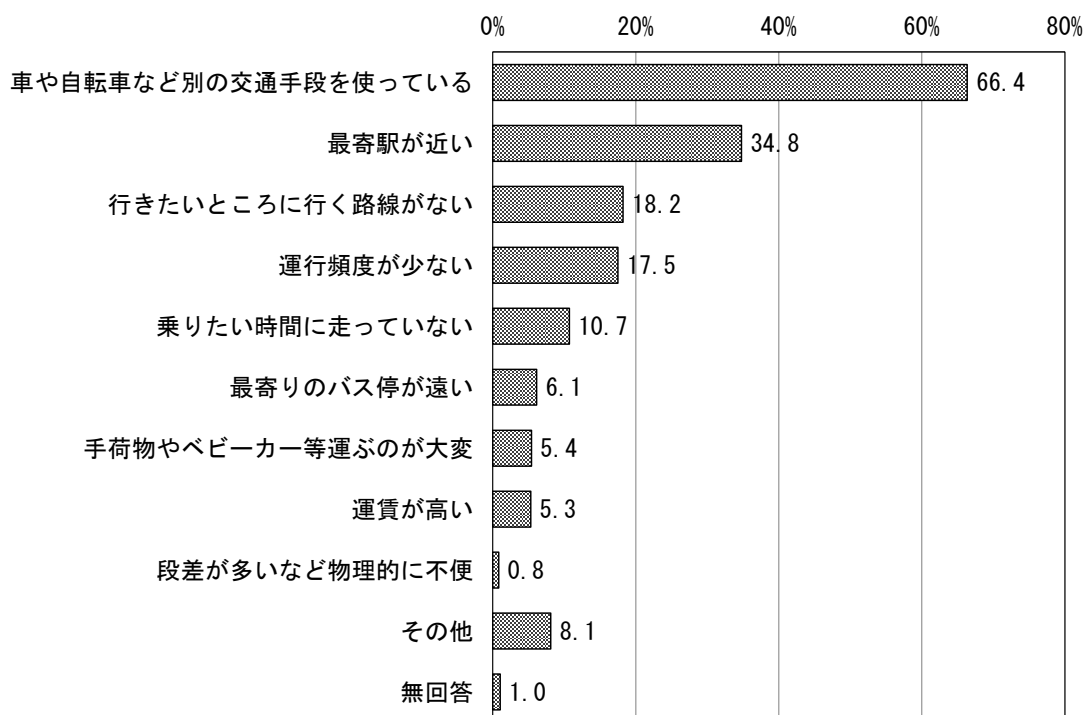
地区別でも年代別でも「車や自転車など別の交通手段を使っている」が最も高く 6 割超

■全体の傾向

バスをあまり利用しない理由としては、「車や自転車など別の交通手段を使っている」が 66.4%と最も高く、次いで「最寄駅が近い」34.8%、「行きたいところに行く路線がない」18.2%となっている。

問 30-2 問 30 で 5、6 を選択した方におうかがいします。
なぜバスをあまり利用しないのですか。(〇はいくつでも) n=960

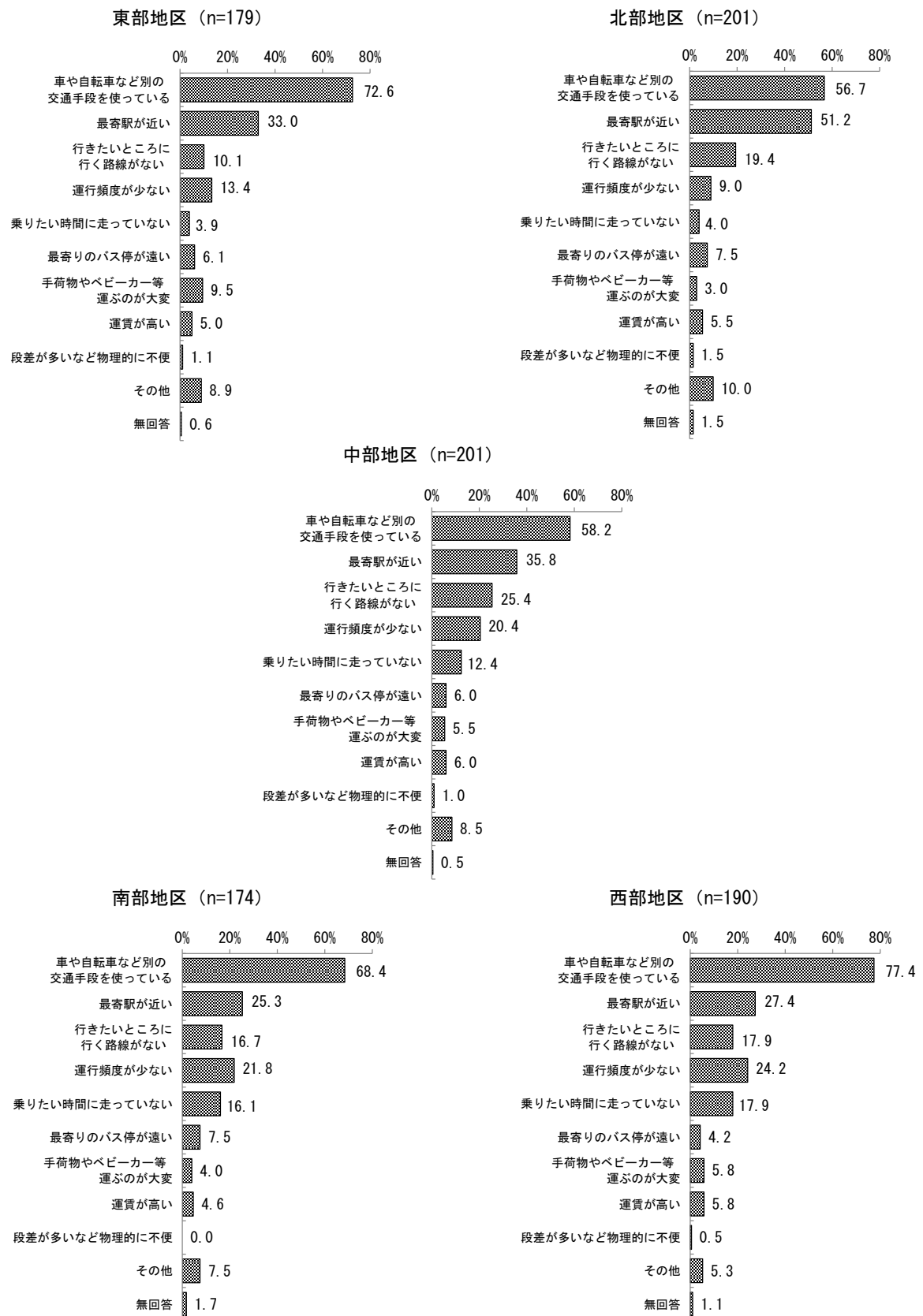
図 153 バスをあまり利用しない理由



■地区別にみる特徴

地区別でみると、すべての地区でほぼ同様の傾向で「車や自転車など別の交通手段を使っている」が最も高くなっている。「北部地区」では、「最寄駅が近い」が5割超で他地区より高くなっている。

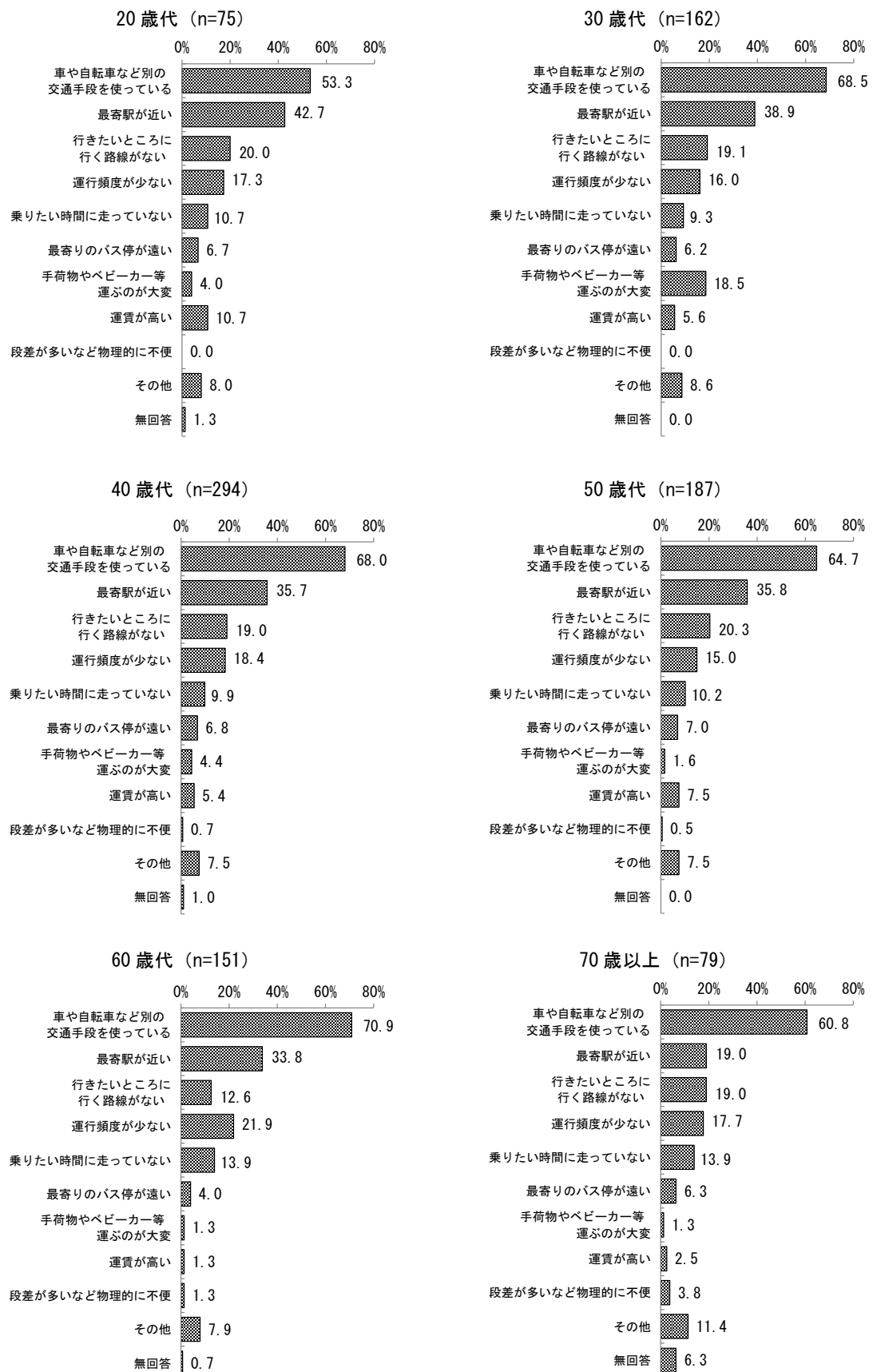
図 154 バスをあまり利用しない理由（地区別）



■回答者属性別にみる特徴

年代別で見ると、すべての年代で同様の傾向となっており、「車や自転車など別の交通手段を使っている」が最も高くなっている。

図 155 バスをあまり利用しない理由（年代別）



(4) バスを利用しやすくするための改善点

「最寄駅に行きやすくなる」、「センター北・南に行きやすくなる」が2割超
 「北部地区」と「中部地区」は「普段の生活でバスを利用する必要がない」が最も高い

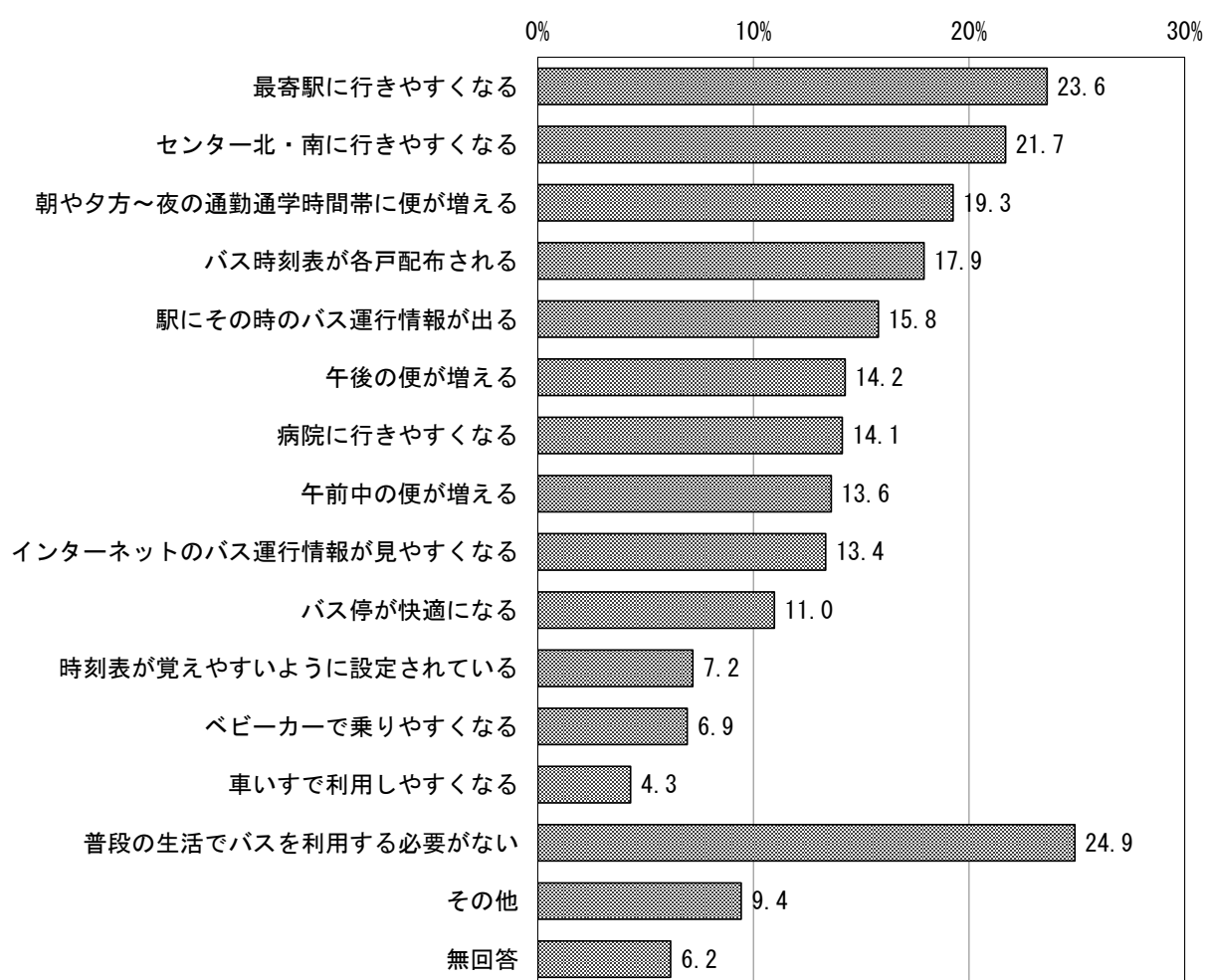
■全体の傾向

バスを利用しやすくするための改善点としては、「最寄駅に行きやすくなる」が 23.6%と最も高く、次いで「センター北・南に行きやすくなる」21.7%、「朝や夕方～夜の通勤通学時間帯に便が増える」19.3%となっている。

また、「普段の生活でバスを利用する必要がない」が 24.9%となっている。

問 31 どのように改善されたらバスを利用したいですか。(〇はいくつでも) n=1,558

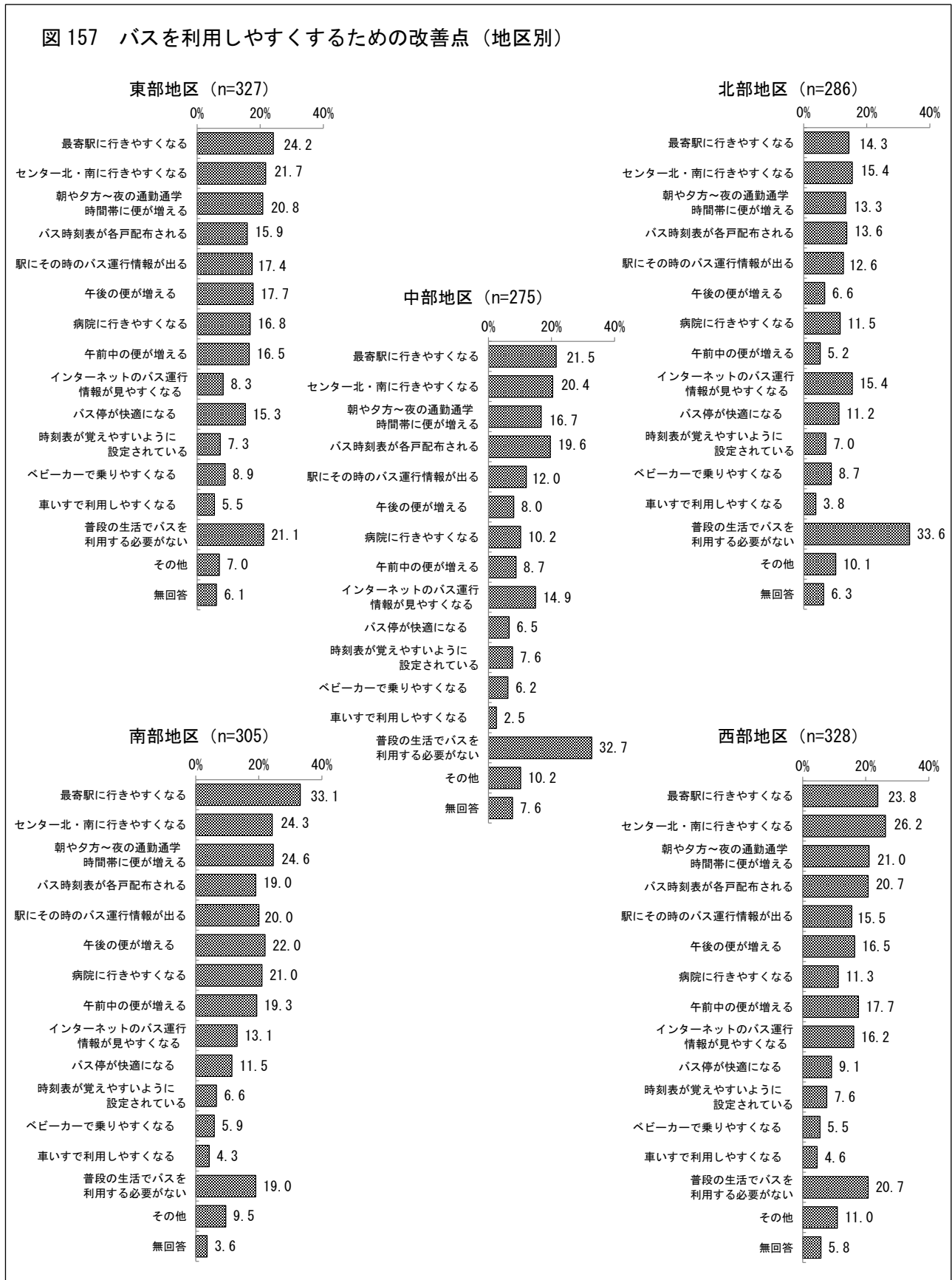
図 156 バスを利用しやすくするための改善点



■地区別にみる特徴

地区別でみると、「東部地区」と「南部地区」は「最寄駅に行きやすくなる」が最も高く、「西部地区」は「センター北・南に行きやすくなる」が最も高い。「北部地区」と「中部地区」は「普段の生活でバスを利用する必要がない」が最も高い。

図 157 バスを利用しやすくするための改善点（地区別）



(5) 道路環境について特に必要だと思うもの

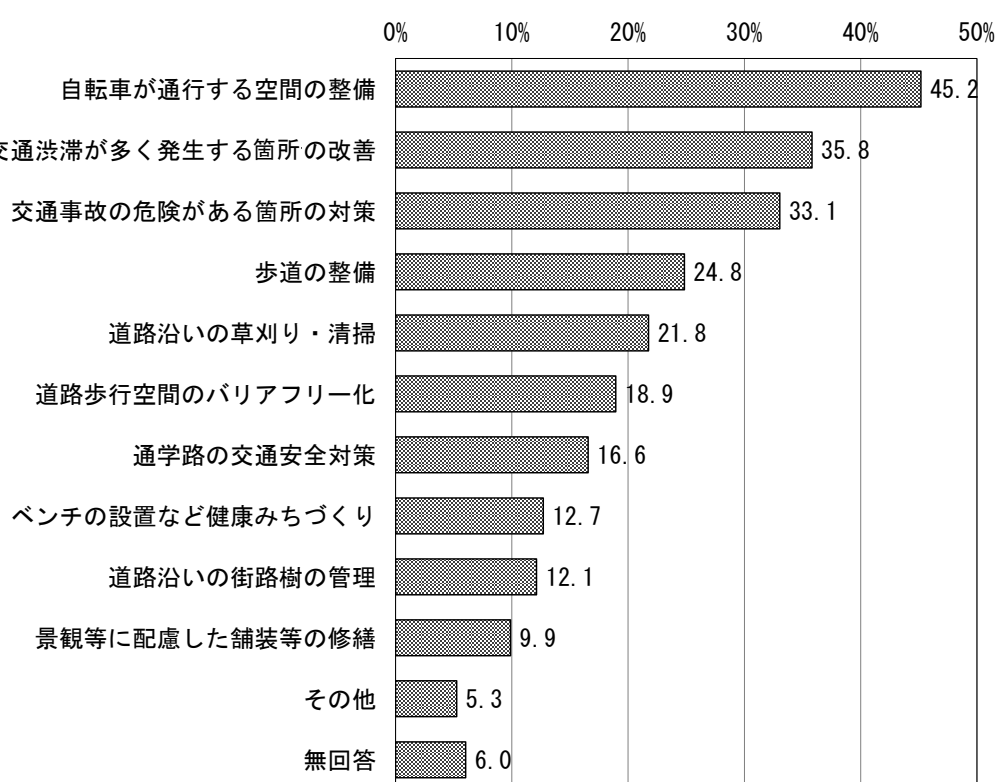
「自転車が通行する空間の整備」が最も高く、5割弱
 「南部地区」では「交通渋滞が多く発生する箇所の改善」が最も高い

■全体の傾向

道路環境について今後特に必要だと思うものについては、「自転車が通行する空間の整備」が45.2%と最も高く、次いで「交通渋滞が多く発生する箇所の改善」35.8%、「交通事故の危険がある箇所の対策」33.1%となっている。

問 32 あなたは、道路環境について、今後、特に必要と思うものはなんですか。(〇は3つまで)
 n=1,558

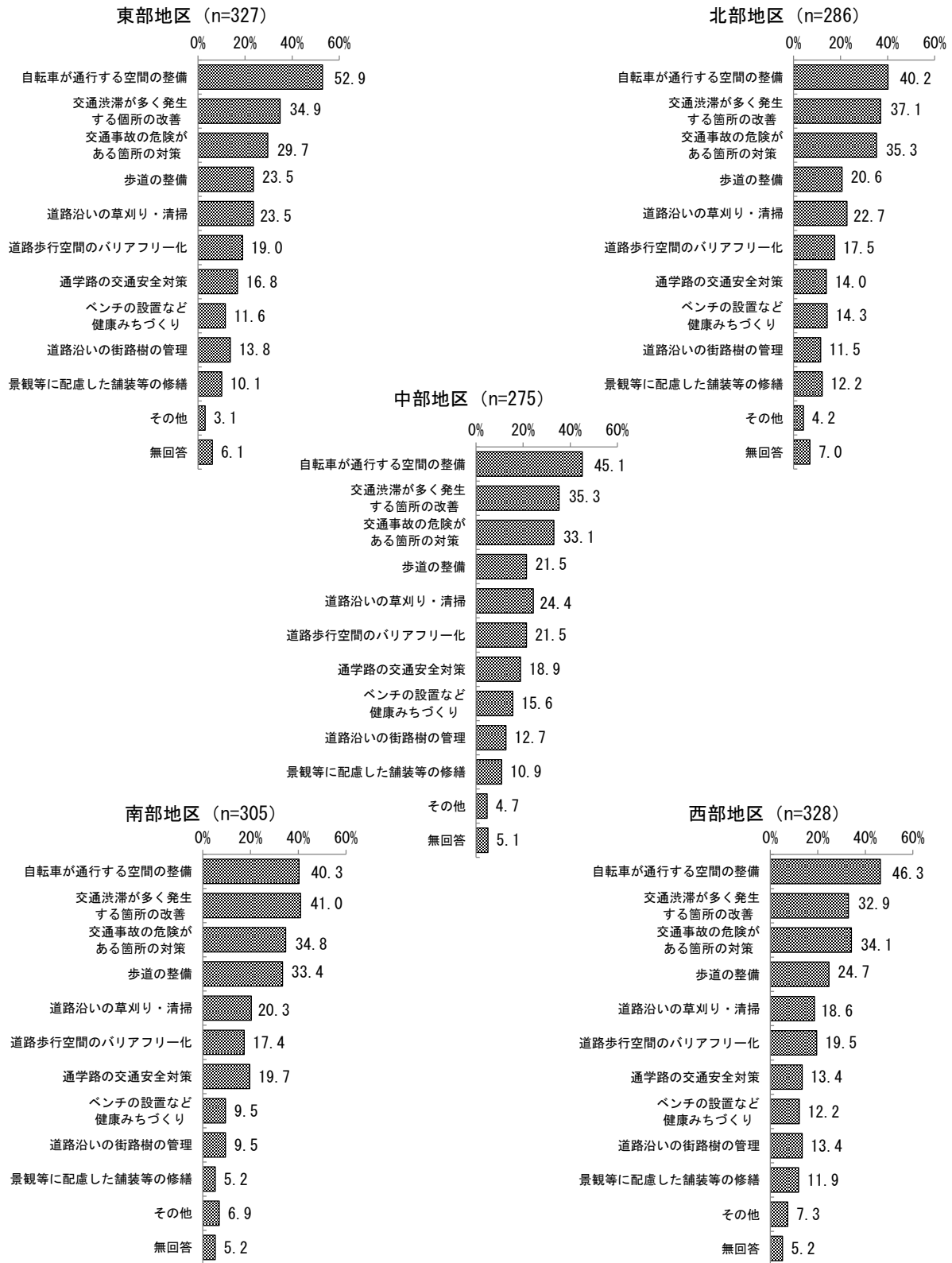
図 158 道路環境について特に必要だと思うもの



■地区別にみる特徴

地区別でみると、「南部地区」は「交通渋滞が多く発生する箇所の改善」が 41.0%で最も高く、それ以外の地区では「自転車が通行する空間の整備」が最も高くなっている。

図 159 道路環境について特に必要だと思うもの（地区別）



14. 区民利用施設

(1) 区民利用施設の認知度と利用状況

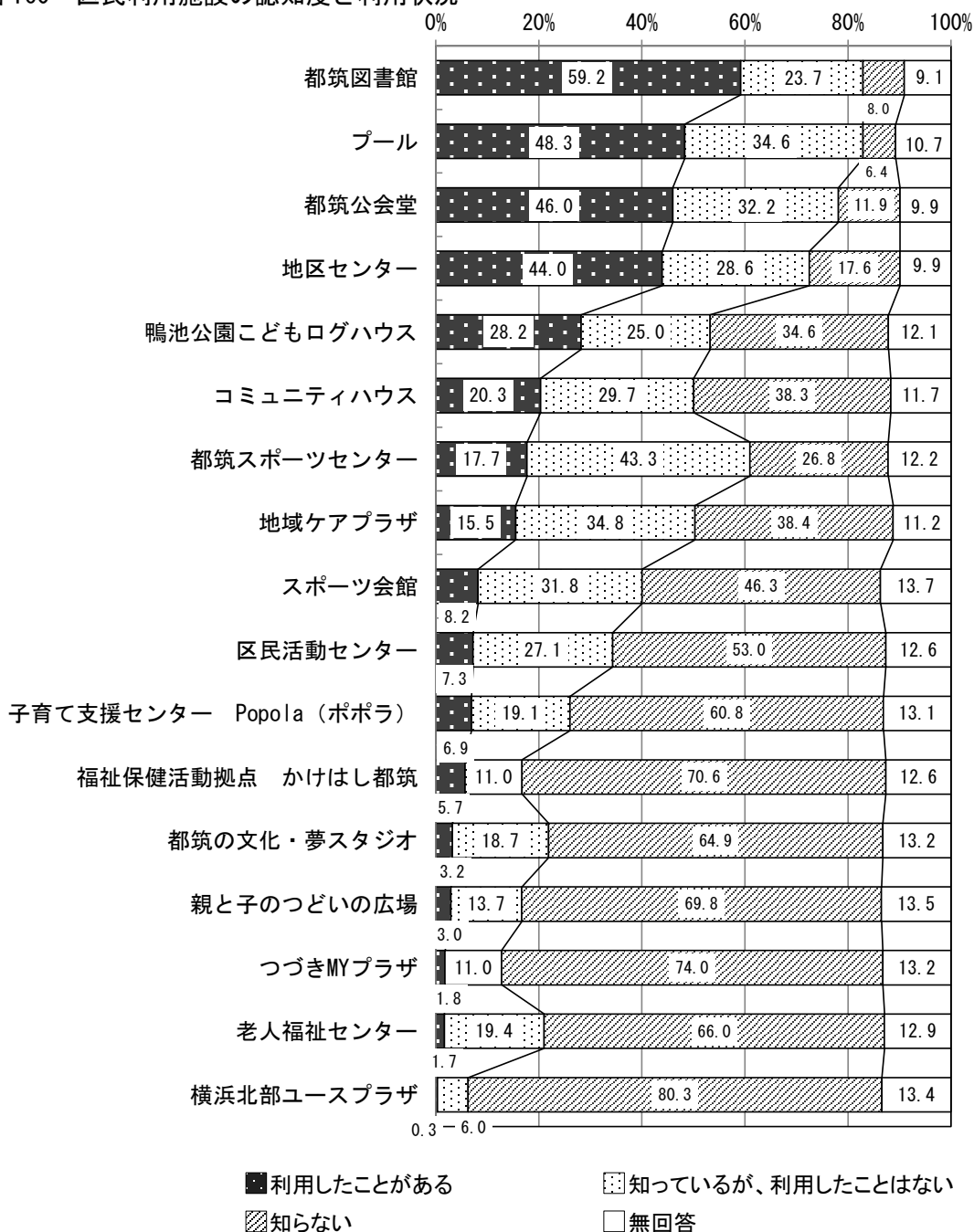
「都筑図書館」は、「利用したことがある」は6割弱
 「プール」「都筑公会堂」「地区センター」は5割弱

■全体の傾向

区民利用施設の認知度と利用状況については、「利用したことがある」は「都筑図書館」が59.2%と最も高く、次いで「プール」48.3%、「都筑公会堂」46.0%となっている。

問 33 都筑区内の施設について、各項目にあなたの【認知度と利用状況】であてはまるものひとつに○をつけてください。n=1,558

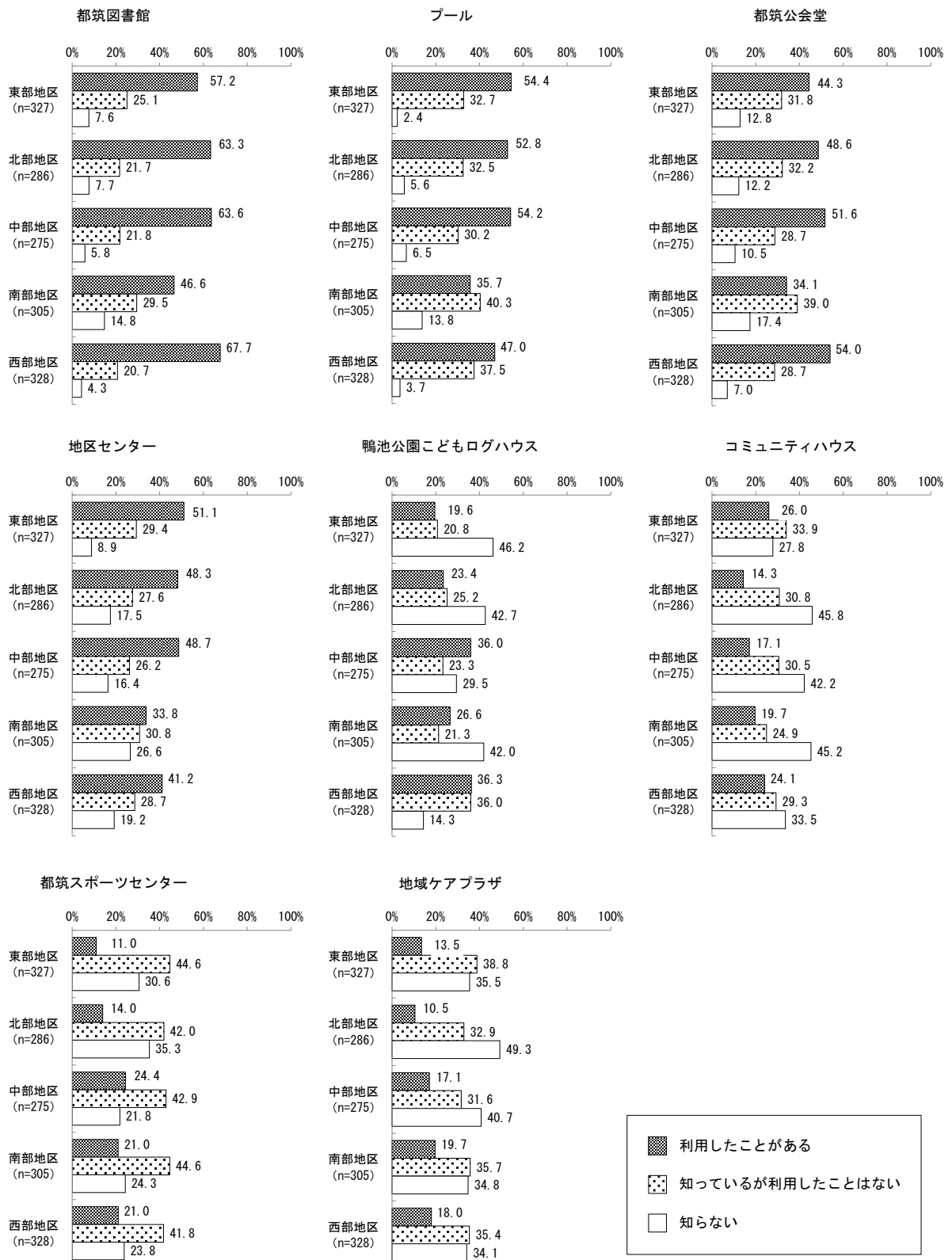
図 160 区民利用施設の認知度と利用状況



■地区別にみる特徴

利用経験の多い上位 8 項目について地区別にみると、いずれの施設も「南部地区」は「利用したことがある」の割合が低い。「都筑図書館」では、「北部地区」「中部地区」「西部地区」は 6 割以上だが、「南部地区」は 5 割未満、「プール」は、「東部地区」「北部地区」「中部地区」は 5 割以上だが、「南部地区」は 4 割未満、「都筑公会堂」は、「中部地区」「西部地区」は 5 割以上だが、「南部地区」は 4 割未満となっている。

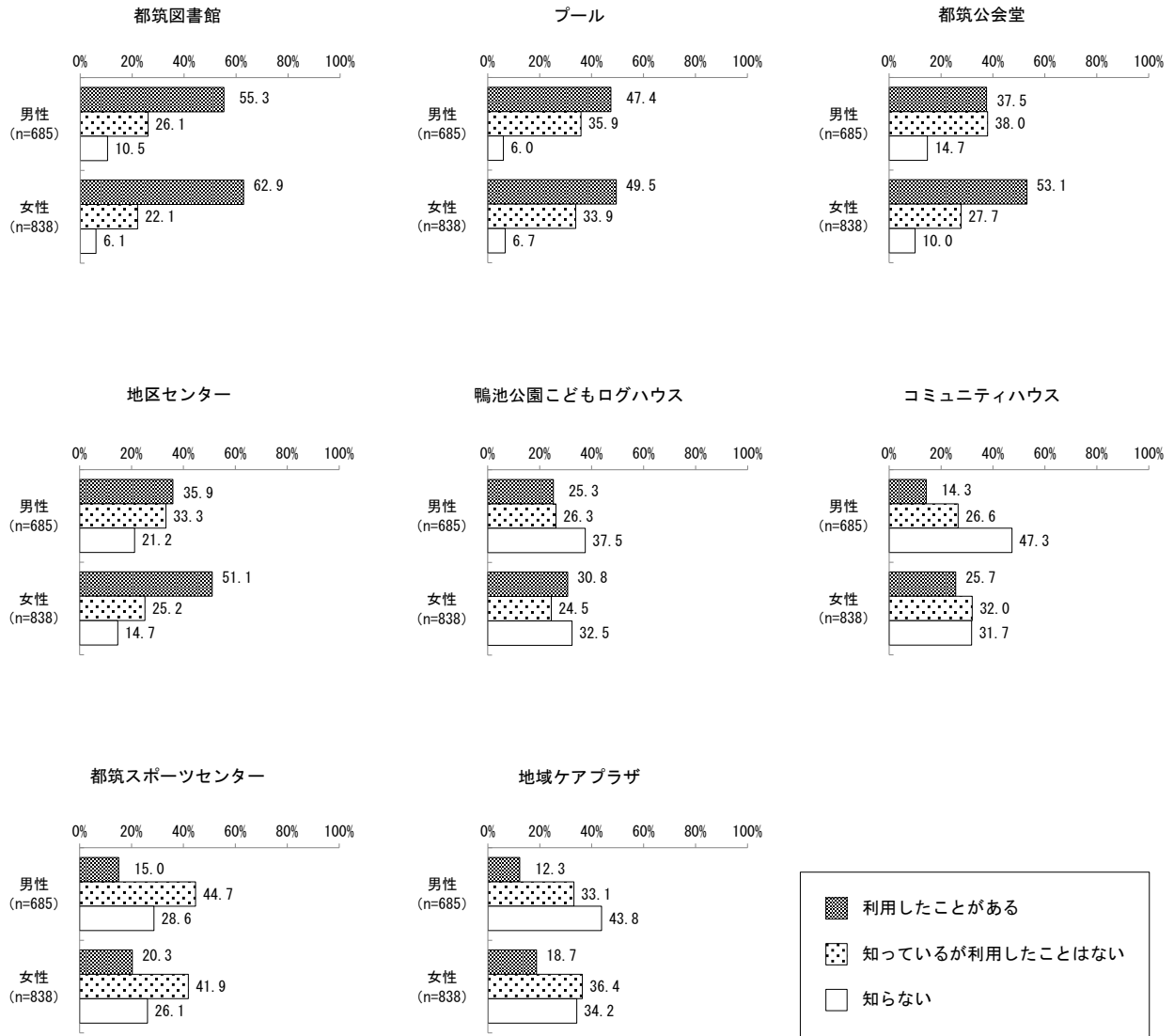
図 161 区民利用施設の認知度と利用状況（地区別）



■回答者属性別にみる特徴

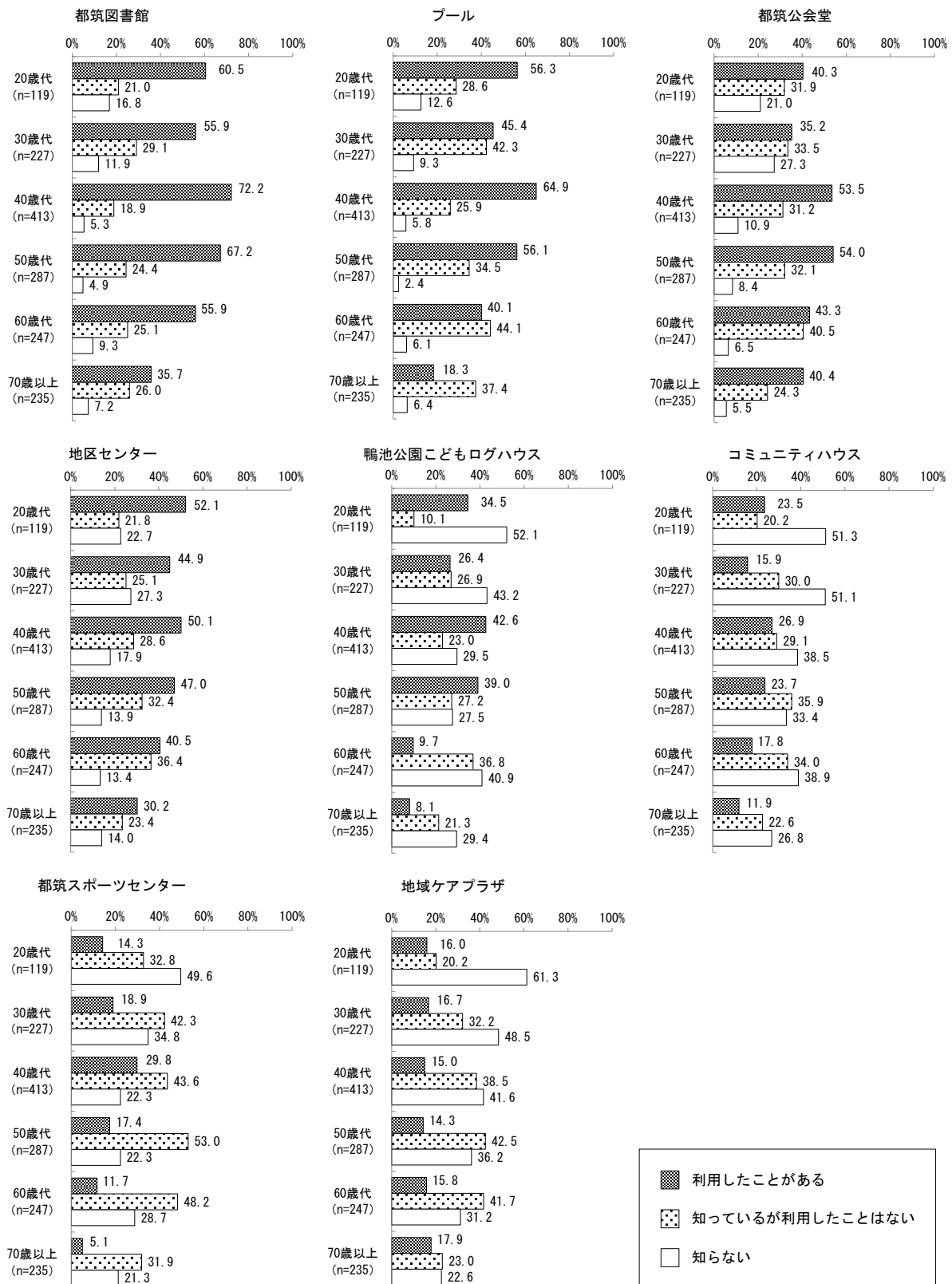
性別で見ると、各施設とも「男性」より「女性」の方が「利用したことがある」割合が高い。
また、「女性」より「男性」の方が「知らない」割合が高い。

図 162 区民施設の認知度と利用状況（性別）



年代別でみると、「都筑図書館」、「都筑公会堂」、「地区センター」はどの年代でも「利用したことがある」の割合が「知っているが利用したことはない」、「知らない」の割合よりも高い。
 「プール」は「20 歳代」から「50 歳代」は「利用したことがある」割合が 5～6 割になっているが、「60 歳代」、「70 歳代」では「知っているが利用したことはない」割合が 4 割程度である。
 「コミュニティハウス」はどの年代も「知らない」の割合が高くなっている。

図 163 区民施設の認知度と利用状況（年代別）



(2) 区民利用施設の利用頻度

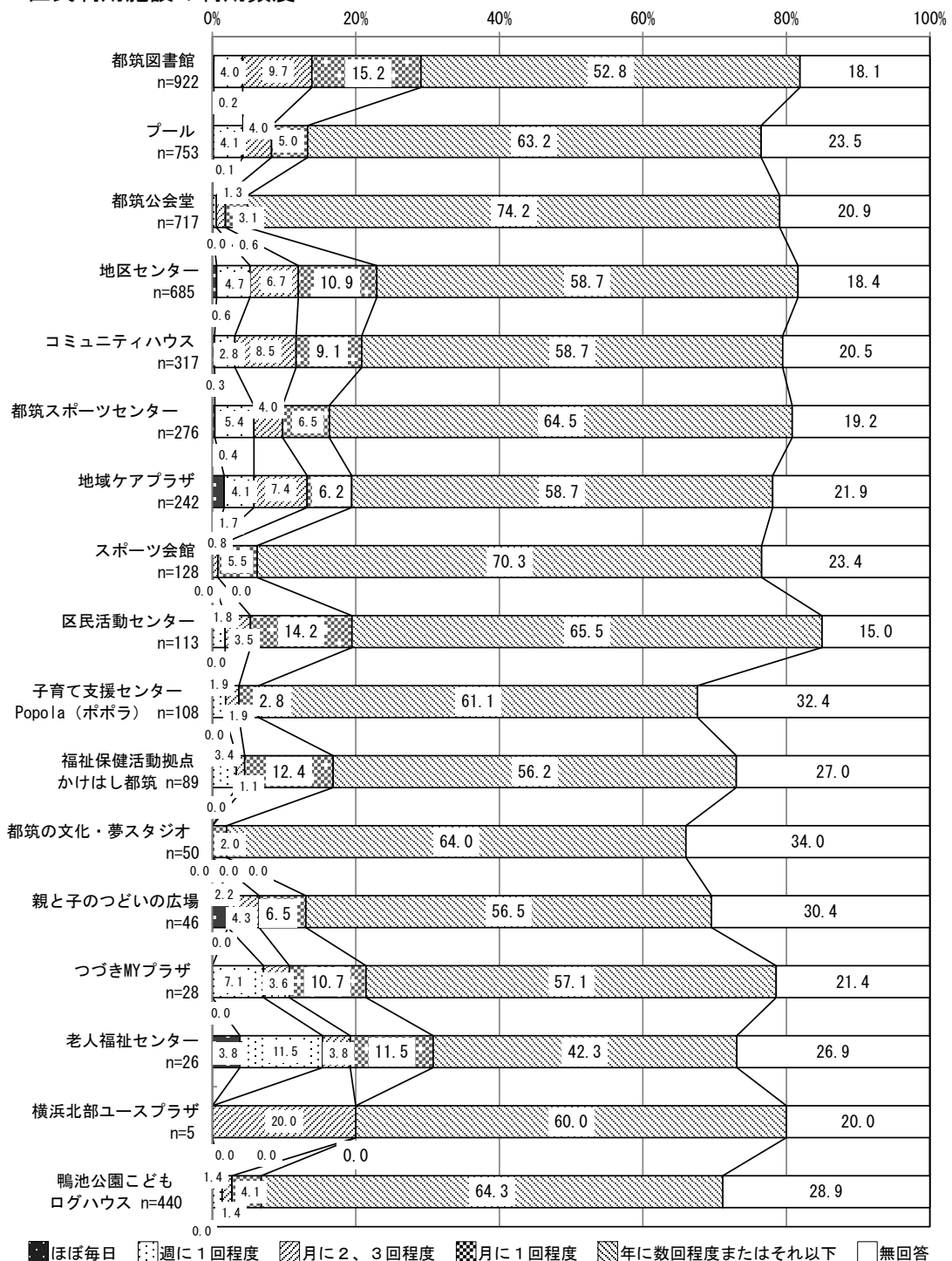
「都筑図書館」「老人福祉センター」は、利用者の約3割が『月に1回以上』利用している

■全体の傾向

区民利用施設の利用頻度については、「ほぼ毎日」、「週に1回程度」、「月に2、3回程度」、「月に1回程度」を合わせた『月に1回以上』は「老人福祉センター」で30.6%と最も多く、次いで「都筑図書館」29.1%、「地区センター」22.9%となっている。

問 33 「利用したことがある」を選択した方で、過去1年間の利用がある方のみお答えください。利用頻度についてお聞きします。(〇はひとつ) n=各施設ごと

図 164 区民利用施設の利用頻度



15. 都筑区の生活環境に関する重要度・満足度

(1) 生活環境の重要度

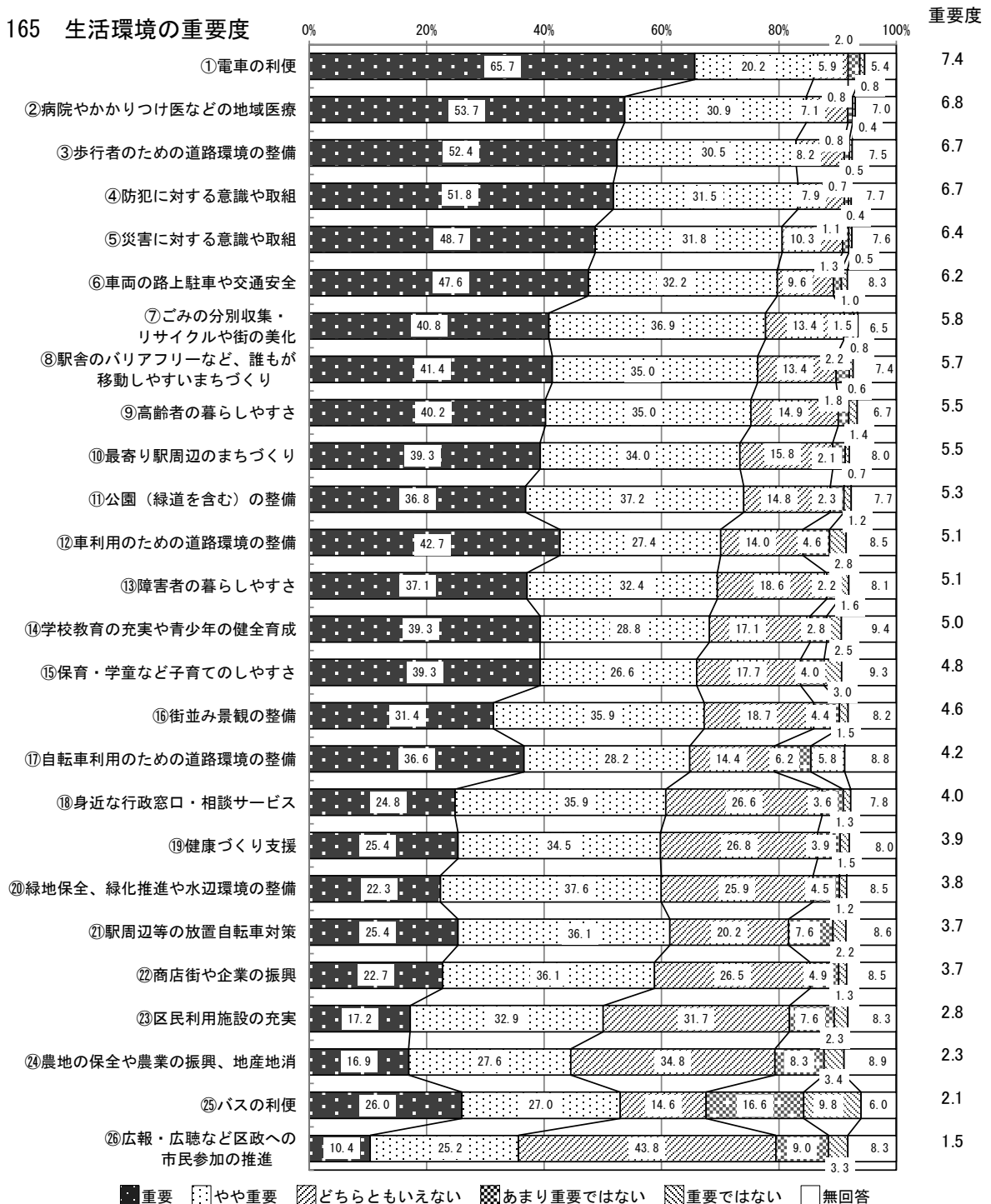
重要度の第 1 位は「電車の利便」、第 2 位は「病院やかかりつけ医などの地域医療」、第 3 位は「歩行者のための道路環境の整備」

生活環境に関する 26 項目について重要と思うかという問に対する回答が図 165 である。
項目間の比較を行うため、「重要」に+10 点、「やや重要」に+5 点、「どちらともいえない」に 0 点、「あまり重要ではない」に-5 点、「重要ではない」に-10 点を付与し、全回答の平均値を重要度とした。

問 34 都筑区の生活環境に関する重要度についてうかがいます。 n=1,558

※選択肢冒頭の○数字は、順位（重要度の高い順）を示している。

図 165 生活環境の重要度



■全体の傾向

重要度が最も高い項目は「電車の利便」(7.4)である。次いで「病院やかかりつけ医などの地域医療」(6.8)、「歩行者のための道路環境の整備」(6.7)、「防犯に対する意識や取組」(6.7)、「災害に対する意識や取組」(6.4)となっている。

反対に重要度が低い項目は「広報・広聴など区政への市民参加の推進」(1.5)、「バスの利便」(2.1)、「農地の保全や農業の振興、地産地消」(2.3)、「区民利用施設の充実」(2.8)、「商店街や企業の振興」(3.7)となっている。

表 2 生活環境の重要度 上位・下位 5 項目 (n=1,558)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
上位 5 項目	電車の利便 7.4	病院やかかりつけ医などの地域医療 6.8	3 位 歩行者のための道路環境の整備 6.7		防犯に対する意識や取組 6.7	災害に対する意識や取組 6.4
下位 5 項目	広報・広聴など区政への市民参加の推進 1.5	バスの利便 2.1	農地の保全や農業の振興、地産地消 2.3	区民利用施設の充実 2.8	商店街や企業の振興 3.7	

■地区別にみる特徴

地区別に生活環境の重要度の上位 5 項目をみると、すべての地区で「電車の利便」が 1 位となっている。

4 位以内をみると「病院やかかりつけ医などの地域医療」、「歩行者のための道路環境の整備」、「防犯に対する意識や取組」が挙がっているが、「西部地区」は「車両の路上駐車や交通安全」が 4 位に、「歩行者のための道路環境の整備」が 5 位に挙がっている。他地区は「災害に対する意識や取組」が 5 位に挙がっている。

表 3 生活環境の重要度 (地区別の上位 5 項目)

項目冒頭の丸数字は全体集計での順位 (割合の高い順) を示している。

地区別の上位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
東部地区 (n=327)	①電車の利便 7.5	②病院やかかりつけ医などの地域医療 6.8	④防犯に対する意識や取組 6.7	③歩行者のための道路環境の整備 6.6	⑤災害に対する意識や取組 6.4	⑥車両の路上駐車や交通安全 6.4
北部地区 (n=286)	①電車の利便 7.6	②病院やかかりつけ医などの地域医療 7.0	③歩行者のための道路環境の整備 6.9	④防犯に対する意識や取組 6.8	⑤災害に対する意識や取組 6.4	
中部地区 (n=275)	①電車の利便 8.2	2 位 ④防犯に対する意識や取組 7.3		②病院やかかりつけ医などの地域医療 7.3	③歩行者のための道路環境の整備 7.2	⑤災害に対する意識や取組 7.0
南部地区 (n=305)	①電車の利便 7.4	②病院やかかりつけ医などの地域医療 7.1	③歩行者のための道路環境の整備 7.0	④防犯に対する意識や取組 6.6	⑤災害に対する意識や取組 6.4	
西部地区 (n=328)	①電車の利便 7.0	②病院やかかりつけ医などの地域医療 6.6	④防犯に対する意識や取組 6.5	⑥車両の路上駐車や交通安全 6.4	③歩行者のための道路環境の整備 6.3	

地区別に生活環境の重要度下位 5 項目をみると、「北部地区」と「中部地区」では「バスの利便」、「東部地区」と「南部地区」、「西部地区」では「広報・広聴など区政への市民参加の推進」が重要度の最も低い項目として挙がっている。

地区によって順位は異なるものの、「区民利用施設の充実」、「農地の保全や農業の振興、地産地消」は 2～4 位に挙がっている。また、「南部地区」では「バスの利便」は 5 位以内に入っていない。

表 4 生活環境の重要度（地区別の下位 5 項目）

項目冒頭の丸数字は全体集計での順位（割合の高い順）を示している。

地区別の下位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
東部地区 (n=327)	②⑥広報・広聴 など区政への 市民参加の推 進 1.7	②④農地の保全 や農業の振 興、地産地消 2.3	②③区民利用施 設の充実 2.9	②⑤バスの利便 2.9	②①駅周辺 等の放置 自転車対 策 3.6	②②商店街 や企業の 振興 3.6
北部地区 (n=286)	②⑤バスの利便 0.2	②⑥広報・広聴 など区政への 市民参加の推 進 1.6	②④農地の保全 や農業の振 興、地産地消 1.9	②③区民利用施 設の充実 2.6	②②商店街や企業の振興 3.6	
中部地区 (n=275)	②⑤バスの利便 0.1	②⑥広報・広聴 など区政への 市民参加の推 進 1.9	②④農地の保全 や農業の振 興、地産地消 2.5	②③区民利用施 設の充実 3.4	②⑩緑地保全、緑化推進 や水辺環境の整備 4.1	
南部地区 (n=305)	②⑥広報・広聴 など区政への 市民参加の推 進 1.2	②③区民利用施 設の充実 2.4	②④農地の保全 や農業の振 興、地産地消 2.9	②④商店街や企 業の振興 3.6		②①駅周辺等の放置自転 車対策 3.6
西部地区 (n=328)	②⑥広報・広聴 など区政への 市民参加の推 進 1.4	②④農地の保全 や農業の振 興、地産地消 2.2	②③区民利用施 設の充実 2.7	②⑤バスの利便 3.1	②⑩緑地保全、緑化推進 や水辺環境の整備 3.4	

(2) 生活環境の満足度

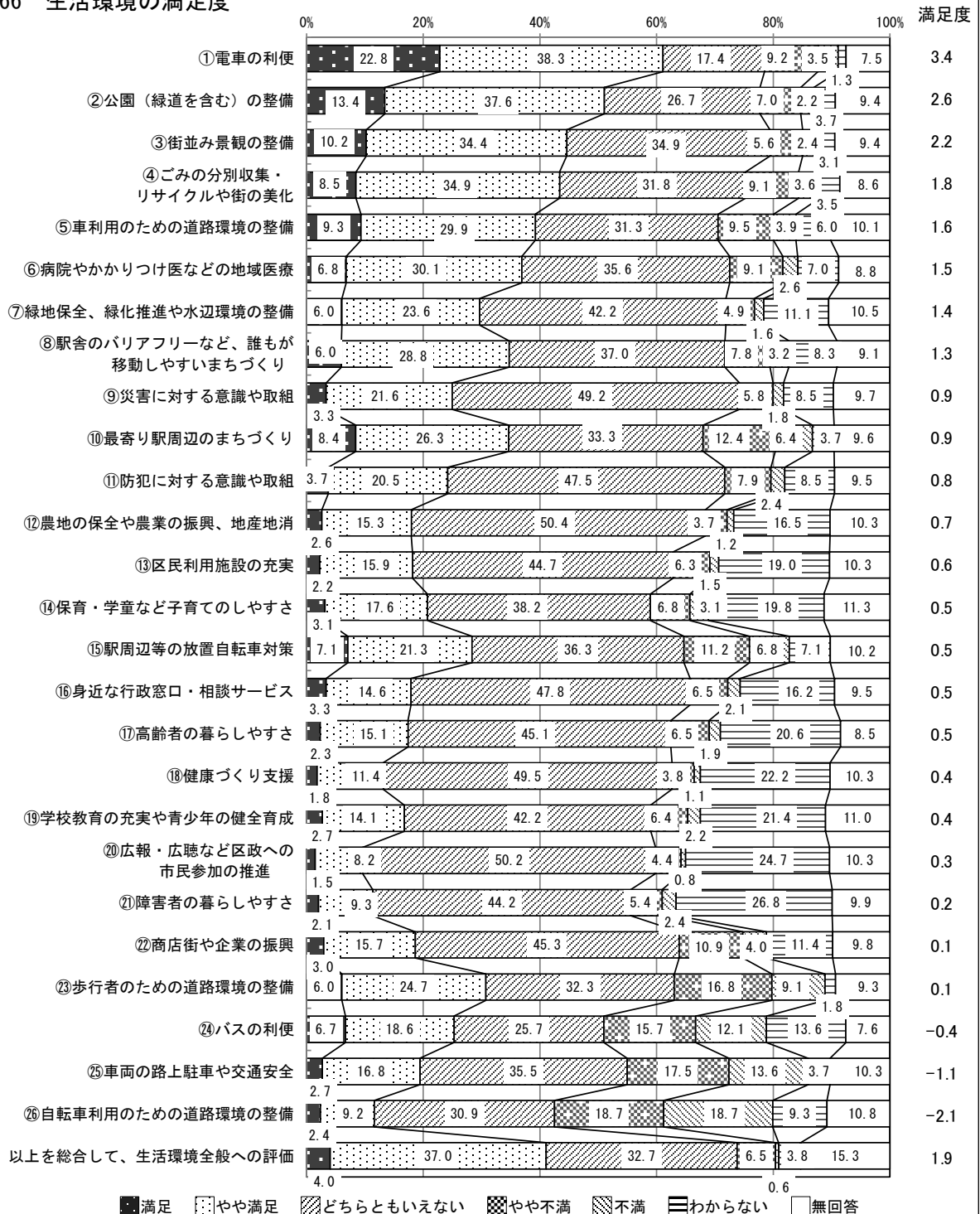
満足度の第1位は「電車の利便」、第2位は「公園（緑道を含む）の整備」、第3位は「街並み景観の整備」

生活環境に関する 26 項目についての満足度及び総合的な満足度に対する回答が図 166 である。「重要度」と同様に、項目間の比較を行うため、「満足」に+10 点、「やや満足」に+5 点、「どちらともいえない」に0 点、「やや不満」に-5 点、「不満」に-10 点を付与し、全回答の平均値を「満足度」とした。

問 34 都筑区の生活環境に関する満足度についてうかがいます。 n=1,558

※選択肢冒頭の○数字は、順位（満足度の高い順）を示している。

図 166 生活環境の満足度



■全体の傾向

満足度が最も高い項目は「電車の利便」(3.4)である。次いで「公園(緑道を含む)の整備」(2.6)、「街並み景観の整備」(2.2)、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」(1.8)、「車利用のための道路環境の整備」(1.6)となっている。

反対に満足度が低い項目は「自転車利用のための道路環境の整備」(-2.1)、「車両の路上駐車や交通安全」(-1.1)、「バスの利便」(-0.4)、「歩行者のための道路環境の整備」(0.1)、「商店街や企業の振興」(0.1)となっている。

■地区別にみる特徴

地区別に生活環境の満足度の上位5項目をみると、すべての地区で「電車の利便」が1位となっている。また、3位以内をみるとすべての地区で「電車の利便」、「公園(緑道を含む)の整備」、「街並み景観の整備」が挙げられている。

「西部地区」以外は4位、5位に「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」が挙げられている。「西部地区」では、「病院やかかりつけ医などの地域医療」、「車利用のための道路環境の整備」が挙げられている。

表5 生活環境の満足度(上位5項目、全体・地区別)

地区別の項目冒頭の丸数字は全体集計での順位(割合の高い順)を示している。

全体の上位	1位	2位	3位	4位	5位	
全体 (n=1,558)	電車の利便 3.4	公園(緑道を含む)の整備 2.6	街並み景観の整備 2.2	ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 1.8	車利用のための道路環境の整備 1.6	
地区別の上位	1位	2位	3位	4位	5位	
東部地区 (n=327)	①電車の利便 3.4	②公園(緑道を含む)の整備 2.5	③街並み景観の整備 2.3	4位		
				④ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 2.1	⑤車利用のための道路環境の整備 2.1	
北部地区 (n=286)	①電車の利便 4.1	2位		⑩最寄り駅周辺のまちづくり 2.4	④ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 2.1	
		③街並み景観の整備 3.3	②公園(緑道を含む)の整備 3.3			
中部地区 (n=275)	①電車の利便 3.9	②公園(緑道を含む)の整備 2.7	③街並み景観の整備 2.5	⑤車利用のための道路環境の整備 1.9	④ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 1.8	
南部地区 (n=305)	①電車の利便 2.5	②公園(緑道を含む)の整備 2.2	③街並み景観の整備 1.6	④ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 1.5	⑦緑地保全、緑化推進や水辺環境の整備 1.4	
西部地区 (n=328)	①電車の利便 3.5	②公園(緑道を含む)の整備 2.7	③街並み景観の整備 1.8	⑥病院やかかりつけ医などの地域医療 1.7	4位	
					⑤車利用のための道路環境の整備 1.6	⑧駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり 1.6

地区別に生活環境の満足度の下位 5 項目をみると、すべての地区で「自転車利用のための道路環境の整備」が 1 位となっている。「中部地区」では「バスの利便」が、それ以外の地区では、「車両の路上駐車や交通安全」が第 2 位に挙がっている。

また、「西部地区」以外では 3～5 位に「障害者の暮らしやすさ」が挙がっている。

表 6 生活環境の満足度（下位 5 項目、全体・地区別）

地区別の項目冒頭の丸数字は全体集計での順位（割合の高い順）を示している。

全体の上位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全体 (n=1,558)	自転車利用のための道路環境の整備 -2.1	車両の路上駐車や交通安全 -1.1	バスの利便 -0.4	4 位	
				歩行者のための道路環境の整備 0.1	商店街や企業の振興 0.1
地区別の下位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
東部地区 (n=327)	⑳自転車利用のための道路環境の整備 -2.0	㉕車両の路上駐車や交通安全 -1.0	3 位		㉑高齢者の暮らしやすさ 0.3
			㉒商店街や企業の振興 0.1	㉑障害者の暮らしやすさ 0.1	
北部地区 (n=286)	㉖自転車利用のための道路環境の整備 -2.5	㉕車両の路上駐車や交通安全 -0.9	3 位		㉔バスの利便 0.4
			㉑障害者の暮らしやすさ 0.3	㉒広報・広聴など区政への市民参加の推進 0.3	
中部地区 (n=275)	㉖自転車利用のための道路環境の整備 -2.2	㉔バスの利便 -1.3	㉕車両の路上駐車や交通安全 -0.7	㉑防犯に対する意識や取組 0.1	㉑障害者の暮らしやすさ 0.2
南部地区 (n=305)	㉖自転車利用のための道路環境の整備 -2.2	㉕車両の路上駐車や交通安全 -1.6	㉓歩行者のための道路環境の整備 -1.4	㉔バスの利便 -1.1	㉑障害者の暮らしやすさ 0.1
西部地区 (n=328)	㉖自転車利用のための道路環境の整備 -1.7	㉕車両の路上駐車や交通安全 -1.4	㉔バスの利便 -0.8	㉒商店街や企業の振興 -0.4	㉓歩行者のための道路環境の整備 -0.1

(2) 生活環境の満足・不満足割合

生活環境に関する 26 項目について、満足～不満足割合（％）を比較するため、「満足」＋「やや満足」（満足割合）と「不満」＋「やや不満」（不満割合）を集計し、それぞれ割合の高い順に、順位をつけたのが以下の表である。

表 7 生活環境の満足・不満足割合（総合）

	満足 十 やや 満足 (%)	満足 十 やや 満足の 順位	不満 十 やや 不満 (%)	不満 十 やや 不満の 順位
(項目は全体集計での順位（割合の高い順）に並んでいる)				
電車の利便	61.1	1	12.6	10
公園(緑道を含む)の整備	51.0	2	9.2	15
街並み景観の整備	44.6	3	8.0	19
ごみの分別収集・リサイクルや街の美化	43.4	4	12.7	9
車利用のための道路環境の整備	39.2	5	13.4	8
病院やかかりつけ医などの地域医療	36.9	6	11.7	11
緑地保全、緑化推進や水辺環境の整備	29.7	10	6.5	23
駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり	34.7	7	11.0	12
災害に対する意識や取組	25.0	13	7.6	22
最寄り駅周辺のまちづくり	34.7	8	18.7	5
防犯に対する意識や取組	24.2	14	10.3	13
農地の保全や農業の振興、地産地消	18.0	19	4.9	25
区民利用施設の充実	18.2	18	7.8	20
保育・学童など子育てのしやすさ	20.7	15	9.9	14
駅周辺等の放置自転車対策	28.4	11	18.0	6
身近な行政窓口・相談サービス	17.9	20	8.6	16
高齢者の暮らしやすさ	17.4	21	8.5	18
健康づくり支援	13.2	23	4.9	26
学校教育の充実や青少年の健全育成	16.8	22	8.5	17
広報・広聴など区政への市民参加の推進	9.6	26	5.1	24
障害者の暮らしやすさ	11.4	25	7.8	21
商店街や企業の振興	18.6	17	15.0	7
歩行者のための道路環境の整備	30.7	9	25.9	4
バスの利便	25.3	12	27.9	3
車両の路上駐車や交通安全	19.4	16	31.1	2
自転車利用のための道路環境の整備	11.6	24	37.4	1
以上を総合して、生活環境全般への評価	41.1		7.1	

■全体の傾向

満足の割合が高い上位 5 項目でみると、最も高いのは「電車の利便」61.1%である。次いで「公園（緑道を含む）の整備」51.0%、「街並み景観の整備」44.6%、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」43.4%、「車利用のための道路環境の整備」39.2%となっている。

反対に不満足の割合が高い上位 5 項目は「自転車利用のための道路環境の整備」37.4%、「車両の路上駐車や交通安全」31.1%、「バスの利便」27.9%、「歩行者のための道路環境の整備」25.9%、「最寄り駅周辺のまちづくり」18.7%となっている。

■地区別にみる特徴

地区別に生活環境の満足の割合の上位 5 項目をみると、すべての地区で「電車の利便」が 1 位になっている。

5 位以内をみるとすべての地区で「公園（緑道を含む）の整備」、「街並み景観の整備」、「ごみの分別収集・リサイクルや街の美化」が挙がっている。

また、「東部地区」、「中部地区」、「南部地区」では「車利用のための道路環境の整備」が、「北部地区」では「最寄り駅周辺のまちづくり」が、「西部地区」では「病院やかかりつけ医などの地域医療」が 4 位または 5 位に挙がっている。

表 8 生活環境の満足の割合（上位 5 項目、全体・地区別）

地区別の項目冒頭の丸数字は全体集計での順位（割合の高い順）を示している。

全体の上位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全体 (n=1,558)	電車の利便 61.1 %	公園（緑道を含む）の整備 51.0 %	街並み景観の整備 44.6 %	ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 43.4 %	車利用のための道路環境の整備 39.2 %
地区別の上位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
東部地区 (n=327)	①電車の利便 62.4 %	②公園（緑道を含む）の整備 49.2 %	④ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 47.4 %	⑤車利用のための道路環境の整備 44.0 %	③街並み景観の整備 42.5 %
北部地区 (n=286)	①電車の利便 68.9 %	③街並み景観の整備 58.7 %	②公園（緑道を含む）の整備 57.0 %	⑩最寄り駅周辺のまちづくり 51.0 %	④ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 48.3 %
中部地区 (n=275)	①電車の利便 67.6 %	②公園（緑道を含む）の整備 55.6 %	③街並み景観の整備 52.0 %	⑤車利用のための道路環境の整備 44.4 %	④ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 42.5 %
南部地区 (n=305)	①電車の利便 54.8 %	②公園（緑道を含む）の整備 45.2 %	④ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 41.3 %	③街並み景観の整備 35.4 %	⑤車利用のための道路環境の整備 34.8 %
西部地区 (n=328)	①電車の利便 59.1 %	②公園（緑道を含む）の整備 53.0 %	④ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 41.2 %	③街並み景観の整備 40.5 %	⑥病院やかかりつけ医などの地域医療 37.8 %

地区別に不満足割合の上位 5 項目をみると、すべての地区で「自転車利用のための道路環境の整備」が 1 位になっている。

5 位以内をみるとすべての地区で「車両の路上駐車や交通安全」、「バスの利便」、「歩行者のための道路環境の整備」が挙げられている。

また、「東部地区」、「中部地区」、「西部地区」では「最寄り駅周辺のまちづくり」が、「北部地区」では「駅周辺等の放置自転車対策」が、「南部地区」では「車利用のための道路環境の整備」が 4 位または 5 位に挙げられている。

表 9 生活環境の不満足割合（上位 5 項目、全体・地区別）

地区別の項目冒頭の丸数字は全体集計での順位（割合の高い順）を示している。

全体上位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全体 (n=1,558)	自転車利用のための道路環境の整備 37.4 %	車両の路上駐車や交通安全 31.1 %	バスの利便 27.9 %	歩行者のための道路環境の整備 25.9 %	最寄り駅周辺のまちづくり 18.7 %
地区別の上位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
東部地区 (n=327)	⑯自転車利用のための道路環境の整備 35.8 %	⑮車両の路上駐車や交通安全 30.0 %	⑭バスの利便 21.1 %	⑬歩行者のための道路環境の整備 21.1 %	⑩最寄り駅周辺のまちづくり 20.2 %
北部地区 (n=286)	⑯自転車利用のための道路環境の整備 41.6 %	⑮車両の路上駐車や交通安全 29.0 %	⑬歩行者のための道路環境の整備 20.3 %	⑮駅周辺等の放置自転車対策 18.5 %	⑭バスの利便 16.1 %
中部地区 (n=275)	⑯自転車利用のための道路環境の整備 38.5 %	⑭バスの利便 32.0 %	⑮車両の路上駐車や交通安全 29.8 %	⑬歩行者のための道路環境の整備 25.1 %	⑩最寄り駅周辺のまちづくり 22.9 %
南部地区 (n=305)	1 位		⑭バスの利便 37.7 %	⑮車両の路上駐車や交通安全 35.7 %	⑤車利用のための道路環境の整備 21.0 %
	⑯自転車利用のための道路環境の整備 39.0 %	⑬歩行者のための道路環境の整備 39.0 %			
西部地区 (n=328)	⑯自転車利用のための道路環境の整備 34.8 %	⑭バスの利便 34.1 %	⑮車両の路上駐車や交通安全 32.6 %	⑬歩行者のための道路環境の整備 26.2 %	⑩最寄り駅周辺のまちづくり 22.9 %

(3) 生活環境の変化度

変化度の第1位は「電車の利便」、第2位は「最寄り駅周辺のまちづくり」、第3位は「駅周辺等の放置自転車対策」

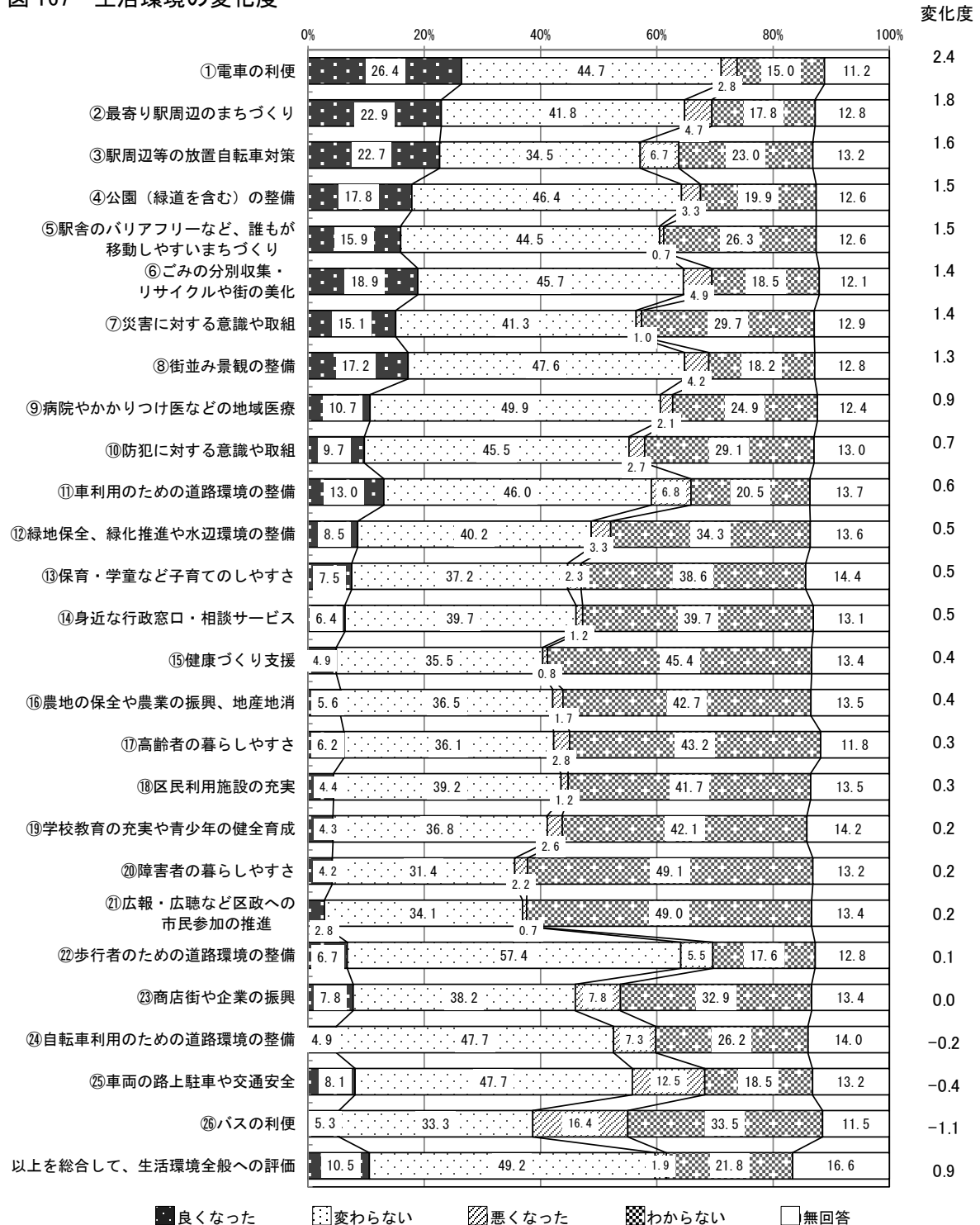
生活環境が良くなったか（悪くなったか）という間に対する回答が図 167 である。

「重要度」「満足度」と同様に、項目間の比較を行うため、「良くなった」に+10点、「変わらない」に0点、「悪くなった」に-10点を付与し、全回答の平均値を「変化度」とした。

問 34 都筑区の生活環境に関するここ数年の評価についてうかがいます。n=1,558

※選択肢冒頭の○数字は、順位（変化度の高い順）を示している。

図 167 生活環境の変化度



■全体の傾向

変化度が高い項目は「電車の利便」(2.4)である。次いで「最寄り駅周辺のまちづくり」(1.8)、「駅周辺等の放置自転車対策」(1.6)、「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」(1.5)、「公園(緑道を含む)の整備」(1.5)となっている。

反対に変化度が低い項目は「バスの利便」(-1.1)、「車両の路上駐車や交通安全」(-0.4)、「自転車利用のための道路環境の整備」(-0.2)、「商店街や企業の振興」(0.0)、「歩行者のための道路環境の整備」(0.1)となっている。

■地区別にみる特徴

地区別に生活環境の変化度の上位5項目をみると、「東部地区」、「中部地区」、「西部地区」で「電車の利便」が1位になっており、「北部地区」では「最寄り駅周辺のまちづくり」が、「南部地区」では「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」が1位になっている。

「北部地区」以外は5位以内に「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」が挙がっている。また、「中部地区」以外は、「最寄り駅周辺のまちづくり」が5位以内に挙がっている。

表 10 生活環境の変化度(上位5項目、全体・地区別)

地区別の項目冒頭の丸数字は全体集計での順位(割合の高い順)を示している。

全体の上位	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=1,558)	電車の利便 2.4	最寄り駅周 辺のまちづ くり 1.8	駅周辺等の放 置自転車対策 1.6	4位	
				駅舎のバリアフ リーなど、誰も が移動しやすい まちづくり 1.5	公園(緑道を 含む)の整備 1.5
地区別の上位	1位	2位	3位	4位	5位
東部地区 (n=327)	①電車の利便 2.6	②最寄り駅周 辺のまちづ くり 2.0	⑦災害に対す る意識や取組 1.4	4位	
				⑤駅舎のバリア フリーなど、誰も が移動しやすい まちづくり 1.3	⑥ごみの分別 収集・リサイ クルや街の美 化 1.3
北部地区 (n=286)	②最寄り駅周 辺のまちづ くり 3.4	①電車の利便 3.0	⑧街並み景観 の整備 2.4	③駅周辺等の 放置自転車対 策 1.7	⑥ごみの分別 収集・リサイ クルや街の美 化 1.6
中部地区 (n=275)	①電車の利便 2.3	③駅周辺等の 放置自転車対 策 2.0	④公園(緑道 を含む)の整 備 1.4	4位	
				⑦災害に対す る意識や取組 1.3	⑤駅舎のバリア フリーなど、誰も が移動しやすい まちづくり 1.3
南部地区 (n=305)	⑤駅舎のバリ アフリーなど、誰も が移動しやすい まちづくり 1.8	④公園(緑道 を含む)の整 備 1.7	⑥ごみの分別 収集・リサイ クルや街の美 化 1.6	3位	
				①電車の利便 1.6	②最寄り駅周 辺のまちづ くり 1.6
西部地区 (n=328)	①電車の利便 2.6	③駅周辺等の 放置自転車対 策 1.9	⑤駅舎のバリア フリーなど、誰も が移動しやすい まちづくり 1.7	④公園(緑道 を含む)の整 備 1.6	②最寄り駅周 辺のまちづ くり 1.5

地区別に生活環境の変化度の下位 5 項目をみると、「東部地区」は「車両の路上駐車や交通安全」が、「北部地区」は「自転車利用のための道路環境の整備」が、「中部地区」、「南部地区」、「西部地区」は「バスの利便」が最も変化度の低い項目として挙がっている。

「バスの利便」、「車両の路上駐車や交通安全」はすべての地区で 3 位以内に入っている。

表 11 生活環境の変化度（下位 5 項目、全体・地区別）

地区別の項目冒頭の丸数字は全体集計での順位（割合の高い順）を示している。

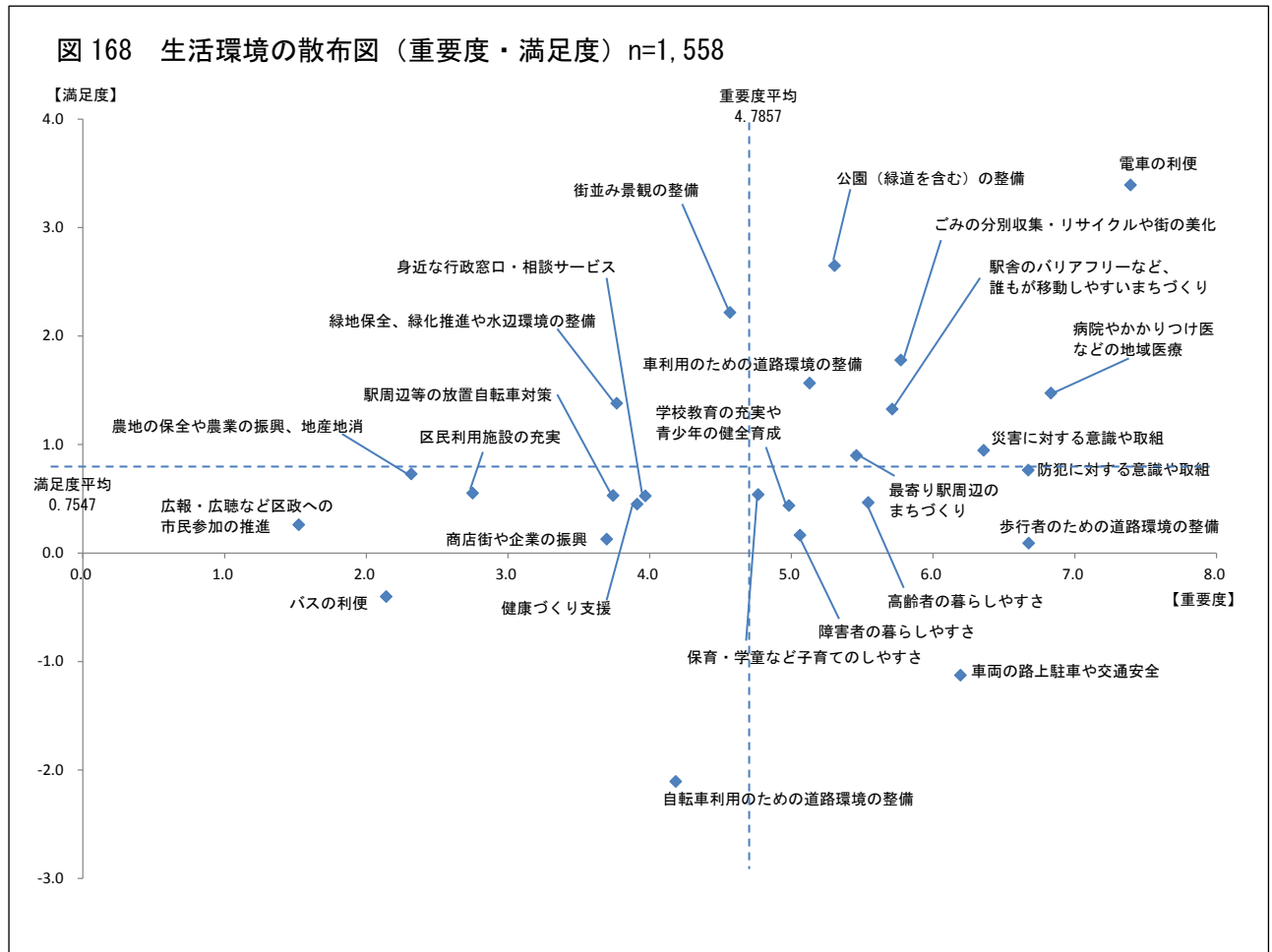
全体の上位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全体 (n=1, 558)	バスの利便 -1.1	車両の路上駐車や交通安全 -0.4	自転車利用のための道路環境の整備 -0.2	商店街や企業の振興 0.0	歩行者のための道路環境の整備 0.1
地区別の下位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
東部地区 (n=327)	㉕車両の路上駐車や交通安全 -0.6	㉔自転車利用のための道路環境の整備 -0.4	㉖バスの利便 -0.3	㉑広報・広聴など区政への市民参加の推進 0.1	㉗高齢者の暮らしやすさ 0.2
北部地区 (n=286)	㉔自転車利用のための道路環境の整備 -0.5	2 位		㉒歩行者のための道路環境の整備 0.0	㉑車利用のための道路環境の整備 0.1
		㉕車両の路上駐車や交通安全 -0.2	㉖バスの利便 -0.2		
中部地区 (n=275)	㉖バスの利便 -1.1	㉔自転車利用のための道路環境の整備 -0.6	㉕車両の路上駐車や交通安全 -0.4	㉒歩行者のための道路環境の整備 -0.2	㉘農地の保全や農業の振興、地産地消 0.1
南部地区 (n=305)	㉖バスの利便 -1.4	㉕車両の路上駐車や交通安全 -0.6	㉓商店街や企業の振興 -0.2	4 位	
				㉑障害者の暮らしやすさ -0.1	㉔自転車利用のための道路環境の整備 -0.1
西部地区 (n=328)	㉖バスの利便 -2.4	㉓商店街や企業の振興 -0.9	㉕車両の路上駐車や交通安全 -0.4	㉙学校教育の充実や青少年の健全育成 0.0	㉘区民利用施設の充実 0.2

(4) 生活環境のニーズ度

ニーズ度の第 1 位は「車両の路上駐車や交通安全」、第 2 位は「歩行者のための道路環境の整備」、第 3 位は「自転車利用のための道路環境の整備」

図 168 は、重要度を横軸に、満足度を縦軸に 26 項目の位置を描いたものである。図の左下に位置するほど重要度及び満足度が低い項目であり、逆に、図の右上に位置するものほど重要度と満足度がともに高い項目であることを示している。

また、右下に位置するものは、重要度が高いが、満足度の低い項目であることから、ニーズ度の高い項目であると考えられる。散布図において、右下（重要度が高く、満足度が低い）に位置するのは、「車両の路上駐車や交通安全」である。



各項目の重要度の数値から満足度の数値の差（重要度－満足度）を求め、「ニーズ度」として算出した。

「車両の路上駐車や交通安全」（7.3）が最も高く、次いで「歩行者のための道路環境の整備」（6.6）、「自転車利用のための道路環境の整備」（6.3）となっている。

表 12 生活環境のニーズ度（重要度－満足度）

順位	項目	ニーズ度
1位	車両の路上駐車や交通安全	7.3
2位	歩行者のための道路環境の整備	6.6
3位	自転車利用のための道路環境の整備	6.3
4位	防犯に対する意識や取組	5.9
5位	災害に対する意識や取組	5.4
6位	病院やかかりつけ医などの地域医療	5.4
7位	高齢者の暮らしやすさ	5.1
8位	障害者の暮らしやすさ	4.9
9位	最寄り駅周辺のまちづくり	4.6
10位	学校教育の充実や青少年の健全育成	4.5
11位	駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり	4.4
12位	保育・学童など子育てのしやすさ	4.2
13位	電車の利便	4.0
14位	ごみの分別収集・リサイクルや街の美化	4.0
15位	商店街や企業の振興	3.6
16位	車利用のための道路環境の整備	3.6
17位	健康づくり支援	3.5
18位	身近な行政窓口・相談サービス	3.4
19位	駅周辺等の放置自転車対策	3.2
20位	公園（緑道を含む）の整備	2.7
21位	バスの利便	2.5
22位	緑地保全、緑化推進や水辺環境の整備	2.4
23位	街並み景観の整備	2.3
24位	区民利用施設の充実	2.2
25位	農地の保全や農業の振興、地産地消	1.6
26位	広報・広聴など区政への市民参加の推進	1.3

（注）重要度と満足度は小数点第2位で算出しているため、ニーズ度の結果が小数点第1位で計算した結果と合致しない場合がある。

■地区別にみる特徴

地区別にニーズ度をみると、すべての地区で上位 4 項目までに「車両の路上駐車や交通安全」、
「歩行者のための道路環境の整備」、「自転車利用のための道路環境の整備」が挙がっている。

表 13 生活環境のニーズ度（地区別）

	東部地区 (n=327)	北部地区 (n=286)	中部地区 (n=275)	南部地区 (n=305)	西部地区 (n=328)
1 位	車両の路上駐車や交通安全 7.3	自転車利用のための道路環境の整備 7.1	車両の路上駐車や交通安全 7.3	歩行者のための道路環境の整備 8.4	車両の路上駐車や交通安全 7.9
2 位	自転車利用のための道路環境の整備 6.2	車両の路上駐車や交通安全 6.9	防犯に対する意識や取組 7.2	車両の路上駐車や交通安全 7.7	歩行者のための道路環境の整備 6.4
3 位	歩行者のための道路環境の整備 5.9	3 位 歩行者のための道路環境の整備 6.0 防犯に対する意識や取組 6.0	歩行者のための道路環境の整備 6.9	自転車利用のための道路環境の整備 6.6	3 位 自転車利用のための道路環境の整備 5.6 防犯に対する意識や取組 5.6
4 位	防犯に対する意識や取組 5.6		自転車利用のための道路環境の整備 6.4	病院やかかりつけ医などの地域医療 6.5	
5 位	高齢者の暮らしやすさ 5.5	災害に対する意識や取組 5.2	災害に対する意識や取組 6.1	防犯に対する意識や取組 5.9	災害に対する意識や取組 5.3
6 位	災害に対する意識や取組 5.3	病院やかかりつけ医などの地域医療 5.0	病院やかかりつけ医などの地域医療 5.9	災害に対する意識や取組 5.7	6 位 最寄り駅周辺のまちづくり 5.2 高齢者の暮らしやすさ 5.2
7 位	障害者の暮らしやすさ 5.0	高齢者の暮らしやすさ 4.7	最寄り駅周辺のまちづくり 5.5	7 位 バスの利便 5.2 高齢者の暮らしやすさ 5.2	
8 位	8 位 病院やかかりつけ医などの地域医療 4.9 最寄り駅周辺のまちづくり 4.9	障害者の暮らしやすさ 4.6	障害者の暮らしやすさ 5.4	7 位 高齢者の暮らしやすさ 5.2	病院やかかりつけ医などの地域医療 5.0
9 位		学校教育の充実や青少年の健全育成 4.4	駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり 5.3		障害者の暮らしやすさ 5.1
10 位	学校教育の充実や青少年の健全育成 4.6	駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり 4.2	高齢者の暮らしやすさ 5.2	電車の利便 4.9	学校教育の充実や青少年の健全育成 4.4
11 位	駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり 4.4	保育・学童など子育てのしやすさ 4.1	学校教育の充実や青少年の健全育成 4.9	11 位 学校教育の充実や青少年の健全育成 4.6 車利用のための道路環境の整備 4.6 駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり 4.6	商店街や企業の振興 4.1
12 位	保育・学童など子育てのしやすさ 4.2	ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 4.0	保育・学童など子育てのしやすさ 4.8		12 位 ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 4.0 保育・学童など子育てのしやすさ 4.0
13 位	電車の利便 4.1	最寄り駅周辺のまちづくり 3.6	ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 4.5	駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり 4.6	
14 位	ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 3.8	14 位 電車の利便 3.5 車利用のための道路環境の整備 3.5	電車の利便 4.3	保育・学童など子育てのしやすさ 4.4	バスの利便 3.9
15 位	健康づくり支援 3.7		15 位 健康づくり支援 4.1	ごみの分別収集・リサイクルや街の美化 4.1	駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり 3.8

	東部地区 (n=327)		北部地区 (n=286)		中部地区 (n=275)		南部地区 (n=305)		西部地区 (n=328)	
16位	商店街や企業の振興 3.5		14位	駅周辺等の放置 自転車対策 3.5	15位	商店街や企業の 振興 4.1	16位	最寄り駅周辺 のまちづくり 4.0	16位	電車の利便 3.5
17位	車利用のための道路環 境の整備 3.4			身近な行政窓 口・相談サービ ス 3.5		公園（緑道を含む）の 整備 3.7		身近な行政窓 口・相談サービ ス 4.0		駅周辺等の放 置自転車対策 3.5
18位	身近な行政窓口・相談 サービス 3.2		健康づくり支援 3.2		車利用のための道路環 境の整備 3.6		駅周辺等の放置自転車 対策 3.4		健康づくり支援 3.4	
19位	19位	公園（緑道を含 む）の整備 2.8	商店街や企業の振興 3.1		身近な行政窓口・相談 サービス 3.5		商店街や企業の振興 3.3		身近な行政窓口・相談 サービス 3.3	
20位		緑地保全、緑化 推進や水辺環境 の整備 2.8	緑地保全、緑化推進や 水辺環境の整備 2.4		街並み景観の整備 3.4		健康づくり支援 3.2		車利用のための道路環 境の整備 3.0	
21位	駅周辺等の放置自転車 対策 2.7		公園（緑道を含む）の 整備 2.2		駅周辺等の放置自転車 対策 3.3		公園（緑道を含む）の 整備 2.6		街並み景観の整備 2.4	
22位	区民利用施設の充実 2.3		街並み景観の整備 2.1		区民利用施設の充実 2.8		緑地保全、緑化推進や 水辺環境の整備 2.4		公園（緑道を含む）の 整備 2.3	
23位	バスの利便 2.2		区民利用施設の充実 2.0		緑地保全、緑化推進や 水辺環境の整備 2.5		街並み景観の整備 2.3		23位	区民利用施設 の充実 2.1
24位	街並み景観の整備 2.0		広報・広聴など区政へ の市民参加の推進 1.3		農地の保全や農業の振 興、地産地消 1.7		農地の保全や農業の振 興、地産地消 2.2			緑地保全、緑化推 進や水辺環境の整 備 2.1
25位	農地の保全や農業の振 興、地産地消 1.8		農地の保全や農業の振 興、地産地消 1.2		広報・広聴など区政へ の市民参加の推進 1.6		区民利用施設の充実 2.1		25位	農地の保全や農業 の振興、地産地消 1.3
26位	広報・広聴など区政へ の市民参加の推進 1.3		バスの利便 -0.2		バスの利便 1.4		広報・広聴など区政へ の市民参加の推進 0.9			広報・広聴など 区政への市民参加 の推進 1.3

(注) 重要度と満足度は小数点第2位で算出しているため、ニーズ度の結果が小数点第1位で計算した結果と合致しない場合がある。

Ⅲ. 資料（調査票）

Ⅲ. 資料（調査票）

平成 27 年度 都筑区区民意識調査 ご協力をお願い

平成 27 年 5 月
都 筑 区 役 所

若葉の候 区民の皆さまにおかれましては、いかにお過ごしでしょうか。

都筑区は、昨年区制 20 年の節目の年を迎え、平均年齢が市内 18 区で最も若く、これからも人口増加が続く、成長・発展が見込まれる活気あふれる区です。平成 27 年度は、区政運営方針として「未来につなぐ 笑顔のつづき」を基本目標に定め、子育て支援や健康づくりなど、様々な事業に取り組んでいます。

このたび、より良い区政の運営に向け、区民の皆さまの生活環境に対する意識や区政へのニーズなどをうかがう「都筑区区民意識調査」を実施いたします。

この調査は、区内にお住まいの 20 歳以上の方々 3,000 人を無作為で抽出してお願いしております。お忙しいところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

<ご記入上の注意>

この調査は、「こういう意見の人が何%」ということを知るためのものです。

また、この調査の結果は、コンピュータで統計処理されますので、お答えいただきました個人のお考えが直接外部に公表されることは決してございません。率直なご回答をお願いいたします。

なお、ご返送いただいた調査票は集計後に区が責任をもって廃棄いたします。調査結果については、区のホームページ等で公開する予定です。

ご記入にあたっては、次の要領をお願いいたします。

(1) 回答は、**あて名のご本人**がご記入ください。

(2) 回答方法は、

- ・ 該当する番号に○印を付ける（○の数については指定あり）
- ・ 該当する番号を回答欄に記入

のいずれかとなっています。また、回答が「その他」にあてはまる場合には、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、

平成 27 年 6 月 15 日（月）までにポストに投函してください。切手の貼付は不要です。

◆お問い合わせ先◆

都筑区役所 区政推進課 企画調整係 5階 55 番窓口

電話：045-948-2226（平日 8:45～17:00）

FAX：045-948-2399

E-mail：tz-plan@city.yokohama.jp

区ホームページ <http://www.city.yokohama.lg.jp/tsuzuki/>

都筑区に対する居住意向についてうかがいます

問1 あなたは、都筑区にいつ頃からお住まいですか。(〇はひとつ)

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1 昭和 19 年 (1944 年) 以前 | 7 平成 2～平成 6 年 (1990～1994 年) |
| 2 昭和 20～29 年 (1945～1954 年) | 8 平成 7～平成 11 年 (1995～1999 年) |
| 3 昭和 30～39 年 (1955～1964 年) | 9 平成 12～平成 16 年 (2000～2004 年) |
| 4 昭和 40～49 年 (1965～1974 年) | 10 平成 17～平成 21 年 (2005～2009 年) |
| 5 昭和 50～59 年 (1975～1984 年) | 11 平成 22 年以降 (2010 年以降) |
| 6 昭和 60～平成元年 (1985～1989 年) | |

問2 あなたのお住まいは、この中のどれにあたりますか。(〇はひとつ)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 持ち家 (一戸建て) | 4 借家 (賃貸マンション、アパート、共同住宅) |
| 2 持ち家 (分譲マンション、共同住宅) | 5 社宅、寮、公務員住宅等 |
| 3 借家 (一戸建て) | 6 その他 () |

問3 あなたが都筑区に来られる前にお住まいになっていたところはどこですか。(〇はひとつ)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 生まれてからずっと都筑区に住んでいる | 5 市外 (東京都) |
| 2 市内 (都筑区以外の横浜市内) | 6 市外 (その他の道府県) |
| 3 市外 (川崎市) | 7 市外 (海外) |
| 4 市外 (その他の神奈川県内) | |

問4 あなたは、これからも都筑区に住みたいと思いますか。(〇はひとつ)

- | | |
|---------------|------------|
| 1 ずっと住み続けたい | 4 よそへ移りたい |
| 2 当分は住み続けたい | 5 特に考えていない |
| 3 できればよそへ移りたい | |

通勤・通学の状況についてうかがいます

問5 あなたの職場または学校はどこですか。(〇はひとつ)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 自宅 | 5 市外 (川崎市内) |
| 2 自宅周辺の町内 | 6 市外 (その他の神奈川県内) |
| 3 都筑区内 | 7 東京都内 () 市・区・町・村 |
| 4 都筑区以外の横浜市内 () 区 | 8 その他の地域 |
| | 9 就業・就学はしていない |

問5-1 問5で、2～8 を選択した方にお聞きます。
通勤・通学の交通手段は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 バス | 7 原動機付自転車 |
| 2 市営地下鉄 (ブルーライン) | 8 自動二輪車 |
| 3 市営地下鉄 (グリーンライン) | 9 自分が運転する自家用車 |
| 4 JR | 10 家族が運転する自家用車 |
| 5 私鉄 | 11 徒歩のみ |
| 6 自転車 | 12 その他 () |

問5-2 問5で、2～8 を選択した方にお聞きます。
家を出てから職場または学校までの通勤・通学にかかる時間はどのくらいですか。(〇はひとつ)

- | | | |
|---------------|-------------------------|--------------------|
| 1 15 分未満 | 4 45 分～1 時間未満 | 7 1 時間 30 分～2 時間未満 |
| 2 15 分～30 分未満 | 5 1 時間～1 時間 15 分未満 | 8 2 時間以上 |
| 3 30 分～45 分未満 | 6 1 時間 15 分～1 時間 30 分未満 | |

買い物についてうかがいます

問6 あなたが「普段の買い物」や「たまにする買い物」の買い物先、買い物をする場所、買い物ができたら便利だと思う場所はどこですか。

最もよく利用するものをひとつだけ下記の選択肢からあてはまるものを選んで、番号をご記入ください。

また、利用する交通手段(注)は、一番多く利用する交通手段をひとつだけ記入してください。

(注) <例1>ある商店に「自家用車で行く」ことも「バスと電車を乗り継いでいく」こともあるが、「自家用車で行く」ことが多い場合、「交通手段」の記入欄には「6」と記入してください。

<例2>外出着を買うために、バスに乗って最寄駅まで行き、最寄駅から電車に乗って、ある繁華街まで行くことが多い場合は、繁華街にたどり着くための最終的な交通手段は「電車」となるので、「交通手段」の記入欄に「2」と記入してください。

回答欄	【買い物先】	【買い物をする場所】	【買い物ができたら便利だと思う場所】	【交通手段】(注)
	ひとつだけ記入	ひとつだけ記入	ひとつだけ記入	ひとつだけ記入
普段の買い物 (例)普段の食料品、日用雑貨、普段着として使用する洋服や靴、本や雑誌				
たまにする買い物 (例)普段着以外の洋服や靴、家具、家庭電化製品				

選択肢 【買い物先】	
1 スーパーマーケット	5 ディスカウントストア
2 百貨店・大型ショッピングセンター	6 一般小売店(商店など)
3 コンビニエンスストア	7 通信販売やインターネットによる購入
4 大型専門店(家電・家具等)	8 その他 (※枠内に具体的に記入)

(※7と回答された方は、以下の【買い物をする場所】【交通手段】についての回答は不要です。)

選択肢 【買い物をする場所】【買い物ができたら便利だと思う場所】	
1 センター南駅周辺	7 横浜駅周辺
2 センター北駅周辺	8 たまプラーザ駅周辺
3 その他の都筑区内の駅周辺	9 その他の横浜市内
4 その他の自宅周辺	10 新宿・渋谷
5 1～4以外の都筑区内	11 その他の東京都内
6 新横浜駅周辺	12 その他 (※枠内に具体的に記入)

選択肢 【交通手段】		
1 バス	4 原動機付自転車	7 徒歩
2 電車	5 自動二輪車	8 その他
3 自転車	6 自家用車	(※枠内に具体的に記入)

問7 あなたが商店街や身近な商業施設に期待することはどのようなことですか。(〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1 値段の安さ | 8 セール・催し物の実施 |
| 2 豊富な品揃え(品数、種類、サイズなど) | 9 セール・催し物の情報(宣伝、チラシなど)の充実 |
| 3 テナントの種類の充実 | 10 ポイントカードなどの導入 |
| 4 商品の品質の向上 | 11 営業日の拡大や営業時間の延長 |
| 5 駐車場・駐輪場の確保 | 12 商品の配達サービスの実施 |
| 6 落ち着いて買い物ができる雰囲気づくり | 13 その他() |
| 7 接客の丁寧さ | |

問8 あなたは、都筑区内で生産された野菜(都筑野菜)を購入したことがありますか。(〇はひとつ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 購入したことがある | 2 購入したことがない |
|-------------|-------------|

問9 あなたは、どのような場合であれば、都筑区内で生産された野菜(都筑野菜)を購入したいと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| 1 新鮮でおいしければ | 5 購入できる場所の情報(マップ等)があれば |
| 2 商店、スーパー等で販売している価格より安価で売られていれば | 6 地域の農業支援(地産地消)につながれば |
| 3 生産者が直売していれば | 7 その他() |
| 4 身近に購入しやすい場所があれば | |

震災対策についてうかがいます

問10 震災対策について、お聞きします。

(ア)あなたやあなたの家族は、東日本大震災(平成 23 年 3 月 11 日)以前から震災があった場合に備えて、どのような対策をしていましたか。(〇はいくつでも)

(イ)東日本大震災後に、新たに始めたり強化した対策はありますか。(〇はいくつでも)

(ウ)今後、対策を新たに始めたり強化する予定はありますか。(〇はいくつでも)

	(ア) 以前からの対策 (〇はいくつでも)	(イ) 震災後に始めた 対策 (〇はいくつでも)	(ウ) 今後始めたい 対策 (〇はいくつでも)
1) 建物の耐震対策の実施、又は耐震基準が改正された昭和 56 年 6 月以降に建てた住宅への居住			
2) 家具(タンス、食器棚など)等の転倒防止			
3) ガラスフィルム等による飛散防止			
4) 3日分の食料や飲料水の備蓄			
5) 携帯ラジオ、懐中電灯などの準備			
6) 日用品(衣料品、おむつなど)や常備薬の準備			
7) 現金など貴重品の持ち出しの準備			
8) 家族との連絡方法の確認			
9) 近くの学校や公園などの避難場所の確認			
10) 防災訓練への参加			
11) 近隣の人との声かけや会話			
12) 子どもや高齢者などの世話を誰かに頼む			
13) 消火器の準備			
14) 風呂水のため置き			
15) 会社や学校などからの帰宅ルートの確認			
16) 特になし			

問 11 あなたは、次の場所について知っていますか。(○はそれぞれひとつ)

	知っているし、 場所もわかる	知っているが、 場所はわからない	知らない
(記入例) 各項目	1	②	3
1) 地域防災拠点 (震災時に家屋の倒壊などにより自宅で生活できない方が一定期間避難生活を送る場所です。区内の市立小・中学校 27 か所が指定されています。)	1	2	3
2) 広域避難場所 (地震により火災が多数発生した場合に、その熱や煙から一時的に避難するための場所です。区内で7か所が指定されています。)	1	2	3
3) いっつき避難場所 (広域避難場所や地域防災拠点に避難する前の中継点で、一時的に避難して様子を見るとともに、隣近所の安否確認をする場所です。自治会・町内会などが選定しています。)	1	2	3
4) 仮設救護所 (震災時に負傷者の応急医療活動を行う場所です。区役所(センター南)及び休日急患診療所(センター北)の2か所で開設します。)	1	2	3

☞(参考) 地域防災拠点など避難先についての情報は、都筑区役所で配布している「都筑区防災・生活マップ」や、区ホームページ(<http://www.city.yokohama.lg.jp/tsuzuki/soumu/shomu/refuge.html>)でご確認いただけます。

問合せ: 都筑区役所総務課庶務係 5階53番窓口
電話: 045-948-2212/FAX: 045-948-2208

横浜市では、「横浜市防災情報 E メール」の配信(登録制、登録料無料)により、大雨等の気象警報・特別警報、河川水位情報、土砂災害警戒情報、震度情報などの防災に関する情報提供を行っています。

問 12 あなたは、「横浜市防災情報 E メール」を知っていますか。(○はひとつ)

1 知っているし、登録もしている 2 知っているが、登録していない 3 知らない

問 12-1 問 12 で「2 知っているが、登録していない」を選択した方にお聞きます。それはなぜですか。(○はいくつでも)

- 1 登録方法がわからないから
- 2 どのような配信情報があるのかわからないから
- 3 登録するのが面倒だから
- 4 他の配信メールサービスに登録しているから
- 5 テレビ・インターネット等で情報収集するから
- 6 メール受信が多くなり面倒となるから
- 7 登録が有料だと思ったから
- 8 以前は登録していたが、登録を取り消したから
- 9 その他 ()

☞(参考) 横浜市防災情報 E メール

気象警報・注意報、雨量情報や河川の水位情報など、身近に迫っている緊急情報をお知らせします。

登録は entry-yokohama@bousai-mail.jp まで。※右のQRコードからもアクセスできます。▶▶



問 13 あなたのお住まいには、住宅用火災警報器などの火災を感知する機器(感知器)が設置されていますか。(アパートやマンションなどで、入居時からすでに自動火災報知設備の感知器が設置されている場合も「1」を選択してください)(○はひとつ)

1 設置されている 2 設置されていない

自治会町内会活動についてうかがいます

都筑区には現在、124の自治会町内会があり、地域で様々な活動を行っています。

問 14 あなたは、自治会町内会に入っていますか。(〇はひとつ)

- 1 入っている 2 入っていない 3 わからない

問 15 あなたが自治会町内会活動に期待することはどのような取組ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1 災害時や日ごろの支え合い | 7 消防団活動 |
| 2 防災活動 | 8 交通安全運動 |
| 3 防犯活動 | 9 地域のイベント(さくら祭り、夏祭り、運動会など) |
| 4 子どもの見守り・子育て支援 | 10 回覧板等による情報提供 |
| 5 高齢者の見守り・老人会活動 | 11 その他() |
| 6 地域での健康づくり | |

☞(参考) 自治会町内会の活動紹介や、加入のご案内は、区ホームページ
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/tsuzuki/chiiki/chiiki/jichikai/>)でご覧いただけます。
問合せ: 都筑区役所地域振興課地域振興係 5階52番窓口
電話: 045-948-2231/FAX: 045-948-2239

地域での日頃の支え合いについてうかがいます

都筑区では、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせることを目指して、区民、地域、団体、企業と区役所が、地域課題に対してともに取り組み、人と人との「であい ささえあい わかちあい」の仕組づくりを行っています。

問 16 あなたは、隣近所に住んでいる人を知っていますか。(〇はひとつ)

- 1 よく知っている 2 だいたい知っている 3 あまり知らない 4 まったく知らない

問 17 あなたは日頃、どの程度の近所づきあいをしていますか。(〇はひとつ)

- 1 お互い困ったときには助け合っている
2 お互いに訪問しあっている
3 立ち話をする程度
4 あいさつをする程度
5 ほとんど付き合いはない

- 問 18 あなたは、以下の1)~12)の社会貢献活動について、
- (ア) 都筑区内において、過去1年間に、社会貢献活動(自治会町内会活動、ボランティア活動、NPO(特定非営利活動)法人活動など)を行ったことがありますか。
 - (イ) また、今後新たに(もしくは継続して)参画したい活動がありますか。
 - (ウ) 今後、地域の中でより充実させていくべき、重要度が高いと考える活動がありますか。

	(ア) 過去1年間に 経験のある活動 (○はいくつでも)	(イ) 今後参画したい 活動 (○はいくつでも)	(ウ) 重要度が高い 活動 (○はいくつでも)
1) 社会福祉に関する活動 (高齢者や障害者などの介護、身の回りの世話、給食など)			
2) 保健・医療に関する活動 (健康づくりの推進、病院ボランティアなど)			
3) 学習活動に関する指導などの活動 (料理、英語、書道など)			
4) 国際交流・協力に関する活動 (国際文化理解、留学生支援など)			
5) 子育て支援、児童・青少年育成に関する活動 (青少年支援、PTA 役員、おやじの会、引きこもり・不登校児支援、保育ボランティアなど)			
6) スポーツ・レクリエーションに関する活動 (地域でのスポーツ・レクリエーションの推進、学校クラブ活動指導など)			
7) 防災・災害救援に関する活動 (地域防災拠点の運営、災害ボランティアなど)			
8) 防犯・安全に関する活動 (防犯パトロール、交通安全運動など)			
9) まちづくりに関する活動 (まちの活性化・ルールづくりに関する活動など)			
10) 自然・環境保護に関する活動 (公園清掃などの環境美化、リサイクル活動、公園・水辺愛護会活動など)			
11) 人権擁護に関する活動 (男女共同参画、平和推進など)			
12) その他 (具体的に)			

問 18-1 問 18(ア)で 1)から 12)にひとつでも○をつけた方にお聞きます。
初めて社会貢献活動に参加したきっかけは、この中のどれにあたりますか。(○はひとつ)

- 1 地域に貢献したいから
- 2 近所の方や友人に誘われたから
- 3 地域に仲間や友人が欲しいから
- 4 自治会町内会の当番にあたったから
- 5 自分自身の楽しみ、充実感を得たいから
- 6 地域活動の内容や状況などの情報が入手できたから
- 7 仕事や子育てなどが落ち着き、時間にゆとりができたから
- 8 その他 ()

子ども・子育て支援についてうかがいます

都筑区は、市内で最も子どもの割合が高い区であり、子ども・青少年が健やかに育ち、子育てがしやすいと実感できるまちづくりを目指し、妊娠期から青少年期までのさまざまな子育て支援に取り組んでいます。

問 19 あなたは、子育ての経験がありますか。(○はひとつ)

- | | | | |
|---------|-----------------------|--------------|------|
| 1 経験がある | 2 現在子育て中
(18歳未満の子) | 3 子どもが生まれる予定 | 4 ない |
|---------|-----------------------|--------------|------|

問 20 あなたは、妊娠中の方とその家族にとって、どのような情報があると役に立つと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|------------------------------------|
| 1 医療機関情報(小児科、産科等) |
| 2 保育所など子どもを預けられる施設に関する情報 |
| 3 妊娠中の方とその家族が気軽に集まる広場やサロンの開催に関する情報 |
| 4 子育ての経験者から気軽に話を聞ける場・機会に関する情報 |
| 5 専門家に相談ができる場・機会に関する情報 |
| 6 子育てに関する講演の開催に関する情報 |
| 7 行政の子育て支援サービスに関する情報 |
| 8 その他() |

問 21 あなたは、安心して子育てを行うためには、どのような施策が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|---|
| 1 子育てに関する相談窓口の充実 |
| 2 子育てに関する情報の集約・提供 |
| 3 保育サービスの充実(待機児童の解消や、一時保育、病後児保育等、多様な保育ニーズへの対応など) |
| 4 放課後児童健全育成事業の充実(放課後キッズクラブなど) |
| 5 在宅で過ごしている子育て家庭への支援(市立保育園の園庭開放、育児講座の開催、仲間づくりへの支援など) |
| 6 地域で子育てを支える仕組みづくり(関係施設・機関・団体の連携や、子育て親子の交流の場の提供、地域の中で子どもを預けたり預かったりする仕組みの推進、地域の人とのつながりづくりなど) |
| 7 子育てと仕事の両立のための職場環境づくり(育児休業の取得促進、柔軟な働き方の促進など) |
| 8 その他() |

問 22 安心して子育てができる環境づくりのために、あなた自身が取り組みそうなことは何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-------------------|------------|
| 1 定期的に親子で集える場への協力 | 5 通学路等の見守り |
| 2 地域のお祭り等への協力 | 6 日常の声かけ |
| 3 子どもの預かり | 7 その他() |
| 4 小学生や中学生の学習支援 | |

問 23 あなたは、児童虐待が疑われる児童に気がついた場合、どのような対応をとりますか。(最もあてはまるものひとつに○)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 児童相談所に連絡する | 6 よこはま子ども虐待ホットラインに連絡する |
| 2 区役所(福祉保健センター)に連絡する | 7 知り合いに相談する |
| 3 警察に連絡する | 8 自分でその子に声をかけたり、相談に乗る |
| 4 保育所、幼稚園、学校に連絡する | 9 どうしてよいか分からない |
| 5 民生委員・児童委員に連絡する | 10 特に何もしない |

健康づくりについてうかがいます

都筑区は今後確実に高齢化が進むと言われており、健康寿命^(※)を延ばすための「健康づくり」が注目されています。 ※健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと

- 問 24 あなたが健康づくりの取組について重要だと思うことは何ですか。下記の選択肢から当てはまるものを3つまで選んで番号を記入してください。
また、ご自身が実際に取り組んでいることについても、下記の選択肢から当てはまるものすべてを選んで番号を記入してください。

【重要だと思うこと】 3つまで記入			【取り組んでいること】 当てはまるものすべて記入		

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 週1回以上、運動する | 5 定期的に歯のチェックを受ける |
| 2 日常生活の中で歩くなど意識して体を動かす | 6 定期的に健康診断を受ける |
| 3 バランスよく食べる | 7 睡眠をしっかりとる |
| 4 お酒は適量を守る | 8 禁煙する・受動喫煙をできるだけ避ける |

都筑区役所では、健康寿命を延ばすための取組のひとつとして、「定期的に運動する」ことをお勧めしています。

- 問 25 あなたが普段運動している場所はどこですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1 公園 | 6 学校開放(校庭・体育館) |
| 2 緑道 | 7 有料のスポーツクラブ |
| 3 道路・歩道 | 8 自宅 |
| 4 地区センター・地域ケアプラザ | 9 その他() |
| 5 スポーツセンター・スポーツ会館・公営プール | 10 運動はしていない |

高齢者支援についてうかがいます

都筑区は、市内で最も高齢化率が低い区ですが、高齢者人口の増加率は一番高く、今後確実に高齢化が進みます。

- 問 26 全員の方にお聞きします。
高齢者の生活で特に不安なことは何ですか。高齢者でない方は、将来を想定してお答えください。(○は3つまで)

- | |
|--------------------------|
| 1 健康や病気のこと |
| 2 介護が必要な状態になること |
| 3 生活費や収入のこと |
| 4 仕事のこと |
| 5 孤独(同居する人がいないなど) |
| 6 詐欺などの犯罪被害にあうこと |
| 7 人(近隣、親戚、友人、仲間など)とのつきあい |
| 8 その他() |
| 9 不安なことはない |

問 27 あなたは、今後高齢者人口が増加する中でどのような支援や取組が必要だと考えますか。(○は3つまで)

- 1 介護予防などの健康の維持管理
- 2 在宅医療の推進・支援
- 3 買い物、通院などの外出に対する支援
- 4 食事作り、掃除、洗濯などの日常生活の支援
- 5 ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問等の見守り
- 6 高齢者の仲間づくりに対する支援
- 7 高齢者の地域活動、いきがい対策の取組
- 8 相談体制の充実
- 9 その他()

文化活動についてうかがいます

問 28 あなたは、日頃、以下の1)~12)の文化活動・鑑賞を行っていますか。また、将来的にどんな文化活動・鑑賞を行ってみたいですか。(○はいくつでも)

	日頃行っている 文化活動・鑑賞 (○はいくつでも)	将来行いたい 文化活動・鑑賞 (○はいくつでも)
1) 音楽		
2) 彫刻・手工芸・陶芸		
3) 絵画・版画		
4) 書道		
5) 写真		
6) 舞踊・ダンス・バレエ・演劇・ミュージカル		
7) 映画		
8) 伝統芸能		
9) 大衆演芸		
10) 華道・茶道・フラワーアレンジメント・盆栽		
11) 囲碁・将棋		
12) その他()		

問 28-1 問 28 でひとつでも「日頃行っている文化活動・鑑賞」の項目に○をつけた方のみにお聞きします。

その活動・鑑賞はどこで行っていますか。(○はいくつでも)

【区内】		【区外】
1 都筑公会堂	7 町内会館・自治会館	12 区外の施設 ()
2 地区センター	8 個人宅	
3 区総合庁舎 1 階区民ホール	9 カルチャーセンター	
4 コミュニティハウス (学校開放)	10 映画館	
5 民間貸スペース	11 その他 ()	
6 都筑の文化・夢スタジオ		

問 28-2 その活動・鑑賞はどのくらいの頻度で行っていますか。活動・鑑賞が複数ある方は、すべての活動を合わせた頻度についてお答えください。(○はひとつ)

1 ほぼ毎日	3 週に1回程度	5 月に1回程度
2 週に2、3回程度	4 月に2、3回程度	6 年に数回程度

問 29 全員の方にお聞きします。

文化活動をするにあたって、どのような施設が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 身近な場所で音楽演奏や演劇ができる大ホール
- 2 演芸など日ごろの活動が気軽に発表できる小ホール
- 3 様々なイベントができる多目的ホール
- 4 美術や書道の発表ができるギャラリー
- 5 多人数で美術や書道の制作ができる施設
- 6 演奏のリハーサルや練習ができる防音施設
- 7 演劇や舞踊などのリハーサルや練習ができる施設
- 8 研修室・会議室
- 9 必要ない
- 10 その他()

道路・交通についてうかがいます

問 30 あなたは、普段の外出で、バスをどのくらいの頻度で利用しますか？(〇はひとつ)

- | | | |
|------------|------------|----------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 週に1回程度 | 5 月に1回程度 |
| 2 週に2、3回程度 | 4 月に2、3回程度 | 6 年に数回程度 |

問 30-1 問 30 で1～4を選択した方におうかがいます。
バスを利用する目的は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 通勤・通学
- 2 日常的な買い物
- 3 たまにする買い物
- 4 通院・付き添い
- 5 レクリエーション
- 6 その他()

問 30-2 問 30 で5、6を選択した方におうかがいます。
なぜバスをあまり利用しないのですか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|-------------------|--------------------|-----------------------|
| 1 行きたいところに行く路線がない | 5 最寄駅が近い | 9 車や自転車など別の交通手段を使っている |
| 2 運行頻度が少ない | 6 運賃が高い | 10 その他() |
| 3 最寄りのバス停が遠い | 7 段差が多いなど物理的に不便 | |
| 4 乗りたい時間に走っていない | 8 手荷物やベビーカー等運ぶのが大変 | |

問 31 全員の方にお聞きます。

どのように改善されたらバスを利用しやすくなる、またはバスを利用したいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 最寄駅に行きやすくなる
- 2 センター北・南に行きやすくなる
- 3 病院に行きやすくなる
- 4 朝や夕方～夜の通勤通学時間帯に便が増える
- 5 午前の便が増える
- 6 午後の便が増える
- 7 駅にその時のバス運行情報が出る
- 8 バス時刻表が各戸配布される
- 9 インターネットのバス運行情報が見やすくなる
- 10 時刻表が覚えやすいように設定されている
- 11 バス停が快適になる
- 12 ベビーカーで乗りやすくなる
- 13 車いすで利用しやすくなる
- 14 普通の生活でバスを利用する必要がない。
- 15 その他 (_____)

問 32 あなたは、道路環境について、今後、特に必要と思うものは何ですか。(〇は3つまで)

- 1 景観等に配慮した舗装等の修繕
- 2 道路歩行空間のバリアフリー化
- 3 ベンチの設置など健康みちづくり
- 4 道路沿いの街路樹の管理
- 5 道路沿いの草刈り・清掃
- 6 交通渋滞が多く発生する箇所の改善
- 7 交通事故の危険がある箇所の対策
- 8 通学路の交通安全対策
- 9 歩道の整備
- 10 自転車が通行する空間の整備
- 11 その他 (_____)

☞(参考) 健康みちづくりについて

生産年齢人口の減少や少子高齢化が進展する中、健康増進や外出意欲の向上につながる道路や河川のプロムナードなどの歩行空間の整備やネットワーク化を図る取組です。

区民利用施設についてうかがいます

問 33 次の都筑区内の施設について、各項目にあなたの【認知度と利用状況】、【利用頻度】であてはまるものひとつに○をつけてください。

	【認知度と利用状況】			【利用頻度】				
	各施設について、あてはまるもの 1, 2, 3いずれかひとつに○			利用頻度についてお聞きます。(○はひとつ)				
	1 利用したことがある	2 知っているが、利用したことはない	3 知らない	1 ほぼ毎日	2 週に1回程度	3 月に2、3回程度	4 月に1回程度	5 年に数回程度またはそれ以下
(記入例) 各項目	①	2	3	1	2	3	④	5
1) 都筑公会堂	1	2	3	1	2	3	4	5
2) 地区センター (都筑、中川西、仲町台、北山田)	1	2	3	1	2	3	4	5
3) コミュニティハウス (中川中、勝田小、川和小、都田小、北山田小、つづきの丘小、東山田中)	1	2	3	1	2	3	4	5
4) 都筑スポーツセンター	1	2	3	1	2	3	4	5
5) スポーツ会館 (東山田、大熊)	1	2	3	1	2	3	4	5
6) プール (横浜国際、都筑、山崎公園、茅ヶ崎公園)	1	2	3	1	2	3	4	5
7) 地域ケアプラザ (加賀原、葛が谷、新栄、中川、東山田)	1	2	3	1	2	3	4	5
8) 老人福祉センター (つづき緑寿荘)	1	2	3	1	2	3	4	5
9) つづき MY プラザ (都筑多文化・青少年交流プラザ)	1	2	3	1	2	3	4	5
10) 鴨池公園こどもログハウス	1	2	3	1	2	3	4	5
11) 子育て支援センター Popola (ポポラ)	1	2	3	1	2	3	4	5
12) 横浜北部ユースプラザ	1	2	3	1	2	3	4	5
13) 親と子のつどいの広場 (すくすくサロン・おやこの広場「ふらっとカフェ」・親と子のつどいの広場 つづき)	1	2	3	1	2	3	4	5
14) 福祉保健活動拠点 かけはし都筑	1	2	3	1	2	3	4	5
15) 都筑の文化・夢スタジオ	1	2	3	1	2	3	4	5
16) 区民活動センター (区役所1階)	1	2	3	1	2	3	4	5
17) 都筑図書館	1	2	3	1	2	3	4	5

1 | 利用したことがあるを選択した方で、過去1年間の利用がある方のみお答えください。

都筑区の生活環境に関する重要度・満足度についてうかがいます

問 34 あなたは、以下の1)～27)の項目について、

【1】あなたにとって、どの程度重要だと思いますか。

【2】現在、どの程度満足していますか。

【3】ここ数年でどのように変化していると思いますか。

それぞれ〇はひとつだけ

各項目の【1】【2】【3】
すべての該当する番号にひとつずつ〇印をつけてください。(30に計3つ〇)

(記入例) 各項目	【1】重要度					【2】現在の満足度						【3】ここ数年で			
	重要	やや重要	どちらでもない	あまり重要ではない	重要ではない	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	わからない	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない
(記入例) 各項目	1	②	3	4	5	①	2	3	4	5	6	1	2	③	4
1) バスの利便	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
2) 電車の利便	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
3) 車利用のための道路環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
4) 自転車利用のための道路環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
5) 歩行者のための道路環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
6) 車両の路上駐車や交通安全	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
7) 駅周辺等の放置自転車対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
8) 最寄り駅周辺のまちづくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
9) 街並み景観の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
10) 公園(緑道を含む)の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
11) 農地の保全や農業の振興、地産地消	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
12) 緑地保全、緑化推進や水辺環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
13) 商店街や企業の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
14) ごみの分別収集・リサイクルや街の美化	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
15) 災害に対する意識や取組	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
16) 防犯に対する意識や取組	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
17) 保育・学童など子育てのしやすさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
18) 学校教育の充実や青少年の健全育成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
19) 病院やかかりつけ医などの地域医療	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
20) 駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
21) 高齢者の暮らしやすさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
22) 障害者の暮らしやすさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
23) 健康づくり支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
24) 区民利用施設の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
25) 広報・広聴など区政への市民参加の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
26) 身近な行政窓口・相談サービス	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
27) 以上を総合して、生活環境全般への評価						1	2	3	4	5	6	1	2	3	4

あなた自身についてうかがいます

F1 あなたの性別は(○はひとつ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F2 あなたの年齢は(○はひとつ)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1 20歳～24歳 | 4 35歳～39歳 | 7 50歳～54歳 | 10 65歳～69歳 |
| 2 25歳～29歳 | 5 40歳～44歳 | 8 55歳～59歳 | 11 70歳～74歳 |
| 3 30歳～34歳 | 6 45歳～49歳 | 9 60歳～64歳 | 12 75歳以上 |

F3 あなたの住んでいる町は次のうちどれですか。(○はひとつ)

【あ行】	1 あゆみが丘	9 牛久保西三丁目	17 荏田東三丁目	25 大熊町
	2 池辺町	10 牛久保西四丁目	18 荏田東四丁目	26 大榎町
	3 牛久保町	11 牛久保東一丁目	19 荏田南町	27 大榎西
	4 牛久保一丁目	12 牛久保東二丁目	20 荏田南一丁目	28 大丸
	5 牛久保二丁目	13 牛久保東三丁目	21 荏田南二丁目	29 折本町
	6 牛久保三丁目	14 荏田東町	22 荏田南三丁目	
	7 牛久保西一丁目	15 荏田東一丁目	23 荏田南四丁目	
	8 牛久保西二丁目	16 荏田東二丁目	24 荏田南五丁目	
【か行】	30 加賀原一丁目	35 勝田南二丁目	40 北山田二丁目	45 北山田七丁目
	31 加賀原二丁目	36 川向町	41 北山田三丁目	46 葛が谷
	32 勝田町(勝田団地)	37 川和町	42 北山田四丁目	
	33 勝田町(32以外)	38 川和台	43 北山田五丁目	
	34 勝田南一丁目	39 北山田一丁目	44 北山田六丁目	
【さ行】	47 佐江戸町	48 桜並木	49 新栄町	50 すみれが丘
【た行】	51 高山	55 茅ヶ崎東二丁目	59 茅ヶ崎南一丁目	63 茅ヶ崎南五丁目
	52 茅ヶ崎中央	56 茅ヶ崎東三丁目	60 茅ヶ崎南二丁目	
	53 茅ヶ崎町	57 茅ヶ崎東四丁目	61 茅ヶ崎南三丁目	
	54 茅ヶ崎東一丁目	58 茅ヶ崎東五丁目	62 茅ヶ崎南四丁目	
【な行】	64 中川一丁目	69 中川六丁目	74 長坂	79 仲町台五丁目
	65 中川二丁目	70 中川七丁目	75 仲町台一丁目	80 二の丸
	66 中川三丁目	71 中川八丁目	76 仲町台二丁目	
	67 中川四丁目	72 中川中央一丁目	77 仲町台三丁目	
	68 中川五丁目	73 中川中央二丁目	78 仲町台四丁目	
【は行】	81 早瀬一丁目	84 東方町	87 東山田二丁目	90 平台
	82 早瀬二丁目	85 東山田町	88 東山田三丁目	91 富士見が丘
	83 早瀬三丁目	86 東山田一丁目	89 東山田四丁目	
【ま行】	92 南山田町	94 南山田二丁目	96 見花山	
	93 南山田一丁目	95 南山田三丁目		

F4 あなたの最寄りの駅(もしくは最も利用する駅)はどこですか。(○はひとつ)

1 あざみ野	8 東山田	15 市が尾
2 中川	9 北山田	16 江田
3 センター北	10 都筑ふれあいの丘	17 たまプラーザ
4 センター南	11 川和町	18 鷺沼
5 仲町台	12 小机	19 日吉
6 新羽	13 鴨居	20 綱島
7 新横浜	14 中山	21 その他 ()

F5 あなたは同居している方がいらっしゃいますか。(○はひとつ)

1 ひとり暮らし	3 親と子 (2世代)	5 その他 (具体的に)
2 夫婦だけ	4 親と子と孫 (3世代)	

➡ **F5-1 F5で1を回答した方以外にお聞きます。あなたも含めて、同居している方には、次の方がいらっしゃいますか。(それぞれに○はひとつ)**

1) 子ども (未就学児) はいますか	1 いる	2 いない
2) 小学生はいますか	1 いる	2 いない
3) 高齢者 (65歳以上) はいますか	1 いる	2 いない

F6 あなたの就労状況はどれにあたりますか(○はひとつ)

1 正社員・正職員 (公務員・団体職員含む)	5 専業主婦・専業主夫
2 自営業 (商店経営、農業、開業医など)	6 学生
3 契約社員・嘱託社員・派遣社員	7 就業していない
4 パート・アルバイト	8 その他 ()

質問は以上です。

調査へのご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れ、平成 27 年 6 月 15 日 (月) までにポストに投函してください。

横浜市 都筑区 区政推進課 企画調整係

平成 27 年 12 月発行

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32 番 1 号

電話 045-948-2226